

令和 6 年度
男女共同参画社会の実現に向けて
の
県民意識調査
報 告 書

令和6年10月調査

千葉県総合企画部

は じ め に

令和6年1月、千葉県は、「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」を施行しました。

本条例は、これまで全国で唯一男女共同参画条例のなかった本県にとって、男女共同参画の新たな土台となるものです。

この条例のもと、県では、男性も女性も誰もがその人らしく生き、活躍できる社会づくりに向けて、男女共同参画に関する施策を総合的、計画的に推進しているところです。

男女共同参画社会づくりを進めるためには、市町村、事業者、そして何よりも県民の皆様一人ひとりがその大切さや必要性を理解し、それぞれが主体的に取組を進めていくことが重要となります。

そこで、こうした施策や取組の一層の推進に役立てることができるよう、県では、5年に1度、県民の男女共同参画に関する意識の変化等について調査を実施しております。

今回の調査では、「男女共同参画の視点に立った防災対策」、「選択的夫婦別姓制度」など、社会情勢等の変化に対応した新たな項目も追加し、調査を実施いたしました。

また、本調査の結果については、県が令和7年度に策定を予定している「第6次千葉県男女共同参画計画」や各種事業に反映させることとしておりますが、男女共同参画に関わる方々の、地域における男女共同参画推進のための資料としても、広く御活用いただけることを願っております。

結びに、この調査に御協力いただきました県民の皆様をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和7年3月

千葉県総合企画部長 富沢 昇

目 次

調査の概要	1
回答者の属性	9
調査の結果	15
1. 男女共同参画全般について	
(1) 男女平等意識	17
(2) 法令等の認知度	32
2. 家庭について	
(1) 結婚についての考え	34
(2) 選択的夫婦別姓制度についての考え [新規]	49
(3-1) 家事等の役割分担 ①現在の仕事の分担	51
(3-2) 家事等の役割分担 ②理想と考える仕事の分担	54
3. 学校や家庭における子どもの教育について	
(1) 子どもの教育における男女平等意識	57
4. 人権について	
(1) 人権が侵害されていると感じること	63
5. DVについて	
(1) 配偶者や同棲相手の有無	65
(2) DVの被害経験	66
(3) DV被害の相談状況	73
(4) DV被害の相談先	76
(5) 相談しなかった理由	78
6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	
(1) 男女の役割分担意識	80
(2) 夫婦の働き方	83
(3) 有給休暇、育児・介護休業の取りやすさ	89
(4) 働いていない理由	91
(5) 男性の育児休業の取得の推進についての考え [新規]	94
(6) 推進したほうがよいと思う理由 [新規]	97

(7) 推進しないほうがよいと思う理由 [新規]	99
(8) 仕事と家庭生活の両立のために必要と思う環境整備	101
(9) 男性が家事等に参加するために必要な環境整備	103
7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について	
(1) 役職・公職への女性の進出についての考え方	105
(2) 政策や企画、方針決定に関わる女性の割合が少ない理由	116
(3) 職場で仕事内容や待遇面の運用などで男性が優遇されていると思うこと	118
(4) 職場で仕事内容や待遇面の運用などで女性が優遇されていると思うこと	119
(5) ポジティブ・アクションについての考え	120
(6) 女性の活躍推進についての考え	122
(7) 女性の活躍を推進した方がよい理由	123
(8) 女性の活躍を推進しない方がよい理由	124
(9) 女性の起業に関する考え方	125
8. 地域活動への参画について	
(1) 地域活動への参画状況	130
(2) 地域活動における不平等感 [新規]	132
(3) 住んでいる地域での現状 [新規]	135
9. 防災対策について	
(1) 男女共同参画の視点に立った取組の充足度 [新規]	137
(2) 男女共同参画の視点に立った防災対策の推進に必要なこと [新規]	139
10. 自由記述	141
(付) 調査票	145

調 査 の 概 要

調 査 の 概 要

1 調査の目的

男女共同参画に関する県民の関心、要望、意向などをとらえ、次期計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の項目

- (1) 男女共同参画全般について
- (2) 家庭について
- (3) 学校や家庭における子どもの教育について
- (4) 人権について
- (5) DVについて
- (6) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
- (7) 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について
- (8) 地域活動への参画について
- (9) 防災対策について

3 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満 18 歳以上の男女個人
- (2) 標本数 2,000 人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- (4) 調査方法 郵送法、オンライン調査法の併用
(調査票を郵送送付し、回答を郵送・オンラインで回収する)
- (5) 調査期間 令和 6 年 10 月 15 日～11 月 5 日

4 調査機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

5 回収結果

標本数	(A)	2,000件
総回収数	(B)	637件
有効回収数 (C)		636件
うちオンラインで回収		249件
無効回収数		1件
うちオンラインで回収		0件
回収率	(B/A)	31.85%
有効回収率	(C/A)	31.80%

標本抽出方法

調査対象 : 千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の男女個人
標 本 数 : 2,000人
地 点 数 : 100地点（市部 96地点・郡部 4地点）
抽 出 法 : 層化二段無作為抽出法

〔層 化〕

1 県内を、次の 11 地域に分類した。

地 域 名	該 当 市 郡（町村）名
① 千葉地域	千葉市、市原市
② 葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③ 東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④ 印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、 印旛郡（酒々井町、栄町）
⑤ 香取地域	香取市、香取郡（神崎町、多古町、東庄町）
⑥ 海匝地域	銚子市、旭市、匝瑺市
⑦ 山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡（九十九里町、芝山町、横芝光町）
⑧ 長生地域	茂原市、長生郡（一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町）
⑨ 夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡（大多喜町、御宿町）
⑩ 安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡（鋸南町）
⑪ 君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2 各地域内においては、
さらに市部、郡部に分け、層とした。

（注）ここでいう市とは、
令和 6 年 4 月 1 日現在市制施行の
地域をさす。



〔標本数の配分〕

各地域・市郡規模別の層における満18歳以上の人口（令和6年4月1日現在の推定数）に対して、2,000の標本数を比例配分した。

〔抽出〕

- 1 令和2年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
- 2 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left[\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right] \text{を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。}$$

- 3 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、令和2年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 - 4 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 \ 市郡	市部	郡部	計
① 千葉地域	1,079,739	0	1,079,739
	400	0	400
	20	0	20
② 葛南地域	1,451,604	0	1,451,604
	540	0	540
	27	0	27
③ 東葛飾地域	1,315,573	0	1,315,573
	480	0	480
	24	0	24
④ 印旛地域	587,225	35,605	622,830
	220	20	240
	11	1	12
⑤ 香取地域	62,733	28,502	91,235
	20	20	40
	1	1	2
⑥ 海匝地域	133,587	0	133,587
	40	0	40
	2	0	2
⑦ 山武地域	134,651	38,539	173,190
	40	20	60
	2	1	3
⑧ 長生地域	76,158	49,972	126,130
	20	20	40
	1	1	2
⑨ 夷隅地域	45,629	13,664	59,293
	20	0	20
	1	0	1
⑩ 安房地域	97,331	6,264	103,595
	40	0	40
	2	0	2
⑪ 君津地域	278,240	0	278,240
	100	0	100
	5	0	5
計	5,262,470	172,546	5,435,016
	1,920	80	2,000
	96	4	100

（注）上段は満18歳以上の人口（令和6年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調 査 地 点 名	標 本 数	地域	調 査 地 点 名	標 本 数
① 千葉地域	千葉市中央区今井 1 丁目	20	② 葛南地域	船橋市習志野台 5 丁目	20
	千葉市中央区蘇我 1 丁目	20		習志野市津田沼 2 丁目	20
	千葉市中央区登戸 3 丁目	20		習志野市泉町 2 丁目	20
	千葉市中央区都町 6 丁目	20		習志野市実籾本郷	20
	千葉市花見川区こてはし台 4 丁目	20		八千代市村上	20
	千葉市花見川区花見川	20		八千代市高津団地	20
	千葉市稲毛区稲毛 2 丁目	20		八千代市ゆりのき台 3 丁目	20
	千葉市稲毛区園生町	20		浦安市北栄 1 丁目	20
	千葉市若葉区小倉台 1 丁目	20		浦安市東野 1 丁目	20
	千葉市若葉区多部田町	20		浦安市日の出 3 丁目	20
	千葉市若葉区みつわ台 2 丁目	20	③ 東葛飾地域	松戸市金ヶ作	20
	千葉市緑区誉田町 2 丁目	20		松戸市小金	20
	千葉市緑区おゆみ野中央 5 丁目	20		松戸市新松戸 1 丁目	20
	千葉市美浜区打瀬 1 丁目	20		松戸市常盤平 7 丁目	20
	千葉市美浜区真砂 3 丁目	20		松戸市日暮 2 丁目	20
	市原市五井	20		松戸市馬橋	20
	市原市市原	20		松戸市西馬橋 3 丁目	20
	市原市青葉台 6 丁目	20		野田市野田	20
	市原市西国吉	20		野田市山崎	20
	市原市千種 6 丁目	20		野田市日の出町	20
② 葛南地域	市川市新田 2 丁目	20		柏市旭町 1 丁目	20
	市川市南八幡 5 丁目	20		柏市小青田 2 丁目	20
	市川市若宮 3 丁目	20		柏市千代田 3 丁目	20
	市川市須和田 1 丁目	20		柏市西原 4 丁目	20
	市川市南大野 1 丁目	20		柏市松ヶ崎	20
	市川市相之川 1 丁目	20		柏市増尾 4 丁目	20
	市川市日之出	20		柏市藤ヶ谷	20
	船橋市市場 2 丁目	20		流山市南流山 4 丁目	20
	船橋市海神 2 丁目	20		流山市野々下 3 丁目	20
	船橋市本中山 4 丁目	20		流山市おおたかの森北 3 丁目	20
	船橋市藤原 7 丁目	20		我孫子市若松	20
	船橋市緑台 1 丁目	20		我孫子市中峠台	20
	船橋市南三咲 1 丁目	20		鎌ヶ谷市丸山 2 丁目	20
	船橋市前原西 2 丁目	20		鎌ヶ谷市東初富 3 丁目	20
	船橋市三山 1 丁目	20	④ 地印 域 旛	成田市美郷台 2 丁目	20
	船橋市高根台 7 丁目	20		成田市滑川	20
	船橋市大穴南 2 丁目	20		佐倉市臼井田	20

地域	調査地点名	標本数
④ 印旛地域	佐倉市上志津	20
	佐倉市城	20
	四街道市四街道	20
	四街道市みそら3丁目	20
	八街市八街は	20
	印西市木刈3丁目	20
	印西市滝野2丁目	20
	白井市西白井1丁目	20
	栄町竜角寺台3丁目	20
⑤ 地香 域取	香取市佐原口	20
	多古町北中	20
⑥ 地海 域匝	銚子市南小川町	20
	旭市萬歳	20
⑦ 地山 域武	東金市山田	20
	大網白里市上貝塚	20
	横芝光町木戸	20
⑧ 地長 域生	茂原市緑ヶ丘4丁目	20
	長生村岩沼	20
⑨ 地夷 域隅	勝浦市勝浦	20
⑩ 地安 域房	館山市神余	20
	南房総市千倉町瀬戸	20
⑪ 君 津 地 域	木更津市真舟2丁目	20
	木更津市羽鳥野6丁目	20
	君津市外箕輪1丁目	20
	君津市常代3丁目	20
	袖ヶ浦市神納	20

報告書の見方

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分比の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 性・年齢別の分析において、サンプル数の少ない属性については、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (5) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

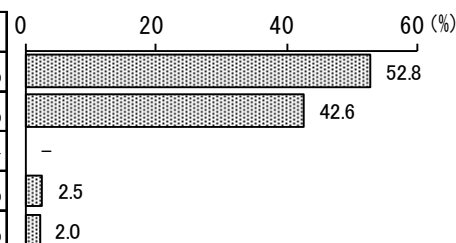
次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総 数	636人	± 3.36	± 4.49	± 5.14	± 5.49	± 5.61
男 性	336	± 4.63	± 6.17	± 7.07	± 7.56	± 7.71
女 性	271	± 5.15	± 6.87	± 7.87	± 8.42	± 8.59

回答者の属性

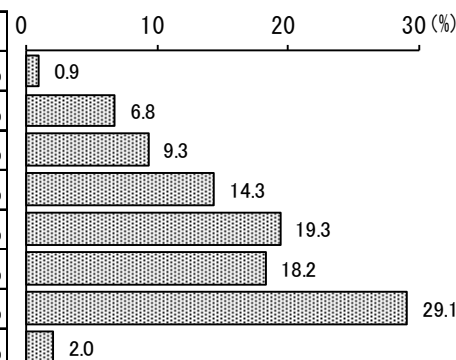
1. 性

	基数	構成比
1 女性	336	52.8%
2 男性	271	42.6%
3 その他	-	-
4 回答しない	16	2.5%
(無回答)	13	2.0%
全 体	636	100.0%



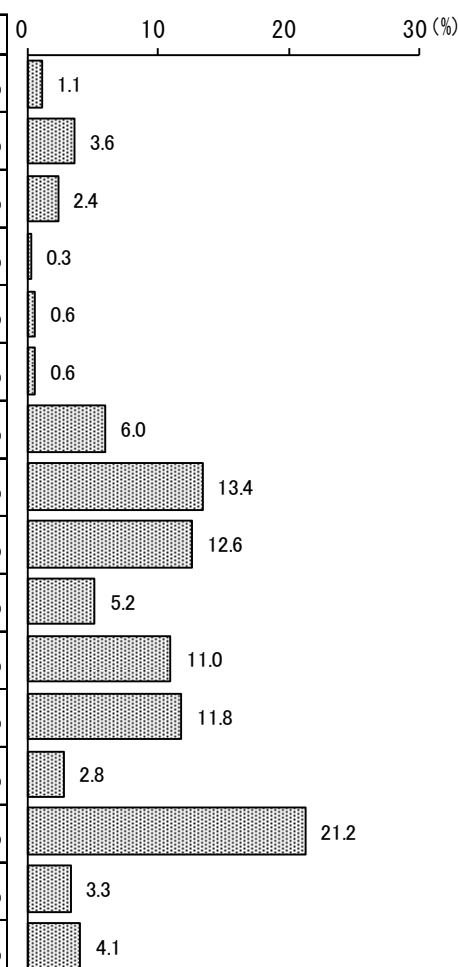
2. 年 代

	基数	構成比
1 18～19歳	6	0.9%
2 20～29歳	43	6.8%
3 30～39歳	59	9.3%
4 40～49歳	91	14.3%
5 50～59歳	123	19.3%
6 60～69歳	116	18.2%
7 70歳以上	185	29.1%
(無回答)	13	2.0%
全 体	636	100.0%



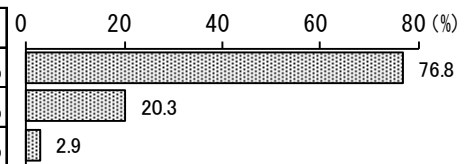
3. 職 業

	基数	構成比
自営業主	1 農林漁業（農業、林業、畜産業、漁業などの自営主）	7 1.1%
	2 商工サービス業（商店、飲食店、理髪店、修理業など）	23 3.6%
	3 自由業（弁護士、開業医、芸術家など）	15 2.4%
家族従業者	4 農林漁業（農業、林業、畜産業、漁業などの自営主）	2 0.3%
	5 商工サービス業（商店、飲食店、美容院、修理業など）	4 0.6%
	6 自由業（弁護士、開業医、芸術家など）	4 0.6%
勤務者	7 管理職（民間会社・団体・官公庁の課長級以上、大学の教授以上、学校の教頭以上）	38 6.0%
	8 専門・技術職（技術研究員、勤務医師、看護師、教員、保育士、美容師など）	85 13.4%
	9 事務職（一般事務員、営業員など）	80 12.6%
	10 労務職（一般工員、建築作業員、運転手など）	33 5.2%
	11 販売・サービス業	70 11.0%
その他	12 専業主婦・専業主夫	75 11.8%
	13 学生	18 2.8%
	14 無職（年金、金利生活者など含む）	135 21.2%
	15 その他（上記1～14まで該当しない方）	21 3.3%
	(無回答)	26 4.1%
全 体		636 100.0%



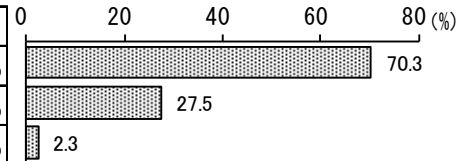
4. 勤務形態

	基数	構成比
1 常勤（通常の労働者）	235	76.8%
2 非常勤（短時間労働者）	62	20.3%
（無回答）	9	2.9%
全 体	306	100.0%



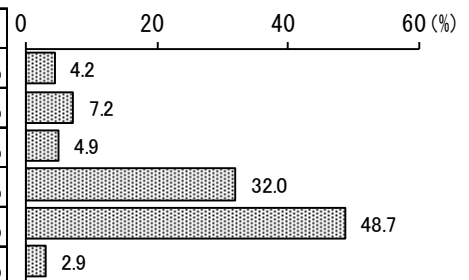
5. 雇用形態

	基数	構成比
1 正規	215	70.3%
2 非正規	84	27.5%
（無回答）	7	2.3%
全 体	306	100.0%



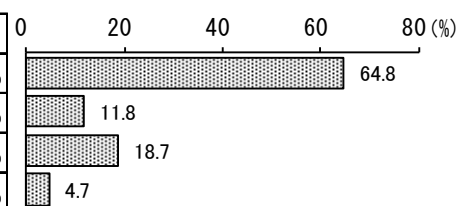
6. 在宅勤務（テレワーク）の実施状況

	基数	構成比
1 毎日	13	4.2%
2 週に数回	22	7.2%
3 月に数回	15	4.9%
4 ほとんど実施しない	98	32.0%
5 在宅勤務制度がない	149	48.7%
（無回答）	9	2.9%
全 体	306	100.0%

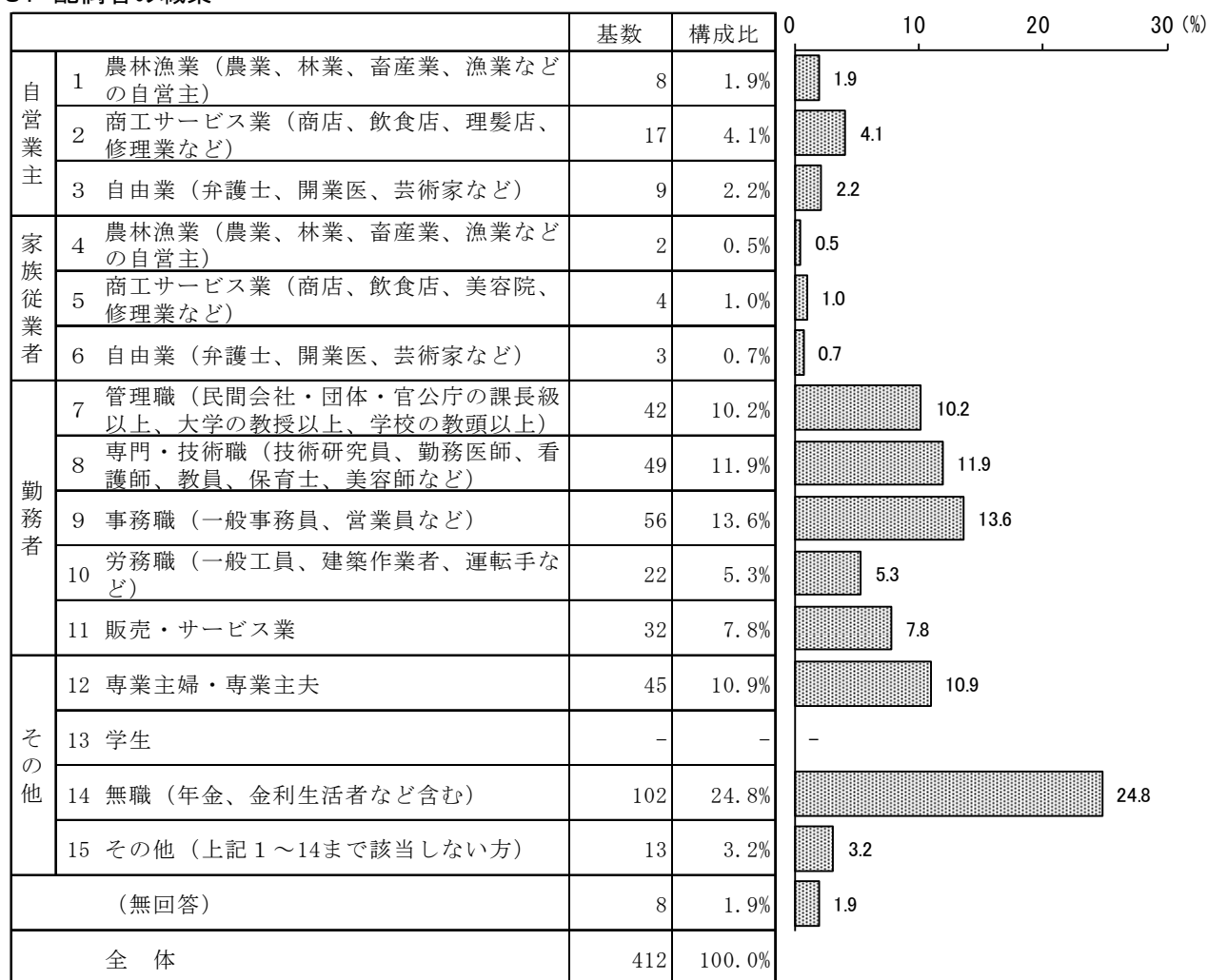


7. 婚姻

	基数	構成比
1 結婚している ※事実婚の方を含む	412	64.8%
2 離別・死別	75	11.8%
3 未婚	119	18.7%
（無回答）	30	4.7%
全 体	636	100.0%



8. 配偶者の職業



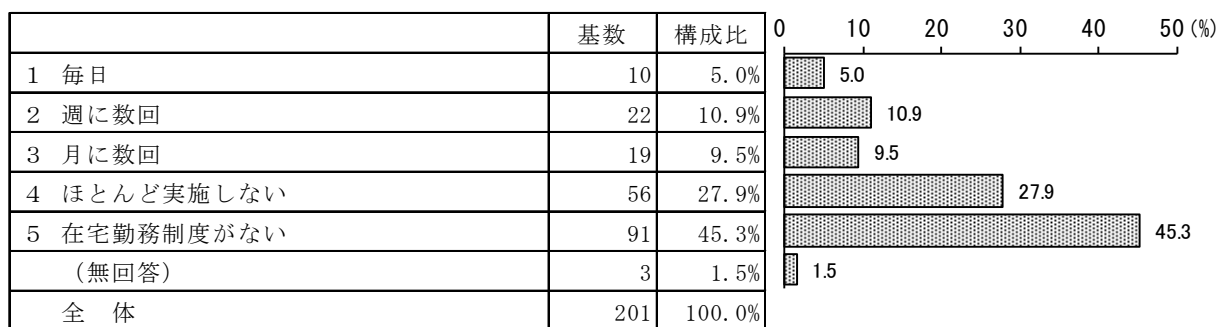
9. 配偶者の勤務形態



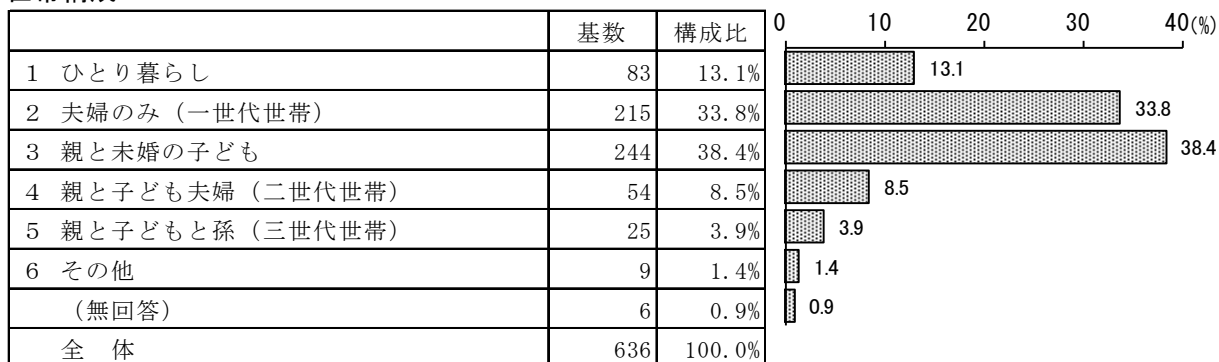
10. 配偶者の雇用形態



11. 配偶者の在宅勤務（テレワーク）の実施状況



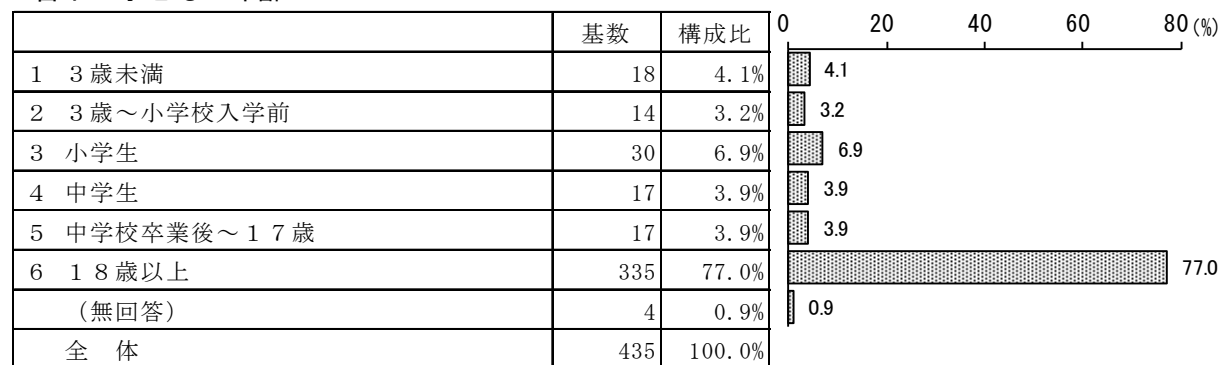
12. 世帯構成



13. 子どもの有無

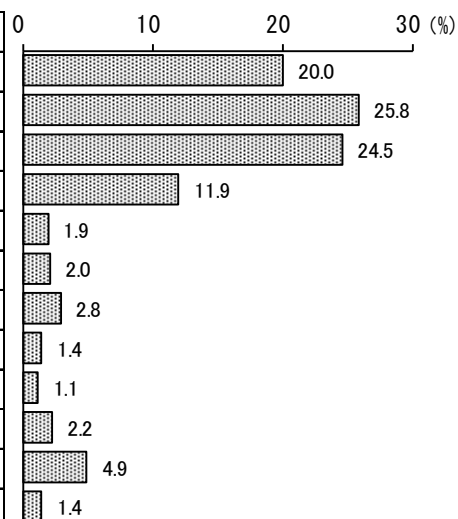


14. 一番下の子どもの年齢



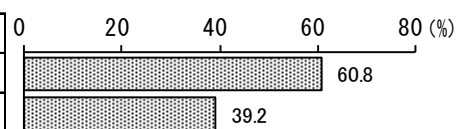
15. 地 域

	基数	構成比
1 千葉地域	127	20.0%
2 葛南地域	164	25.8%
3 東葛飾地域	156	24.5%
4 印旛地域	76	11.9%
5 香取地域	12	1.9%
6 海匝地域	13	2.0%
7 山武地域	18	2.8%
8 長生地域	9	1.4%
9 夷隅地域	7	1.1%
10 安房地域	14	2.2%
11 君津地域	31	4.9%
(無回答)	9	1.4%
全 体	636	100.0%



16. 回答方法

	基数	構成比
1 郵便回答	387	60.8%
2 ネット回答	249	39.2%
全 体	636	100.0%



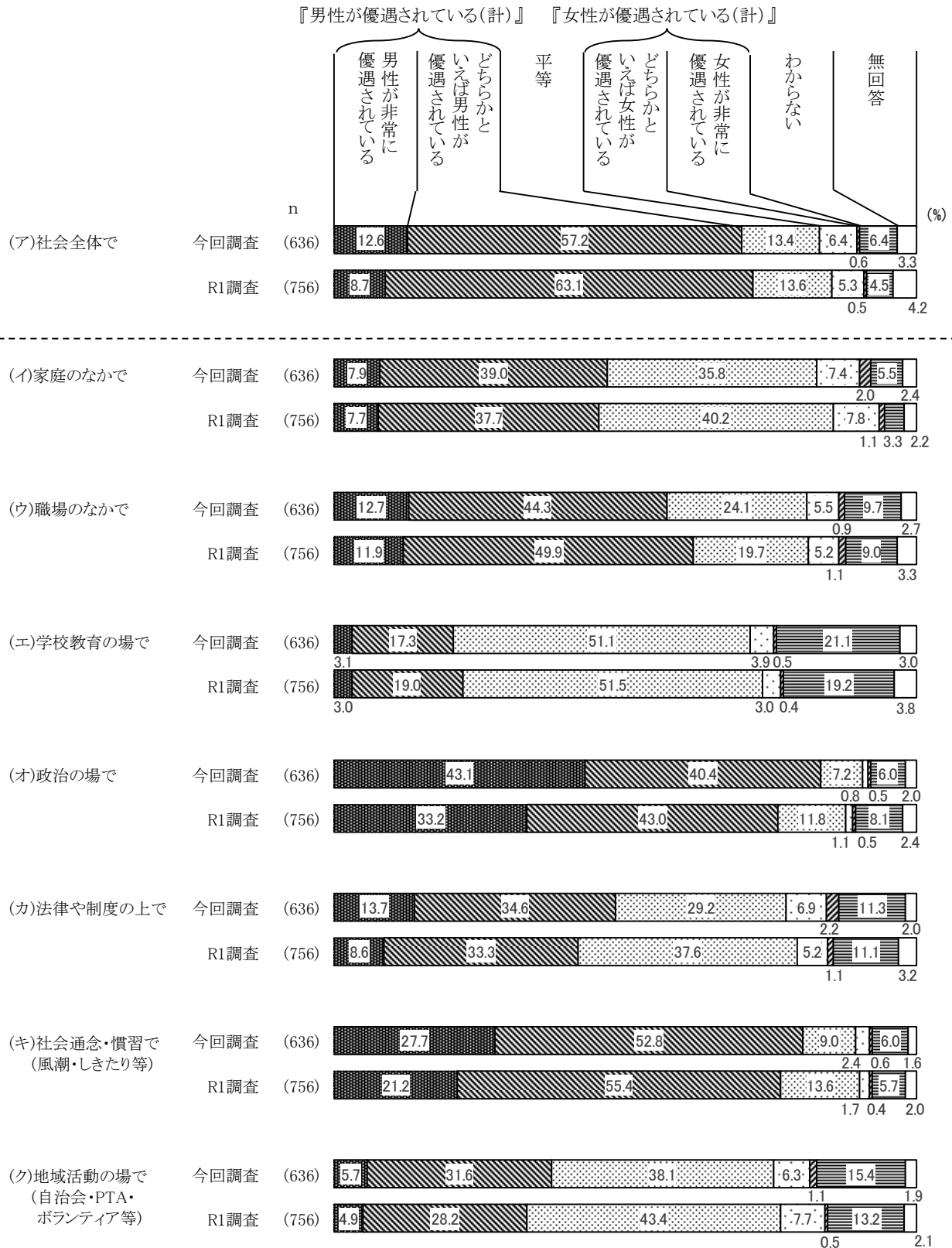
調 査 の 結 果

調査結果の解説

１．男女共同参画全般について

(１) 男女平等意識

問１．あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の(ア)～(ク)のそれぞれについてあなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。



調査の結果／1. 男女共同参画全般について

(1) 男女平等意識

男女平等意識について、「(ア) 社会全体で」は『男性が優遇されている(計)』が69.8%、「平等」が13.4%、『女性が優遇されている(計)』が7.0%となっている。

分野別にみると、どの分野においても、『男性が優遇されている(計)』が『女性が優遇されている(計)』を上回っており、「政治の場で」と「社会通念・慣習で」は『男性が優遇されている(計)』の割合が8割を超えている。また、「平等」と答えた割合が、『男性が優遇されている(計)』と『女性が優遇されている(計)』の割合よりも高くなっているのは、「(エ) 学校教育の場で」が51.1%、「(ク) 地域活動の場で(自治会・PTA・ボランティア等)」が38.1%となっている。

【前回調査(令和元年)との比較】

「平等」と答えた割合は、「(ウ) 職場の中で」以外のすべての項目で低くなっている。

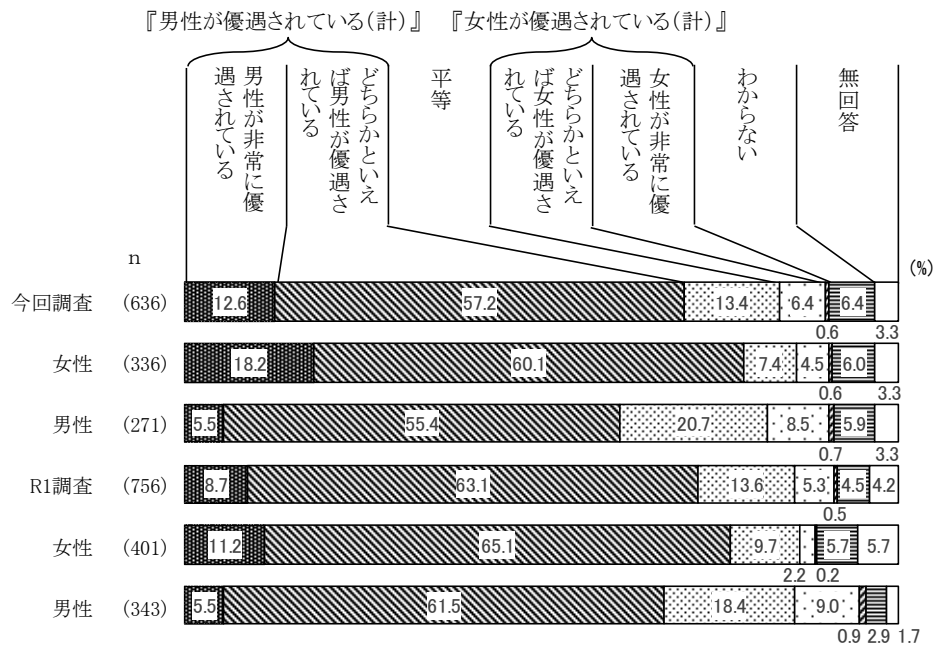
「(ウ) 職場の中で」は、「平等」と答えた割合が4.4ポイント高くなっている一方、『男性が優遇されている(計)』の割合は4.8ポイント低くなっている。

「(オ) 政治の場で」は、『男性が優遇されている(計)』の割合が前回調査よりも7.3ポイント高くなっている一方、「平等」と答えた割合は4.6ポイント低くなっている。

(ア) 社会全体で

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

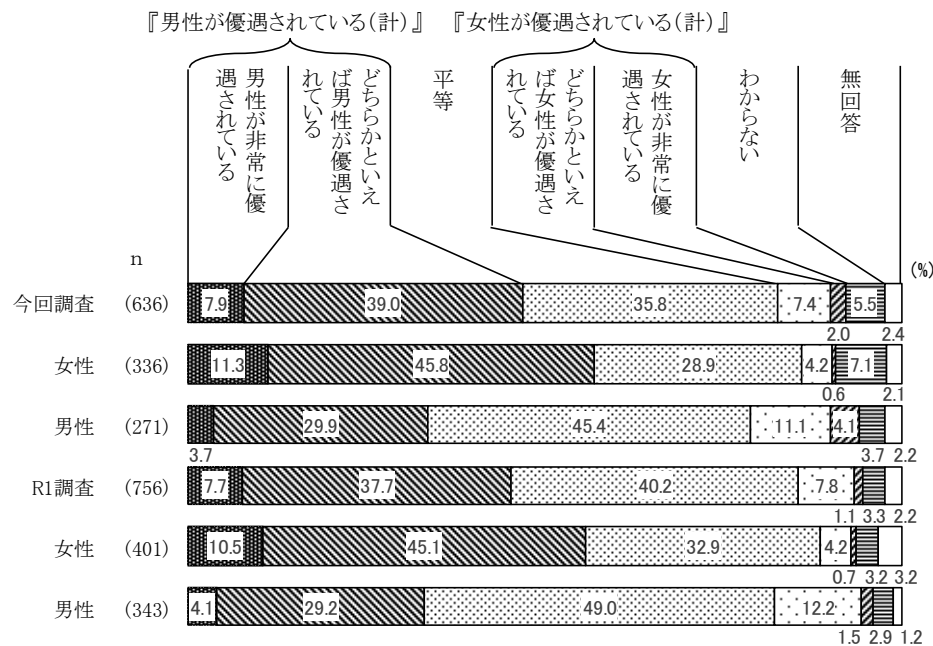
前回調査と比較すると、『男性が優遇されている（計）』の割合は、男性で6.1ポイント低くなっている一方、女性で2.0ポイント高くなっている。



(イ) 家庭のなかで

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



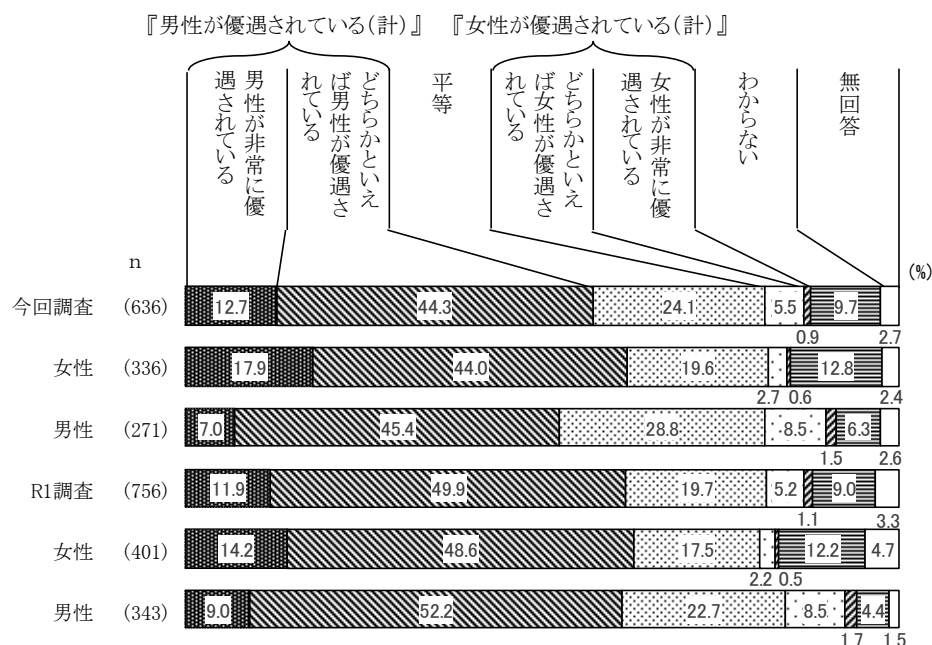
調査の結果／1. 男女共同参画全般について

(1) 男女平等意識

(ウ) 職場のなかで

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

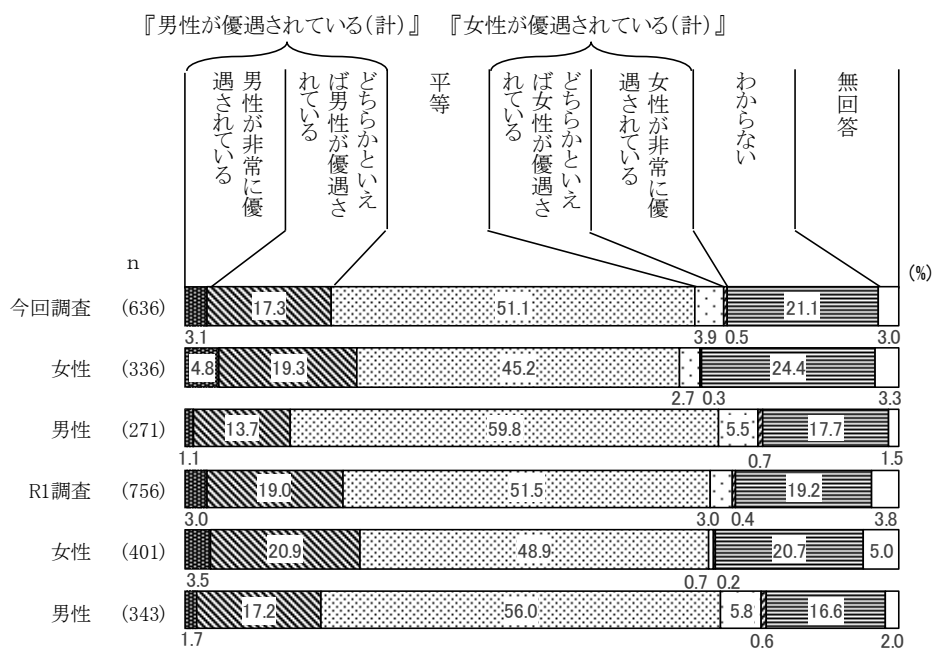
前回調査と比較すると、「平等」と答えた割合は、男性で6.1ポイント、女性で2.1ポイント、それぞれ高くなっている。また、『男性が優遇されている（計）』の割合は、男性で8.8ポイント、女性で0.9ポイント、それぞれ低くなっている。



(エ) 学校教育の場で

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

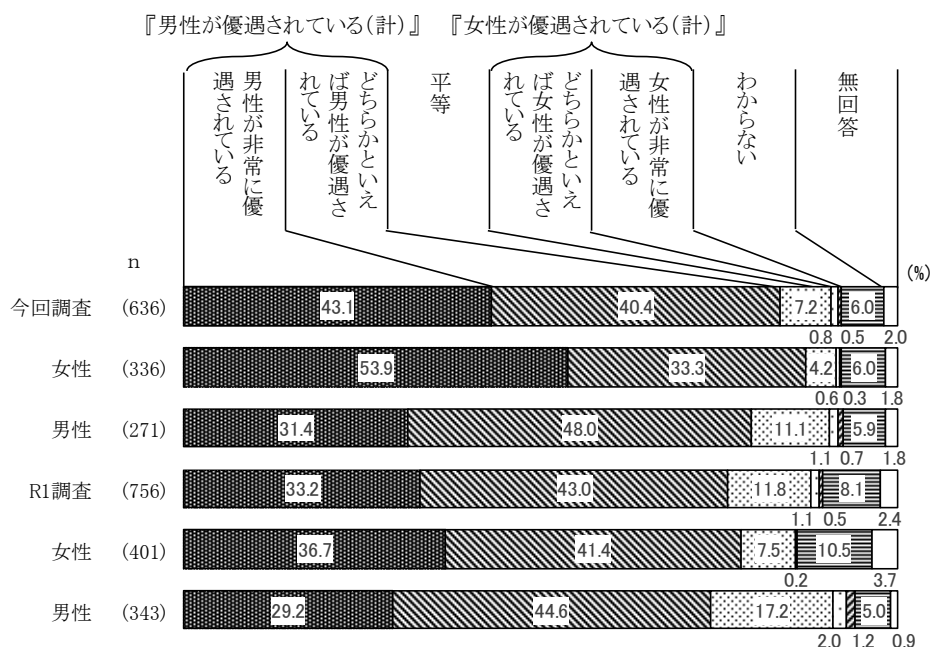
前回調査と比較すると、「平等」と答えた割合は男性で3.8ポイント高く、女性で3.7ポイント低くなっている。また、『男性が優遇されている（計）』の割合は、男性で4.1ポイント、女性で0.3ポイントそれぞれ低くなっている。



(オ) 政治の場で

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

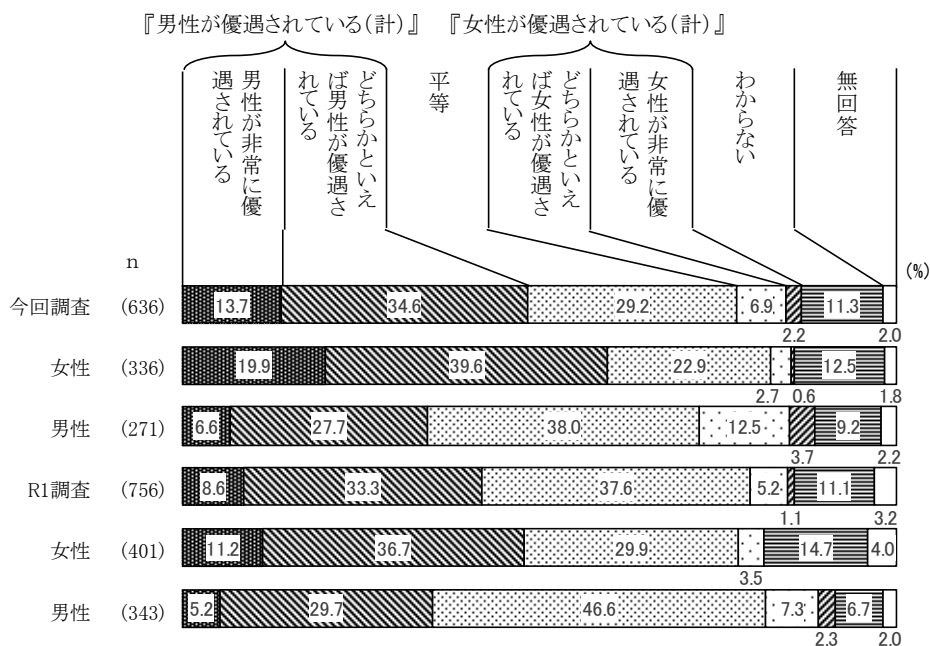
前回調査と比較すると、「平等」と答えた割合は、男性で6.1ポイント、女性で3.3ポイント、それぞれ低くなっている。一方、『男性が優遇されている（計）』の割合は女性で9.1ポイント、男性で5.6ポイント、それぞれ高くなっている。



(カ) 法律や制度の上で

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、「平等」と答えた割合は、男性で8.6ポイント、女性で7.0ポイント低くなっている。『男性が優遇されている（計）』の割合は女性で11.6ポイント高く、『女性が優遇されている（計）』の割合は、男性で6.6ポイント高くなっている。



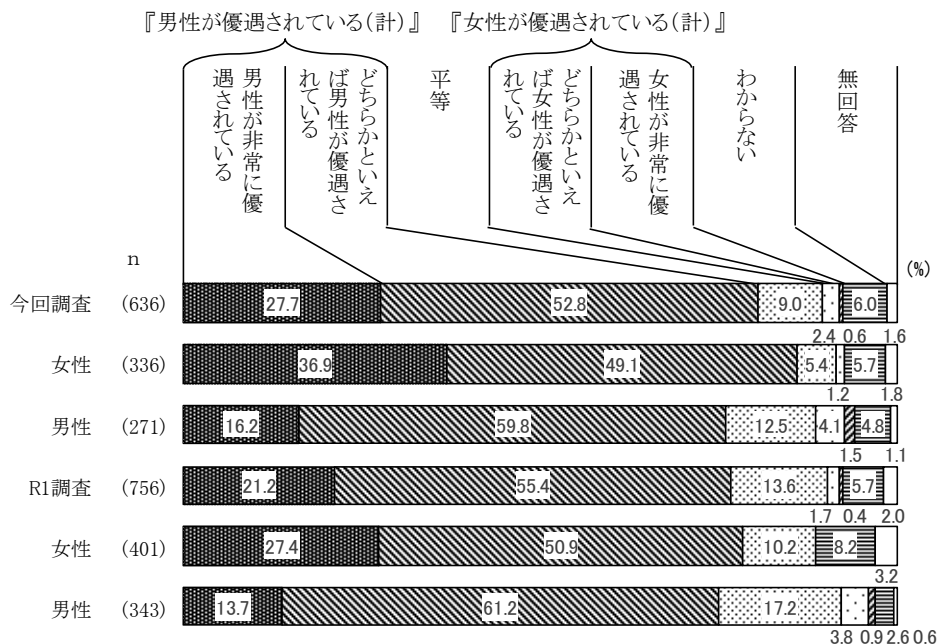
調査の結果／1. 男女共同参画全般について

(1) 男女平等意識

(キ) 社会通念・慣習で(風潮・しきたり等)

【性別・前回調査(令和元年)との比較】

前回調査と比較すると、「平等」と答えた割合は女性が4.8ポイント、男性が4.7ポイント低くなっている。

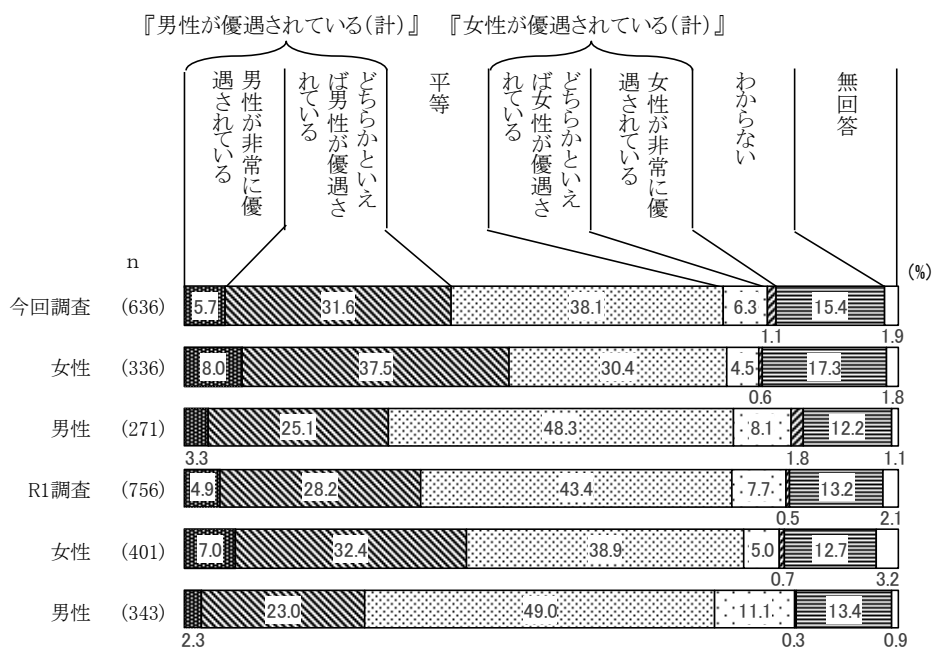


(ク) 地域活動の場で(自治会・PTA・ボランティア等)

【性別・前回調査(令和元年)との比較】

『男性が優遇されている(計)』の割合は、前回調査よりも女性で6.1ポイント高くなっている。

「平等」と答えた女性の割合は前回調査よりも8.5ポイント低くなっている。



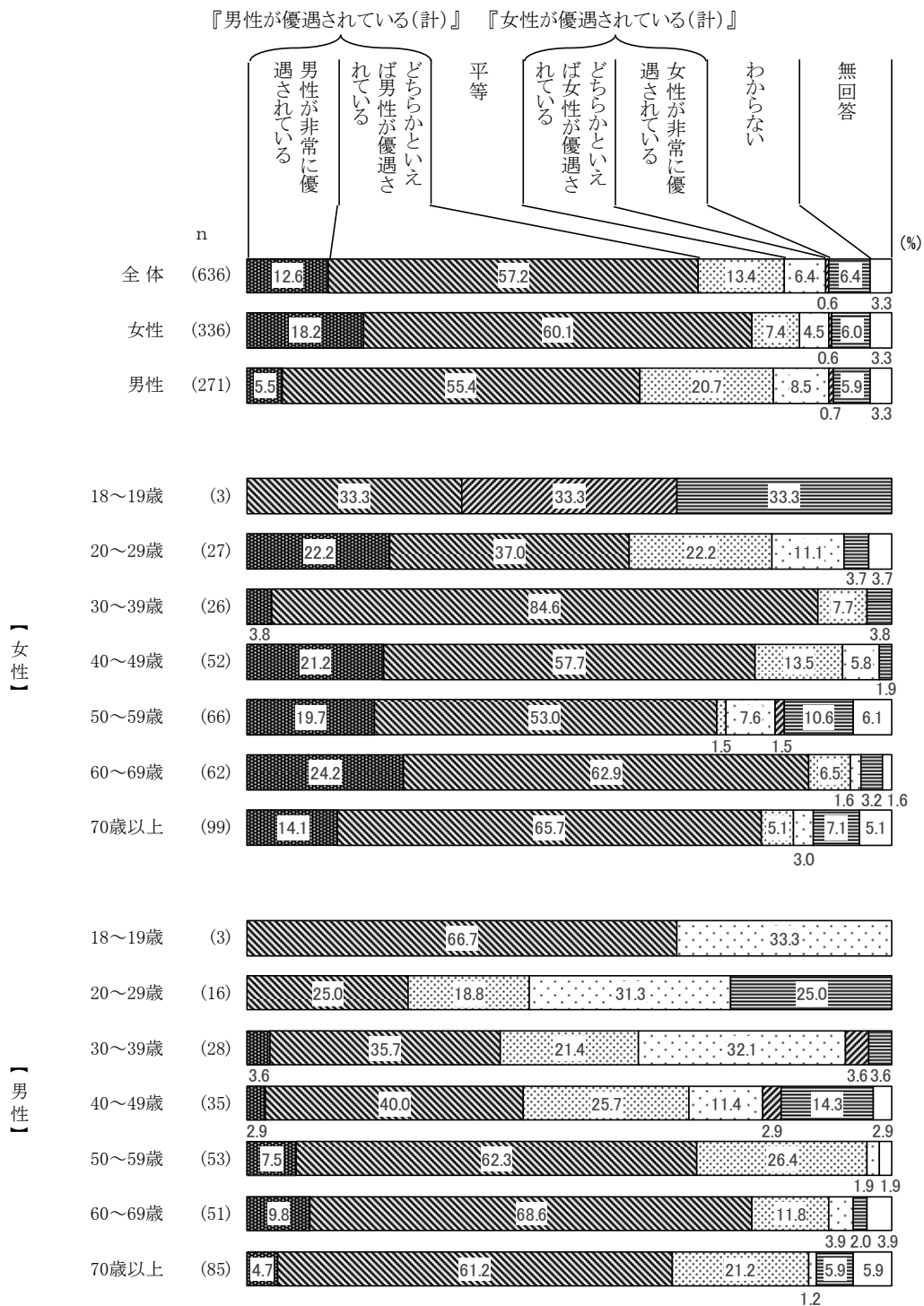
(ア) 社会全体で

【性・年齢別】

『男性が優遇されている（計）』の割合は、女性が男性よりも17.4ポイント高くなっている。一方、「平等」と『女性が優遇されている（計）』の割合は、男性が女性よりも13.3ポイント、4.1ポイント、それぞれ高くなっている。

「平等」と答えた割合が2割を超えているのは、女性は20～29歳、男性は30～39歳、40～49歳、50～59歳、70歳以上となっている。

『男性が優遇されている（計）』の割合は、女性では30～39歳以上で、男性では50～59歳以上で6割を超えている。



調査の結果／1. 男女共同参画全般について

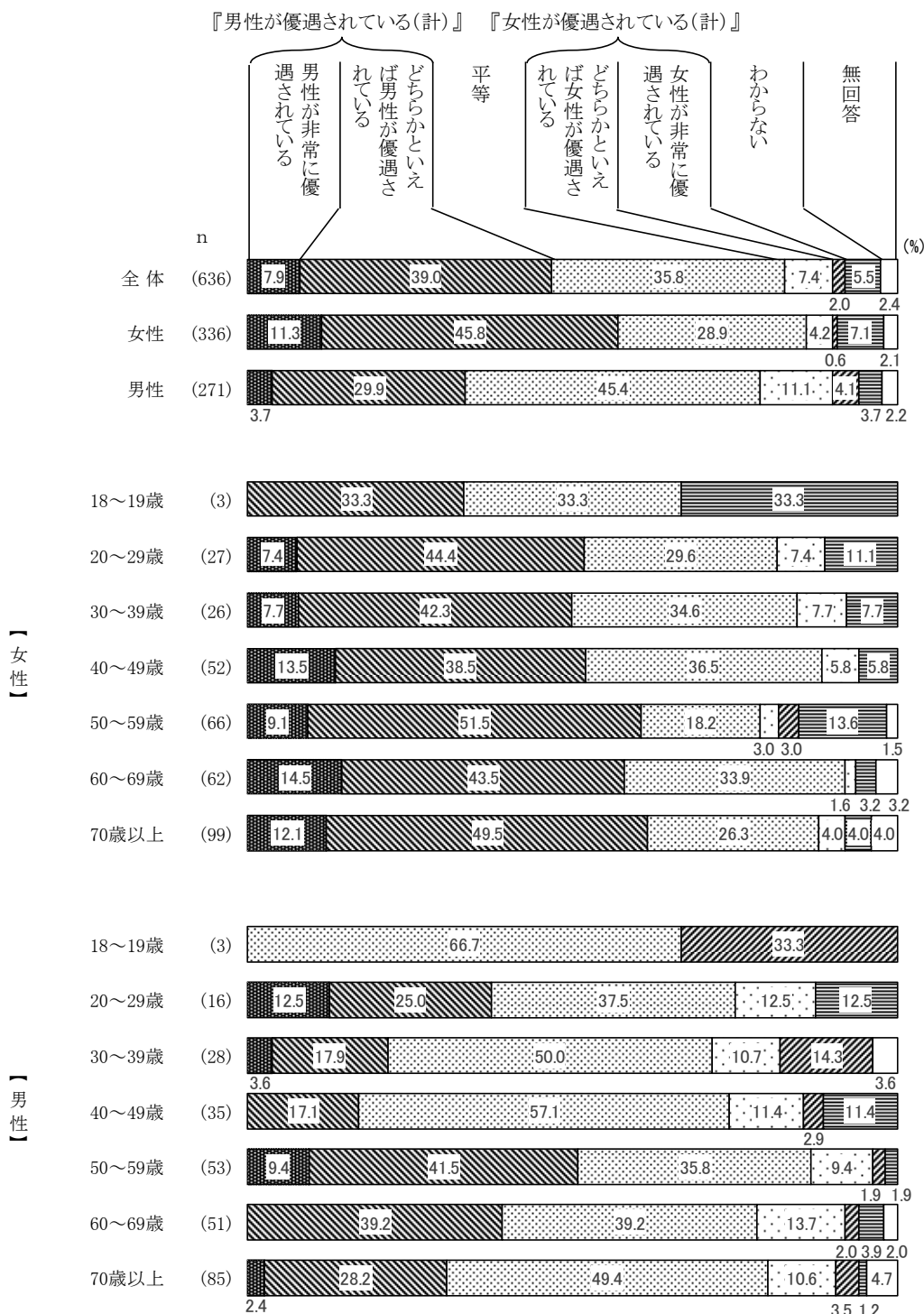
(1) 男女平等意識

(イ) 家庭のなかで

【性・年齢別】

『男性が優遇されている（計）』の割合は、女性が男性よりも23.5ポイント高くなっており、女性70歳以上、女性50～59歳で『男性が優遇されている（計）』の割合が6割を超えている。

「平等」と答えた割合は、男性30～39歳、男性40～49歳で5割以上となっている。

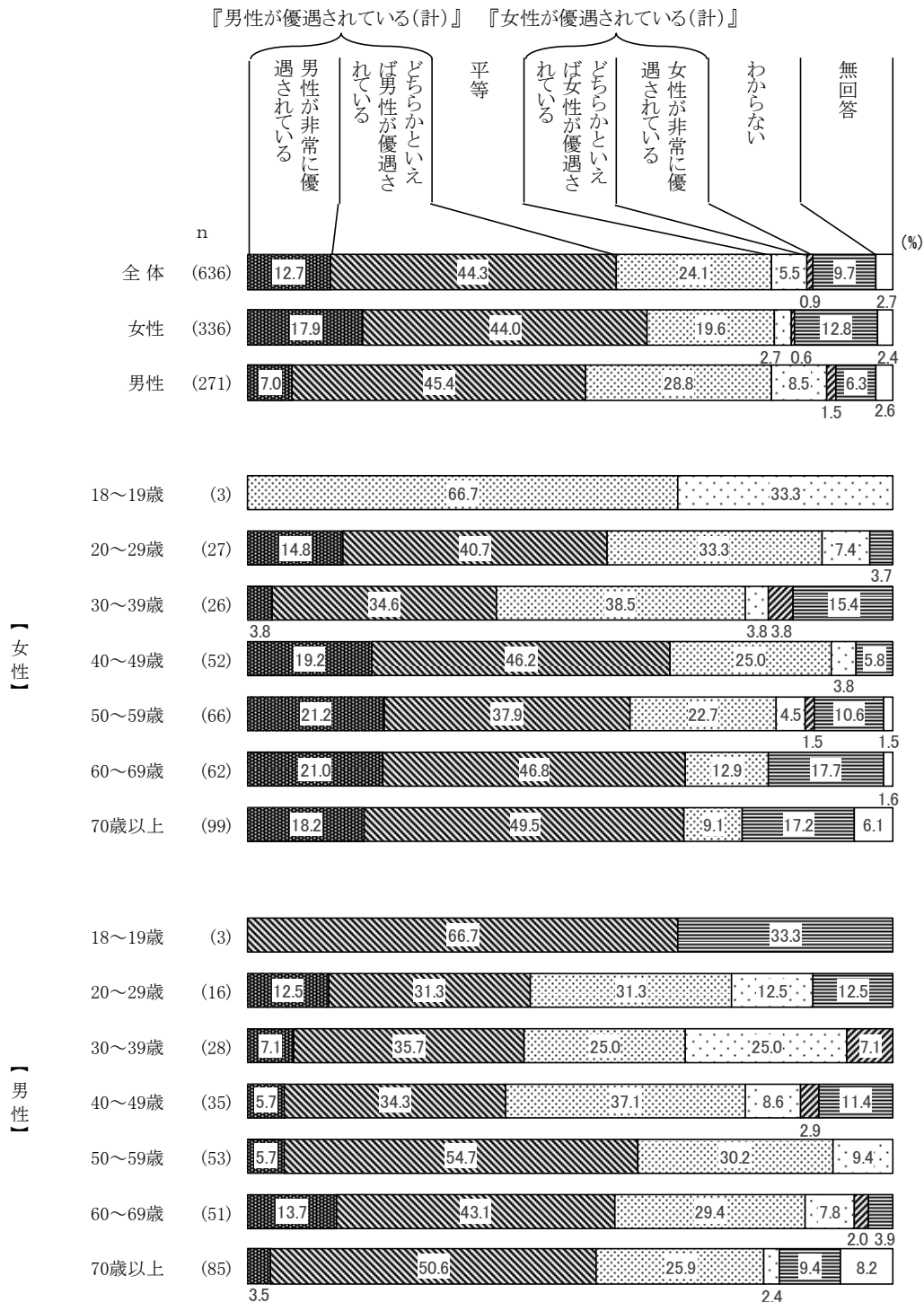


(ウ) 職場のなかで

【性・年齢別】

『男性が優遇されている(計)』の割合は、女性が男性よりも9.5ポイント高くなっている一方、「平等」の割合は、男性が女性よりも9.2ポイント高くなっている。

「平等」と答えた割合は、女性30～39歳(38.5%)が最も高く、男性40～49歳(37.1%)、女性20～29歳(33.3%)と続いている。



調査の結果／1. 男女共同参画全般について

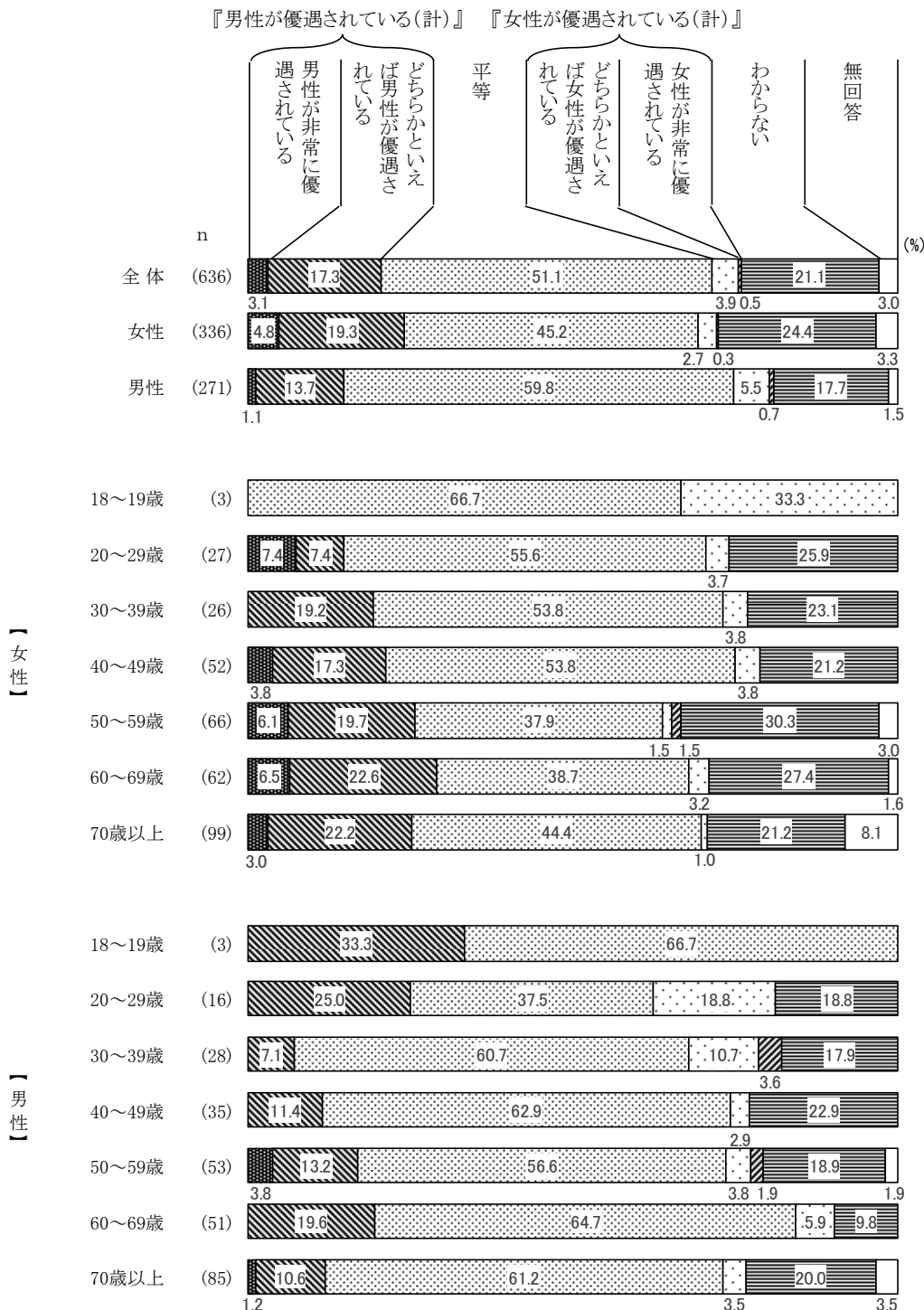
(1) 男女平等意識

(エ) 学校教育の場で

【性・年齢別】

「平等」と答えた割合は、男性が女性よりも14.6ポイント高くなっている一方、『男性が優遇されている(計)』の割合は、女性が男性よりも9.3ポイント高くなっている。

「平等」と答えた割合が高いのは、男性60～69歳（64.7%）、男性40～49歳（62.9%）、男性70歳以上（61.2%）、男性30～39歳（60.7%）で6割を超えている。

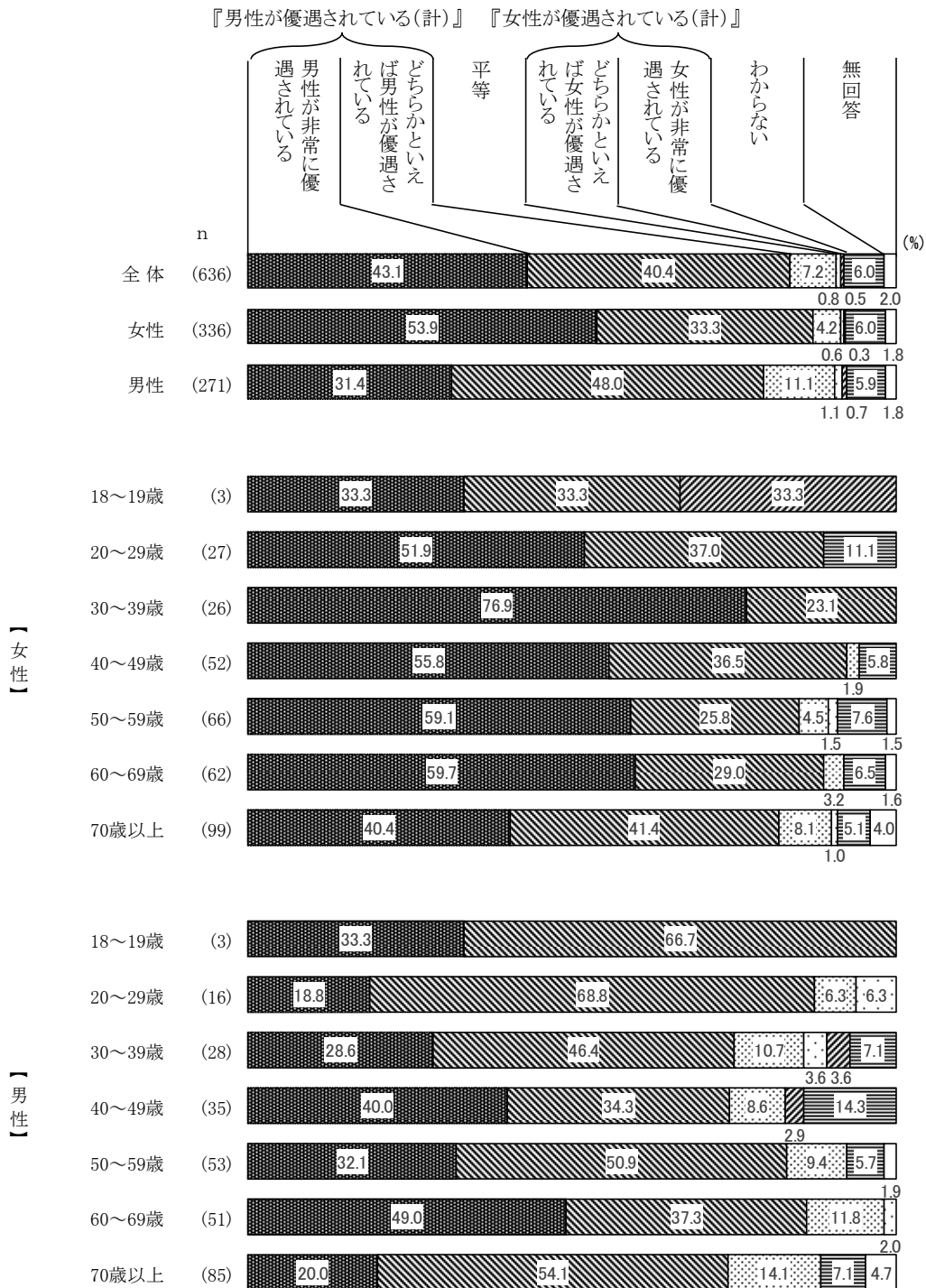


(オ) 政治の場で

【性・年齢別】

『男性が優遇されている(計)』の割合は、女性が87.2%、男性が79.4%でともに高くなっており、特に女性30～39歳では10割となっている。

「平等」と答えた女性の割合は、どの年代においても低く、1割に満たない。



調査の結果／1. 男女共同参画全般について

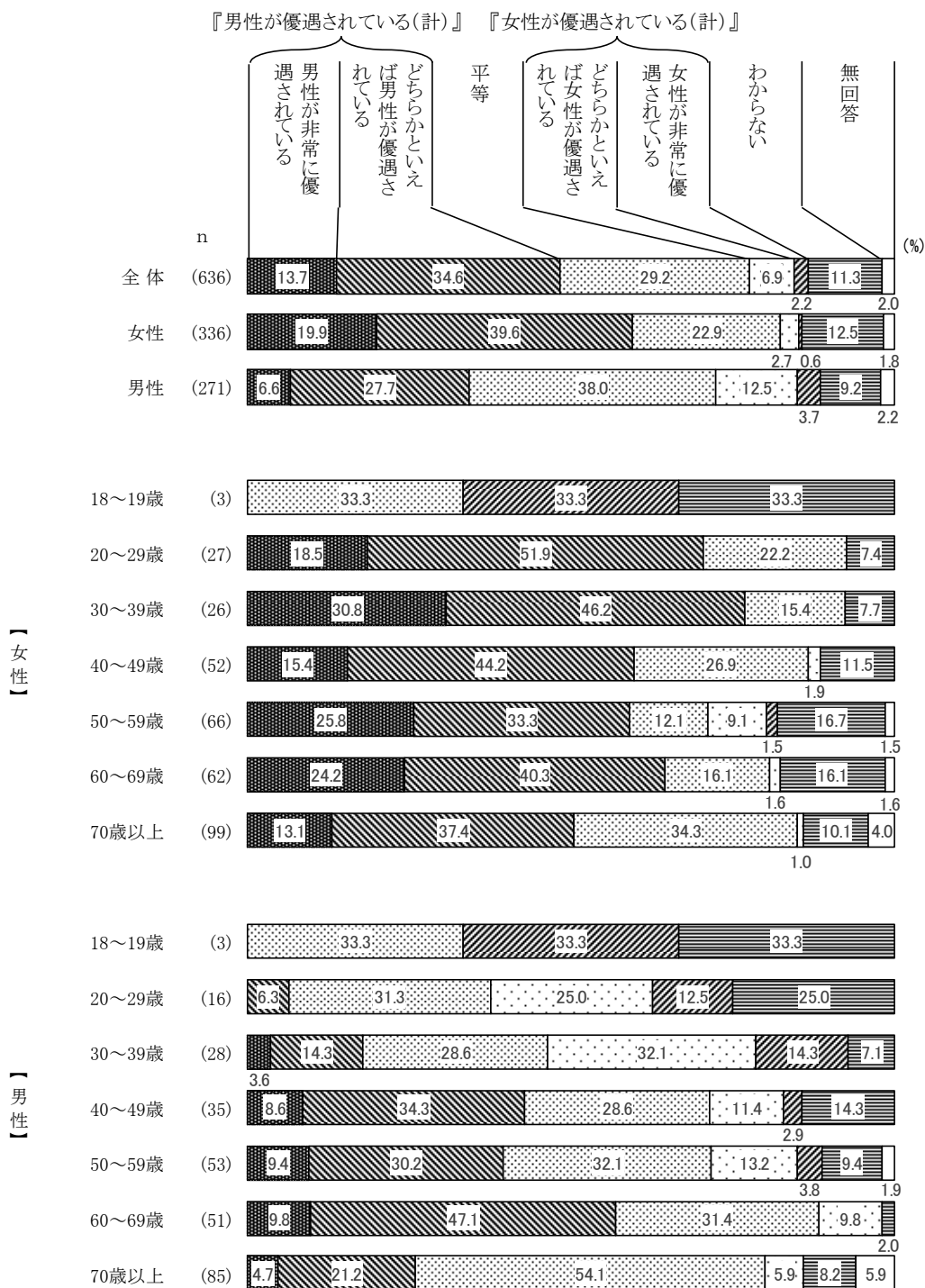
(1) 男女平等意識

(カ) 法律や制度の上で

【性・年齢別】

『男性が優遇されている(計)』の割合は、女性30～39歳、女性20～29歳で7割を超えて高くなっており、「平等」と答えた割合は、男性70歳以上が54.1%と最も高くなっている。

『女性が優遇されている(計)』の割合は、男性30～39歳が46.4%と最も高くなっている。

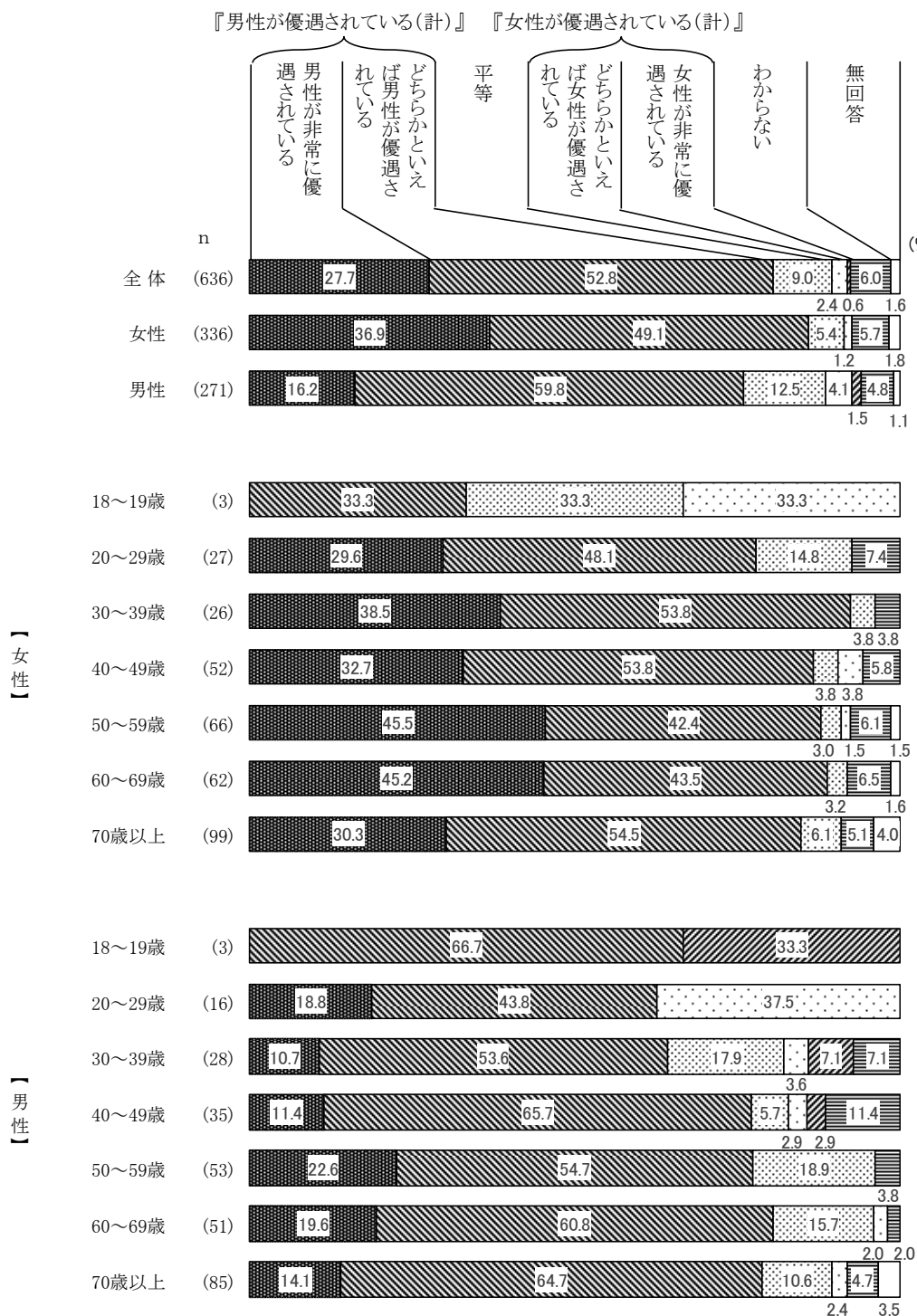


(キ) 社会通念・慣習で(風潮・しきたり等)

【性・年齢別】

『男性が優遇されている(計)』の割合は、女性が86.0%、男性が76.0%でともに高くなっており、女性は20～29歳を除く年代で8割を超えている。

「平等」と答えた割合が最も高いのは、男性50～59歳で2割に満たない。



調査の結果／1. 男女共同参画全般について

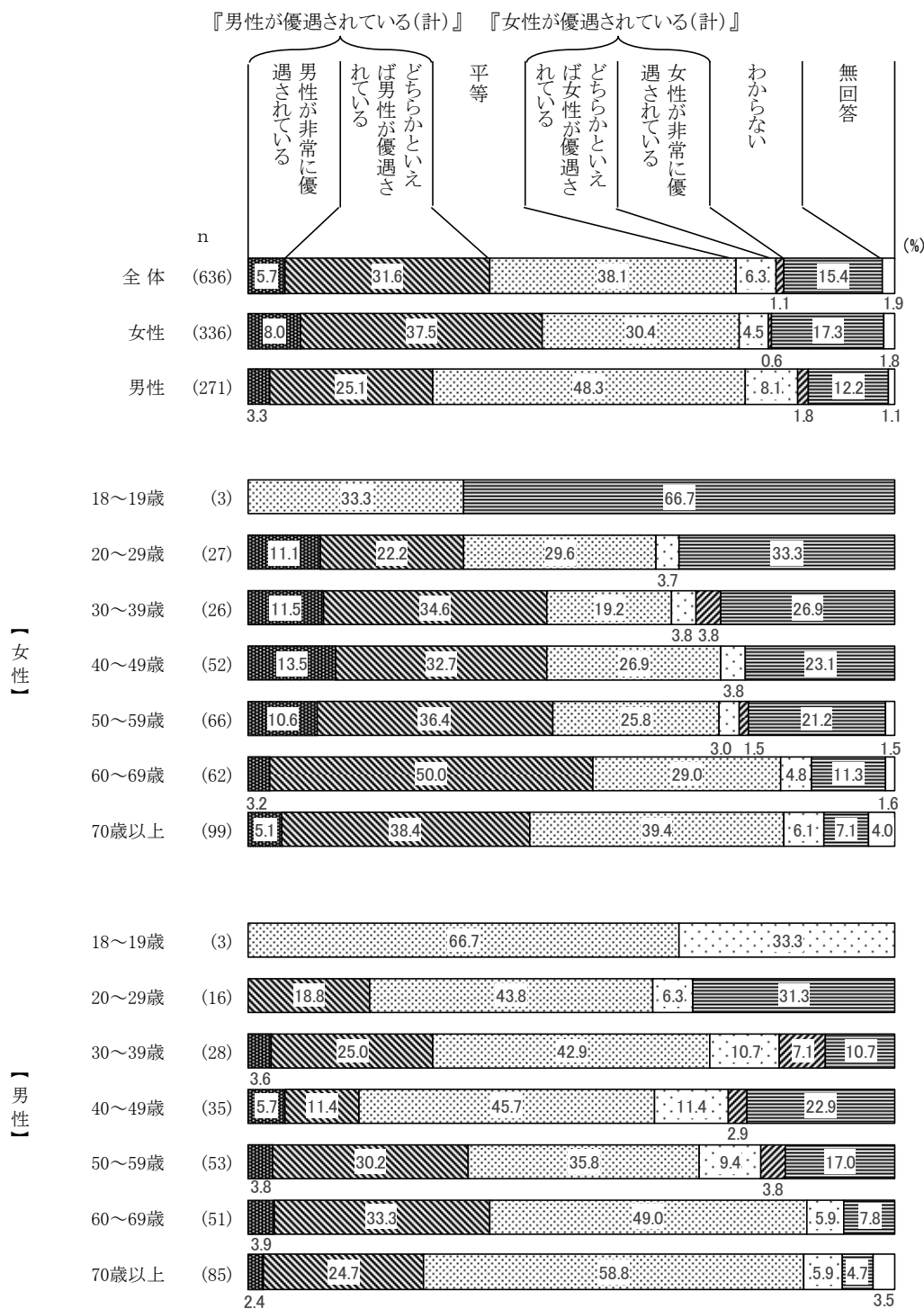
(1) 男女平等意識

(ク) 地域活動の場で(自治会・PTA・ボランティア等)

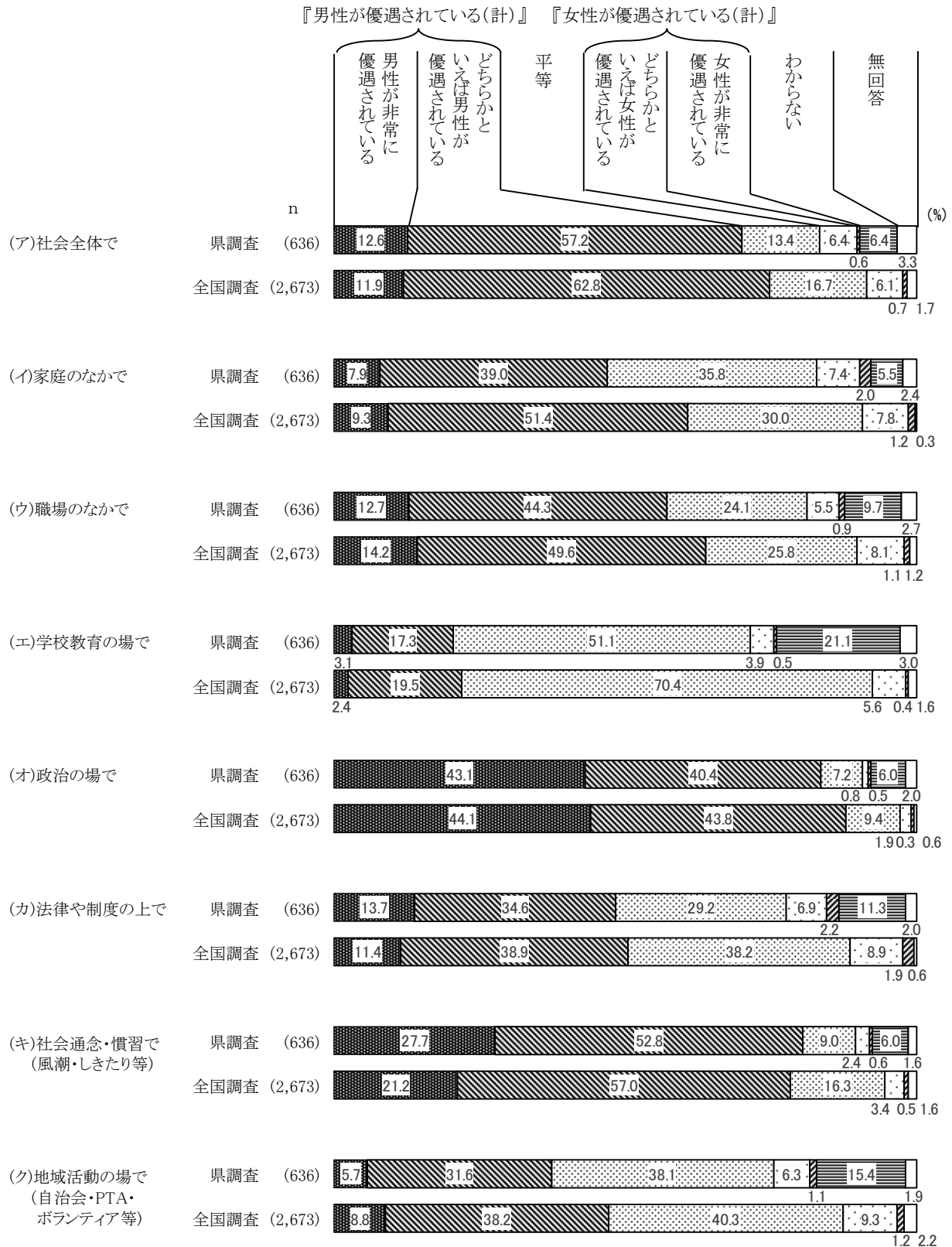
【性・年齢別】

「平等」と答えた男性は女性よりも17.9ポイント高くなっており、「平等」と答えた割合が最も高いのは、男性70歳以上で58.8%となっている。

『男性が優遇されている(計)』の割合は、女性60～69歳で53.2%と最も高くなっている。



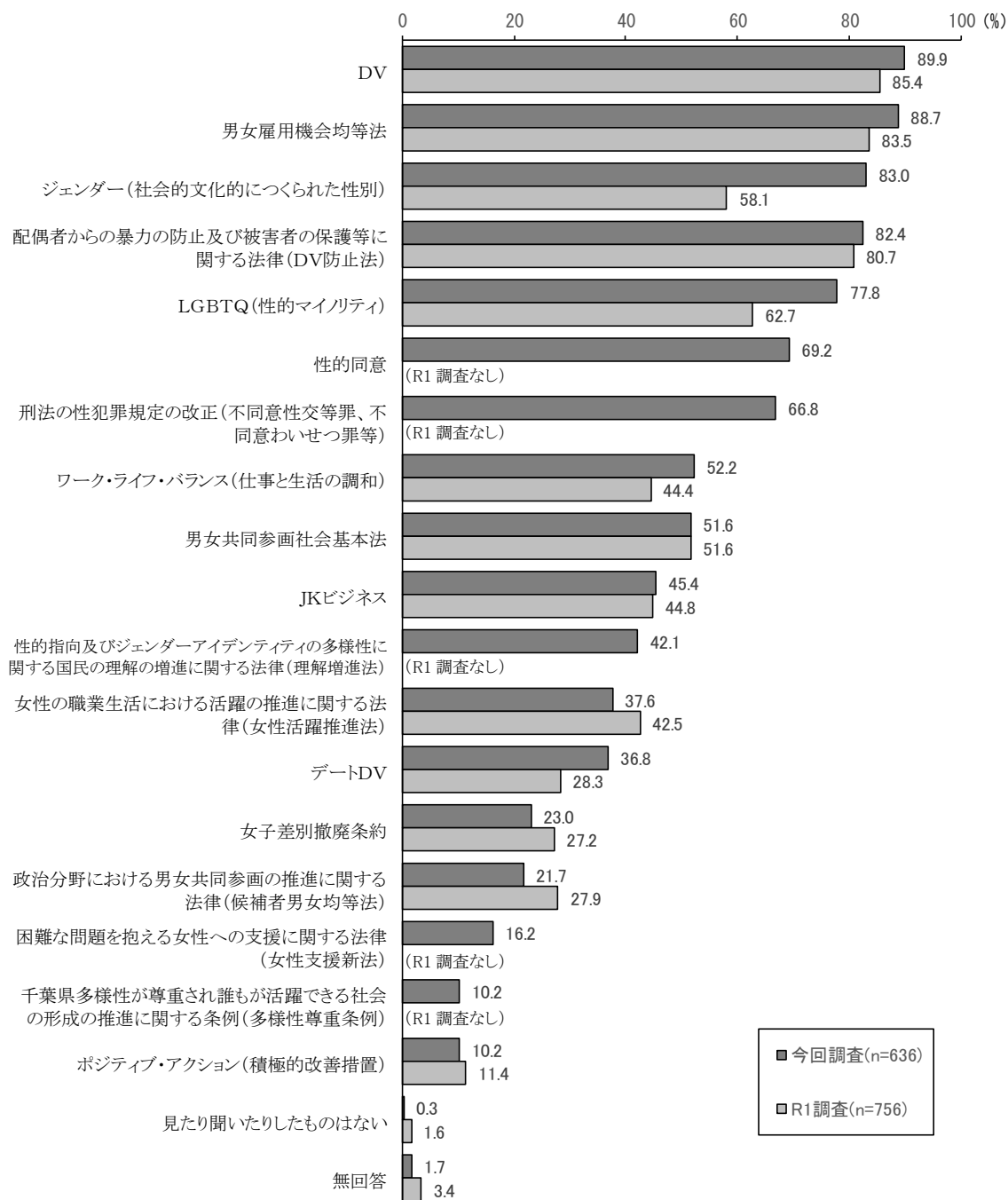
(参考) 全国調査：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」



※全国調査では「わからない」の選択肢を設けていない。

(2) 法令等の認知度

問2. 男女共同参画に関連する法令等の認知度を把握するため、次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある番号すべてに○をつけてください。



法令や言葉の認知度の割合が高いのは、「DV」、「男女雇用機会均等法」、「ジェンダー(社会的文化的につくられた性別)」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」で8割を超えている。

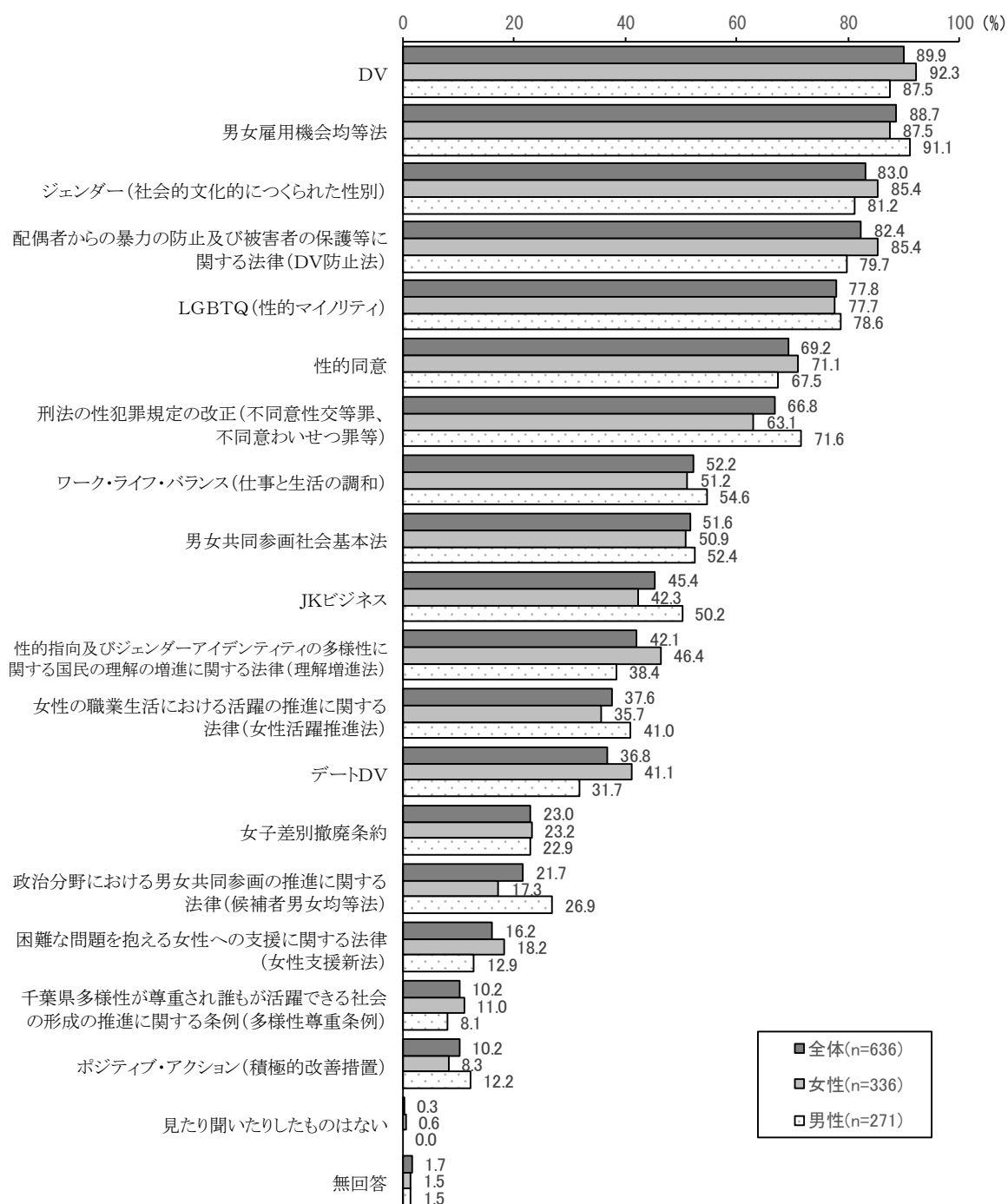
【前回調査(令和元年)との比較】

前回調査と比較すると「ジェンダー(社会的文化的につくられた性別)」は24.9ポイント、「LGBTQ(性的マイノリティ)」は15.1ポイント、それぞれ高くなっている。

【性別】

性別にみると、女性が男性よりも「デートDV」で9.4ポイント、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律（理解増進法）」で8.0ポイント、それぞれ高くなっている。

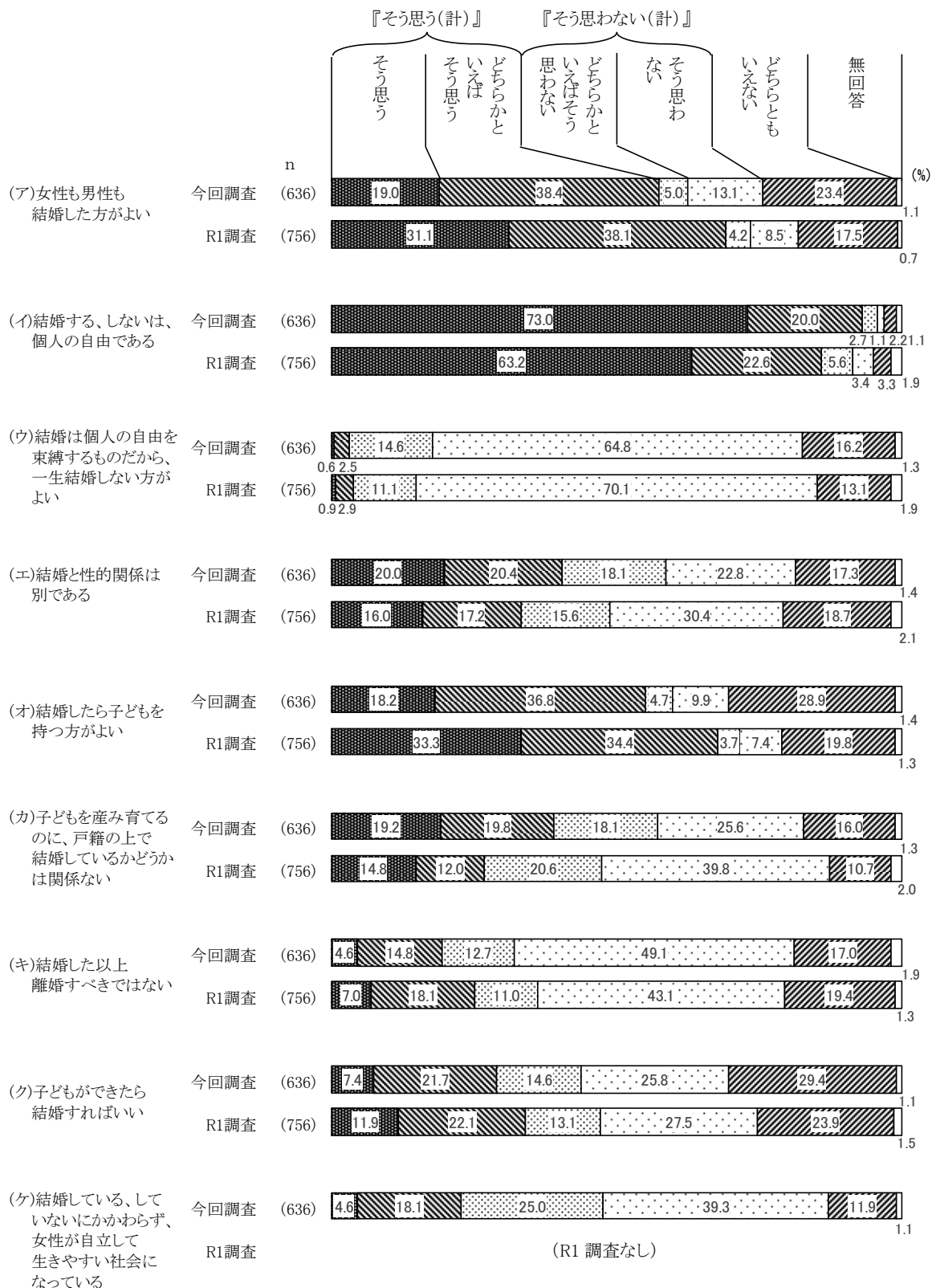
一方、男性が女性よりも「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律（候補者男女均等法）」で9.6ポイント、「刑法の性犯罪規定の改正（不同意性交等罪、不同意わいせつ罪等）」で8.5ポイント、「JKビジネス」で7.9ポイント、それぞれ高くなっている。



2. 家庭について

(1) 結婚についての考え

問3. あなたは、結婚に関する次の(ア)～(ケ)について、それぞれどう思いますか。あなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。



結婚についての考えで、『そう思う(計)』の割合は「(イ)結婚する、しないは、個人の自由である」が93.0%で最も高く、前回調査よりも7.2ポイント上昇している。以下「(ア)女性も男性も結婚した方がよい」が57.4%、「(オ)結婚したら子どもを持つ方がよい」が55.0%と続いている。

一方、『そう思わない(計)』の割合は「(ウ)結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい」が79.4%で最も高く、次いで「(ケ)結婚している、していないにかかわらず、女性が自立して生きやすい社会になっている」が64.3%、「(キ)結婚した以上離婚すべきではない」が61.8%と続いている。

【前回調査(令和元年)との比較】

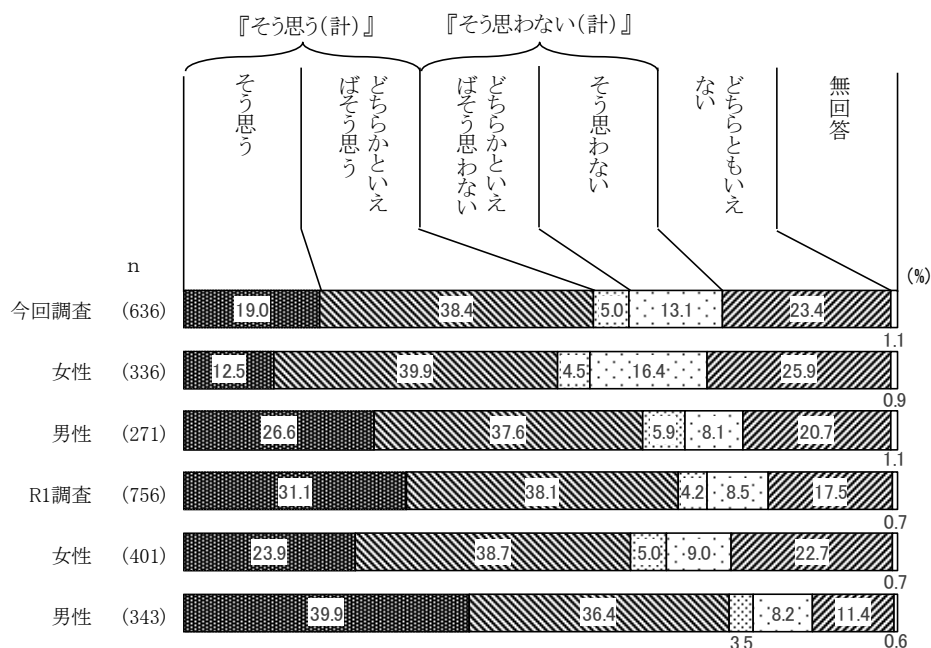
前回調査と比較すると、『そう思う(計)』の割合は、「(ア)女性も男性も結婚した方がよい」で11.8ポイント、「(オ)結婚したら子どもを持つ方がよい」で12.7ポイント、それぞれ低くなっている。また、『そう思わない(計)』の割合は、「(カ)子どもを産み育てるのに、戸籍の上で結婚しているかどうかは関係ない」で16.7ポイント低くなっている。

(ア) 女性も男性も結婚した方がよい

【性別・前回調査(令和元年)との比較】

前回調査と比較すると、『そう思う(計)』の割合は女性で10.2ポイント、男性で12.1ポイント、それぞれ低くなっている。

一方、『そう思わない(計)』の割合は、女性で6.9ポイント、男性で2.3ポイント、それぞれ高くなっている。



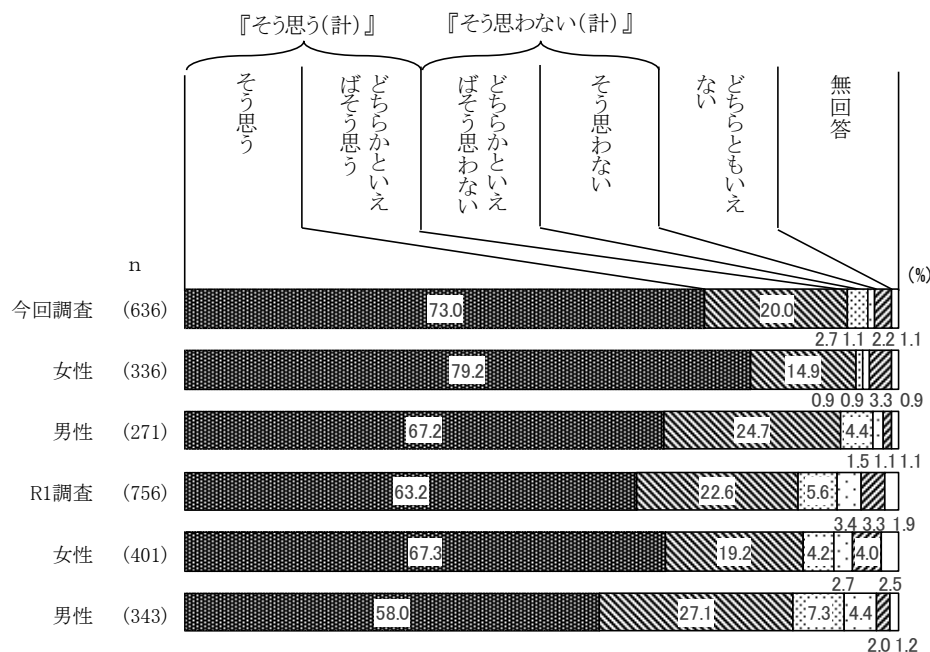
調査の結果／2. 家庭について

(1) 結婚についての考え

(イ) 結婚する、しないは、個人の自由である

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

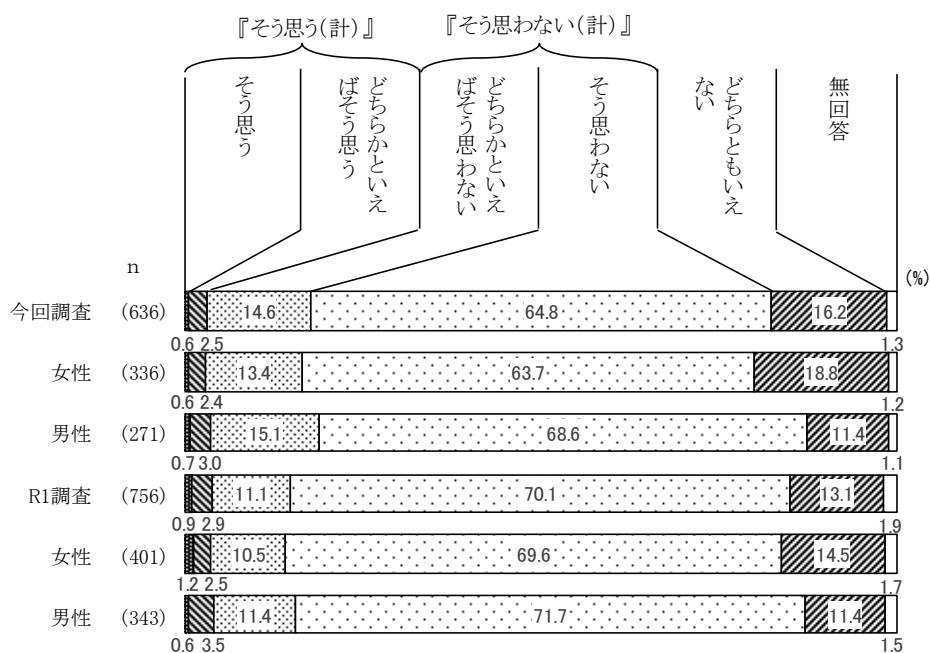
前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は女性で7.6ポイント、男性で6.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、『そう思わない（計）』の割合は女性で5.1ポイント、男性で5.8ポイント、それぞれ低くなっている。



(ウ) 結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

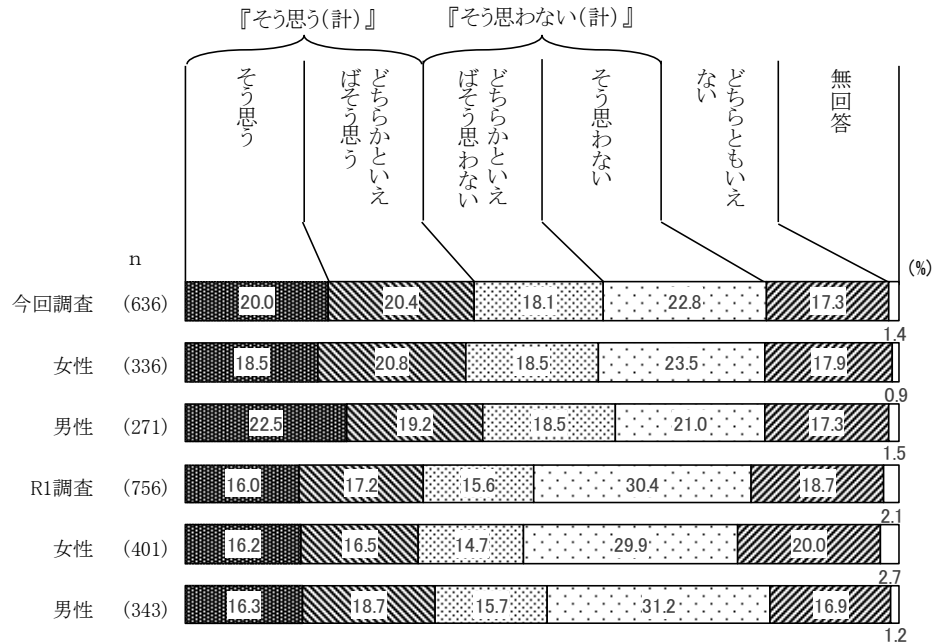
前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。



(エ) 結婚と性的関係は別である

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

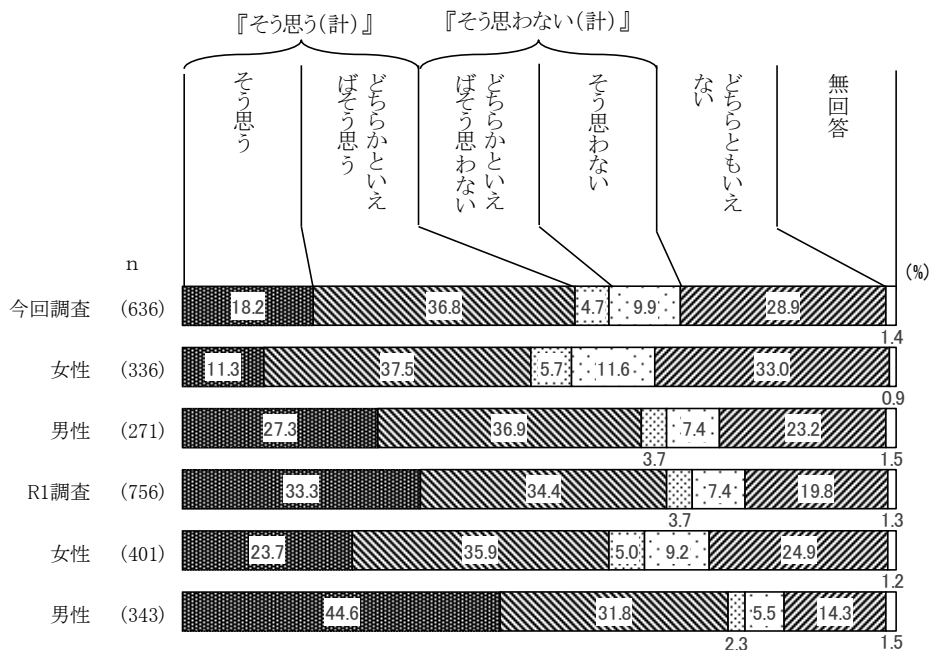
前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は女性で6.6ポイント、男性で6.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、『そう思わない（計）』の割合は女性で2.6ポイント、男性で7.4ポイント低くなっている。



(オ) 結婚したら子どもを持つ方がよい

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は女性で10.8ポイント、男性で12.2ポイントそれぞれ低くなっている。また、「どちらともいえない」の割合は、男性で8.9ポイント、女性で8.1ポイント、それぞれ高くなっている。



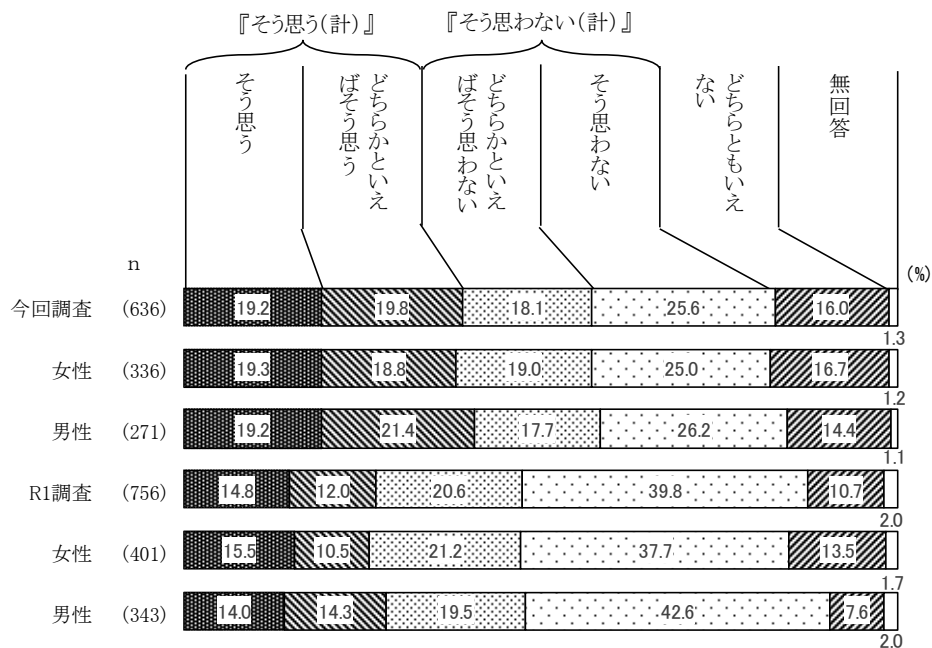
調査の結果／2. 家庭について

(1) 結婚についての考え

(カ) 子どもを産み育てるのに、戸籍の上で結婚しているかどうかは関係ない

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

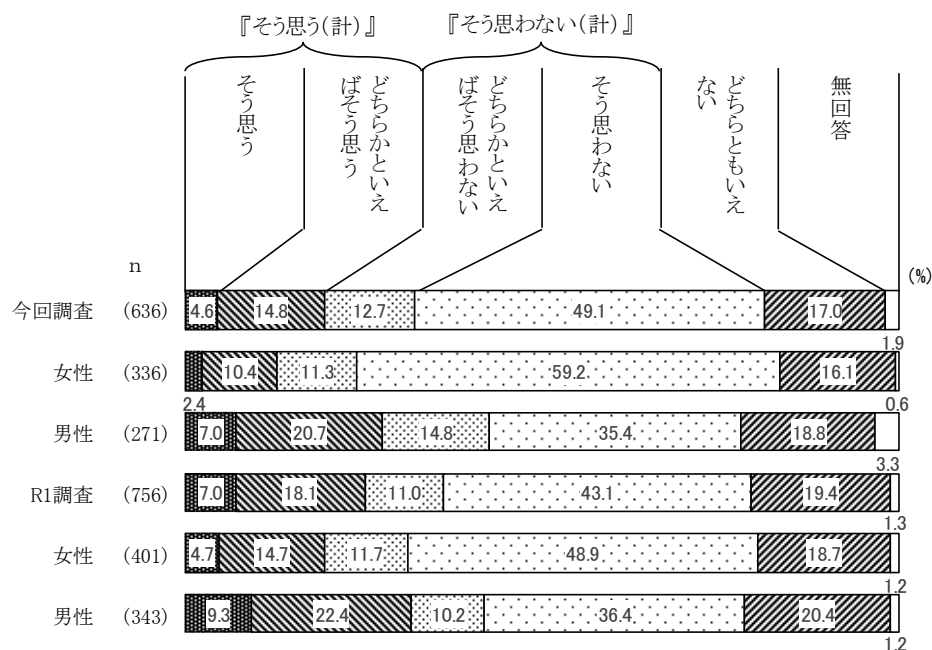
前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は女性で12.1ポイント、男性で12.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、『そう思わない（計）』の割合は、女性で14.9ポイント、男性で18.2ポイント、それぞれ低くなっている。



(キ) 結婚した以上離婚すべきではない

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

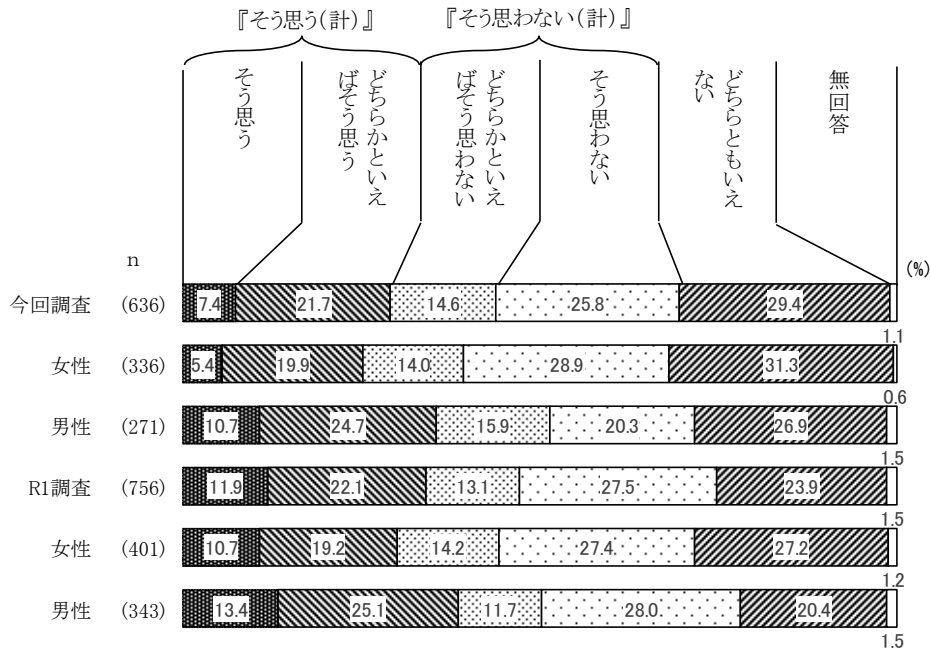
前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は女性で6.6ポイント、男性で4.0ポイント、それぞれ低くなっている。一方、『そう思わない（計）』の割合は女性で9.9ポイント、男性で3.6ポイント、それぞれ高くなっている。



(ク) 子どもができたら結婚すればいい

【性別・前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は女性で4.6ポイント、男性で3.1ポイント、それぞれ低くなっている。



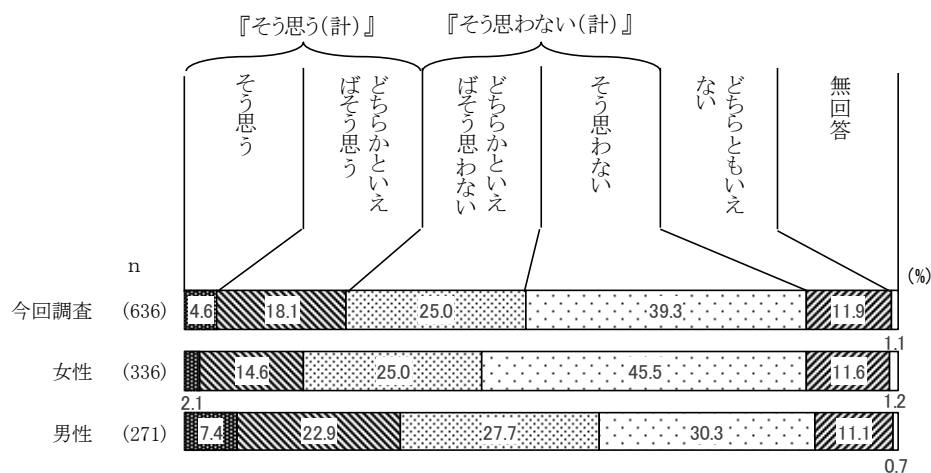
(ケ) 結婚している、していないにかかわらず、女性が自立して生きやすい社会になっている

【新規項目】

【性別】

『そう思う（計）』の割合は、男性が女性よりも13.6ポイント高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』の割合は、女性が男性よりも12.5ポイント高くなっている。



(R1 調査なし)

調査の結果／2. 家庭について

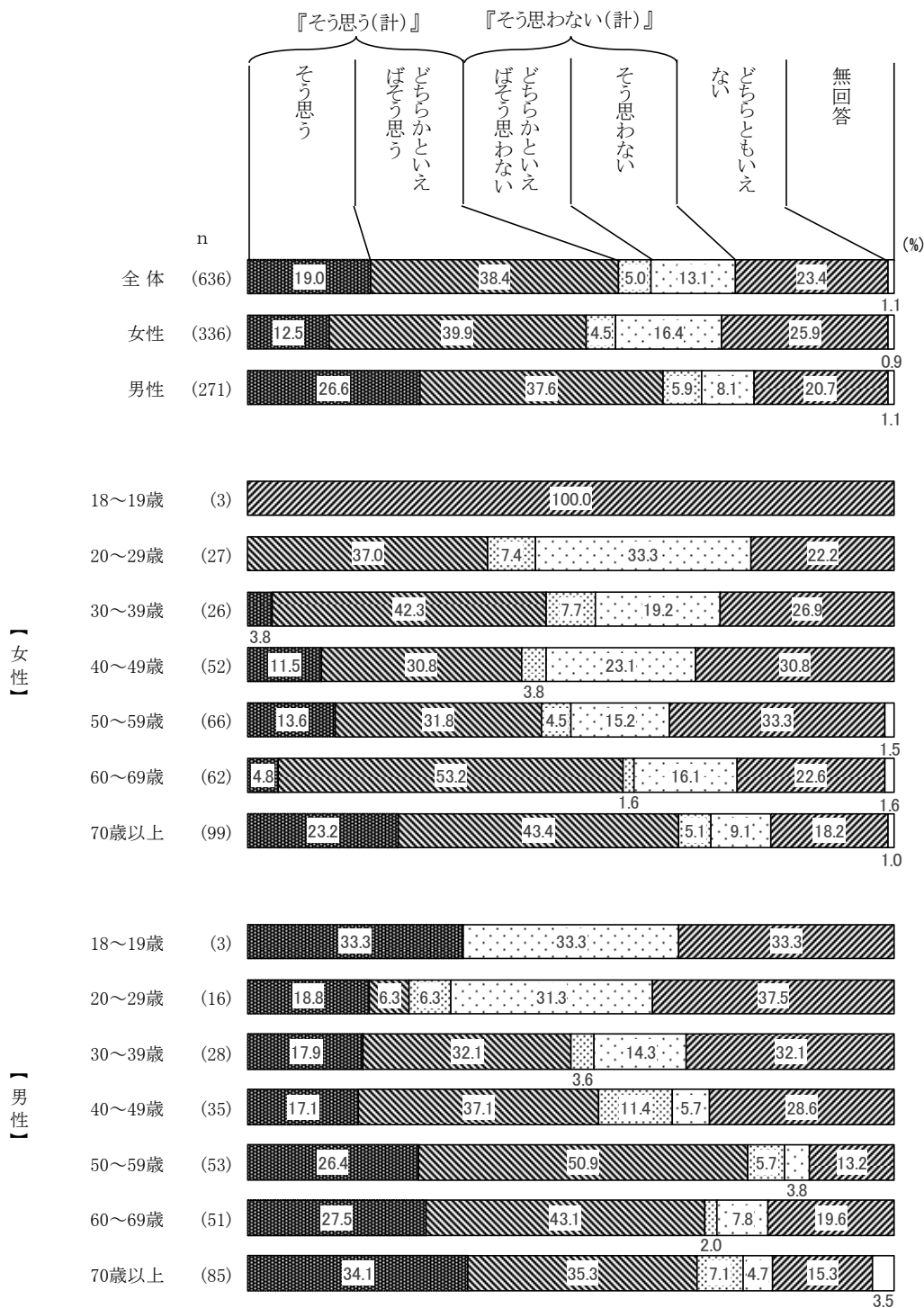
(1) 結婚についての考え

(ア) 女性も男性も結婚した方がよい

【性・年齢別】

『そう思う（計）』の割合は、男性が女性よりも11.8ポイント高くなっており、男性50～59歳、男性60～69歳で『そう思う（計）』の割合が7割を超えている。

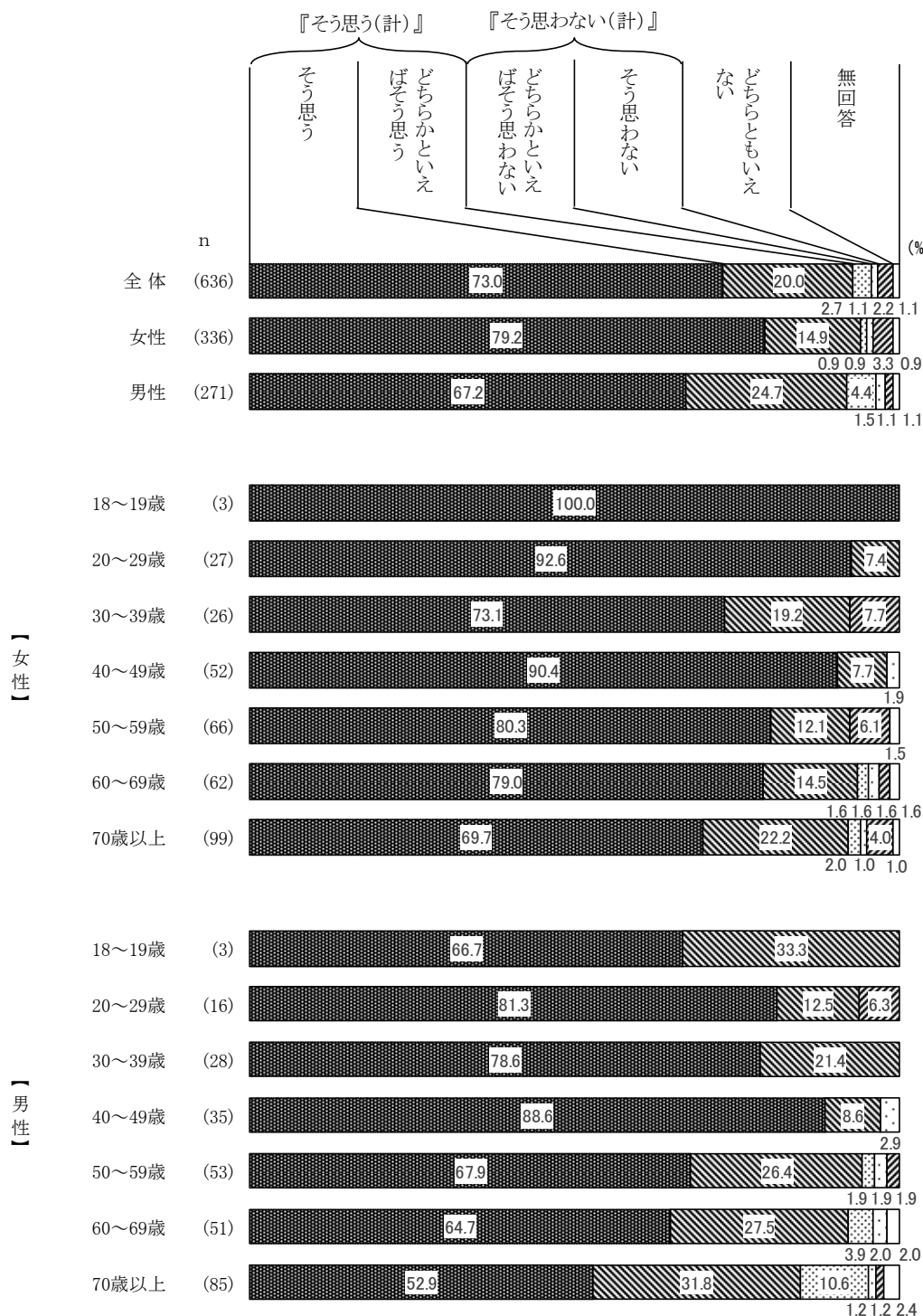
20～29歳では、女性男性ともに『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』よりも高くなって



(イ) 結婚する、しないは、個人の自由である

【性・年齢別】

男性70歳以上を除くすべての年代において、女性も男性も『そう思う（計）』の割合は9割を超えている。



調査の結果／2. 家庭について

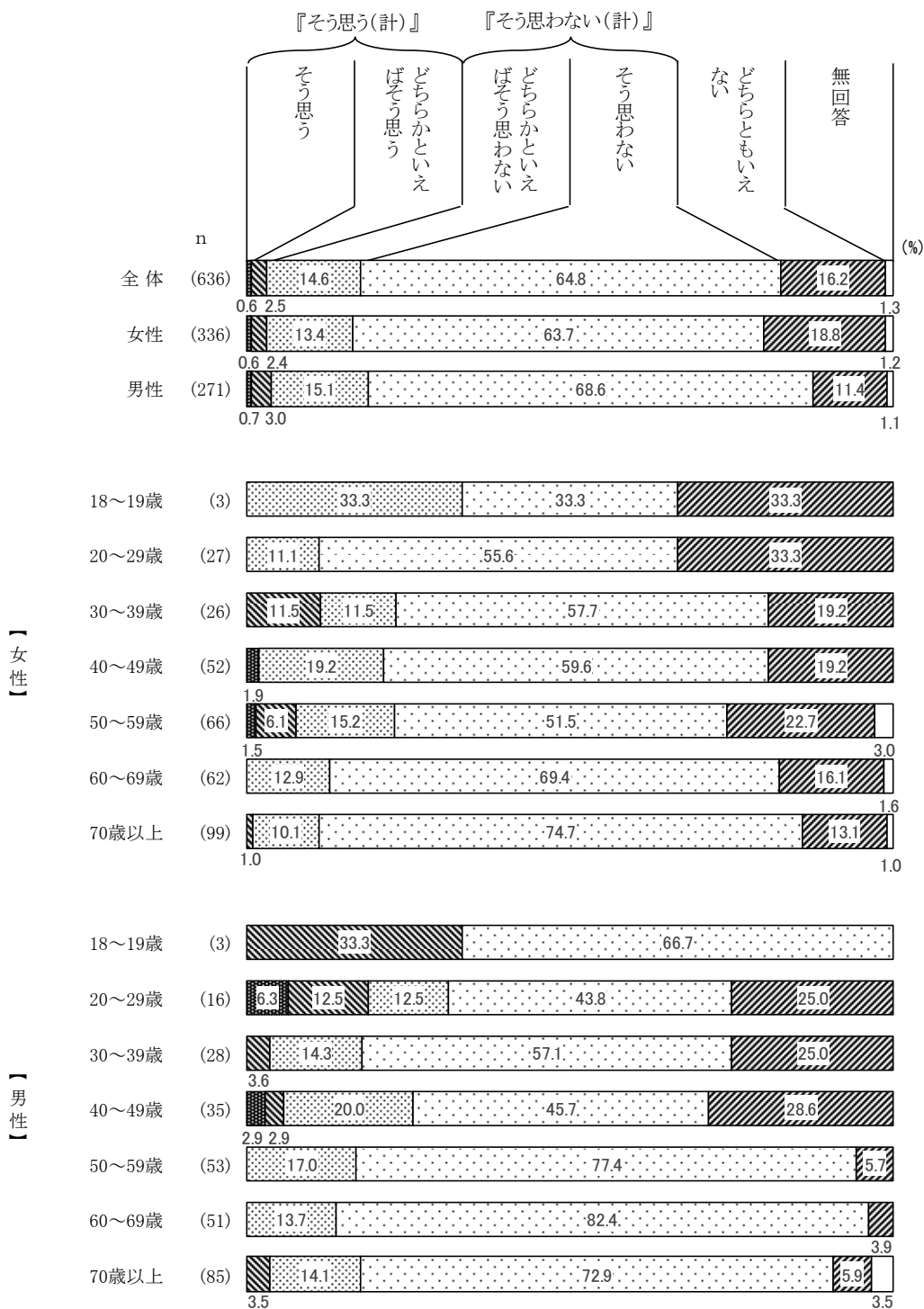
(1) 結婚についての考え

(ウ) 結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい

【性・年齢別】

すべての年代で女性も男性も『そう思わない(計)』が『そう思う(計)』を上回っており、特に、男性60～69歳、男性50～59歳で『そう思わない(計)』の割合が9割を超えている。

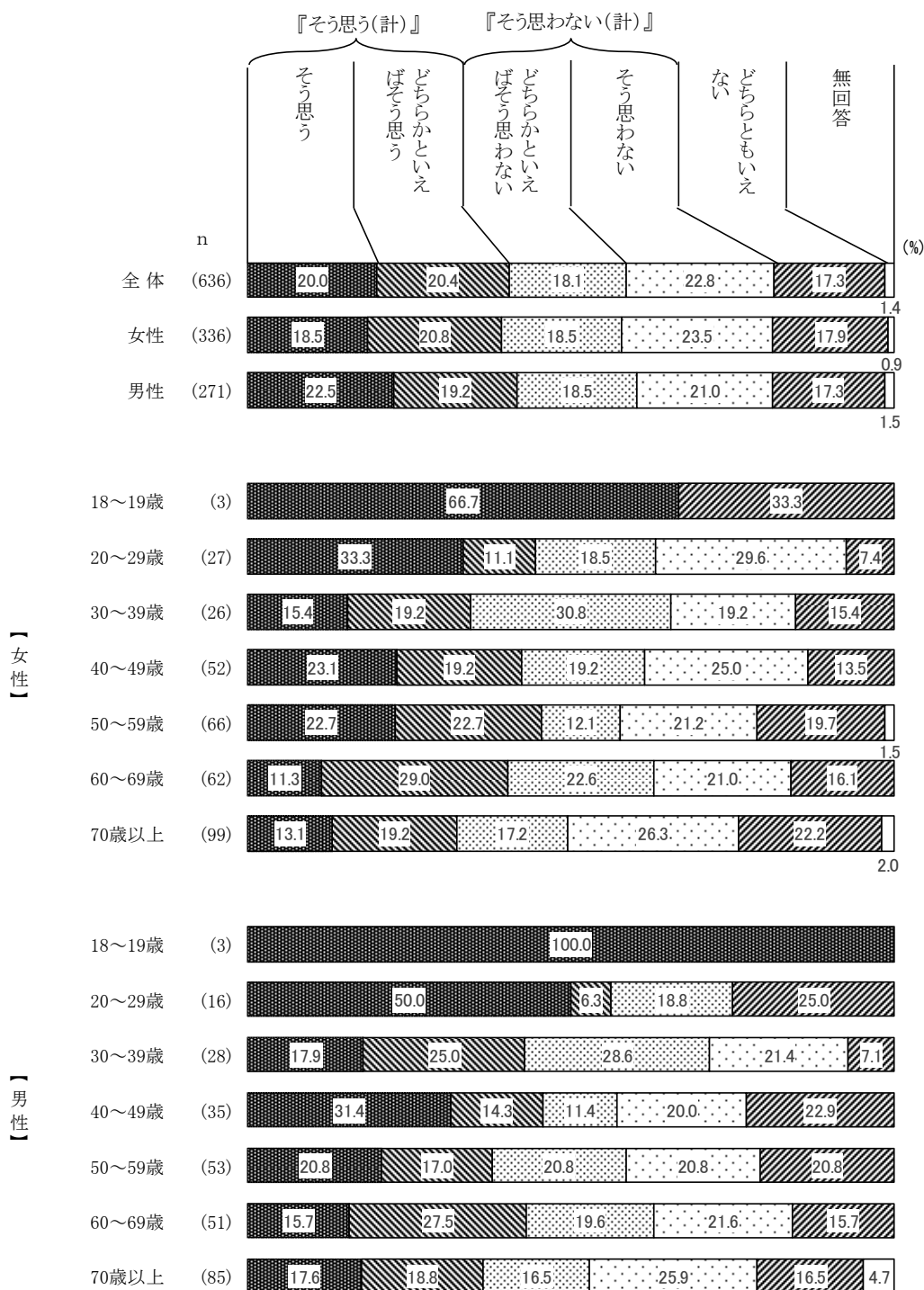
『そう思わない(計)』の割合は、男性が女性よりも6.6ポイント高くなっている。



(エ) 結婚と性的関係は別である

【性・年齢別】

性・年齢別で、大きな差異はみられない。



調査の結果／2. 家庭について

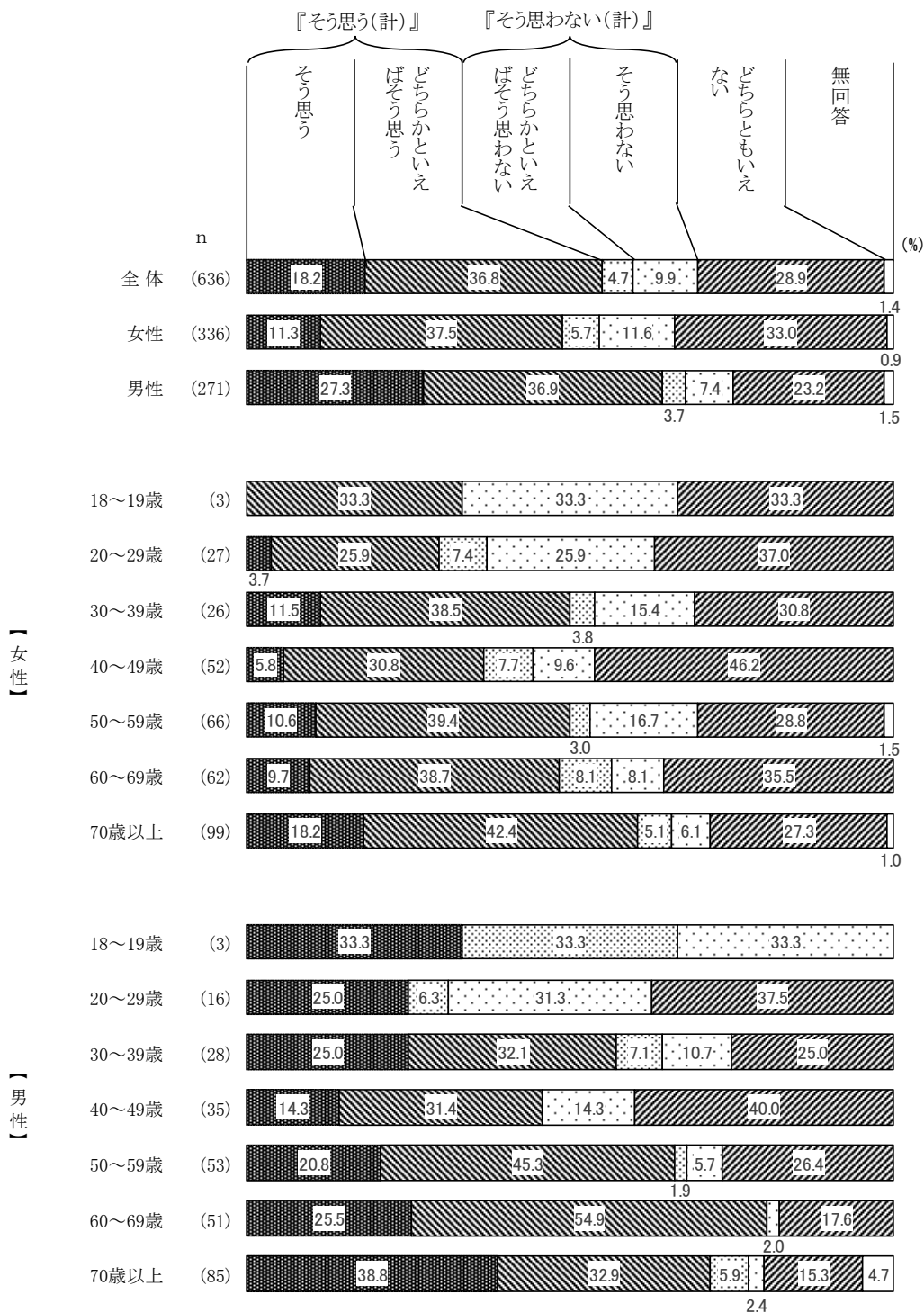
(1) 結婚についての考え

(オ) 結婚したら子どもを持つ方がよい

【性・年齢別】

『そう思う（計）』の割合は、男性が女性よりも15.4ポイント高くなっており、特に、男性60～69歳、男性70歳以上で7割を超えている。

20～29歳では、女性男性ともに『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』よりも高くなって

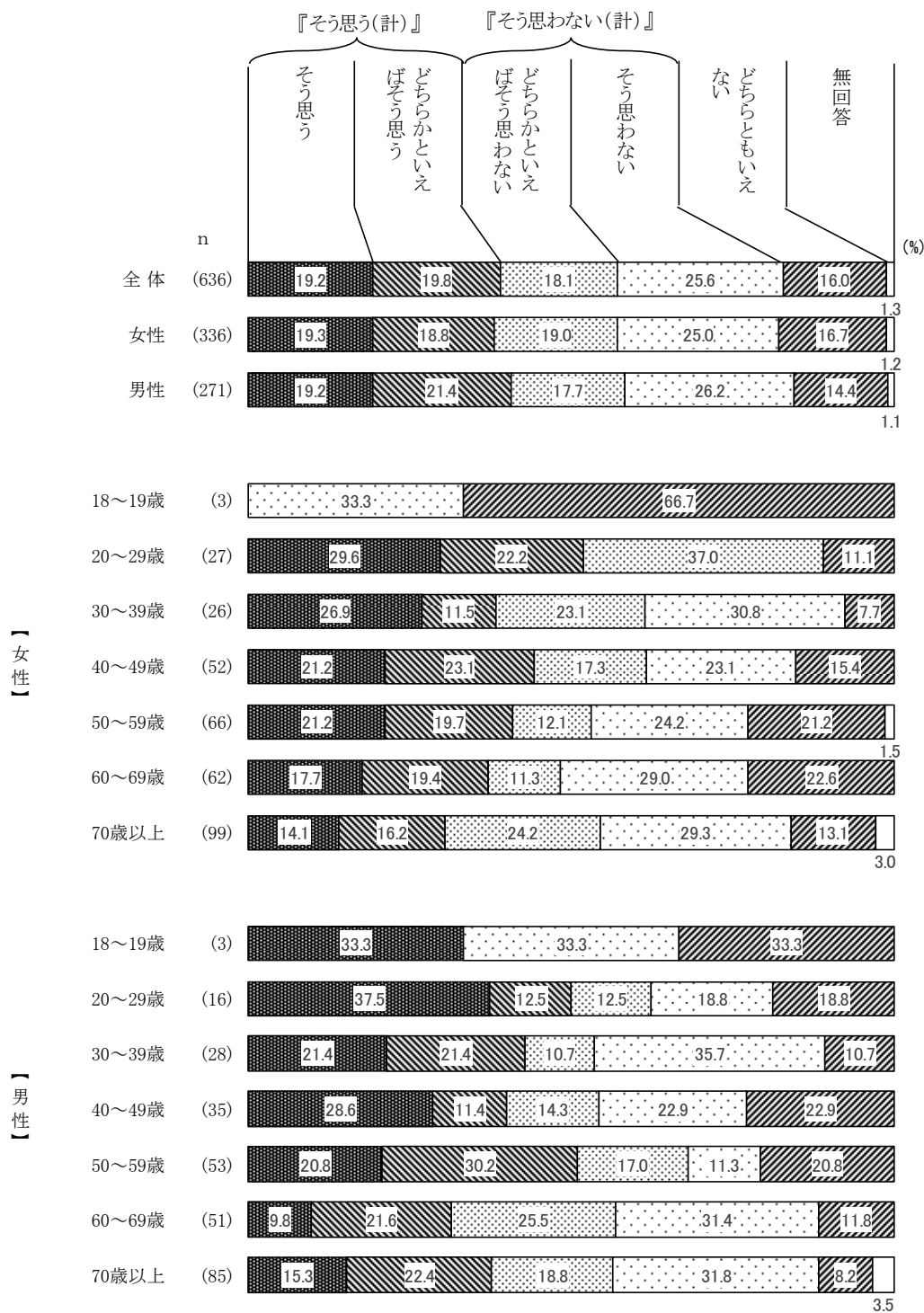


(カ) 子どもを産み育てるのに、戸籍の上で結婚しているかどうかは関係ない

【性・年齢別】

『そう思う(計)』の割合は、女性20～29歳、男性50～59歳、男性20～29歳で5割以上となっている。

一方、『そう思わない(計)』の割合は、男性60～69歳で56.9%と最も高くなっている。



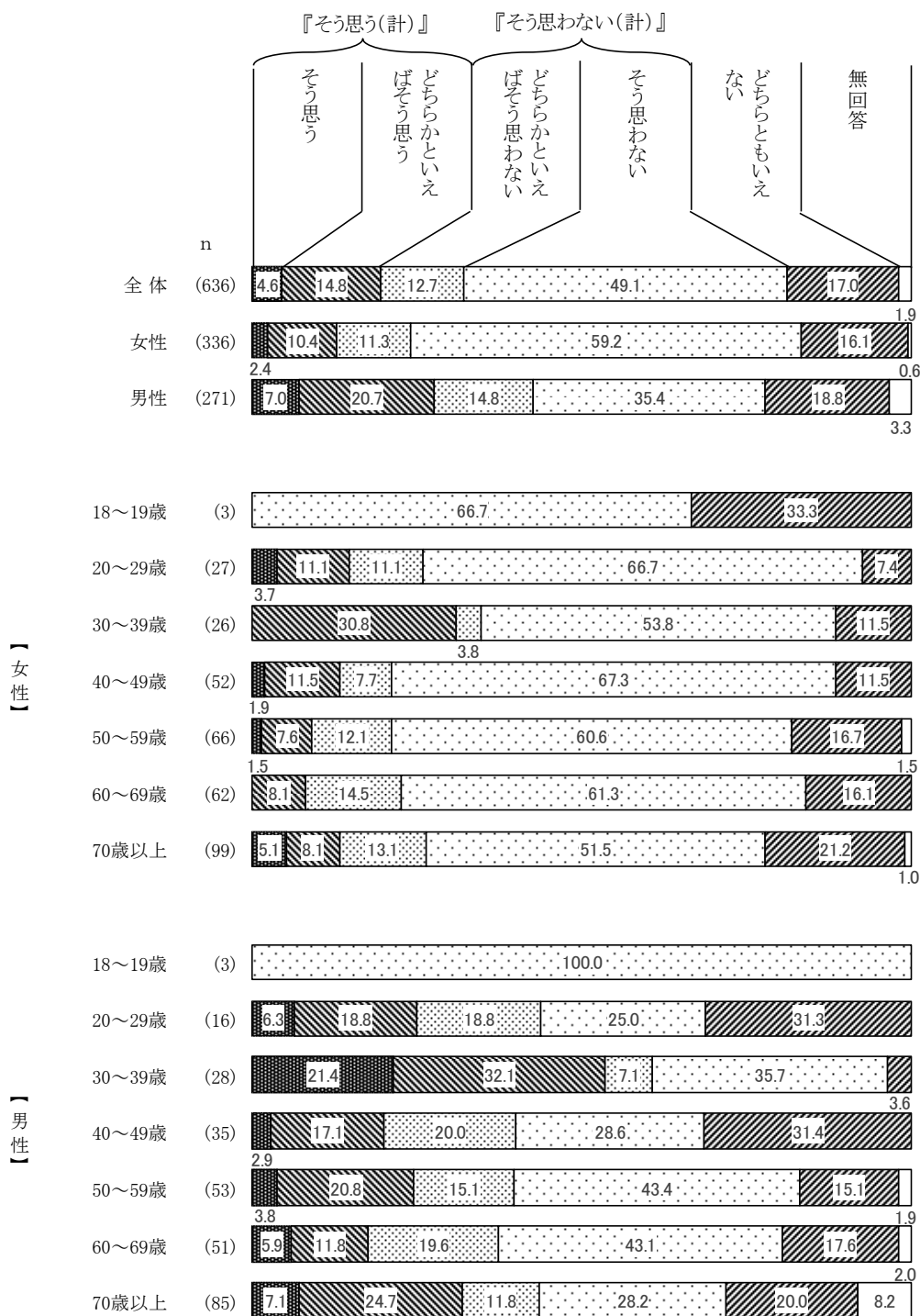
調査の結果／2. 家庭について

(1) 結婚についての考え

(キ) 結婚した以上離婚すべきではない【性・年齢別】

『そう思う(計)』の割合は、男性が女性よりも14.9ポイント高くなっている。一方、『そう思わない(計)』の割合は、女性が男性よりも20.3ポイント高くなっている。

『そう思わない(計)』の割合は、女性では30～39歳と70歳以上を除く年代で7割を超えている。男性は30～39歳で『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』よりも高くなっている。

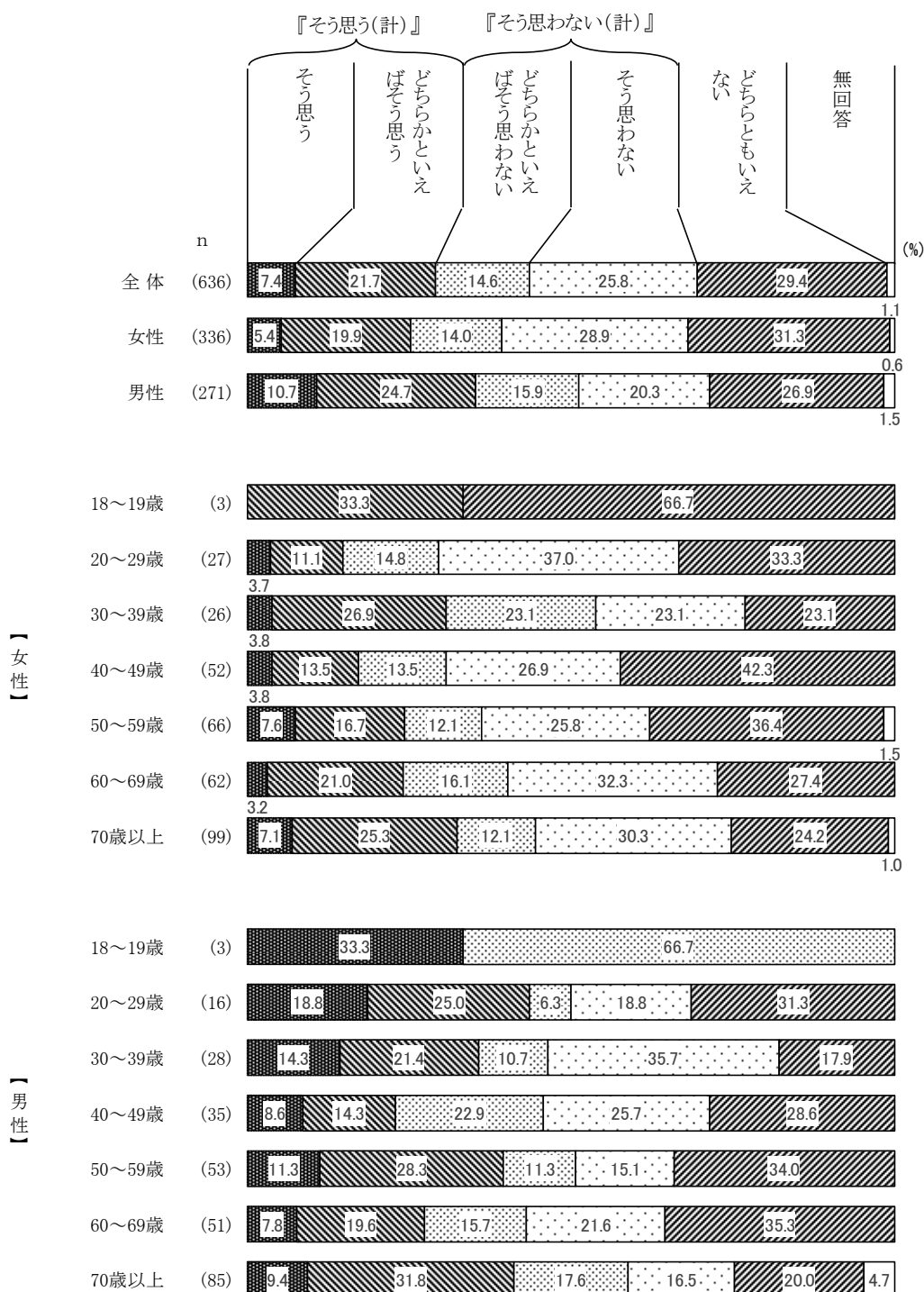


(ク) 子どもができたなら結婚すればいい

【性・年齢別】

『そう思う(計)』の割合は、男性が女性よりも10.1ポイント高くなっている一方、『そう思わない(計)』の割合は、女性が男性よりも6.7ポイント高くなっている。

女性はすべての年代において『そう思わない(計)』が『そう思う(計)』よりも高くなっている。男性は、20～29歳、50～59歳、70歳以上で『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』よりも高くなっている。



調査の結果／2. 家庭について

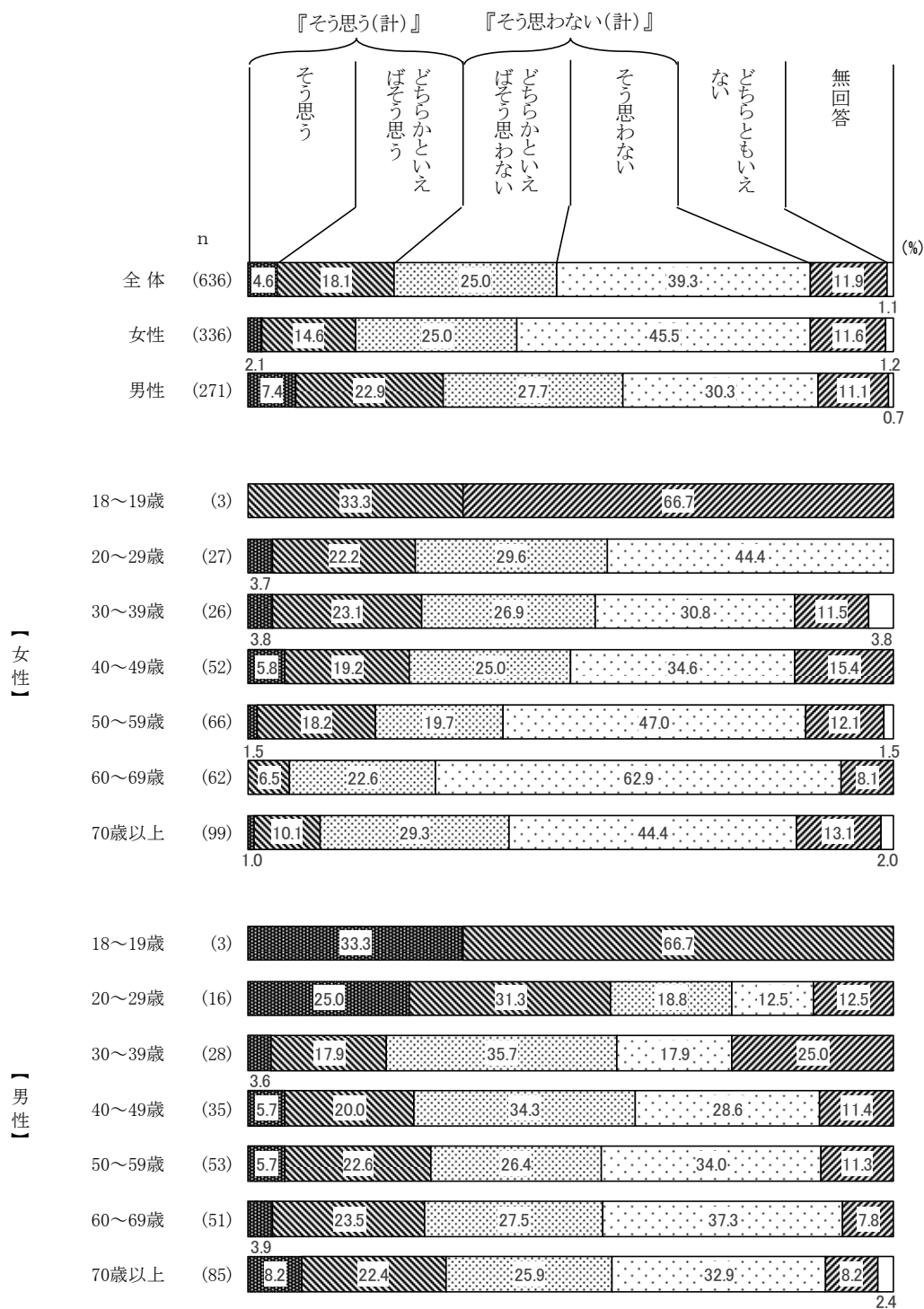
(1) 結婚についての考え

(ケ) 結婚している、していないにかかわらず、女性が自立して生きやすい社会になっている

【性・年齢別】

『そう思う（計）』の割合は、男性が女性よりも13.6ポイント高くなっている一方、『そう思わない（計）』の割合は、女性が男性よりも12.5ポイント高くなっている。

女性はすべての年代において『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』よりも高くなっている。男性は20～29歳で『そう思う（計）』が『そう思わない（計）』よりも高くなっている。



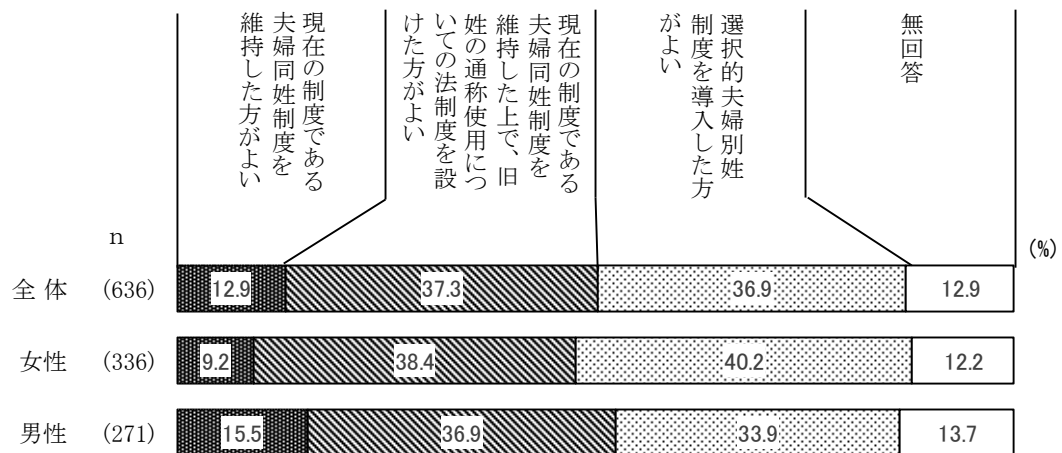
(2) 選択的夫婦別姓制度についての考え〔新規〕

問4. 現在の制度である夫婦同姓制度(*1)を維持すること、選択的夫婦別姓制度(*2)を導入すること及び旧姓の通称使用についての法制度(*3)を設けることについて、あなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。

(*1)夫婦は必ず同じ名字・姓を名乗らなければならない制度

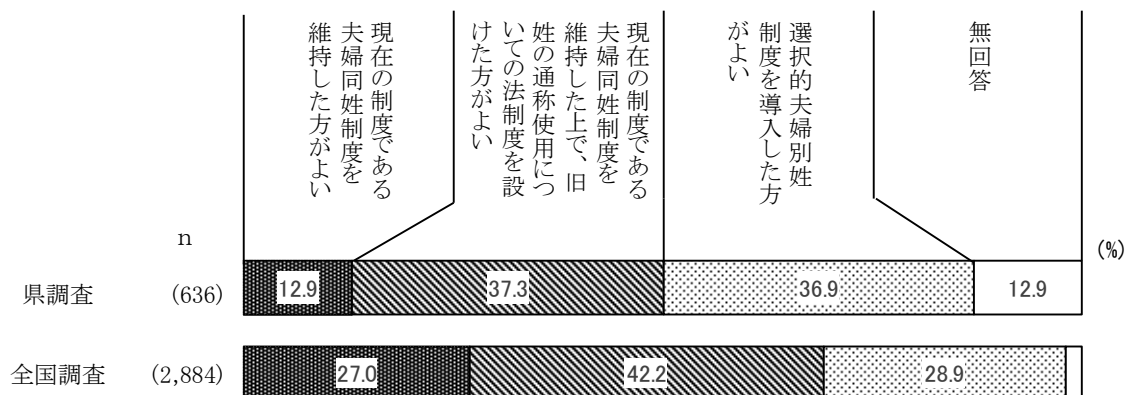
(*2)夫婦は、同じ名字・姓を名乗るか、それぞれ婚姻前の名字・姓を名乗るかを選択できるようにする制度

(*3)婚姻で名字・姓を変えた人は、旧姓を通称として、幅広く使うことができるようにする法制度



選択的夫婦別姓制度についての考えでは、「現在の制度である夫婦同姓制度を維持した上で、旧姓の通称使用についての法制度を設けた方がよい」が37.3%、「選択的夫婦別姓制度を導入した方がよい」が36.9%で、それぞれ約4割となっている。

(参考) 全国調査：内閣府「家族の法制に関する世論調査（令和3年12月調査）」

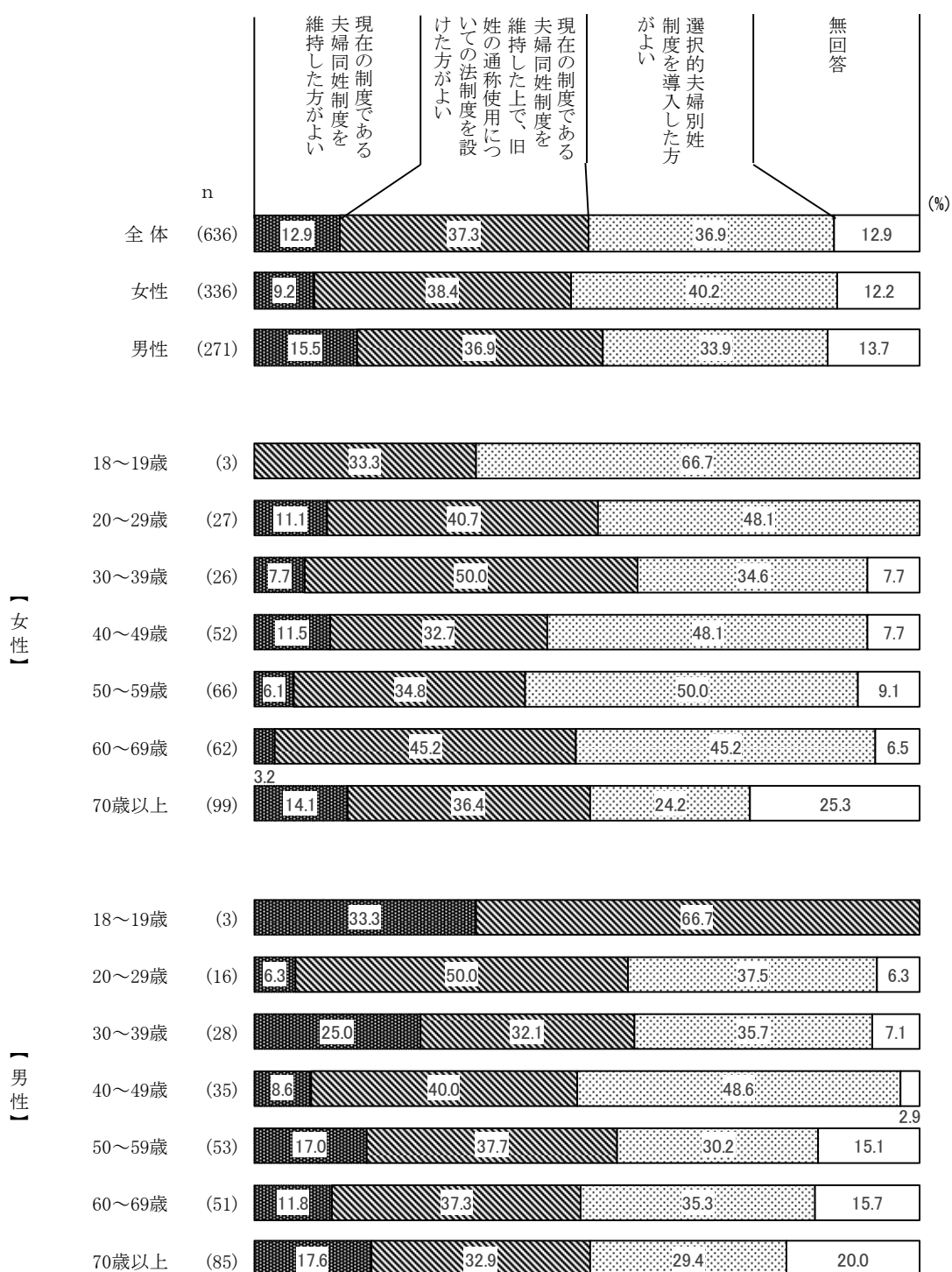


【性・年齢別】

「現在の制度である夫婦同姓制度を維持したほうがよい」と答えた割合は、男性が女性よりも6.3ポイント高くなっており、「現在の制度である夫婦同姓制度を維持した上で、旧姓の通称使用についての法制度を設けたほうがよい」と答えた割合で1.5ポイント、「選択的夫婦別姓制度を導入したほうがよい」と答えた割合で6.3ポイント、女性が男性よりも高くなっている。

「現在の制度である夫婦同姓制度を維持した上で、旧姓の通称使用についての法制度を設けたほうがよい」と答えた割合が最も高いのは女性30～39歳、男性20～29歳で50.0%となっている。

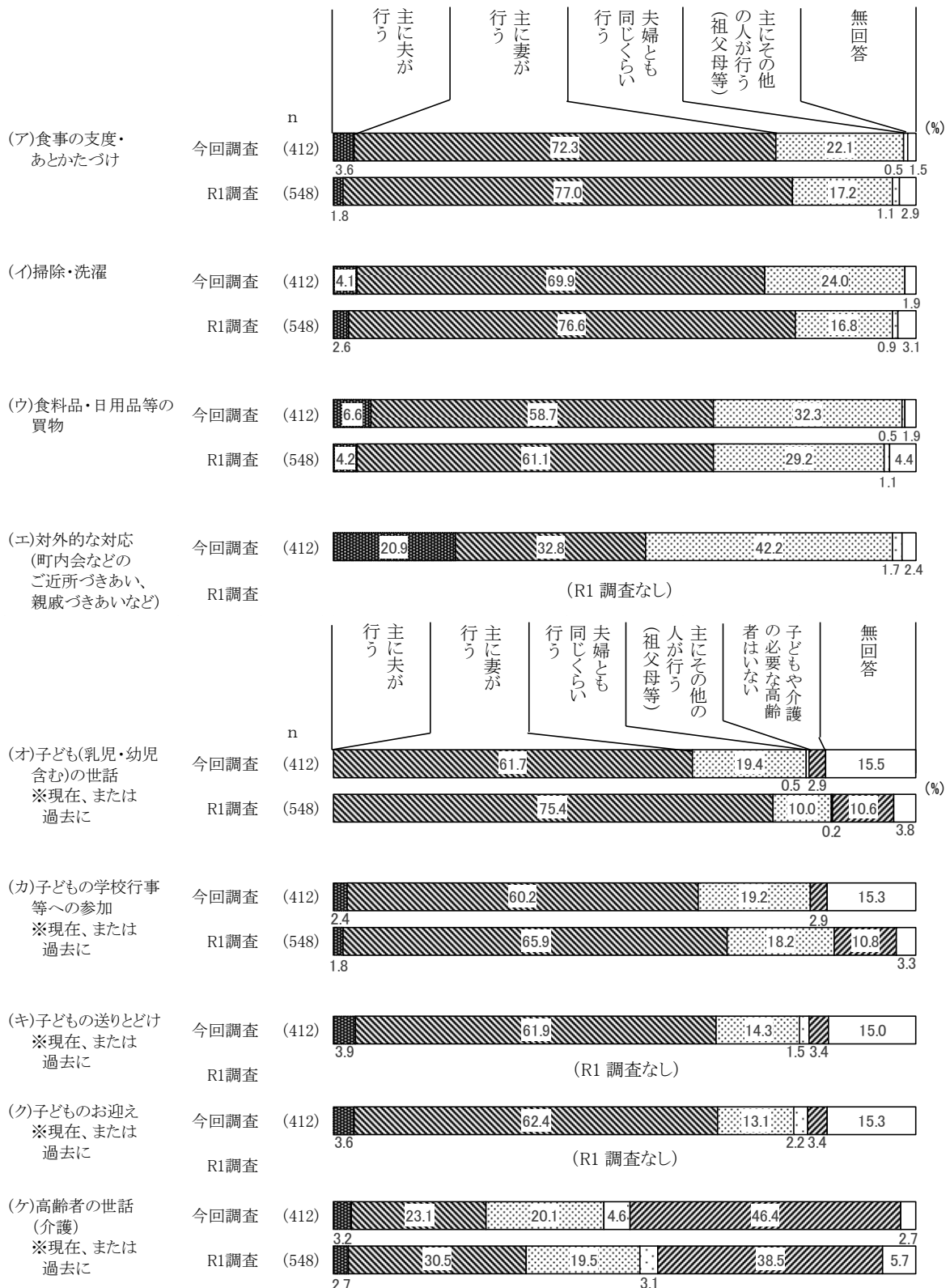
「選択的夫婦別姓制度を導入したほうがよい」と答えた割合が最も高いのは女性50～59歳で50.0%となっている。



(3-1) 家事等の役割分担 ①現在の仕事の分担

※現在結婚（事実婚を含む）している方のみお答えください。

問5. あなたのご家庭では現在、家事・育児・介護の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。
また、あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか。(ア)～(ツ)それぞれについて、あなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。



調査の結果／2. 家庭について

(3-1) 家事等の役割分担 ①現在の仕事の分担

家庭における家事等の現在の仕事分担について、『主に夫が行う』の割合が最も高いのは「(エ)対外的な対応(町内会などのご近所づきあい、親戚づきあいなど)」で20.9%となっている。

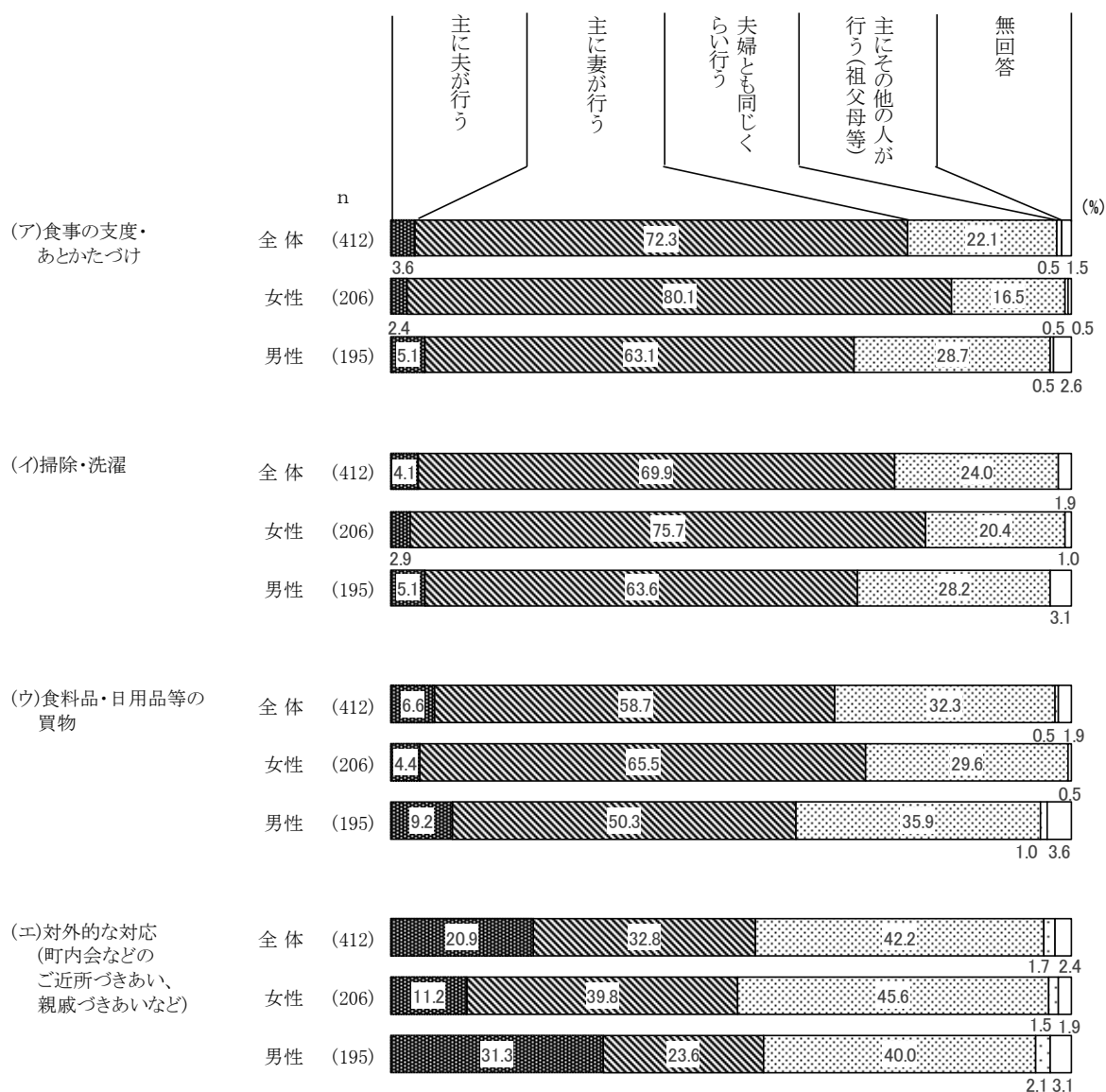
『主に妻が行う』の割合は「(ア)食事の支度・あとかたづけ」が72.3%で最も高く、以下「(イ)掃除・洗濯」(69.9%)、「(ク)子どものお迎え」(62.4%)が続いている。

『夫婦とも同じくらい行う』は「(エ)対外的な対応(町内会などのご近所づきあい、親戚づきあいなど)」が42.2%で最も高く、以下「(ウ)食料品・日用品等の買物」(32.3%)、「(イ)掃除・洗濯」(24.0%)が続いている。

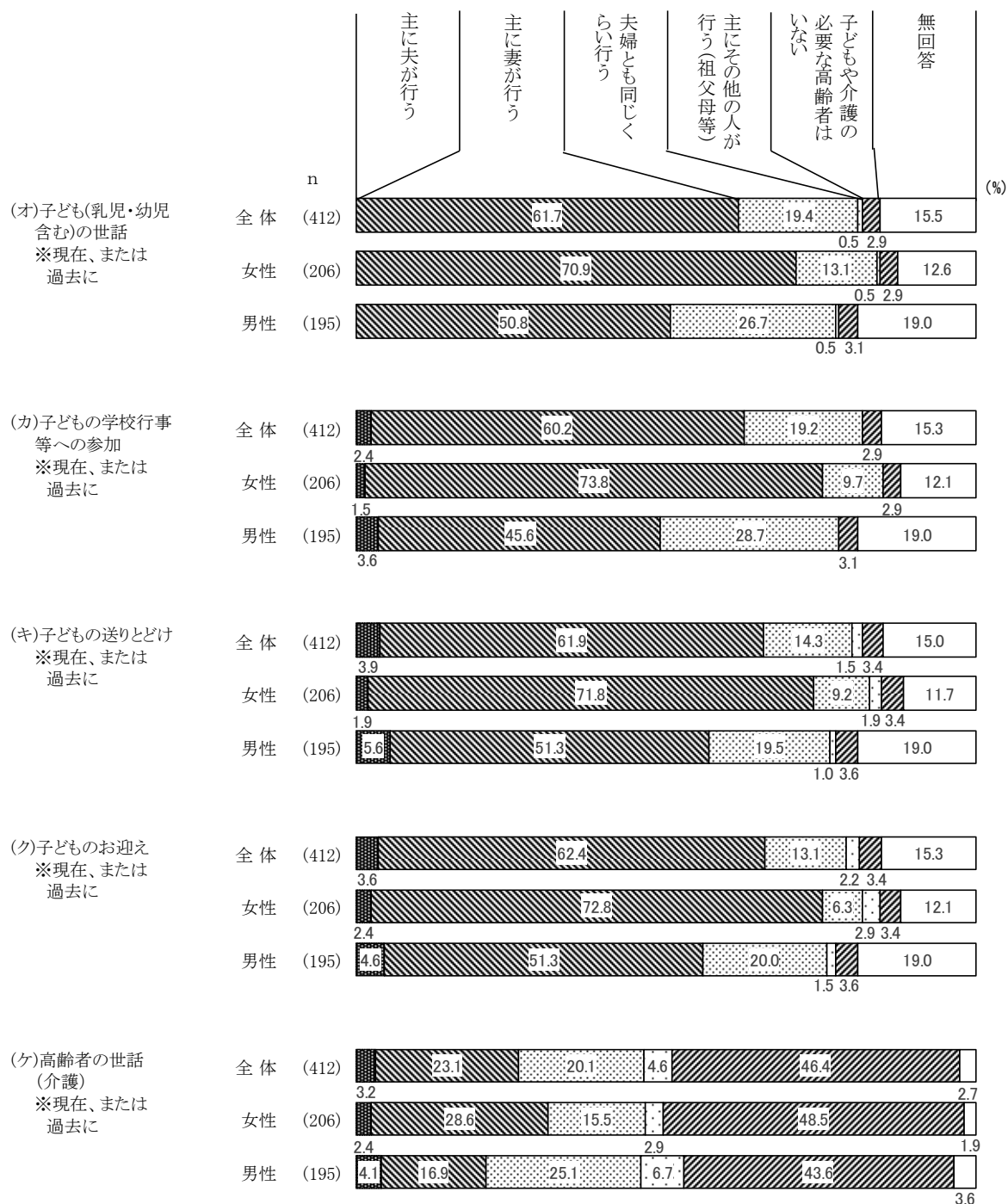
【前回調査(令和元年)との比較】

前回調査と比較すると、「(イ)掃除・洗濯」では、『主に妻が行う』と答えた割合が6.7ポイント低くなっている一方、『夫婦とも同じくらい行う』と答えた割合が7.2ポイント高くなっている。また、「(オ)子ども(乳児・幼児含む)の世話」では、『主に妻が行う』と答えた割合が13.7ポイント低くなっている一方、『夫婦とも同じくらい行う』と答えた割合が9.4ポイント高くなっている。

【性別】



調査の結果／2. 家庭について
(3-1) 家事等の役割分担 ①現在の仕事の分担



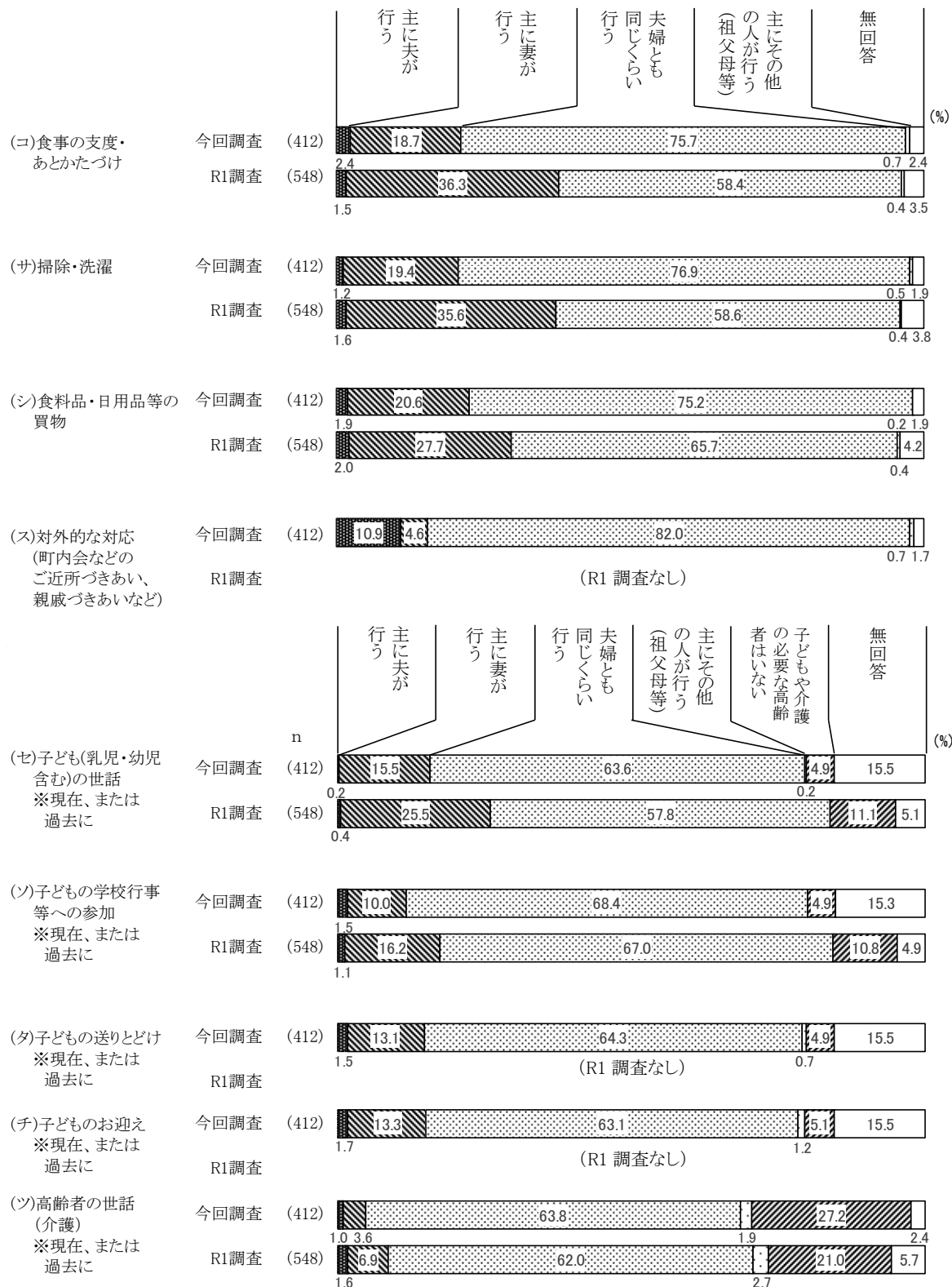
「(エ)対外的な対応(町内会などのご近所づきあい、親戚づきあいなど)」では、『主に夫が行う』と答えた割合は、男性が女性よりも20.1ポイント高くなっている一方、『主に妻が行う』と答えた割合は、女性が男性よりも16.2ポイント高くなっている。

(オ) から (ク) の子どもに関連した家事について、「(カ) 子供の学校行事等への参加」では、『主に妻が行う』と答えた割合は、女性が男性よりも28.2ポイント高くなっている一方、『夫婦とも同じくらい行う』と答えた割合は、男性が女性よりも19.0ポイント高くなっており、(オ) (キ) (ク) でも同様の傾向がみられる。

(3-2) 家事等の役割分担 ②理想と考える仕事の分担

※現在結婚（事実婚を含む）している方のみお答えください。

問5. あなたのご家庭では現在、家事・育児・介護の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。
また、あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか。(ア)～(ツ)それぞれについて、あなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。



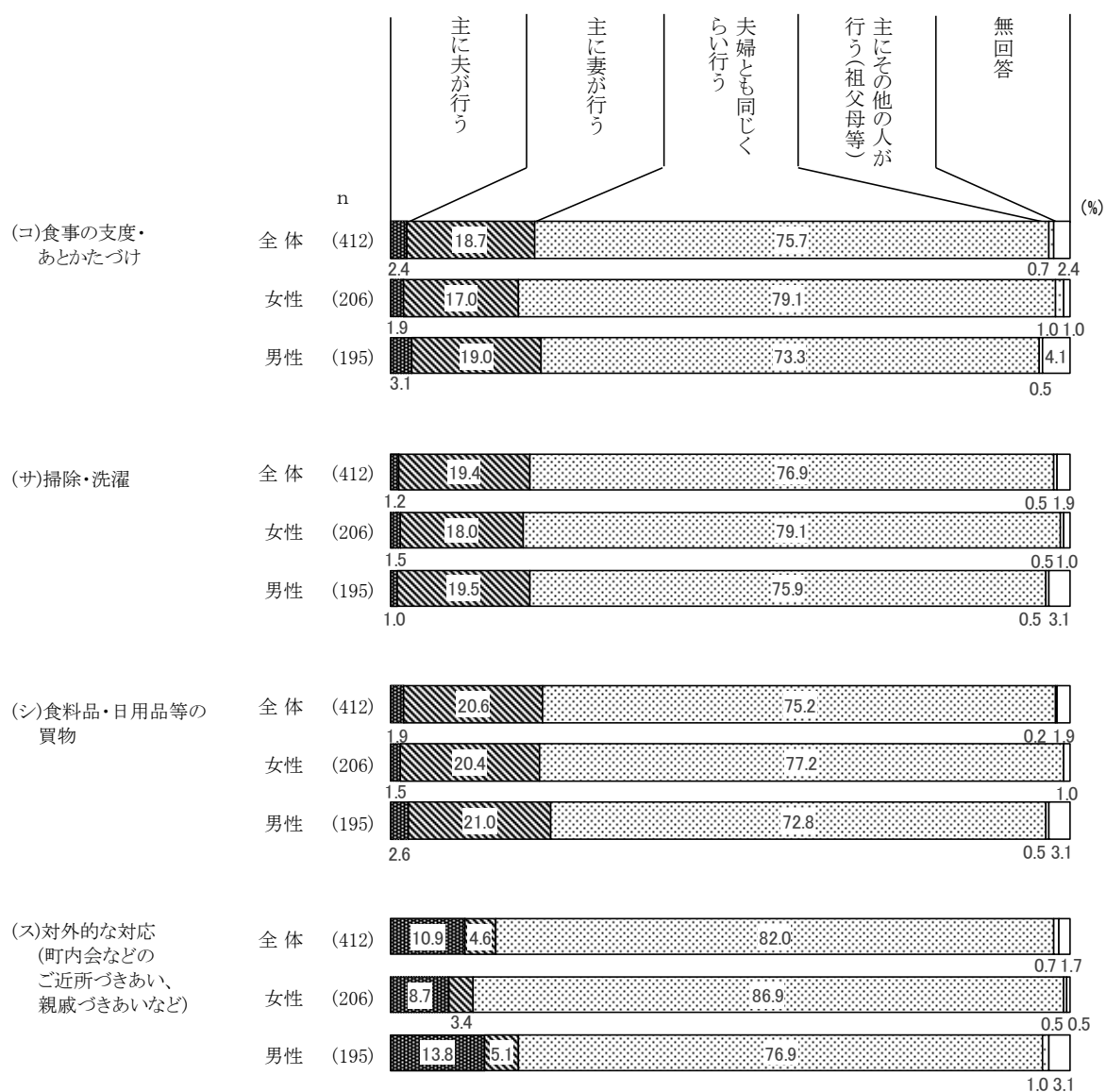
理想と考える仕事の分担は、すべての項目において『夫婦とも同じくらい行う』と答えた割合が最も高くなっている。

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、『主に妻が行う』と答えた割合は「(コ)食事の支度・あとかたづけ」で17.6ポイント、「(サ)掃除・洗濯」で16.2ポイント、「(セ)子ども(乳児・幼児含む)の世話」で10.0ポイント、それぞれ低くなっている。

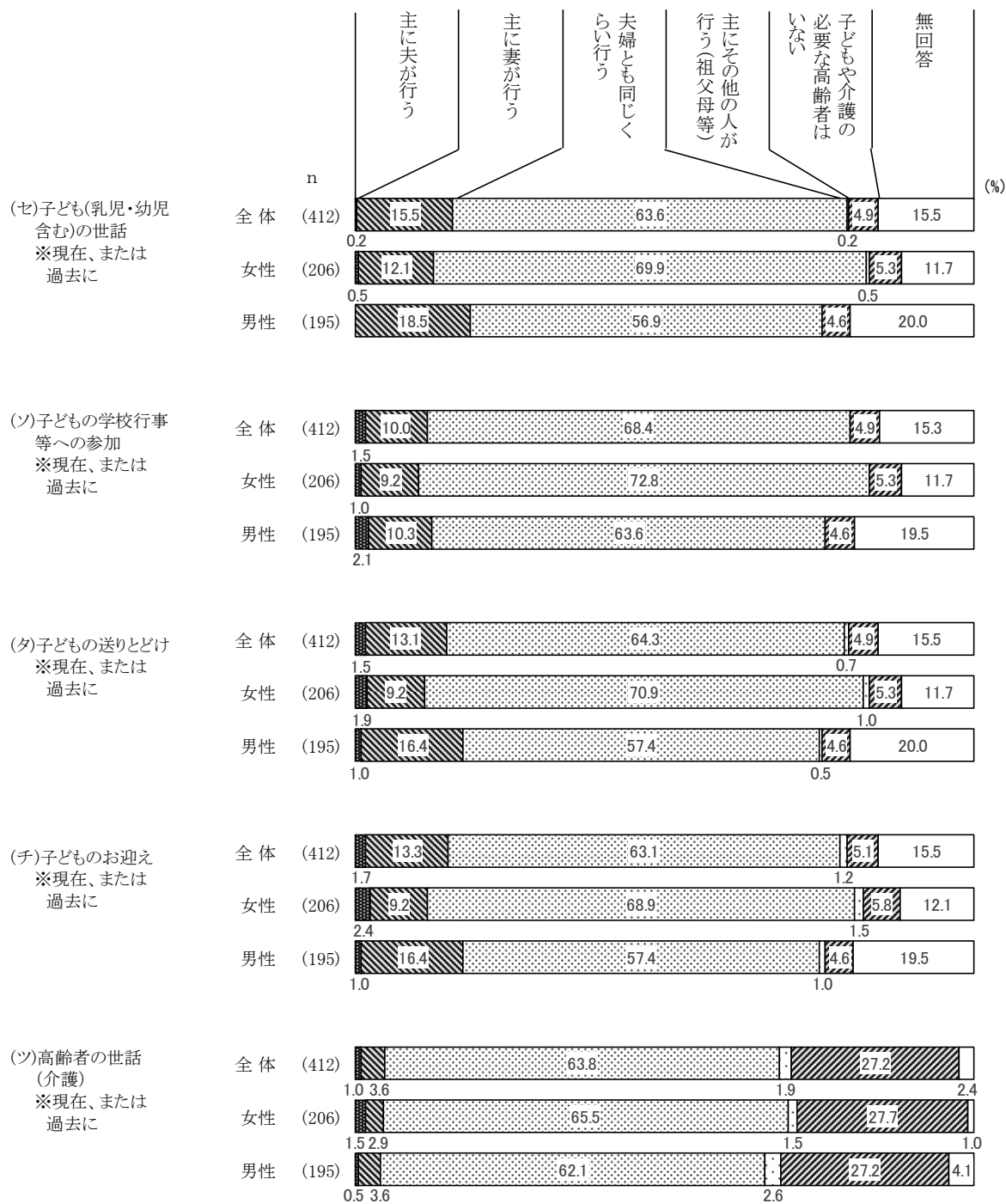
「夫婦とも同じくらい行う」と答えた割合は「(サ)掃除・洗濯」で18.3ポイント、「(コ)食事の支度・あとかたづけ」で17.3ポイント、「(シ)食料品・日用品等の買物」で9.5ポイント、それぞれ高くなっている。

【性別】



調査の結果／2. 家庭について

(3-2) 家事等の役割分担 ②理想と考える仕事の分担



どの項目においても、女性も男性も『夫婦とも同じくらい行う』と答えた割合が最も高く、5割を超えている。

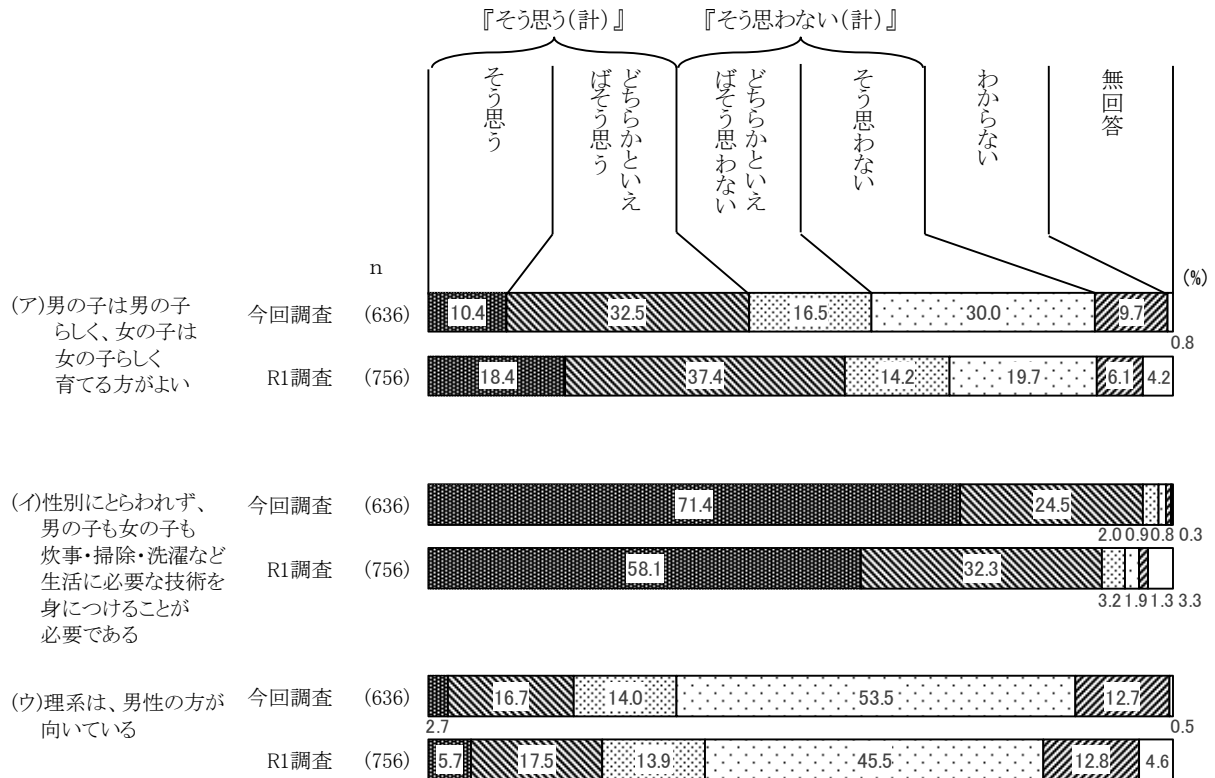
「(ス) 対外的な対応(町内会などのご近所づきあい、親戚づきあいなど)」では『主に関夫が行う』と答えた割合は、男性が女性よりも5.1ポイント高くなっている一方、『夫婦とも同じくらい行う』と答えた割合は、女性が男性よりも10.0ポイント高くなっている。

「(タ) 子どもの送りどけ」「(チ) 子どものお迎え」では『主に関妻が行う』と答えた割合は男性が女性よりも高くなっている一方、『夫婦とも同じくらい行う』と答えた割合は女性が男性よりも高くなっている。

3. 学校や家庭における子どもの教育について

(1) 子どもの教育における男女平等意識

問6. あなたは、子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。(ア)～(ウ) それぞれについて、あなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。



『(ア)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい』では、「そう思わない(計)」の割合が「そう思う(計)」より高くなっており、前回と比較して、大きく変化している。

『(イ)性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である』は、「そう思う(計)」の割合が前回と同様に9割を超えている。

『(ウ)理系は、男性の方が向いている』は「そう思わない(計)」が6割を超えている。

調査の結果／3. 学校や家庭における子どもの教育について

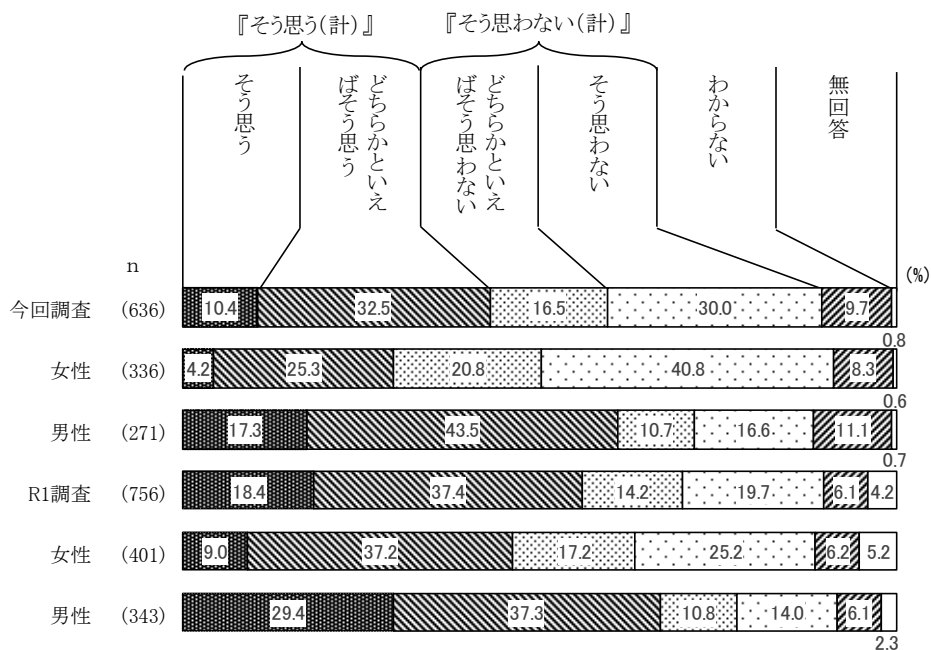
(1) 子どもの教育における男女平等意識

(ア) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は12.9ポイント低くなっている一方、『そう思わない（計）』の割合は12.6ポイント高くなっている。

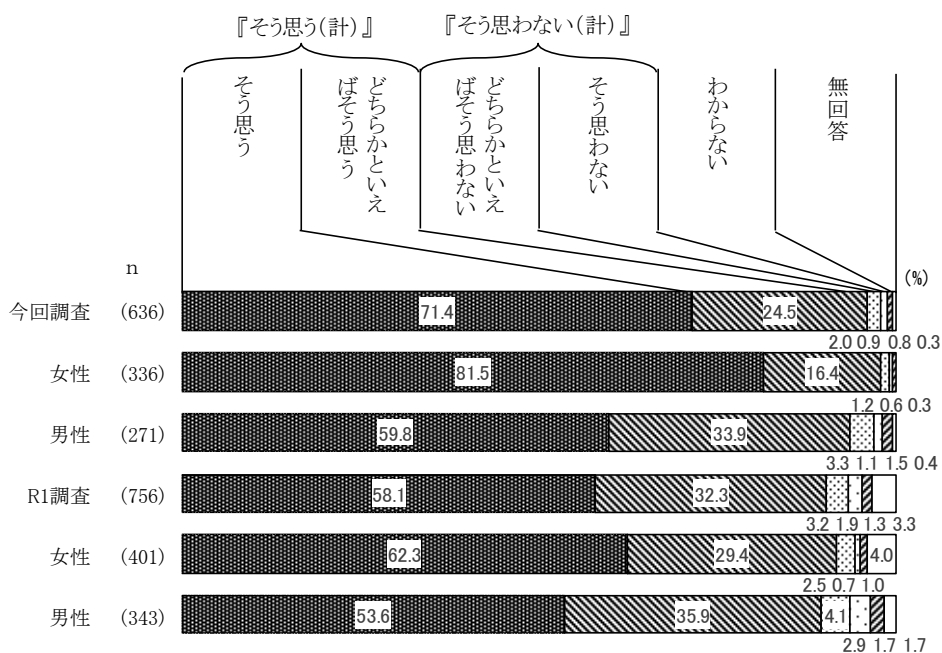
性別にみると、『そう思う（計）』の割合は、前回調査よりも女性で16.7ポイント、男性で5.9ポイント、それぞれ低くなっている。一方、『そう思わない（計）』の割合は、前回調査よりも女性で19.2ポイント、男性で2.5ポイント、それぞれ高くなっている。



(イ) 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は5.5ポイント高くなっており、前回調査よりも女性で6.2ポイント高くなっている。

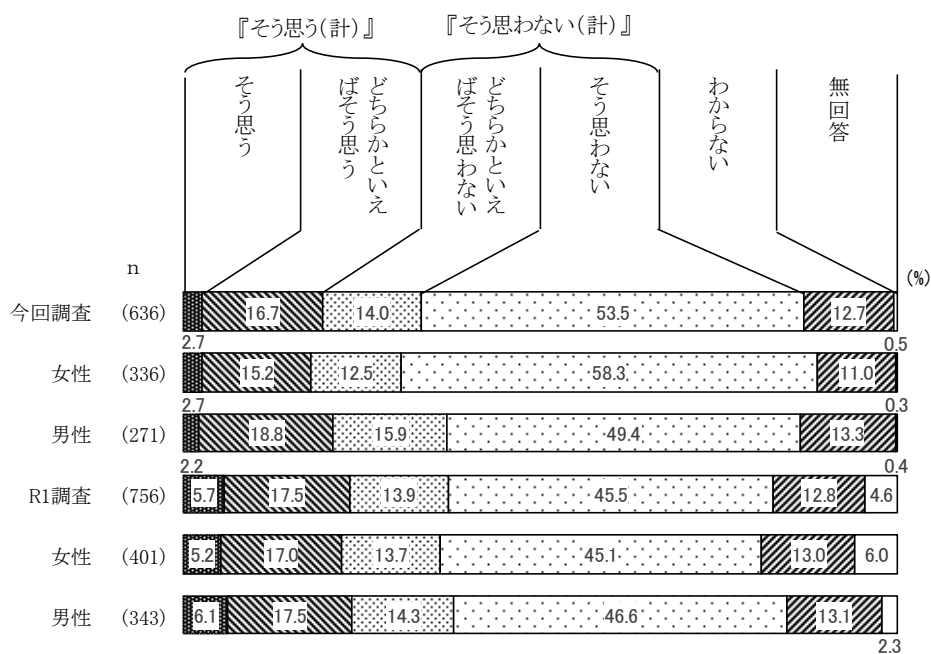


(ウ) 理系は、男性の方が向いている

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、『そう思わない（計）』の割合は8.1ポイント高くなっている。

性別にみると、『そう思わない（計）』の割合は、女性で12.0ポイント高くなっている。



調査の結果／3. 学校や家庭における子どもの教育について

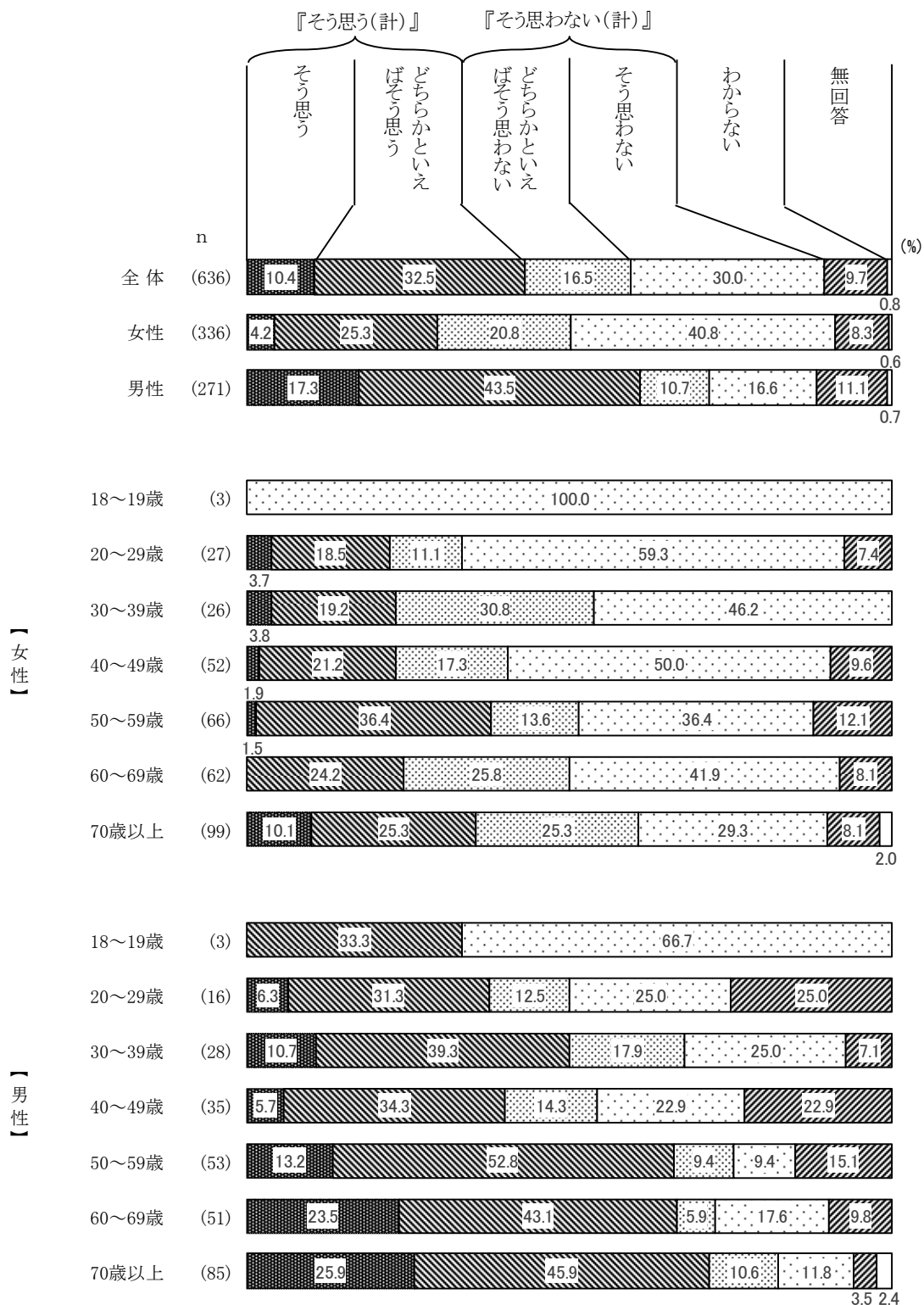
(1) 子どもの教育における男女平等意識

(ア) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

【性・年齢別】

『そう思う(計)』の割合は、男性が女性よりも31.3ポイント高くなっている一方、『そう思わない(計)』の割合は、女性が男性よりも34.3ポイント高くなっている。

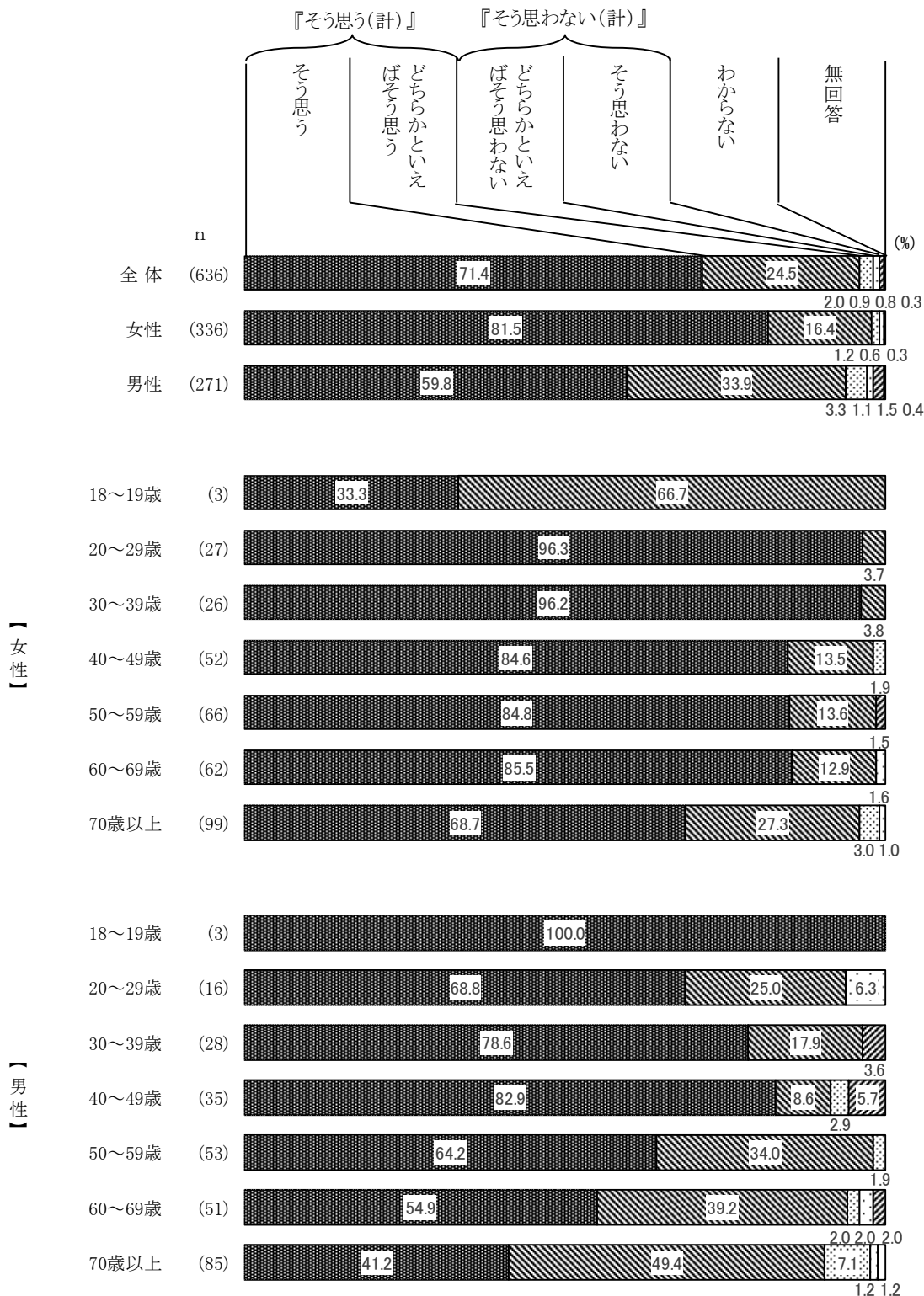
女性はすべての年代で『そう思う(計)』より『そう思わない(計)』が高くなっている。一方、男性はすべての年代で『そう思わない(計)』より『そう思う(計)』が高くなっている。



(イ) 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である

【性・年齢別】

『そう思わない(計)』の割合が最も高いのは、男性70歳以上で8.3%となっている。



調査の結果／3. 学校や家庭における子どもの教育について

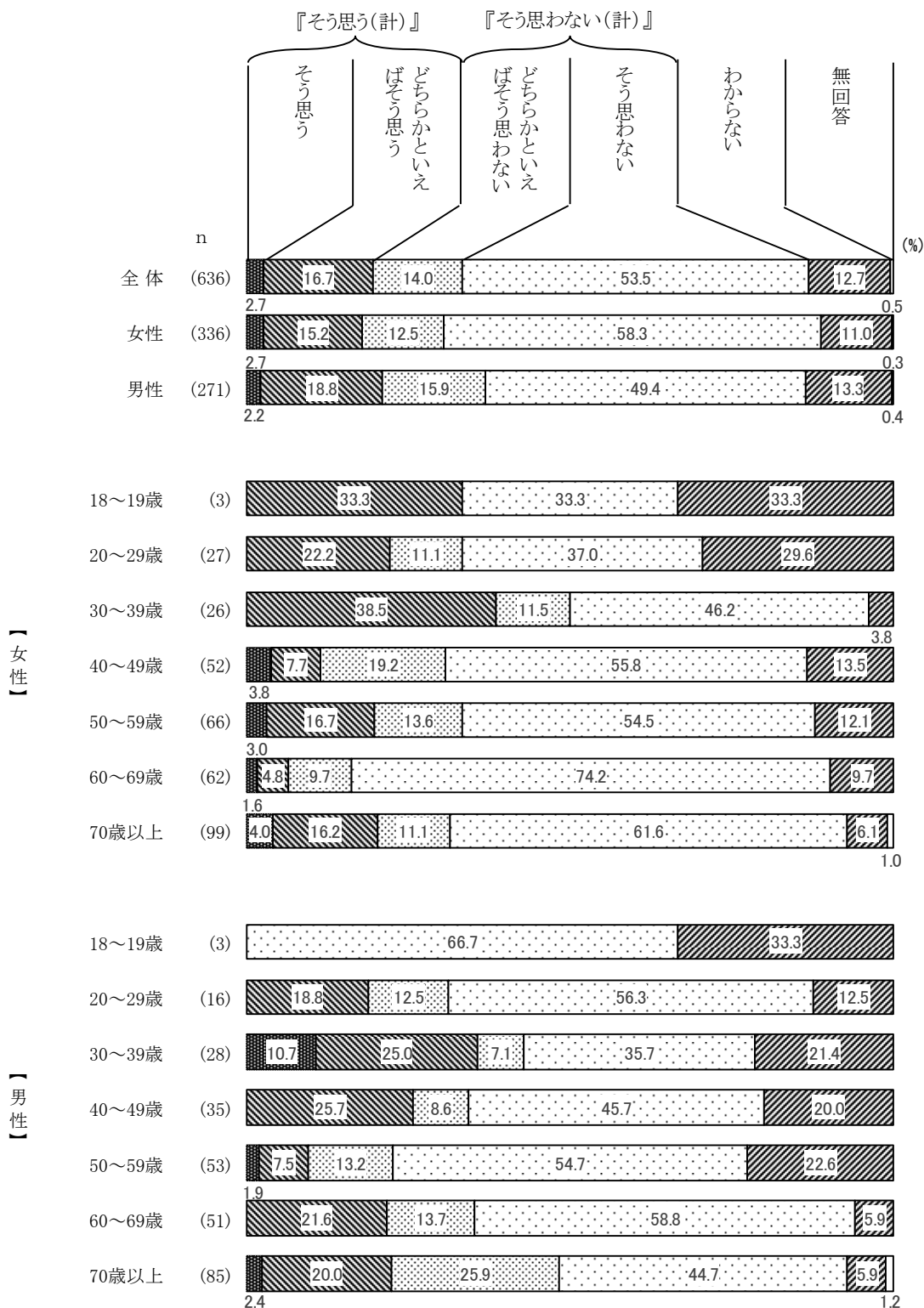
(1) 子どもの教育における男女平等意識

(ウ) 理系は、男性の方が向いている

【性・年齢別】

『そう思わない(計)』の割合は女性が男性よりも5.5ポイント高くなっている。

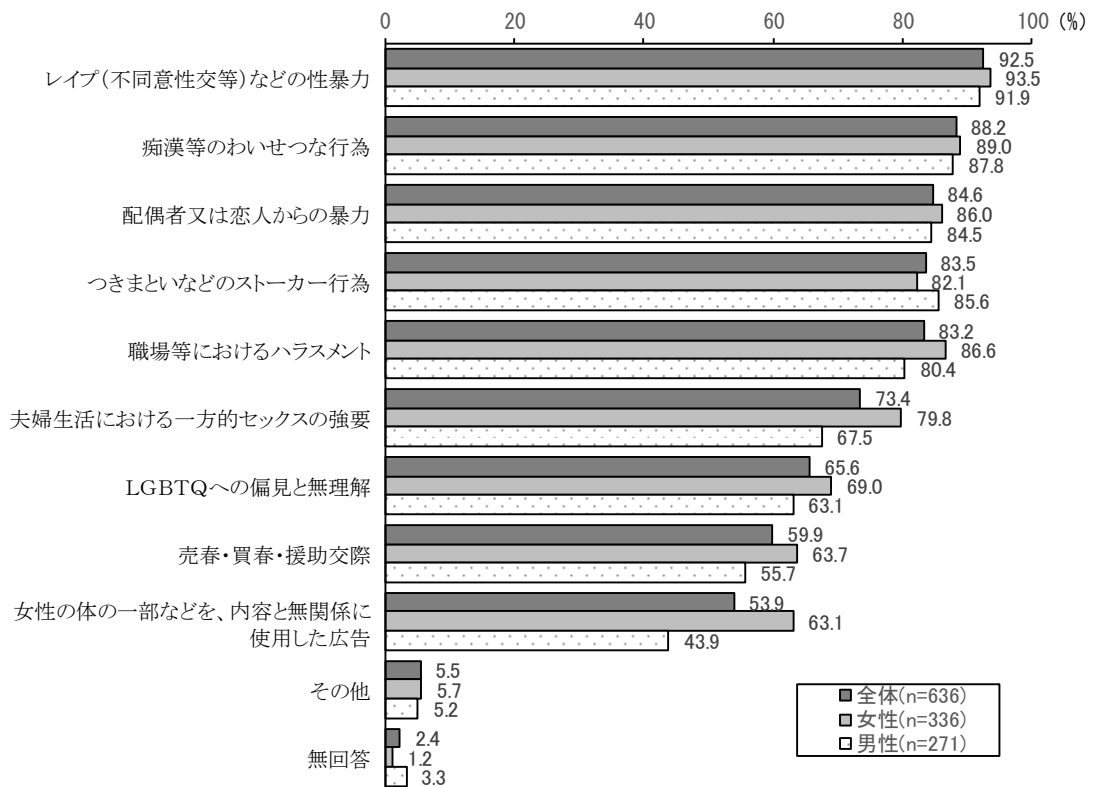
『そう思う(計)』の割合が最も高いのは女性30～39歳で38.5%となっている。一方、『そう思わない(計)』の割合が最も高いのは女性60～69歳で83.9%となっている。



４．人権について

(１) 人権が侵害されていると感じること

問７．次のうち、あなたが、人権が侵害されていると感じるのは、どのようなことですか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。



人権侵害としての認知割合が高い項目は、「レイプ」、「痴漢等のわいせつな行為」、「配偶者又は恋人からの暴力」、「つきまといなどのストーカー行為」、「職場等におけるハラスメント」で、いずれも８割を超えている。

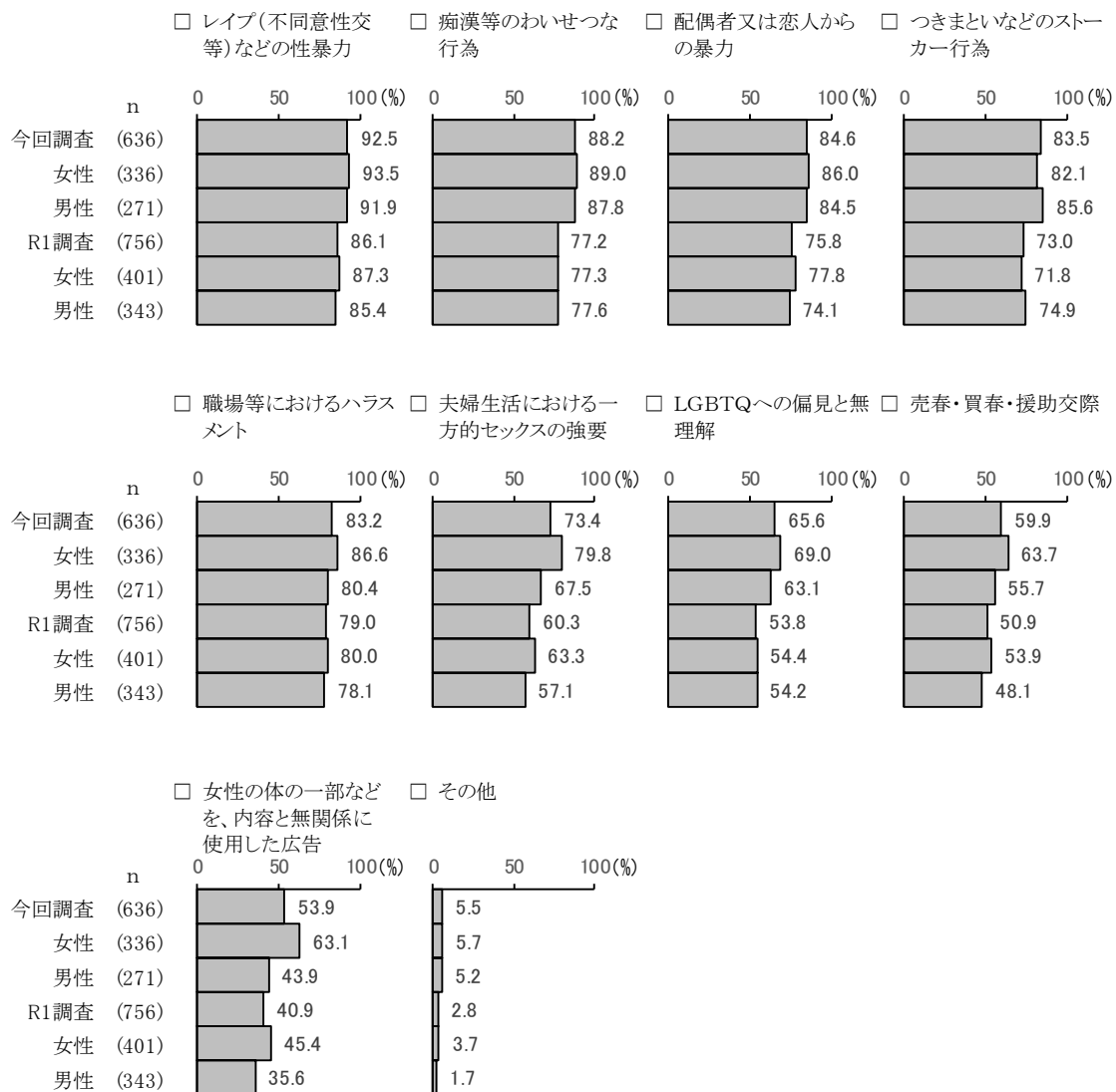
性別にみると、女性が男性よりも「女性の体の一部などを、内容と無関係に使用した広告」で19.2ポイント、「夫婦生活における一方的セックスの強要」で12.3ポイント、「売春・買春・援助交際」で8.0ポイント、それぞれ高くなっている。

調査の結果／4. 人権について

(1) 人権が侵害されていると感じること

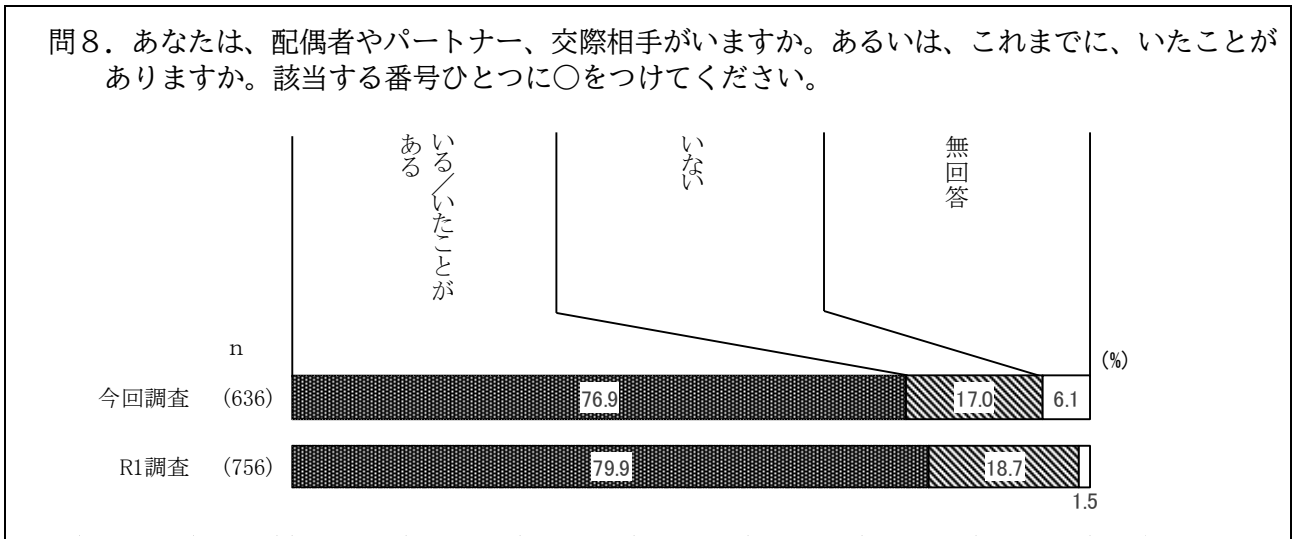
【性別・前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、「夫婦生活における一方的セックスの強要」で13.1ポイント、「女性の体の一部などを、内容と無関係に使用した広告」で13.0ポイント、「LGBTQへの偏見と無理解」で11.8ポイント、それぞれ高くなっている。



5. DVについて

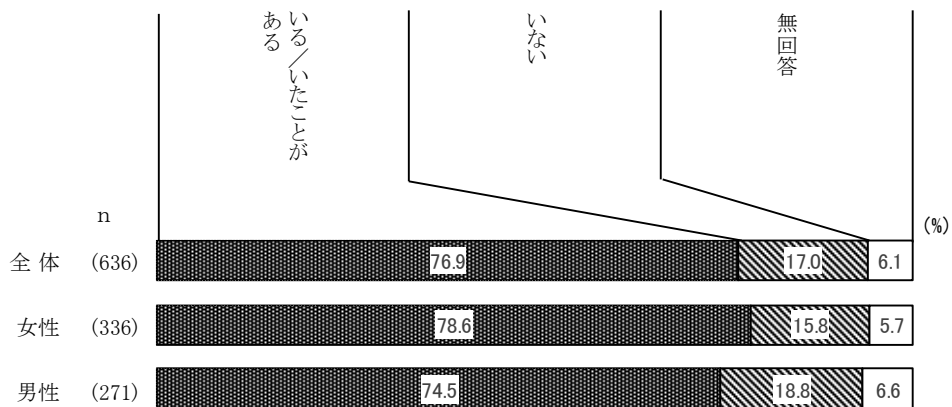
(1) 配偶者や同棲相手の有無



配偶者やパートナー、交際相手の有無について聞いたところ、「いる／いたことがある」が76.9%「いない」が17.0%となっている。

【性別】

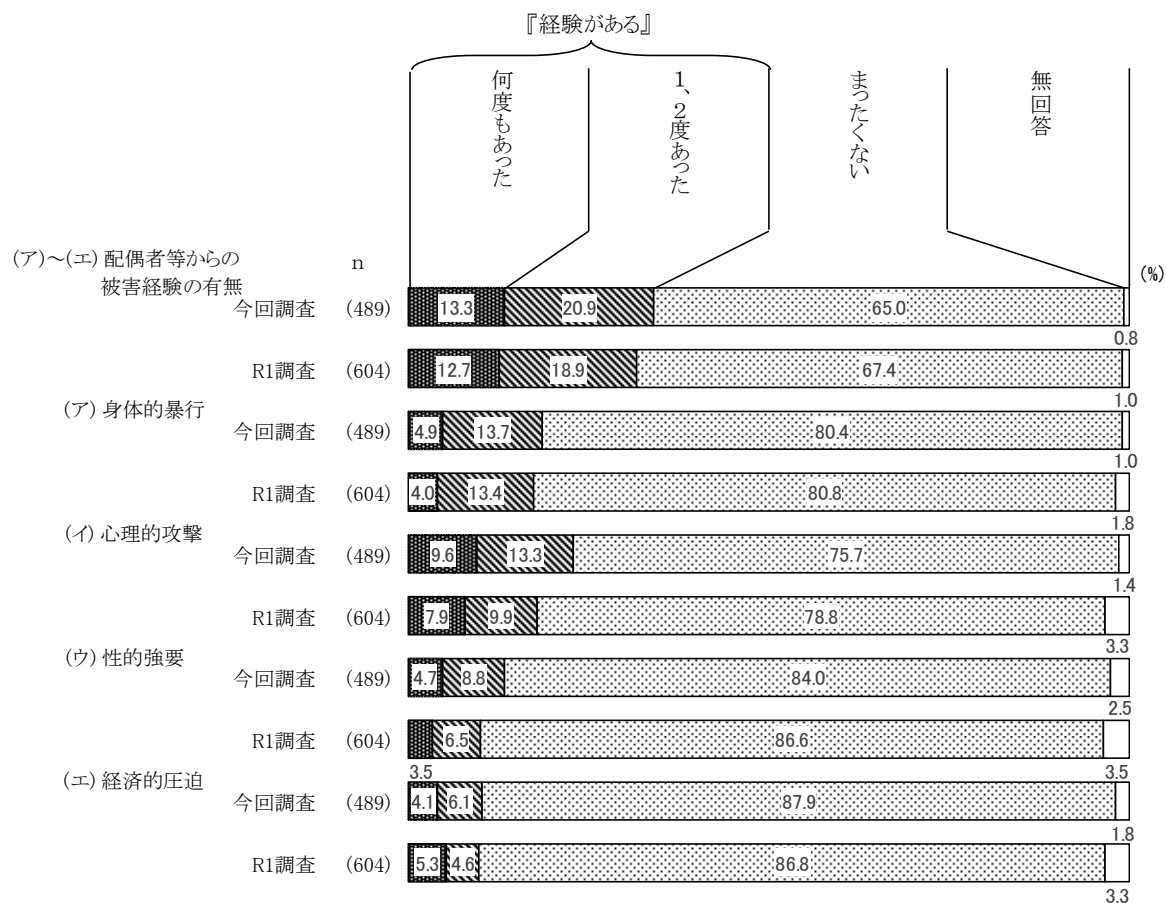
性別にみると、「いる／いたことがある」は女性が男性よりも4.1ポイント高くなっている。



(2) DVの被害経験

※問8で「1 いる／いたことがある」と回答された方のみお答えください。

問9. (1) あなたはこれまでに、あなたの配偶者などから(ア)～(エ)のような行為(DV)をされた経験がありますか。



(ア) 身体的暴行：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど

(イ) 心理的攻撃：人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など

(ウ) 性的強要：いやがっているのに、性的な行為を強要される、見たくないのにポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど

(エ) 経済的圧迫：生活費を渡されない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど

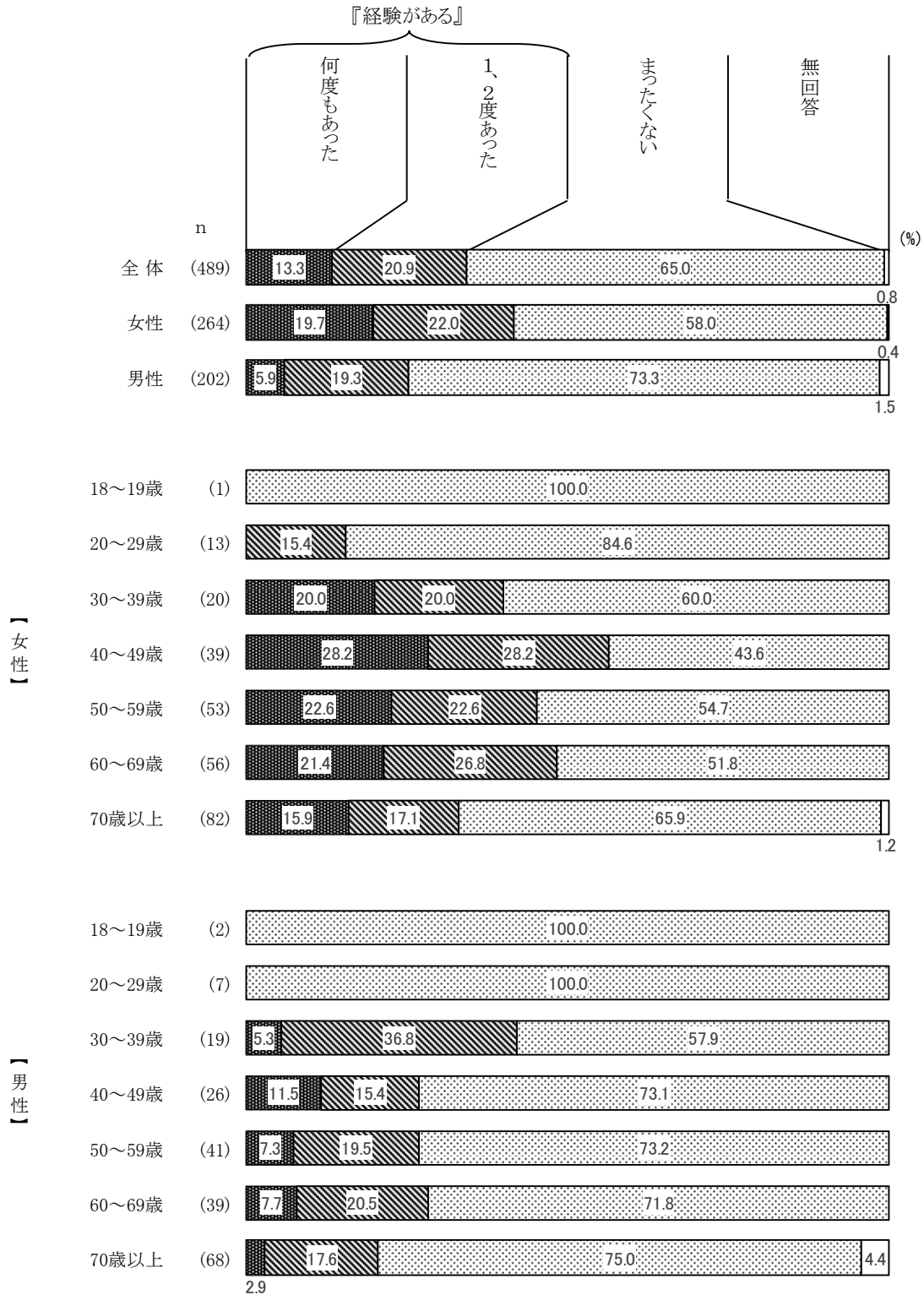
『(ア)～(エ)配偶者等からの被害経験の有無』で『経験がある』と答えた割合は、前回調査と比較して2.6ポイント上昇している。

種類別にみると、『経験がある』と答えた割合は、「(イ)心理的攻撃」が22.9%で最も高くなっており、前回調査よりも5.1ポイント高くなっている。

(ア)～(エ) 配偶者等からの被害経験の有無【性・年齢別】

『経験がある』と答えた割合は、女性が男性よりも16.5ポイント高くなっている。

『経験がある』と答えた割合は、女性40～49歳、女性60～69歳、女性50～59歳、女性30～39歳、男性30～39歳で4割以上となっている。



調査の結果／5．DVについて

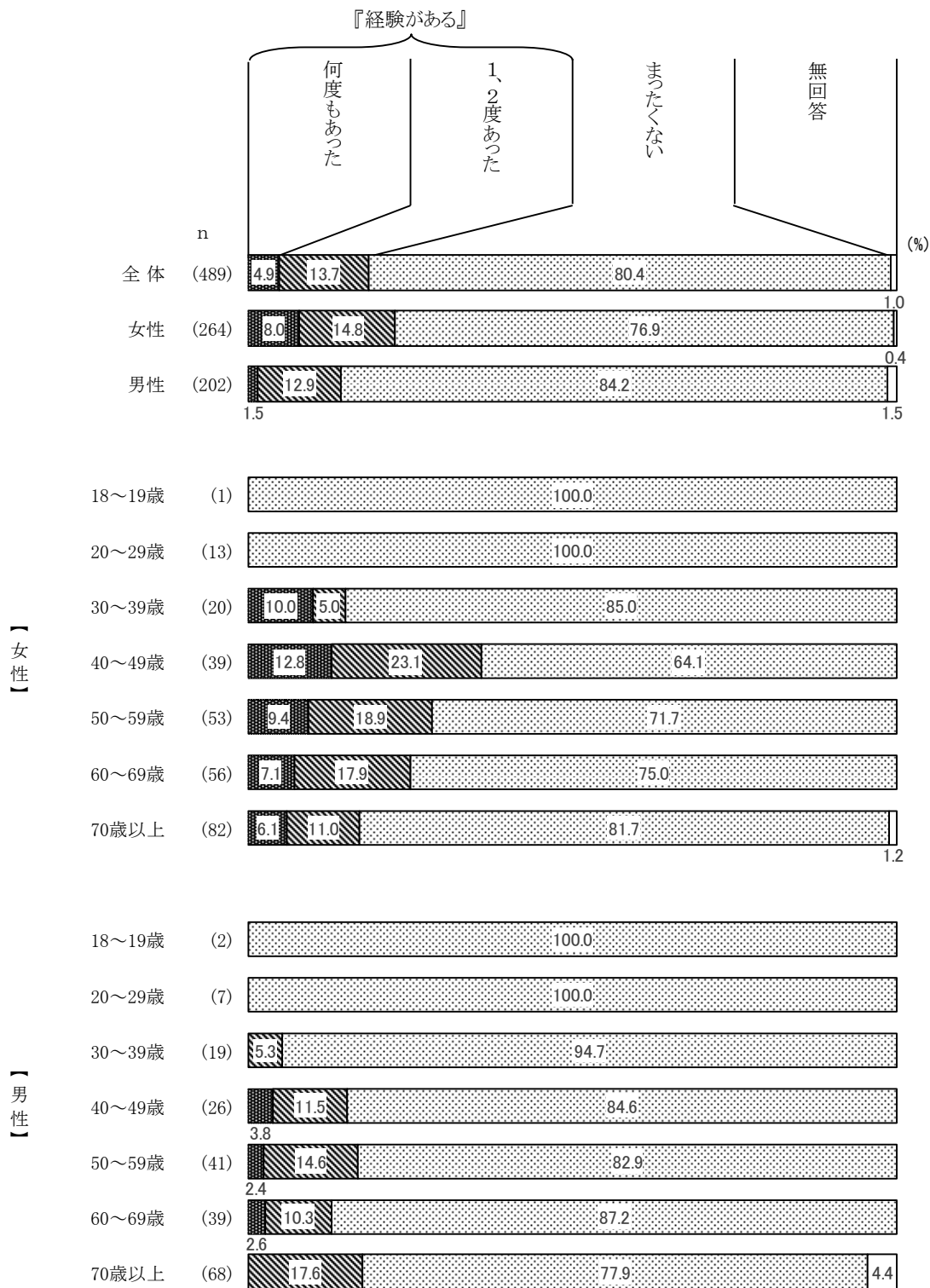
(2) DVの被害経験

(ア) 身体的暴行

【性・年齢別】

『経験がある』と答えた割合は女性が男性よりも8.4ポイント高くなっている。

『経験がある』と答えた割合が最も高いのは女性40～49歳で35.9%となっている。

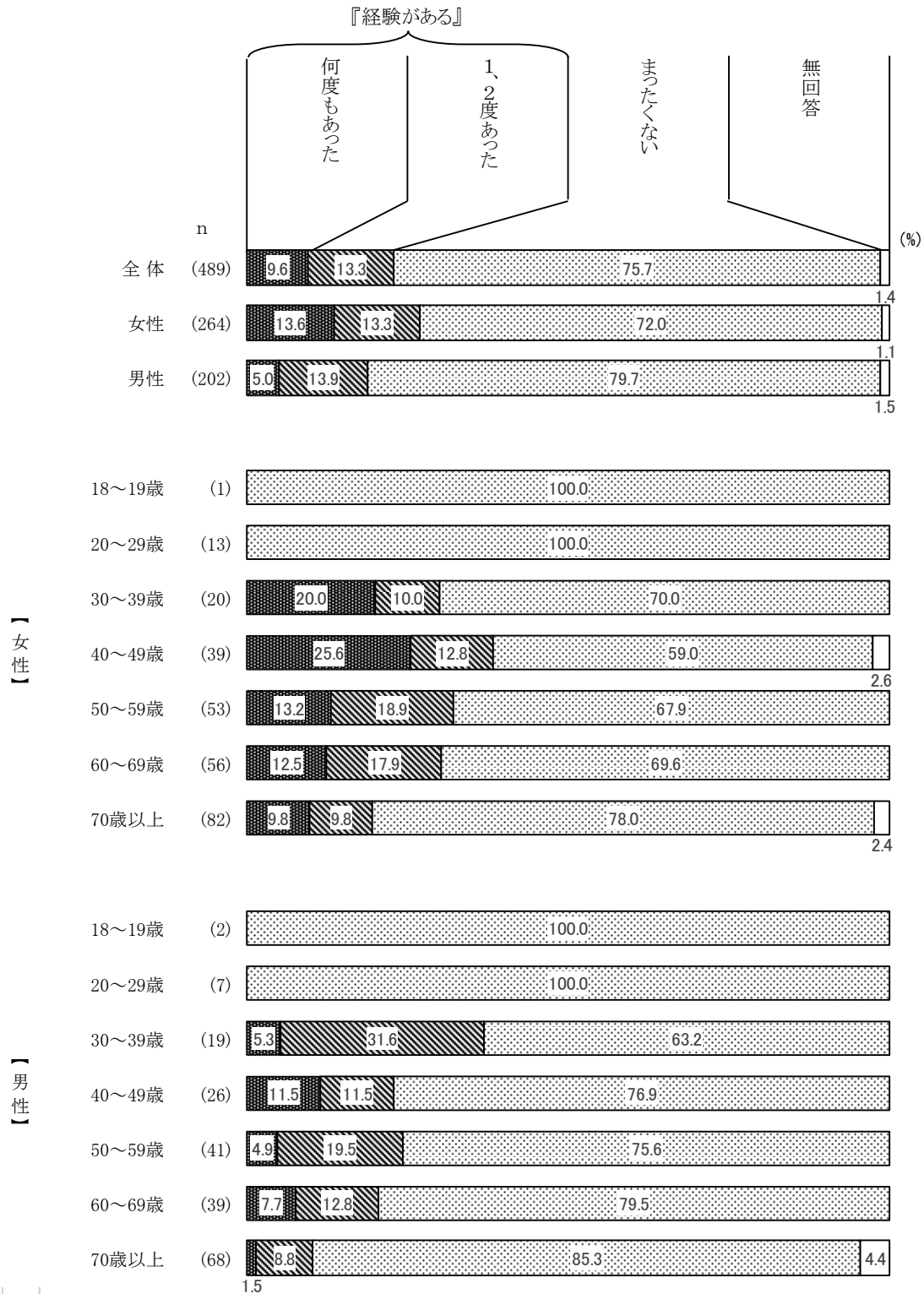


(イ) 心理的攻撃

【性・年齢別】

『経験がある』と答えた割合は、女性が男性よりも8.0ポイント高くなっている。

『経験がある』と答えた割合は女性40～49歳で38.4%、男性30～39歳で36.9%と高くなっている。



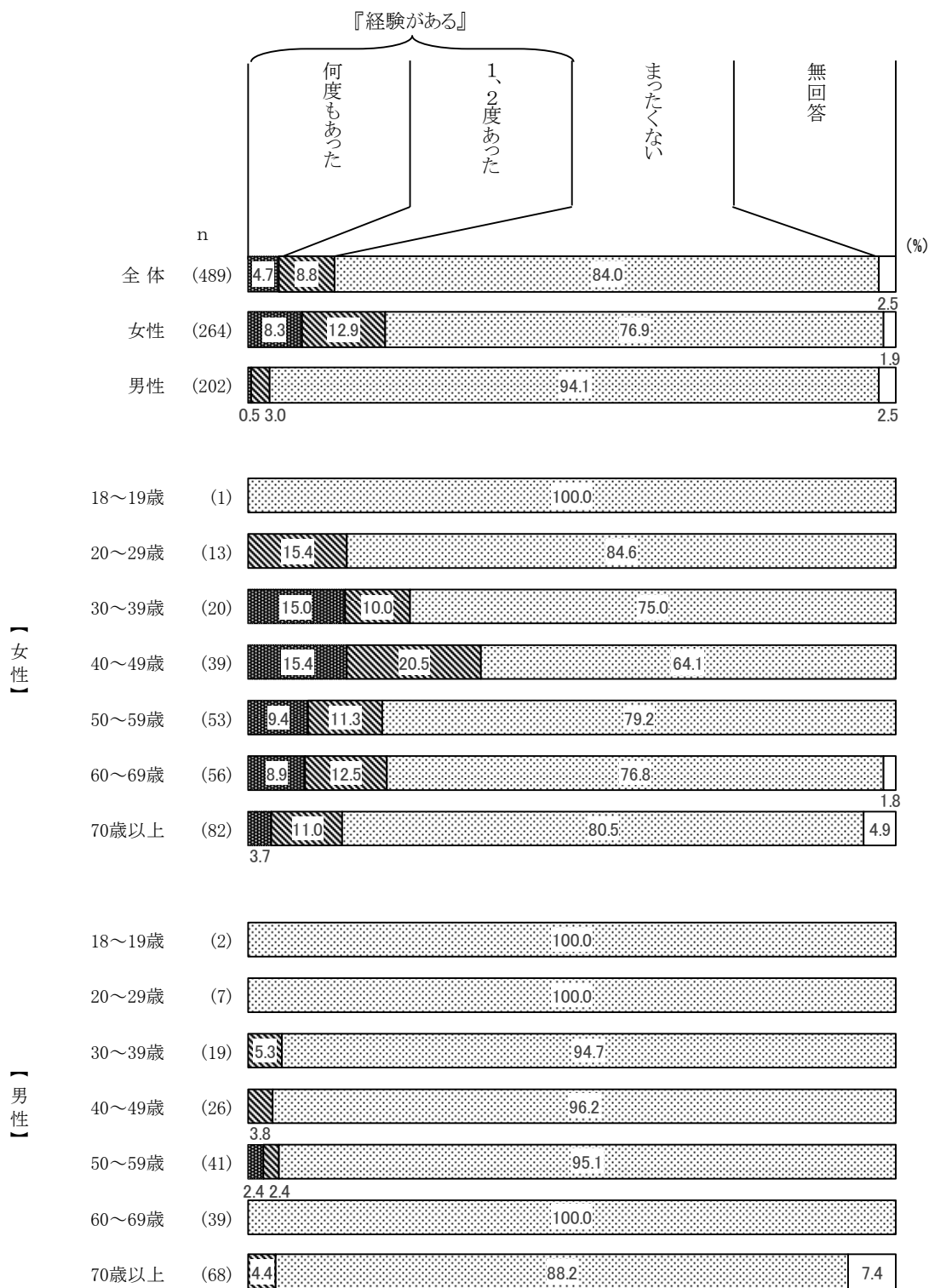
調査の結果／5．DVについて

(2) DVの被害経験

(ウ) 性的強要

【性・年齢別】

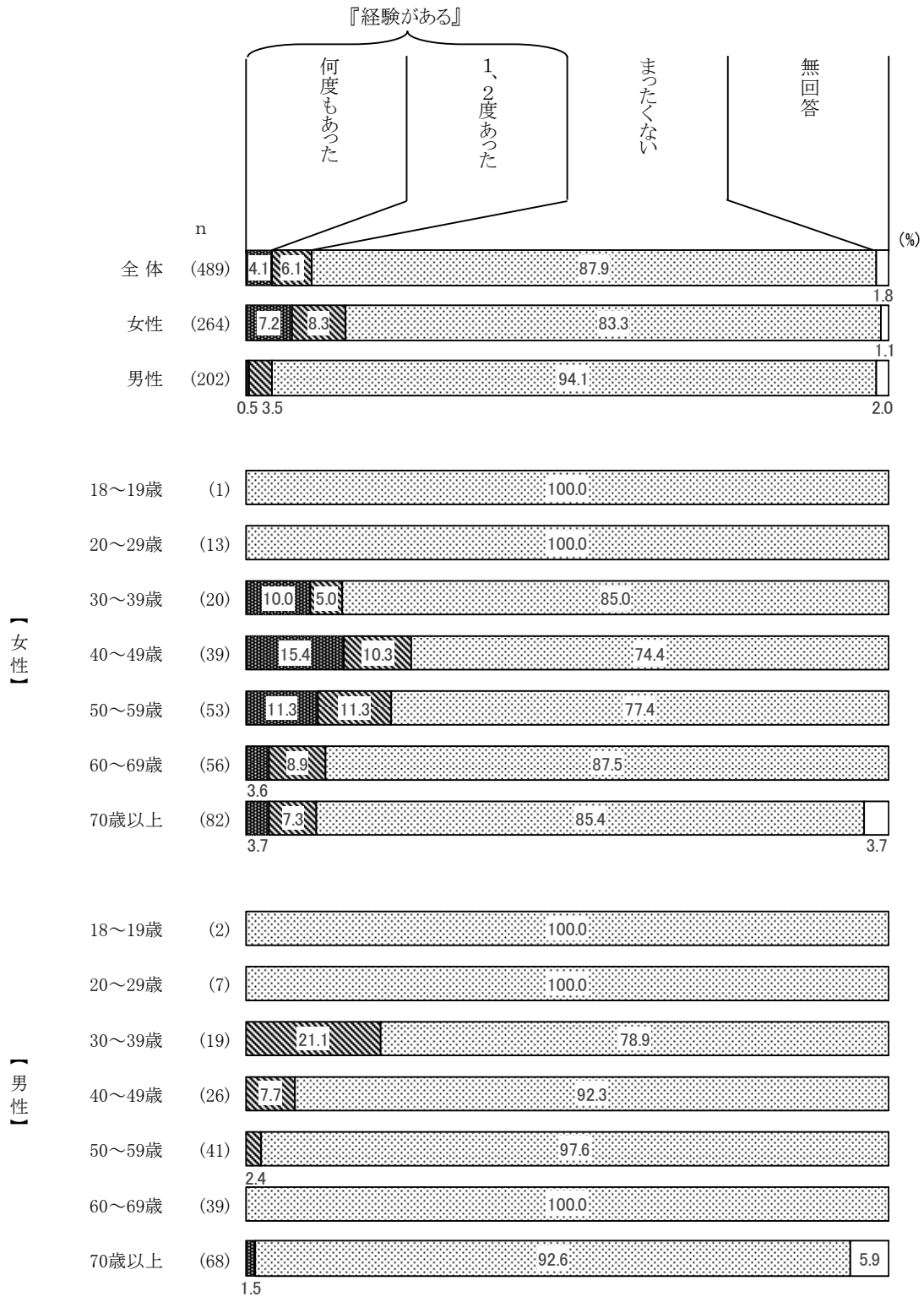
『経験がある』と答えた割合は、女性が男性よりも17.7ポイント高くなっており、女性40～49歳で35.9%と最も高くなっている。



(エ) 経済的圧迫

【性・年齢別】

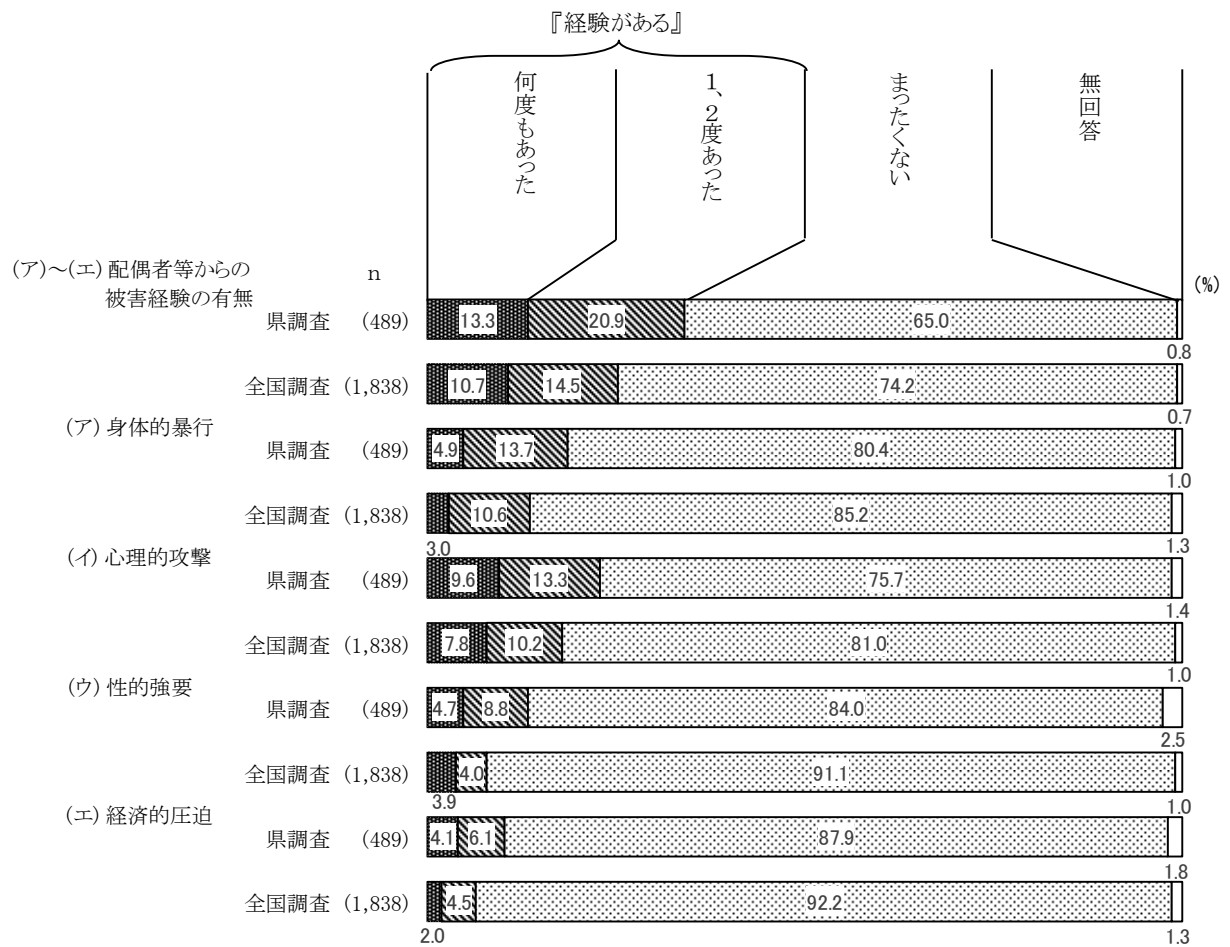
『経験がある』と答えた割合は、女性が男性よりも11.5ポイント高くなっており、女性40～49歳で25.7%と最も高くなっている。



調査の結果／5．DVについて

(2) DVの被害経験

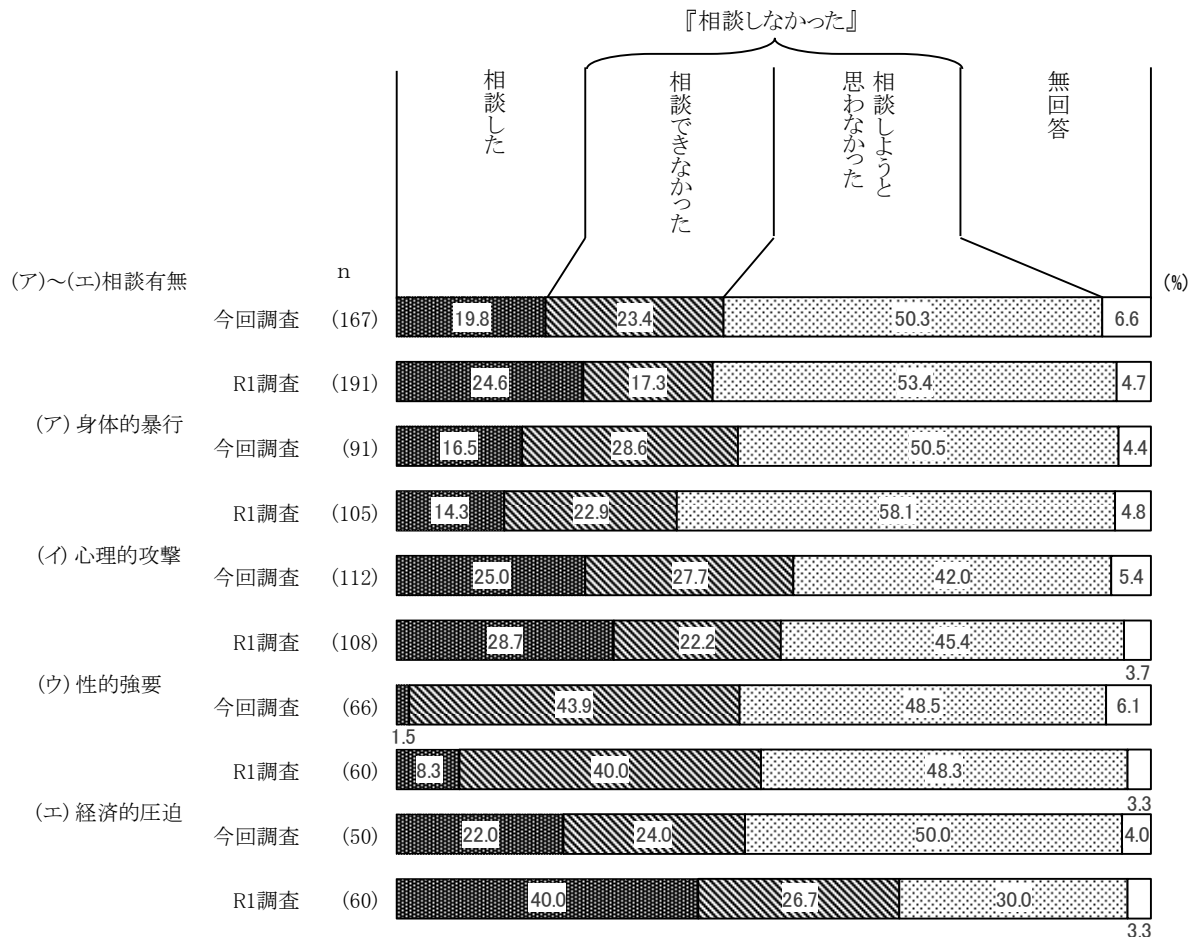
(参考) 全国調査：内閣府「男女間における暴力に関する調査（令和5年11月調査）」



※全国調査では、18～59歳を調査対象としている。

(3) DV被害の相談状況

問9. (2) また、以下の表の「(1) 経験」の(ア)～(エ)のいずれかで「1、2度あった」、「何度もあった」と回答された方は、その行為について誰かに相談しましたか。以下の表の「(2) 相談」のそれぞれについて、該当する番号ひとつに○をつけてください。



DV被害の相談状況について聞いたところ、「(ア)～(エ)相談有無」では「相談した」と答えた割合が2割弱となっている一方、『相談しなかった』と答えた割合は7割を超えている。

種類別にみると、『相談しなかった』と答えた割合が最も高いのは「(ウ)性的強要」で92.4%となっている。

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、「(ア)～(エ)相談有無」では「相談した」と答えた割合は前回調査よりも4.8ポイント低くなっている。

種類別にみると、「相談した」と答えた割合は、「(エ)経済的圧迫」で18.0ポイント、「(ウ)性的強要」で6.8ポイント、それぞれ前回調査よりも低くなっている一方、『相談しなかった』と答えた割合は、「(ウ)性的強要」では、前回調査よりも4.1ポイント高くなっている。

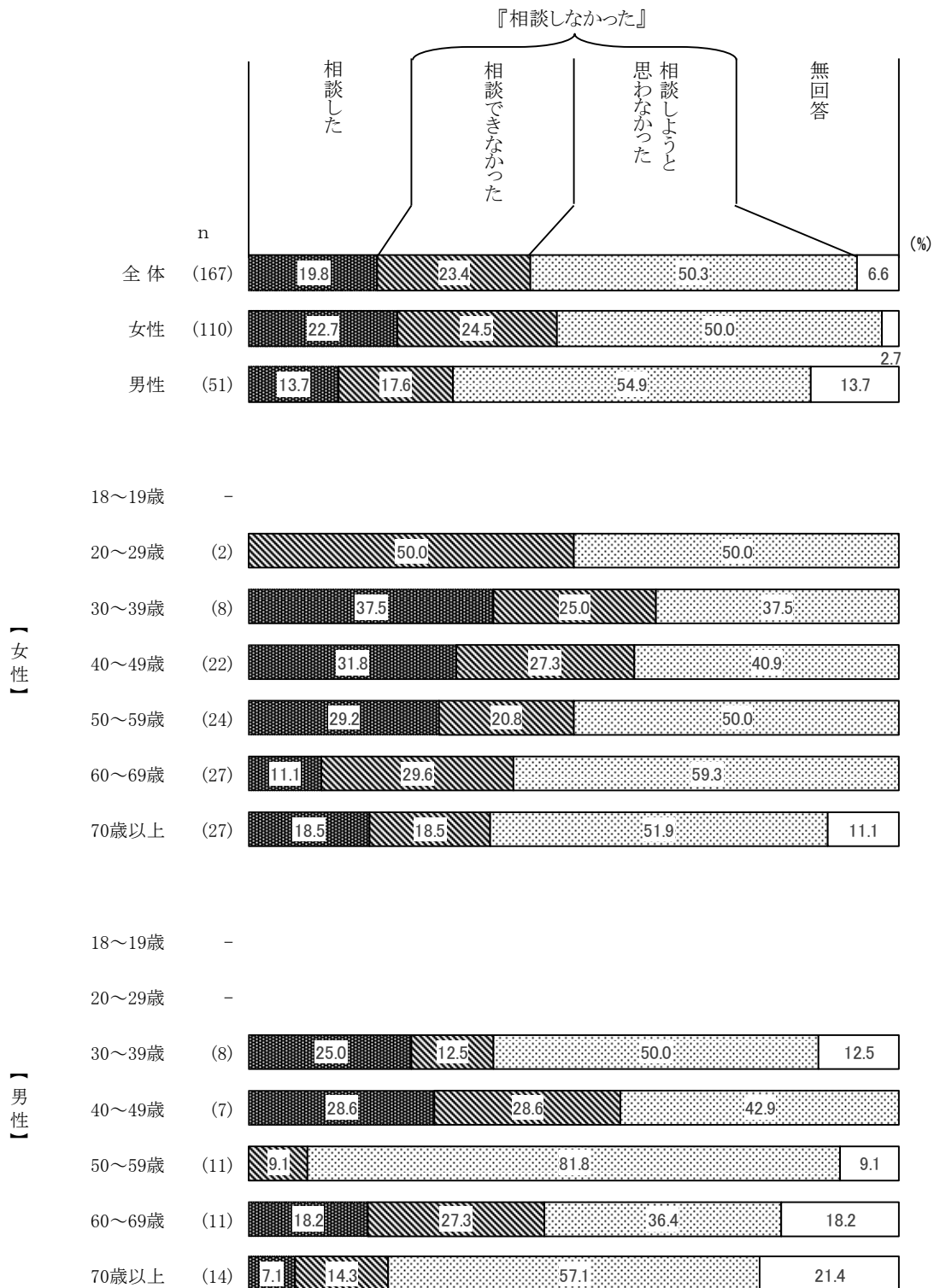
調査の結果／5．DVについて

(3) DV被害の相談有無

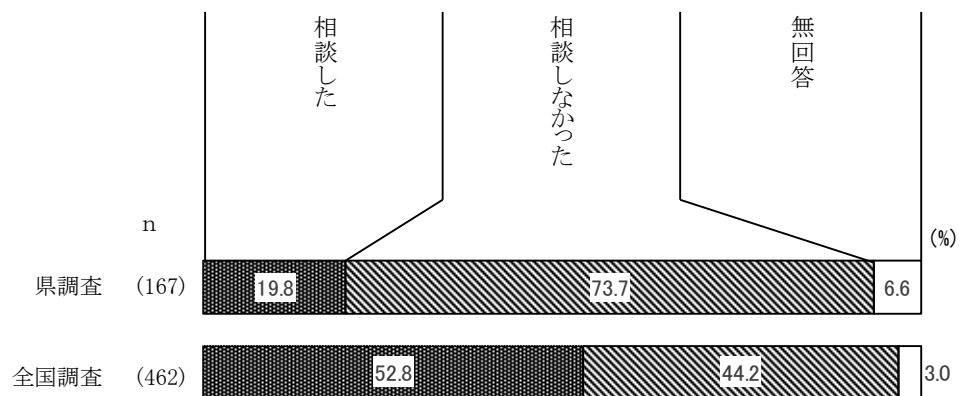
(ア)～(エ)相談有無

【性・年齢別】

「(ア)～(エ)相談有無」では「相談した」と答えた女性の割合は男性よりも9.0ポイント高くなっている。



(参考) 全国調査：内閣府「男女間における暴力に関する調査（令和5年11月調査）」



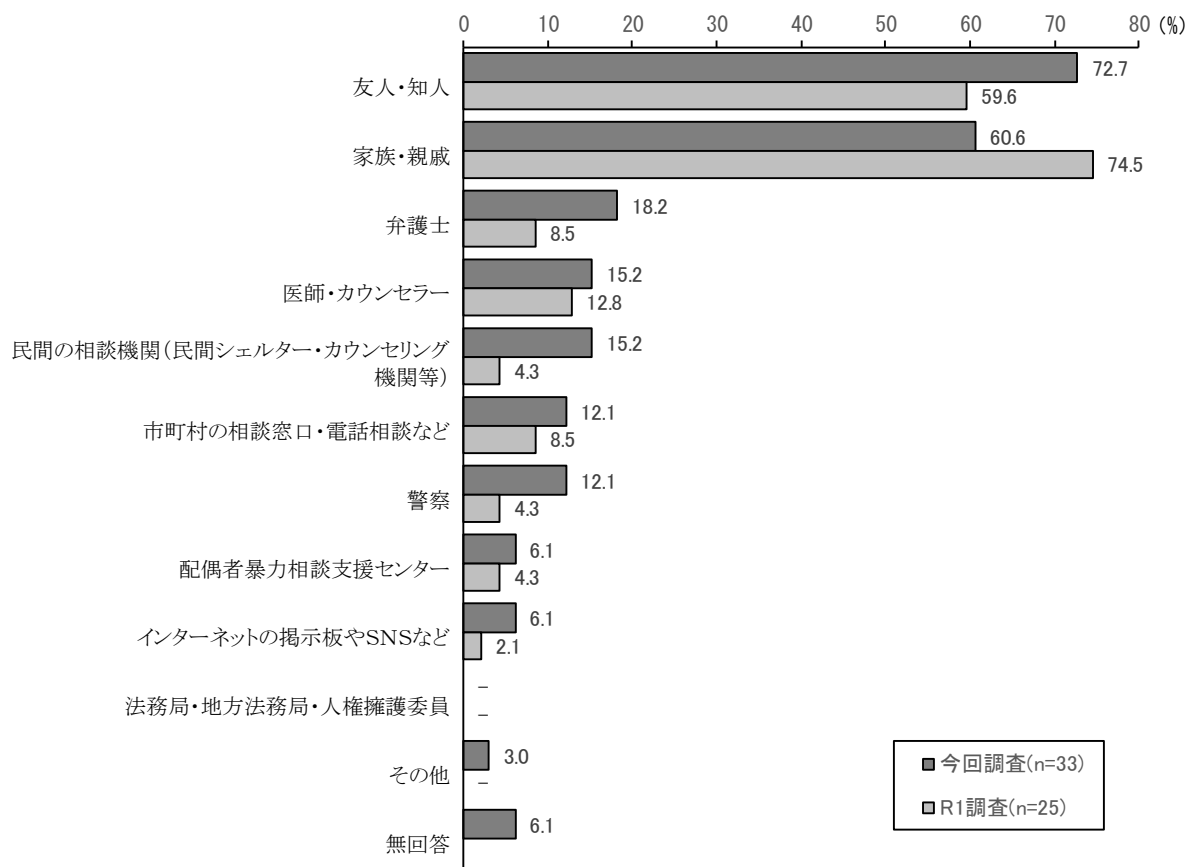
※県調査:(ア)～(エ)相談有無の結果。「相談しなかった」は、「相談できなかった」、「相談しようと思わなかった」の合計

※全国調査では、対象年齢が18～59歳で、設問が具体的な相談先を示した上で回答を求めている。

(4) DV被害の相談先

※問9の(2)で、1つでも「相談した」と回答された方のみお答えください。

問10. あなたが、相談した人(機関又は手段)を教えてください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



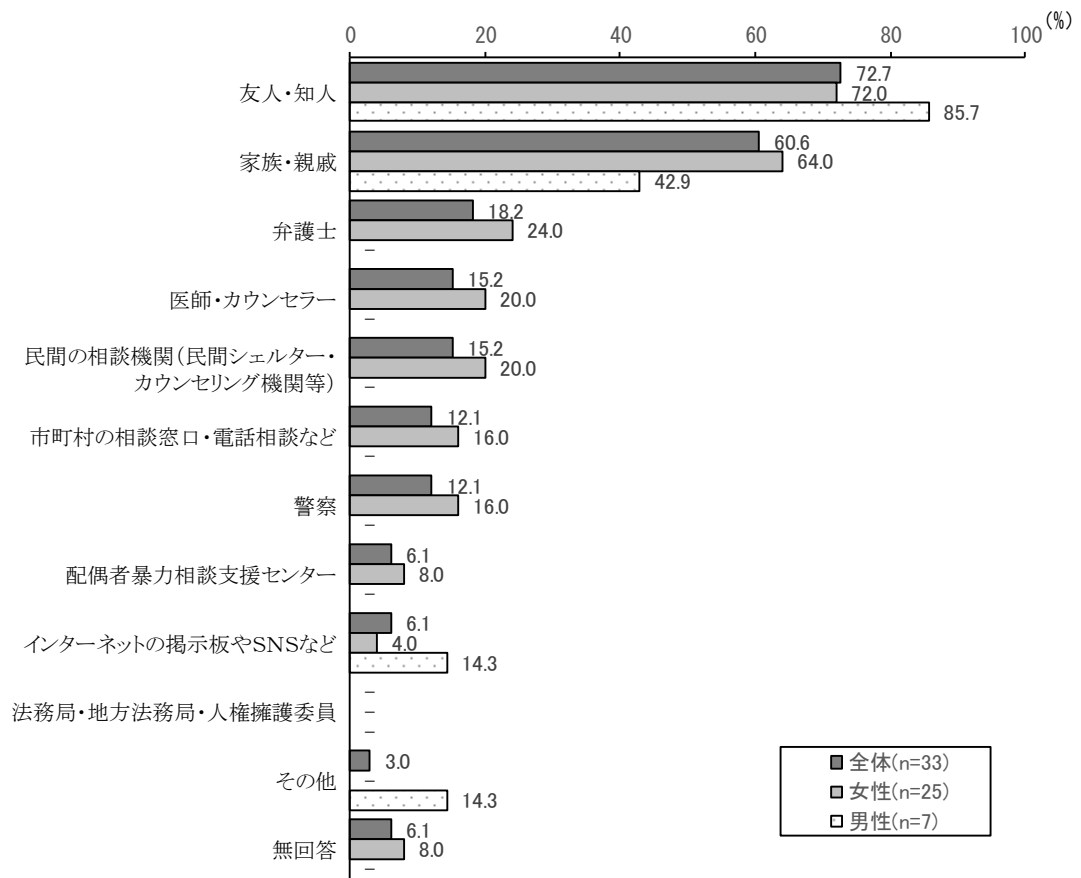
DV被害の相談先では、「友人・知人」が72.7%で最も高く、次いで「家族・親戚」で60.6%、「弁護士」で18.2%となっている。

【前回調査(令和元年)との比較】

前回調査と比較すると、「友人・知人」は13.1ポイント、「民間の相談機関(民間シェルター・カウンセリング機関等)」は10.9ポイント、「弁護士」は9.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「家族・親戚」は13.9ポイント低くなっている。

【性別】

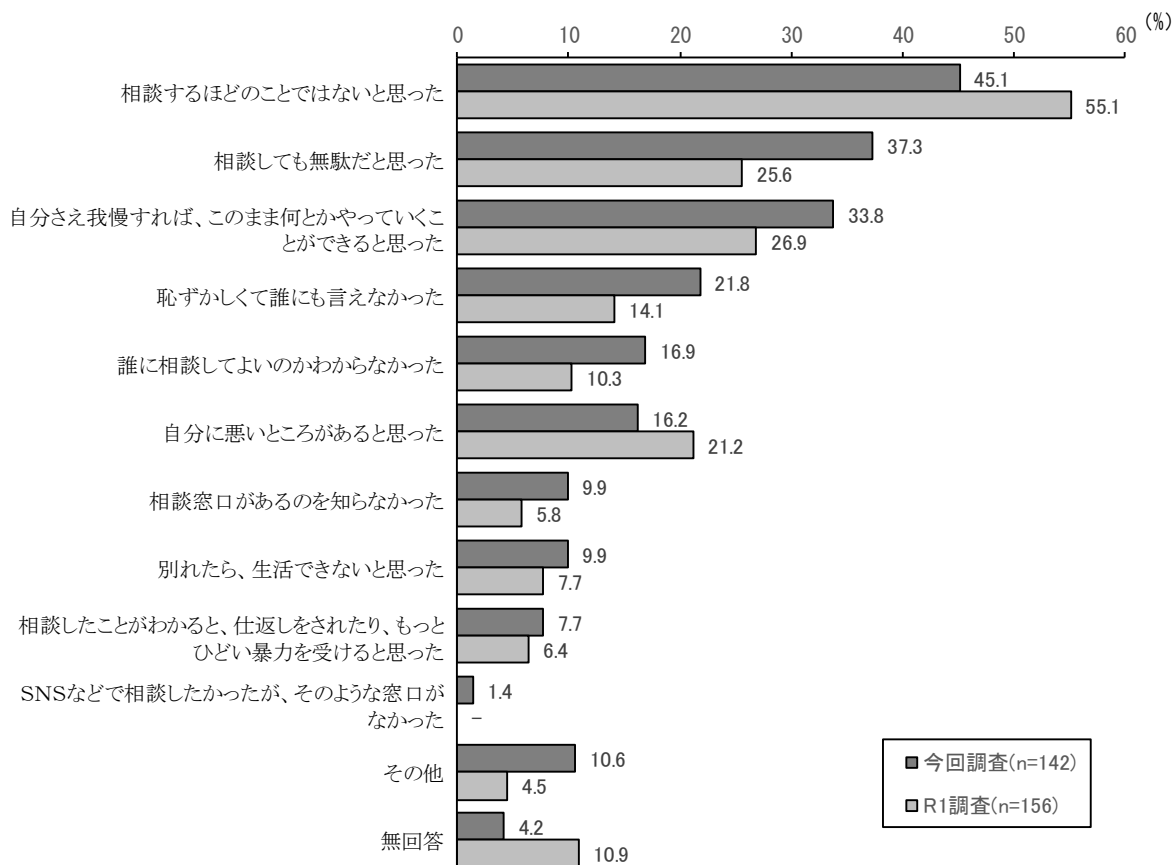
回答者数が少ないため参考値として掲載する。



(5) 相談しなかった理由

※問9の(2)で、1つでも「相談できなかった」、又は「相談しようと思わなかった」と回答された方のみお答えください。

問11. あなたが、誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思った」が45.1%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」で37.3%、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思った」で33.8%となっている。

【前回調査（令和元年）との比較】

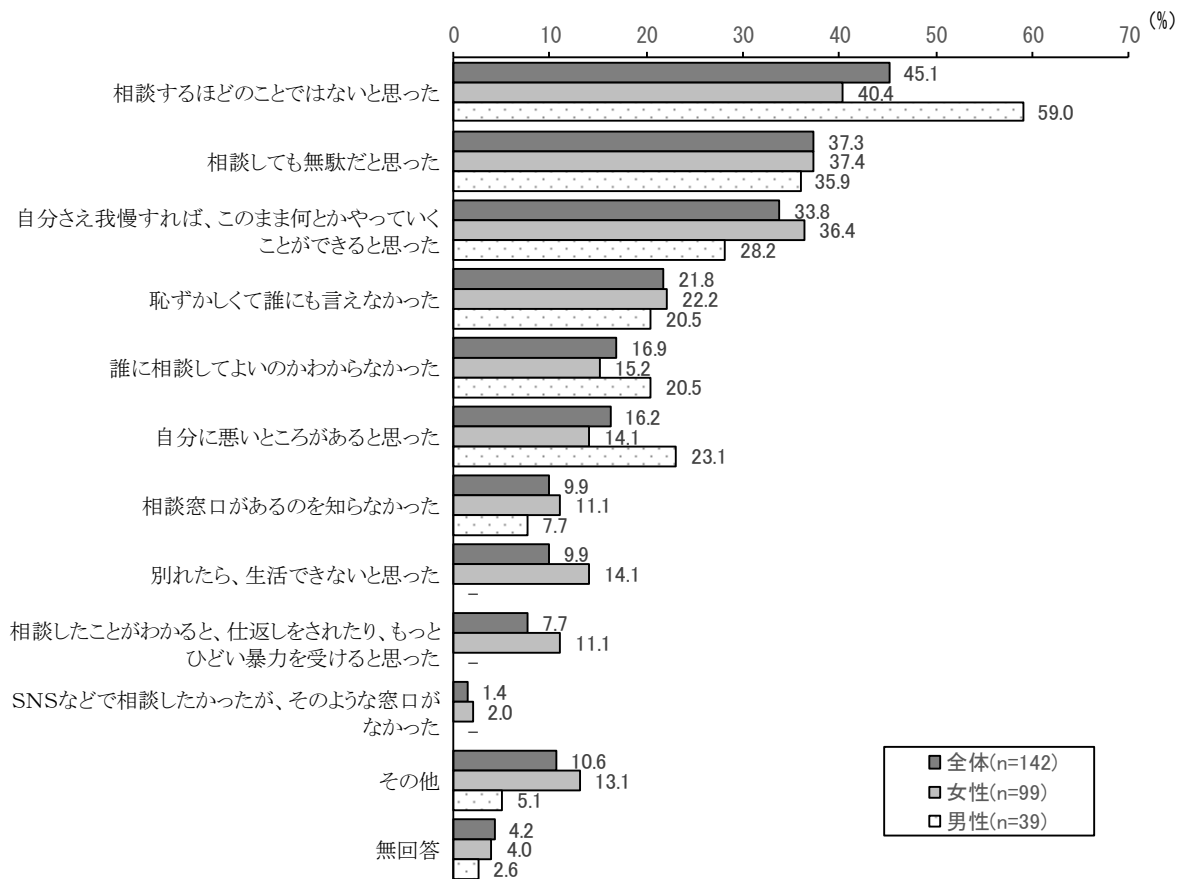
前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思った」は11.7ポイント、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」は7.7ポイント、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思った」は6.9ポイント、それぞれ高くなっている。

一方、「相談するほどのことではないと思った」は10.0ポイント、「自分に悪いところがあると思った」は5.0ポイント、それぞれ低くなっている。

【性別】

女性が男性よりも割合が高いのは、「別れたら、生活できないと思った」で14.1ポイント、「相談したことがわかると、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けると思った」で11.1ポイント、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思った」で8.2ポイント、それぞれ高くなっている。

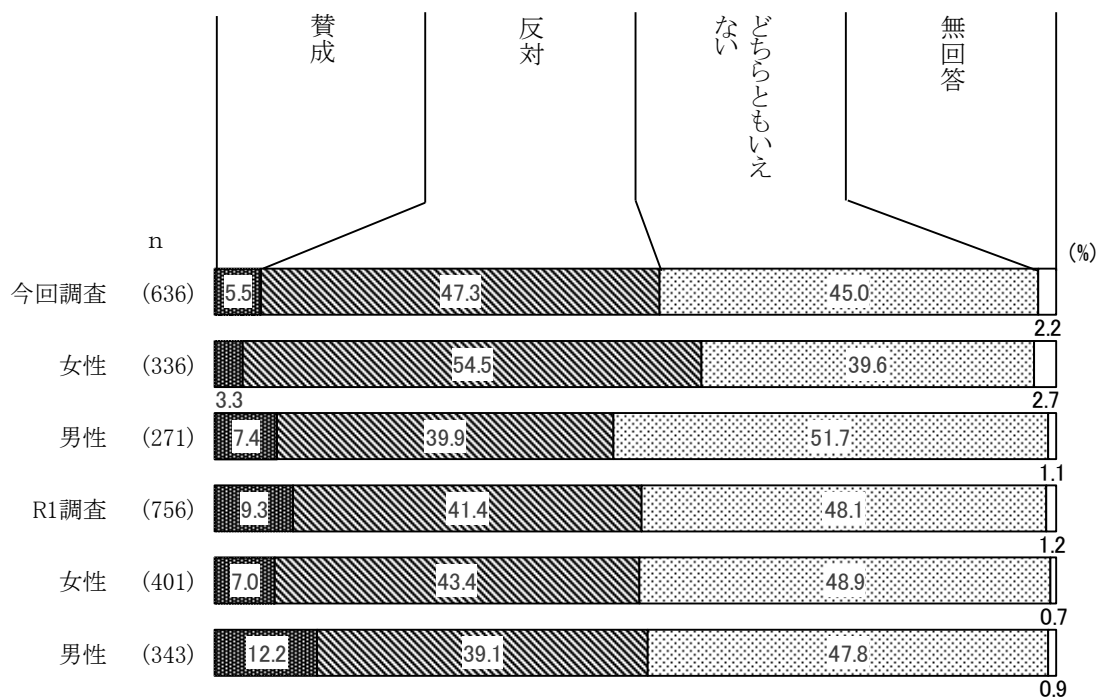
男性が女性よりも割合が高いのは、「相談するほどのことではないと思った」で18.6ポイント、「自分に悪いところがあると思った」で9.0ポイント、「誰に相談してよいのかわからなかった」で5.3ポイント、それぞれ高くなっている。



6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

(1) 男女の役割分担意識

問12. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について賛成ですか、反対ですか。
 あてはまる番号ひとつに○をつけてください。



「男は仕事、女は家庭」の考え方について聞いたところ、「賛成」が5.5%、「反対」が47.3%、「どちらともいえない」が45.0%となっている。

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、「賛成」は3.8ポイント減少、「反対」は5.9ポイント上昇している。性別にみると、「賛成」は女性で3.7ポイント、男性で4.8ポイント、それぞれ低くなっており、「反対」は女性で11.1ポイント、男性で0.8ポイント、それぞれ高くなっている。

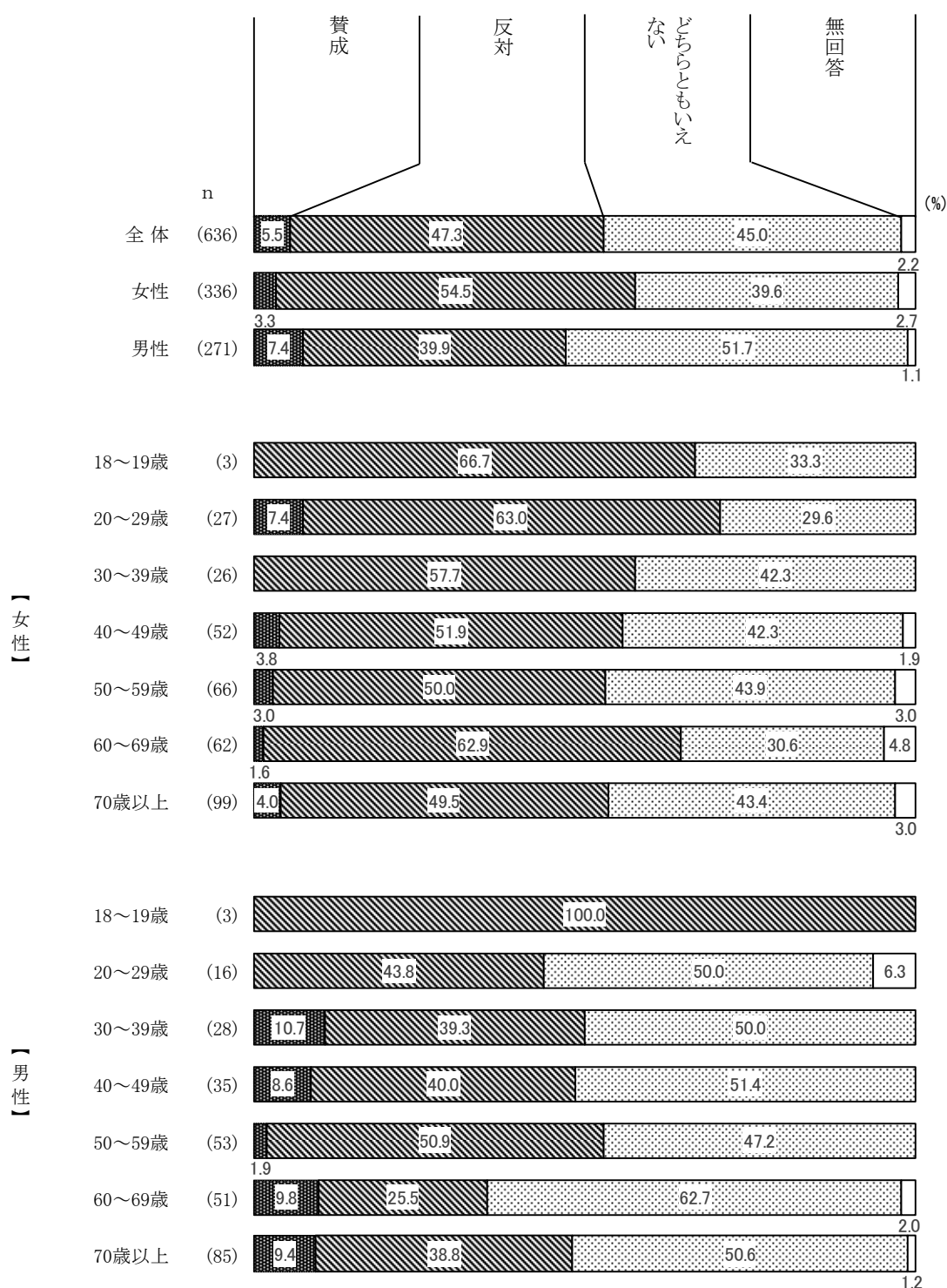
「どちらともいえない」は、女性で9.3ポイント低くなっている一方、男性で3.9ポイント高くなっている。

【性・年齢別】

「賛成」と答えた割合は、男性が女性よりも4.1ポイント高くなっている一方、「反対」と答えた割合は女性が男性よりも14.6ポイント高くなっている。

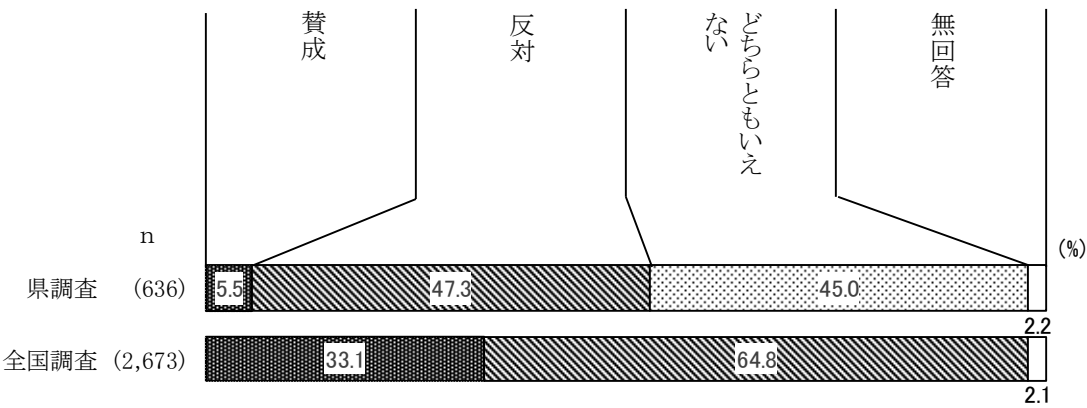
「反対」と答えた割合は、女性20～29歳、女性60～69歳で6割を超えて高くなっている。

「どちらともいえない」と答えた割合は、男性60～69歳で最も高くなっている。



調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
 (2) 夫婦の働き方

(参考) 全国調査：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

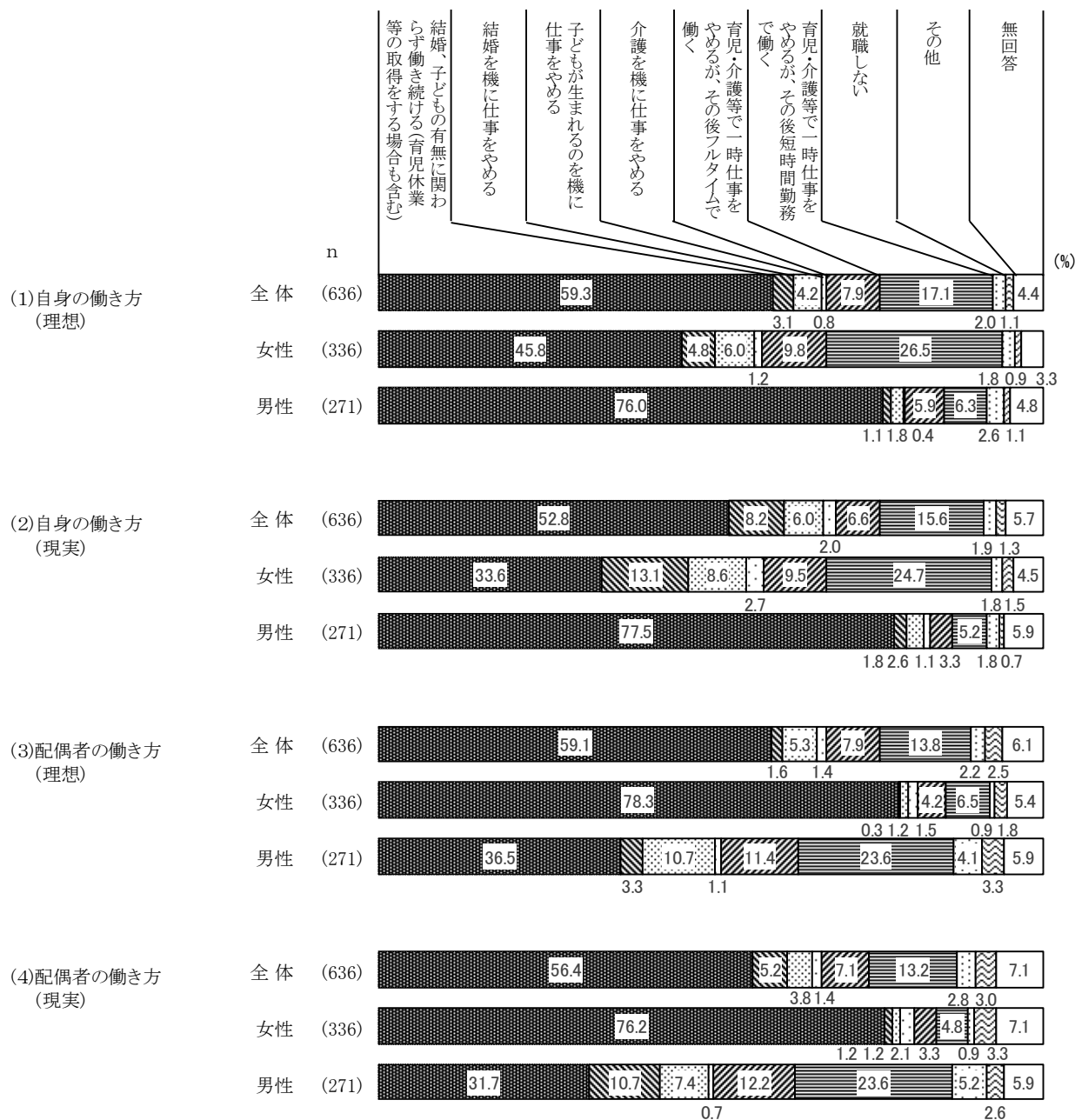


※全国調査:「賛成」は「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計、「反対」は「反対」、「どちらかといえば反対」の合計

（2）夫婦の働き方

問13. あなた自身と配偶者の働き方について、理想と現実はどうですか。（1）～（4）について、それぞれ下の選択肢からひとつ選び、番号を記入してください。その他の場合は具体的な内容をご記入願います。

※結婚されていない方は、結婚しているものと想定してお答えください。



夫婦の働き方について、全体では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」は、すべての項目において5割を超えている。

「(1) 自身の働き方(理想)」では、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」が全体で59.3%と最も高く、次いで「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」で17.1%となっている。

性別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」

（2）夫婦の働き方

では、男性が女性よりも30.2ポイント高くなっている。

また、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」では女性が男性よりも20.2ポイント高くなっている。

「（2）自身の働き方（現実）」では、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」が52.8%で最も高く、次いで「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」で15.6%となっている。

性別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、男性が女性よりも43.9ポイント高くなっている。一方、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」は女性が男性よりも19.5ポイント高くなっている。

自身の働き方について「理想」と「現実」を比較すると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、「理想」が「現実」よりも6.5ポイント高くなっており、「結婚を機に仕事をやめる」では、「現実」が「理想」よりも5.1ポイント高くなっている。

性別にみると、女性は「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、「理想」が「現実」よりも12.2ポイント高くなっており、「結婚を機に仕事をやめる」では、「現実」が「理想」よりも8.3ポイント高くなっている。

一方、男性では「理想」と「現実」で大きな差異はみられない。

「（3）配偶者の働き方（理想）」では、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」が59.1%で最も高く、次いで「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」で13.8%となっている。

性別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、女性が男性よりも41.8ポイント高くなっている。

一方、男性が女性よりも割合が高いのは、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」は17.1ポイント、「子どもが生まれるのを機に仕事をやめる」で9.5ポイント、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後フルタイムで働く」で7.2ポイント、それぞれ高くなっている。

「（4）配偶者の働き方（現実）」では、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」が56.4%で最も高く、次いで「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」で13.2%となっている。

性別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」で女性が男性よりも44.5ポイント高くなっている。

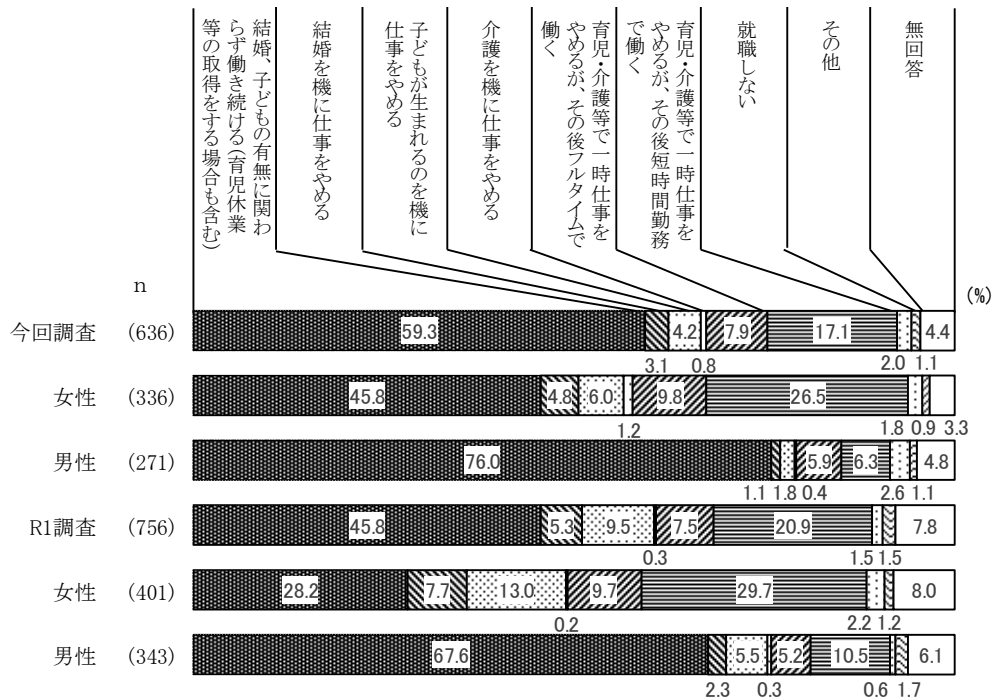
一方、男性が女性よりも割合が高いのは、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」で18.8ポイント、「結婚を機に仕事をやめる」で9.5ポイント、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後フルタイムで働く」で8.9ポイント、それぞれ高くなっている。

(1) 自身の働き方（理想）

【前回調査（令和元年）との比較】

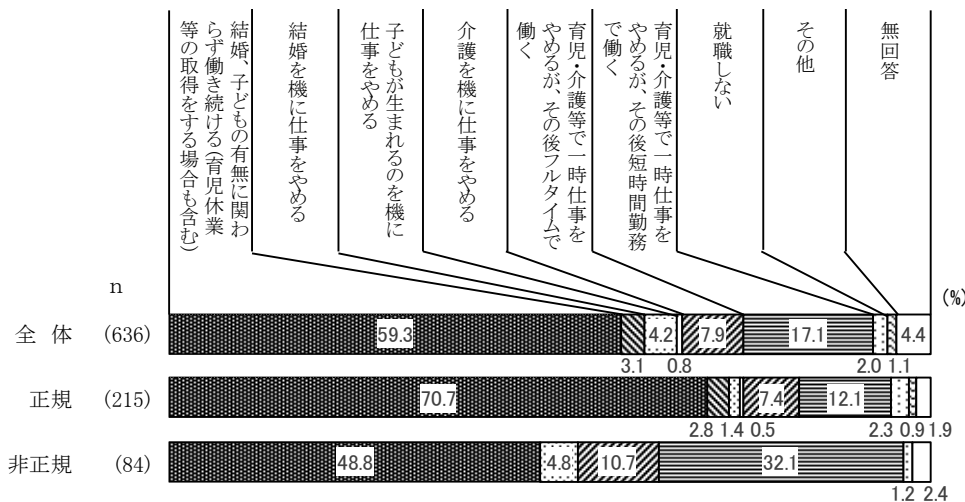
前回調査と比較すると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では13.5ポイント高くなっており、「子どもが生まれるのを機に仕事をやめる」では、5.3ポイント低くなっている。

性別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、女性で17.6ポイント、男性で8.4ポイント、前回調査よりもそれぞれ高くなっている。「子どもが生まれるのを機に仕事をやめる」では、女性で7.0ポイント低くなっている。



【雇用形態別】

雇用形態別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、正規が非正規よりも21.9ポイント高く、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」では、非正規が正規よりも20.0ポイント高くなっている。

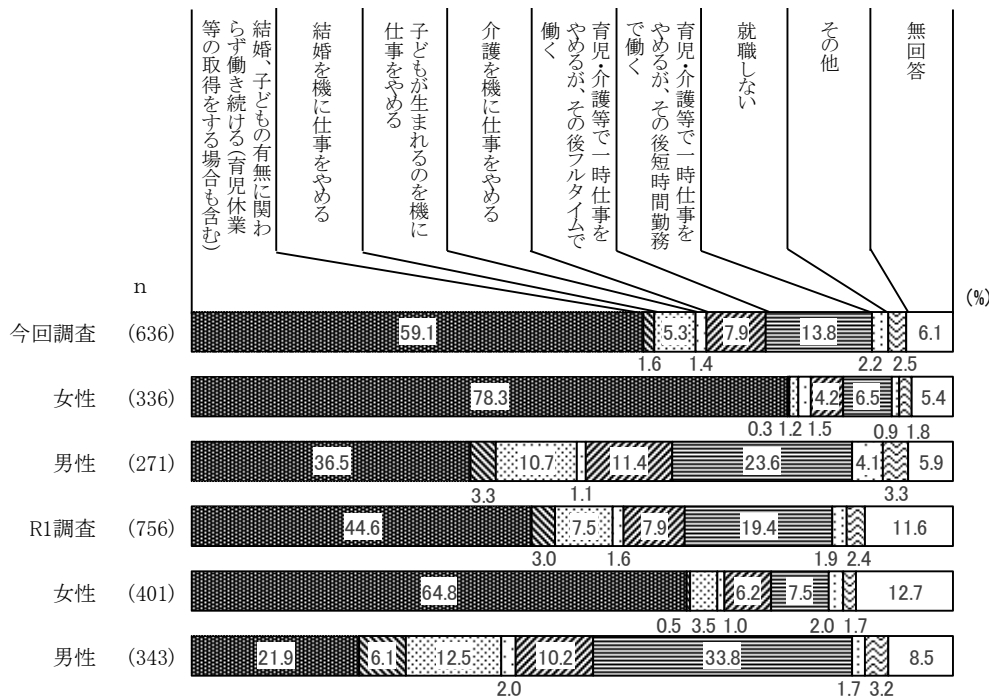


(3) 配偶者の働き方（理想）

【前回調査（令和元年）との比較】

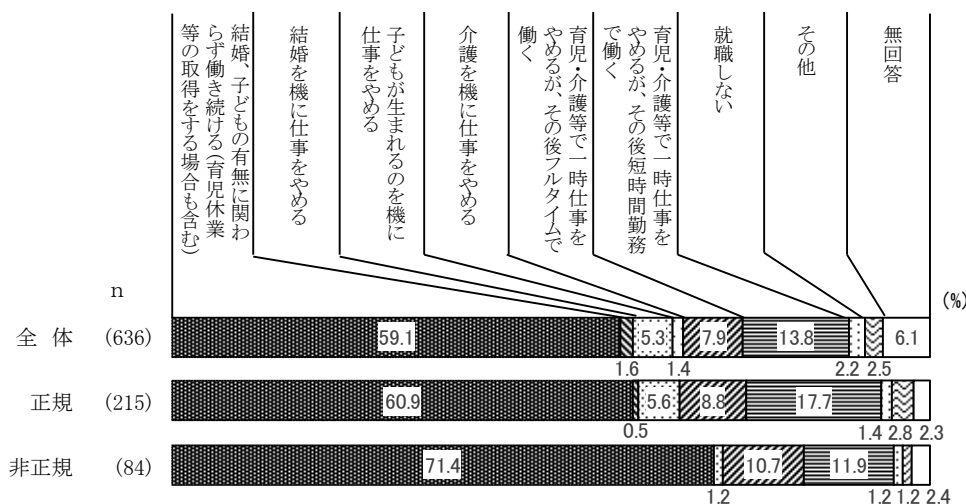
前回調査と比較すると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、14.5ポイント高くなっており、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」では、5.6ポイント低くなっている。

性別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、女性で13.5ポイント、男性で14.6ポイント、前回調査よりもそれぞれ高くなっている。「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」では、男性で10.2ポイント前回調査よりも低くなっている。



【雇用形態別】

雇用形態別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、非正規が正規よりも10.5ポイント高くなっており、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」では、正規が非正規よりも5.8ポイント高くなっている。



調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

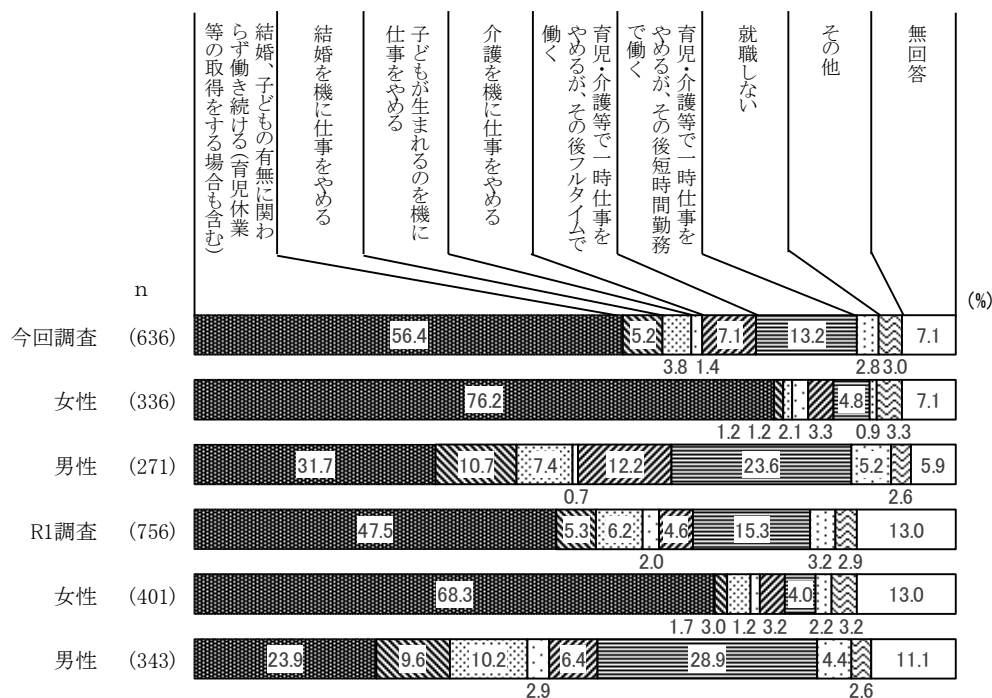
（2）夫婦の働き方

（4）配偶者の働き方（現実）

【前回調査（令和元年）との比較】

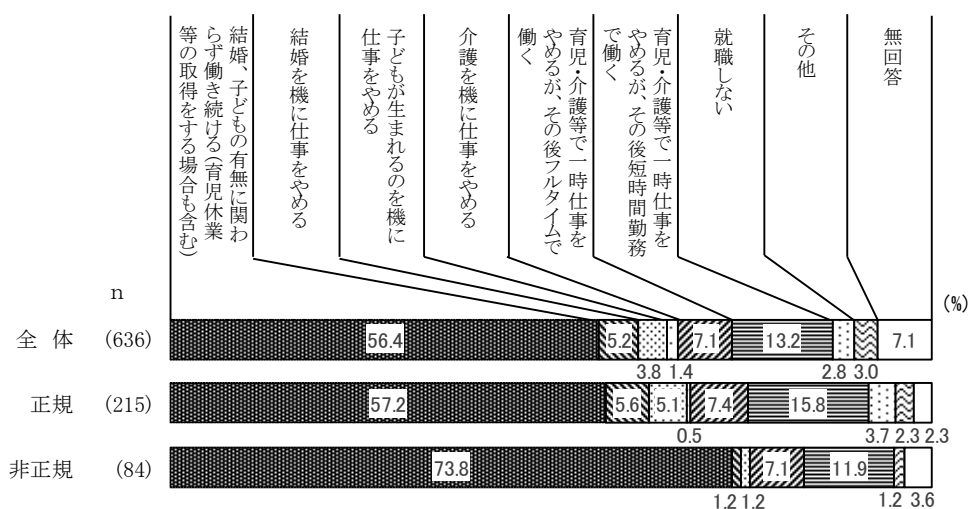
前回調査と比較すると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、8.9ポイント高くなっている。

性別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、女性で7.9ポイント、男性で7.8ポイント、前回調査よりもそれぞれ高くなっている。



【雇用形態別】

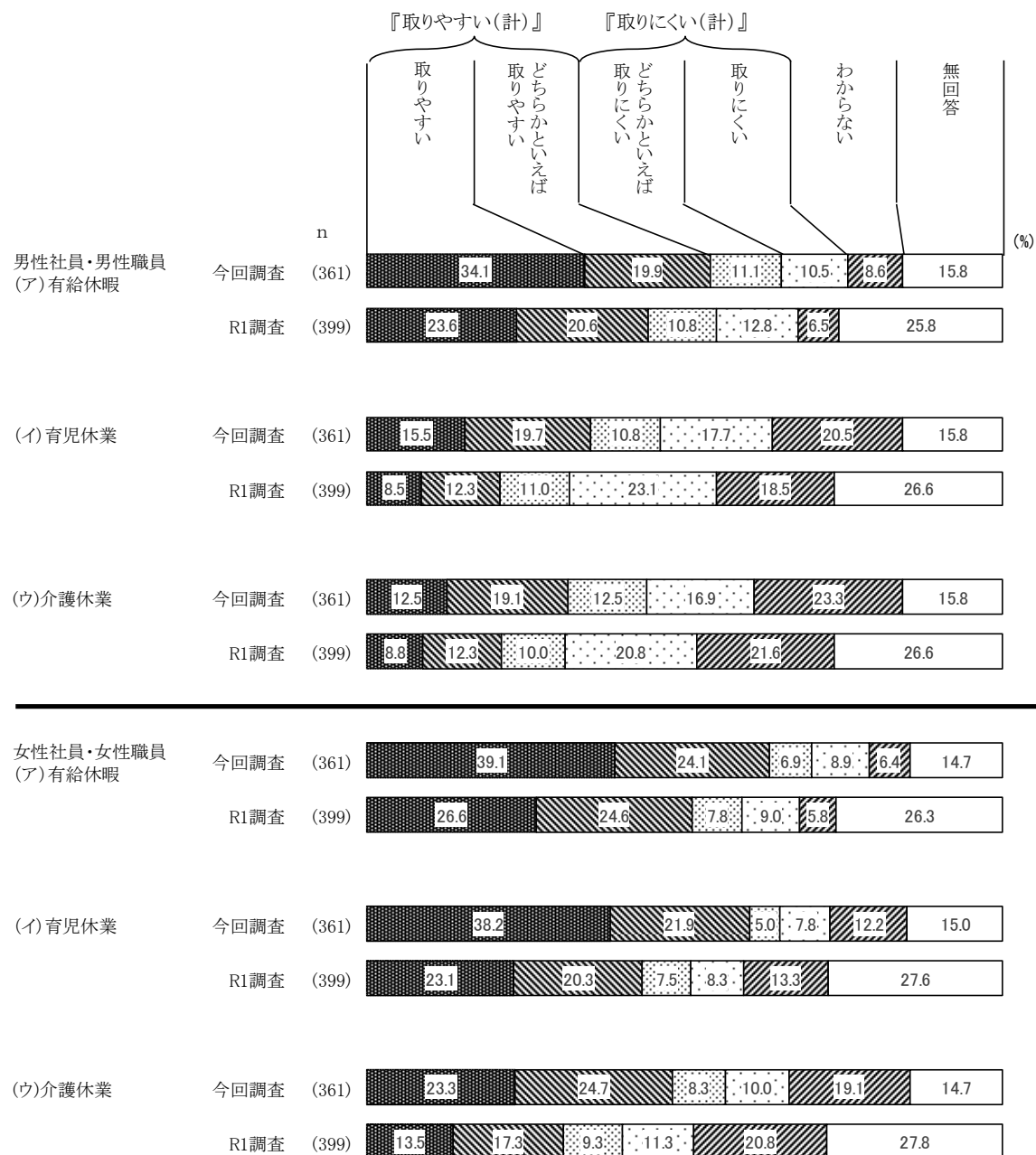
雇用形態別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける（育児休業等の取得をする場合も含む）」では、非正規が正規よりも16.6ポイント高くなっている。



（3）有給休暇、育児・介護休業の取りやすさ

※働いている方（自営業主、家族従業者の方を含む）のみお答えください。

問14. あなたの職場では、社員（職員）が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。それぞれ下の選択肢から該当する番号ひとつに○をつけてください。



「（ア）有給休暇」「（イ）育児休業」「（ウ）介護休業」ともに、男性社員・男性職員よりも女性社員・女性職員の方が『取りやすい（計）』の割合が高くなっており、「（イ）育児休業」では24.9ポイント、「（ウ）介護休業」では16.4ポイント、「（ア）有給休暇」では9.2ポイント、男性社員・男性職員よりも女性社員・女性職員の方が上回っている。

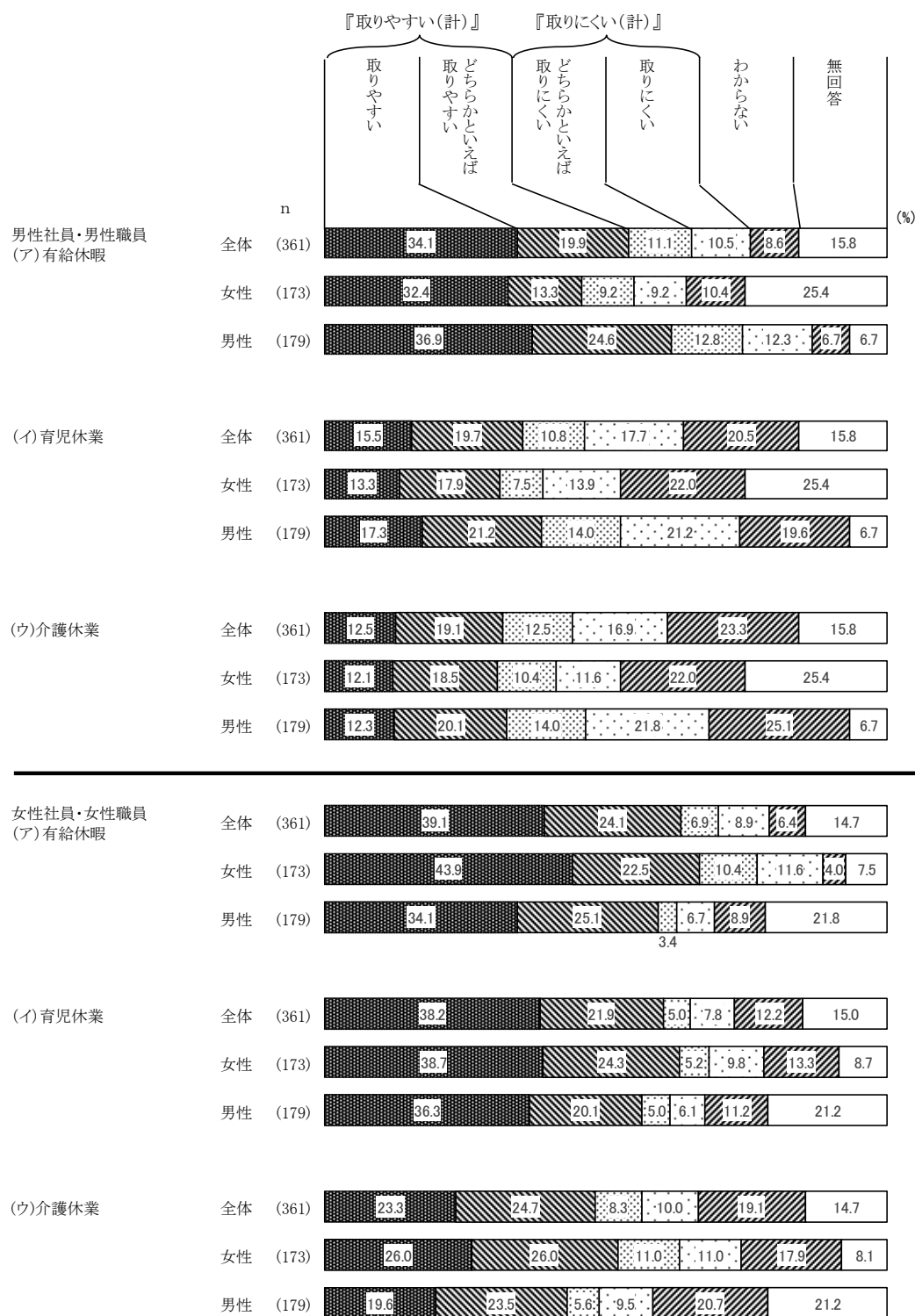
前回調査と比較すると、『取りやすい（計）』の割合は、いずれの項目においても上昇しており、『取りにくい（計）』の割合は、いずれの項目においても減少している。

調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（3）有給休暇、育児・介護休業の取りやすさ

【性別】

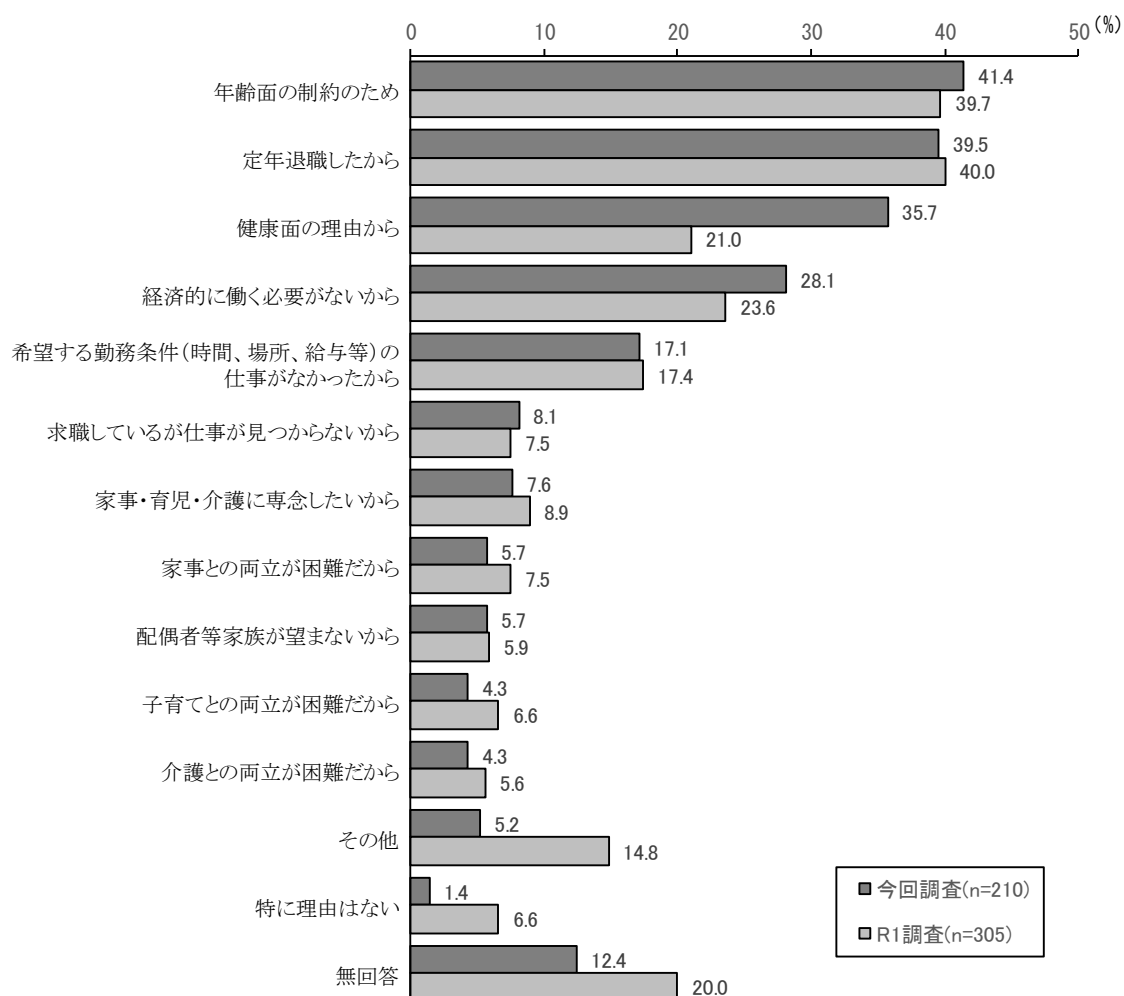
男性が回答する男性社員・男性職員の『取りやすい（計）』と女性が回答する女性社員・女性職員の『取りやすい（計）』を比較すると、いずれも女性が高く、その差は「（ア）有給休暇」では4.9ポイント、「（イ）育児休業」は24.5ポイント、「（ウ）介護休業」は19.6ポイントとなっている。



（4）働いていない理由

※現在働いていない方（学生は除く）のみお答えください。

問15. あなたが働いていない理由は何ですか。その理由としてあてはまるものを3つまで選んで、その中から最もあてはまると思う順に該当する番号を記載してください。



働いていない理由を聞いたところ、「年齢面の制約のため」と答えた割合が41.4%で最も高く、次いで「定年退職したから」で39.5%、「健康面の理由から」で35.7%となっている。

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、「健康面の理由から」と答えた割合は14.7ポイント、「経済的に働く必要がないから」は4.5ポイント上昇している。

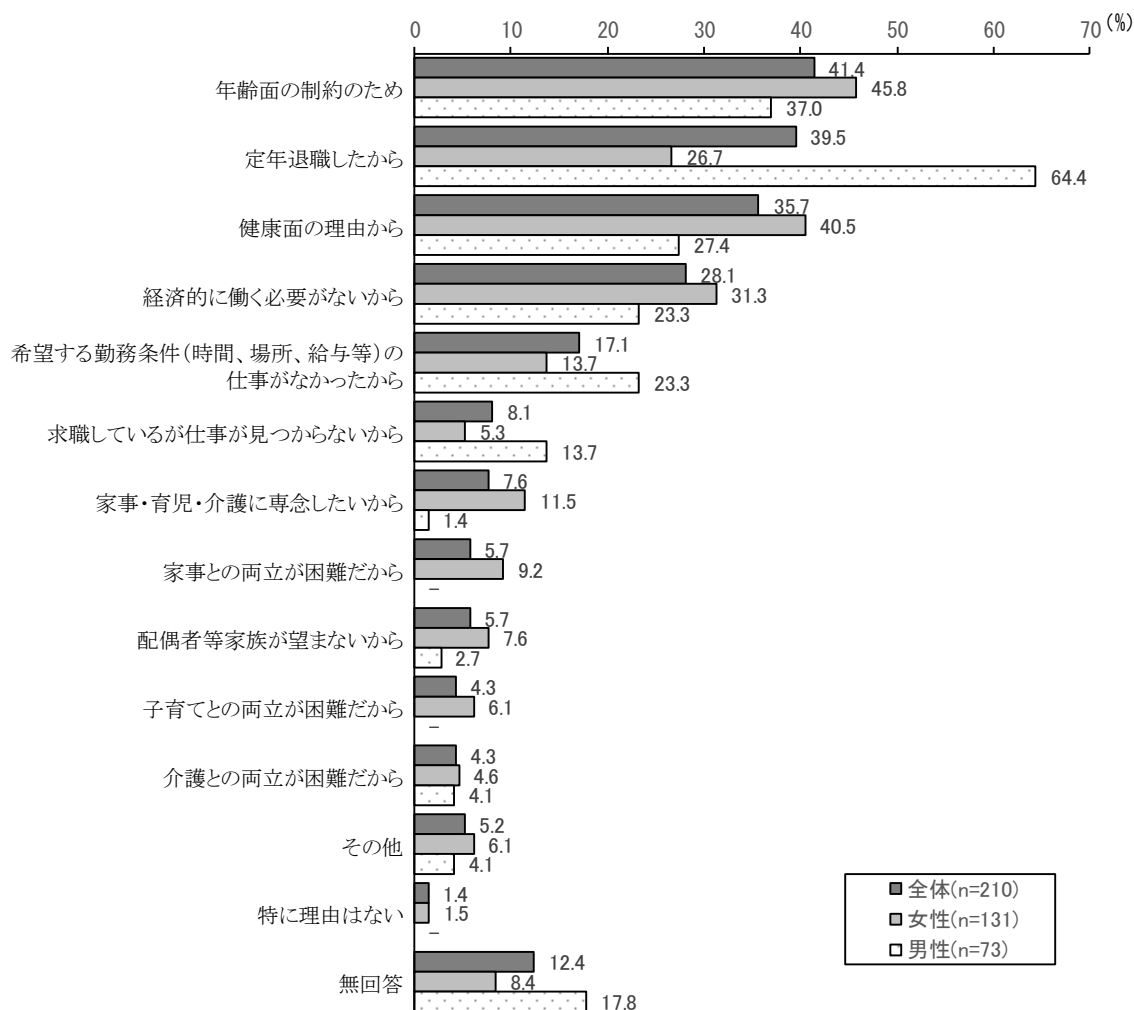
調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（4）働いていない理由

【性別】

性別にみると、女性が男性よりも割合が高いのは、「健康面の理由から」で13.1ポイント、「家事・育児・介護に専念したいから」で 10.1 ポイント、「家事との両立が困難だから」で 9.2 ポイント、それぞれ高くなっている。

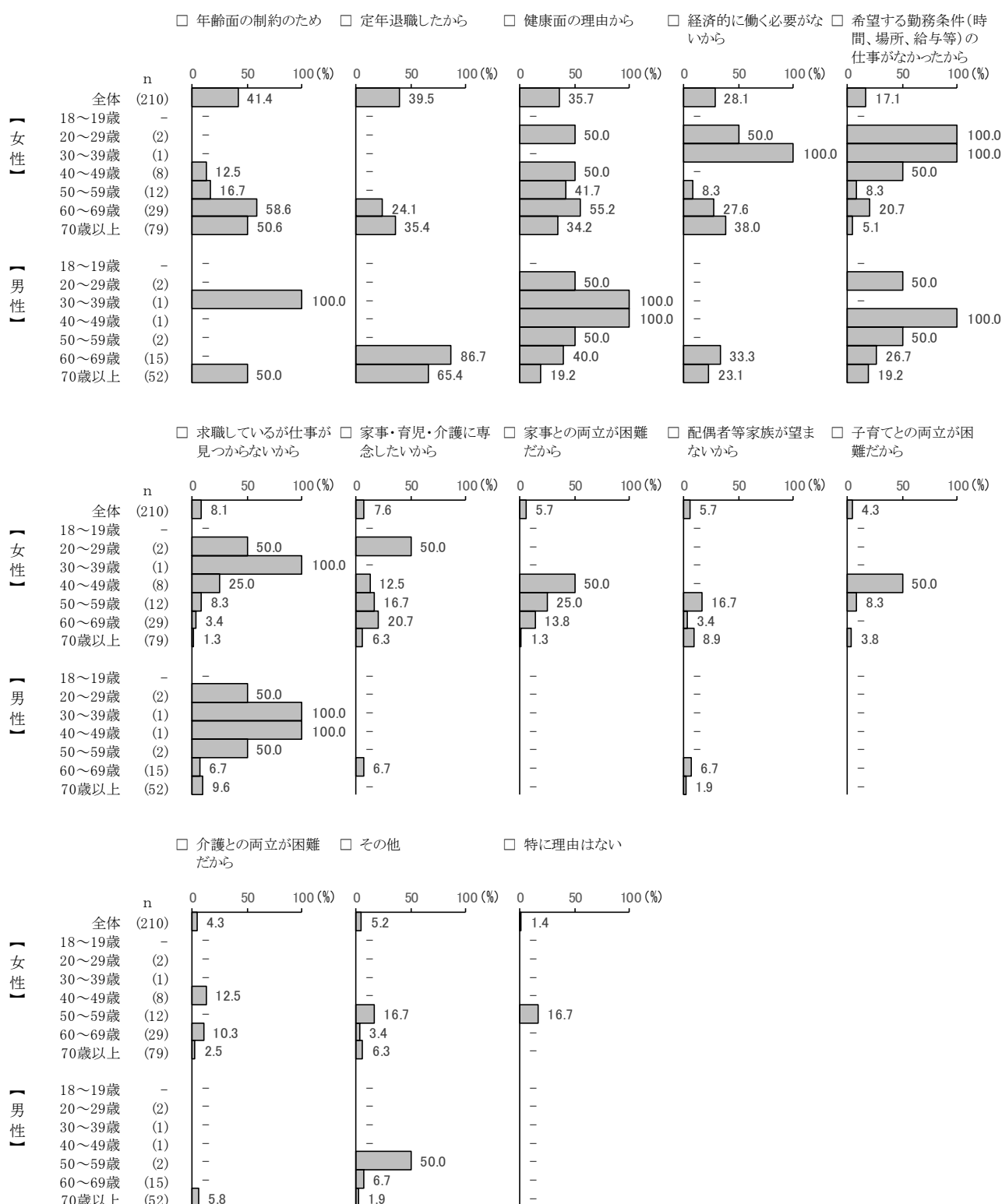
一方、男性が女性よりも割合が高いのは、「定年退職したから」で37.7ポイント、「希望する勤務条件（時間、場所、給与等）の仕事がなかったから」で9.6ポイント、「求職しているが仕事が見つからないから」で8.4ポイント、それぞれ高くなっている。



調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
（4）働いていない理由

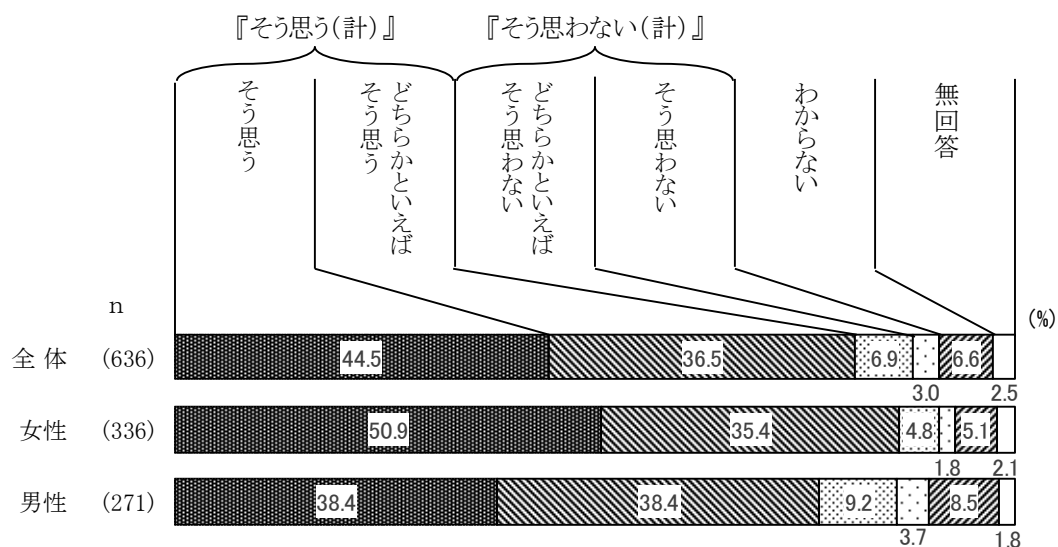
【性・年齢別】

回答者数が少ないため参考値として掲載する。



（5）男性の育児休業の取得の推進についての考え〔新規〕

問16. あなたは、男性の育児休業の取得を推進したほうがよいと思いますか。あなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。



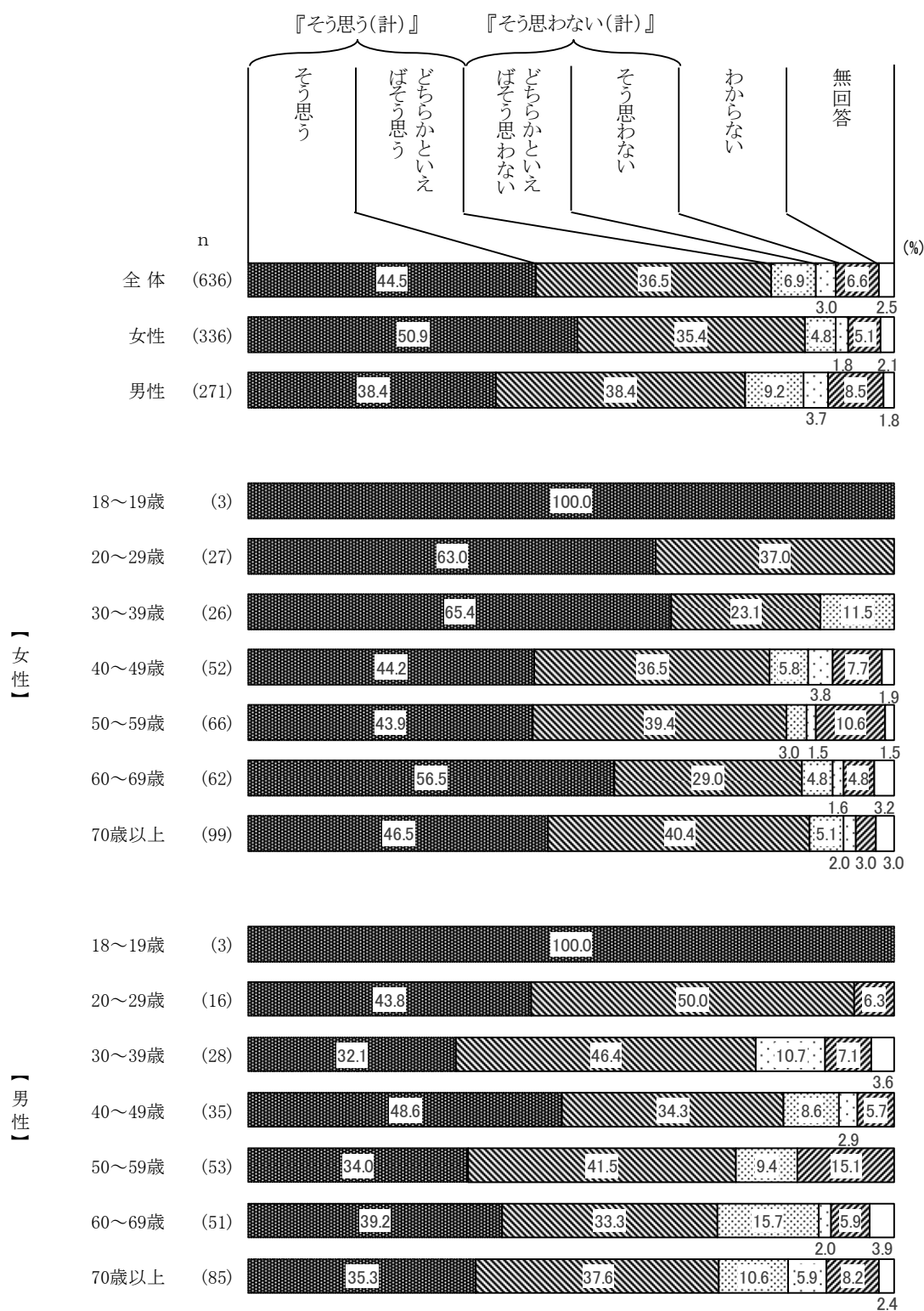
男性の育児休業取得を推進したほうがよいと思うか聞いたところ、『そう思う（計）』の割合は81.0%で『そう思わない（計）』（9.9%）を大きく上回っている。

性別にみると、『そう思う（計）』の割合は、女性が男性よりも9.5ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』の割合は、男性が女性よりも6.3ポイント高くなっている。

調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
 (5) 男性の育児休業の取得の推進についての考え

【性・年齢別】

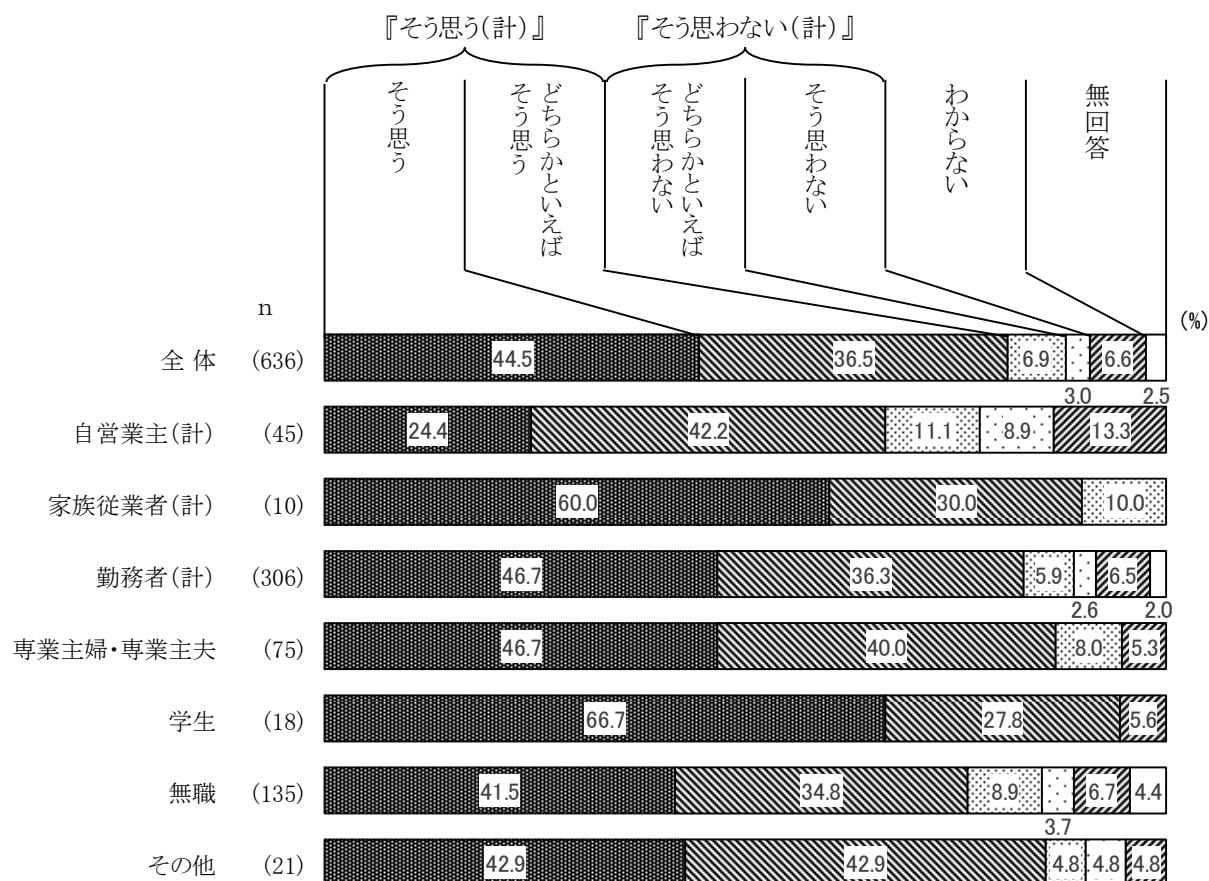
『そう思う（計）』の割合をみると、女性はすべての年代において8割を超えており、男性で8割を超えているのは、20～29歳、40～49歳となっている。



調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
 （5）男性の育児休業の取得の推進についての考え

【職業別】

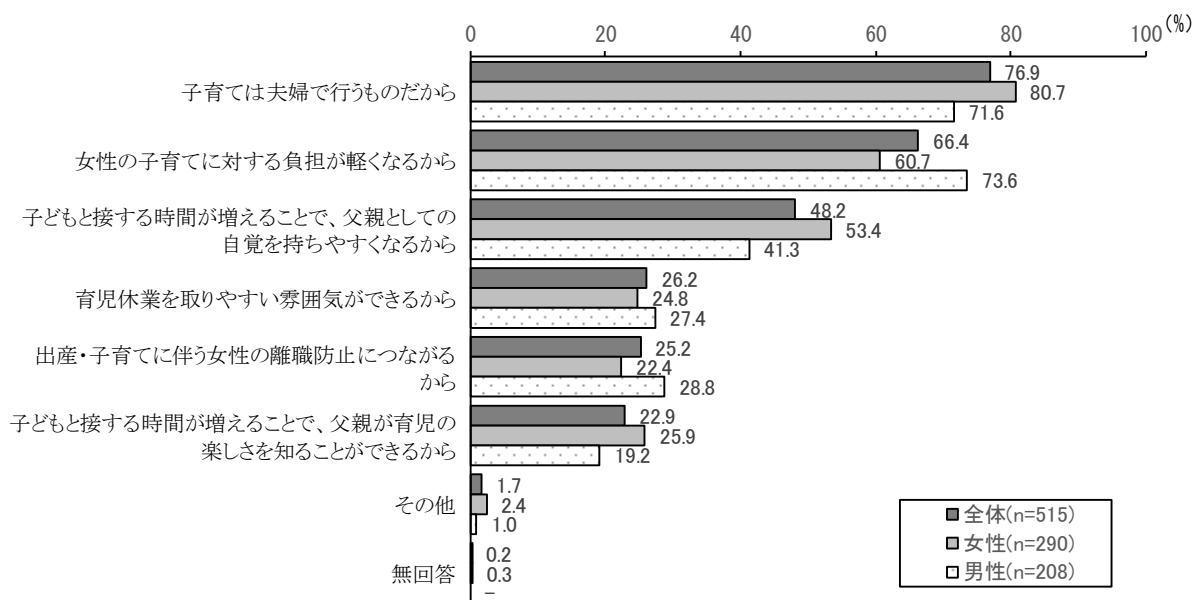
職業別にみると、『そう思う（計）』の割合が最も高いのは「学生」で94.5%となっている。一方『そう思わない（計）』の割合が最も高いのは「自営業者（計）」で20.0%となっている。



(6) 推進したほうがよいと思う理由〔新規〕

※問16で「1 そう思う」、「2 どちらかといえばそう思う」と回答された方のみお答えください。

問17. その理由を教えてください。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



推進したほうがよいと思う理由では、「子育ては夫婦で行うものだから」が76.9%で最も高く、以下「女性の子育てに対する負担が軽くなるから」（66.4%）、「子どもと接する時間が増えることで、父親としての自覚を持ちやすくなるから」（48.2%）が続いている。

性別にみると、女性が男性よりも割合が高いのは、「子どもと接する時間が増えることで、父親としての自覚を持ちやすくなるから」で12.1ポイント、「子育ては夫婦で行うものだから」で9.1ポイント、

「子どもと接する時間が増えることで、父親が育児の楽しさを知ることができるから」で6.7ポイント、それぞれ高くなっている。

男性が女性よりも割合が高いのは、「女性の子育てに対する負担が軽くなるから」で12.9ポイント、「出産・子育てに伴う女性の離職防止につながるから」で6.4ポイント、それぞれ高くなっている。

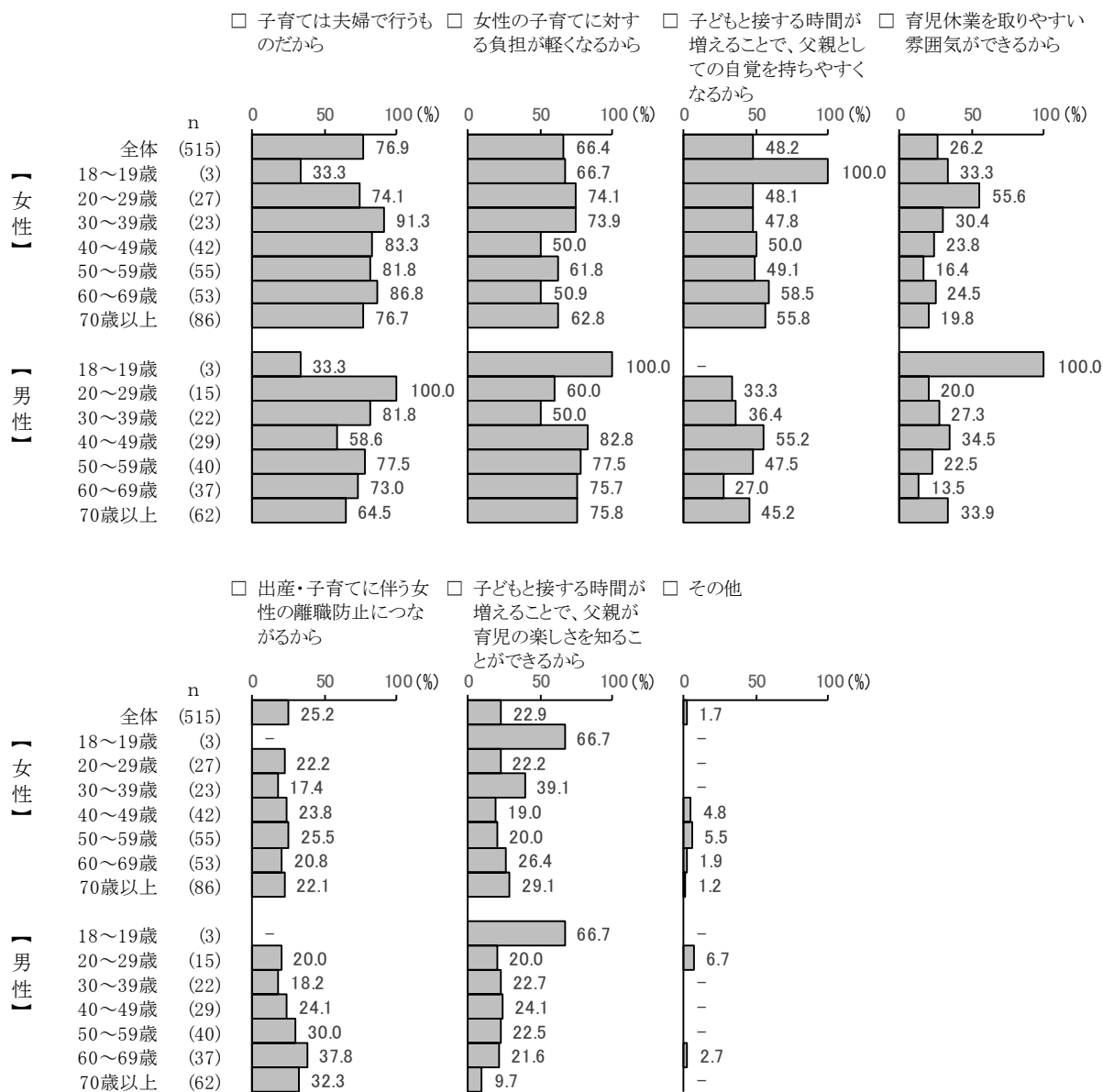
調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（6）推進したほうがよいと思う理由

【性・年齢別】

「女性の子育てに対する負担が軽くなるから」を推進した方がよいと思う理由として回答した割合は、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上で女性よりも男性の方が高くなっている。

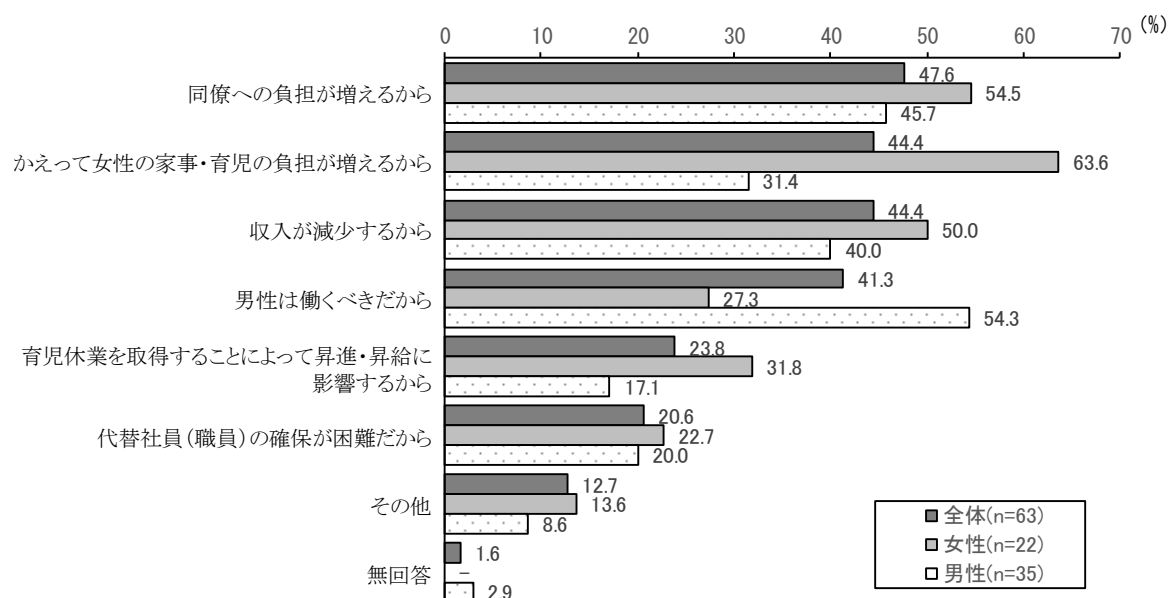
「育児休業を取りやすい雰囲気ができるから」は女性20～29歳が5割台半ばと高くなっている。



(7) 推進しないほうがよいと思う理由〔新規〕

※問16で「3 どちらかといえばそう思わない」、「4 そう思わない」と回答された方のみ
 お答えください。

問18. その理由を教えてください。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



推進しないほうがよいと思う理由は、「同僚への負担が増えるから」が47.6%で最も高く、次いで「かえって女性の家事・育児の負担が増えるから」、「収入が減少するから」で44.4%、「男性は働くべきだから」で41.3%となっている。

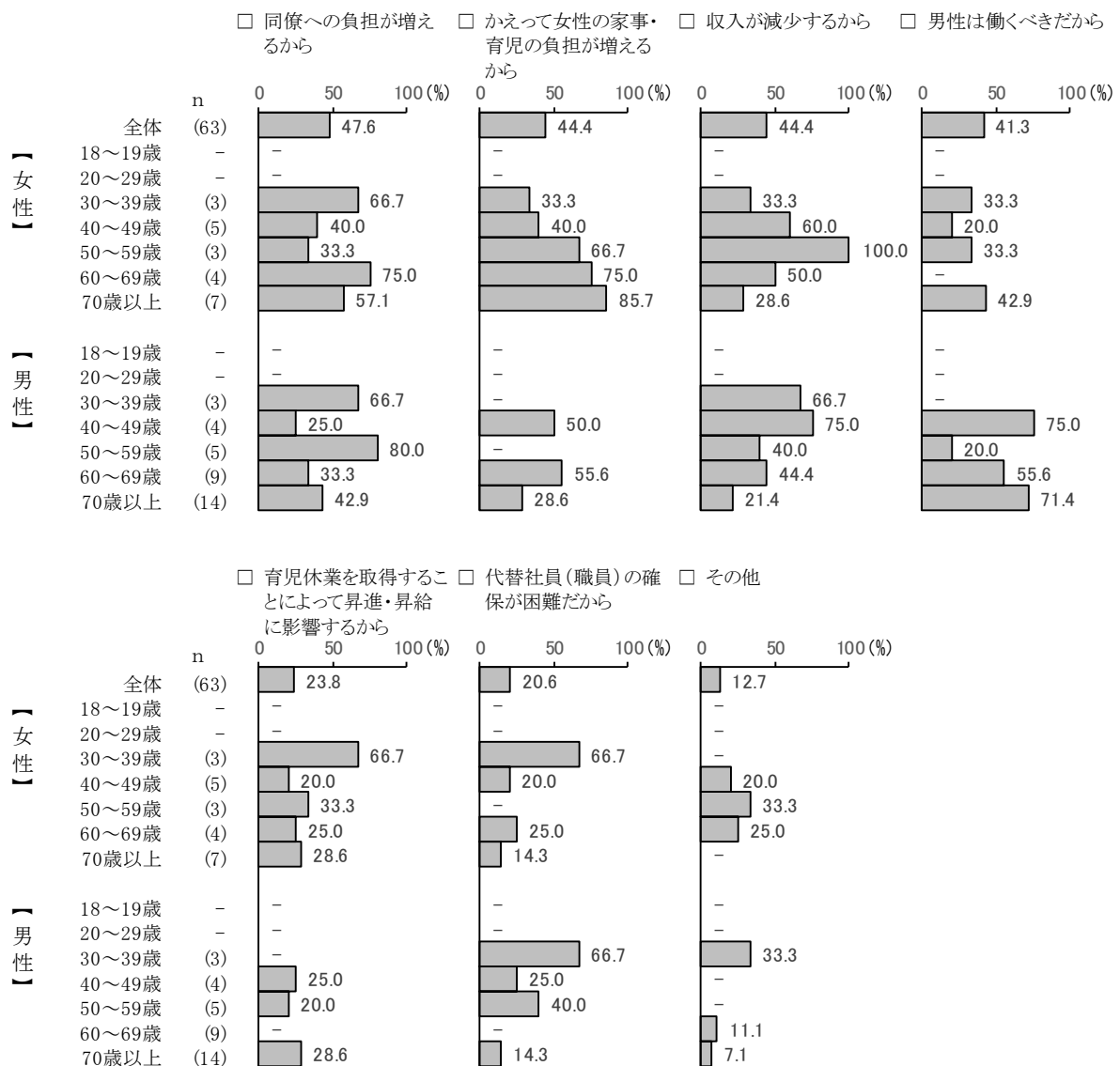
性別にみると、女性が男性よりも割合が高いのは、「かえって女性の家事・育児の負担が増えるから」で32.2ポイント、「育児休業を取得することによって昇進・昇給に影響するから」で14.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「男性は働くべきだから」では、男性が女性よりも27.0ポイント高くなっている。

調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（7）推進しないほうがよいと思う理由

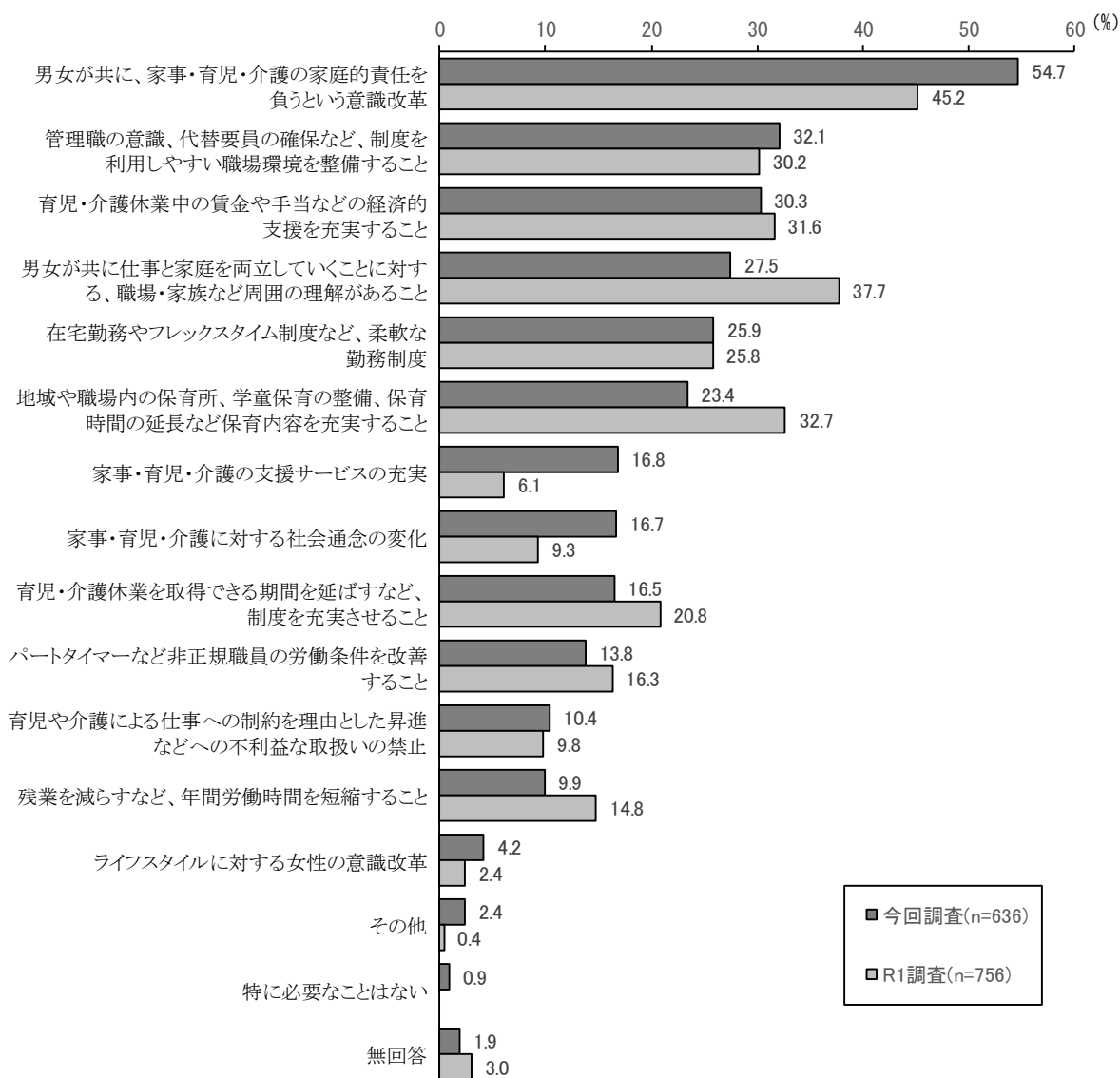
【性・年齢別】

回答者数が少ないため参考値として掲載する。



（8）仕事と家庭生活の両立のために必要と思う環境整備

問19. 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



仕事と家庭生活の両立のために必要と思う環境整備は、「男女が共に、家事・育児・介護の家庭的責任を負うという意識改革」が54.7%で最も高く、次いで「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境を整備すること」で32.1%、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」で30.3%となっている。

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、「家事・育児・介護の支援サービスの充実」で10.7ポイント、「男女が共に、家事・育児・介護の家庭的責任を負うという意識改革」で9.5ポイント、「家事・育児・介護に対する社会通念の変化」で7.4ポイント、それぞれ高くなっている。

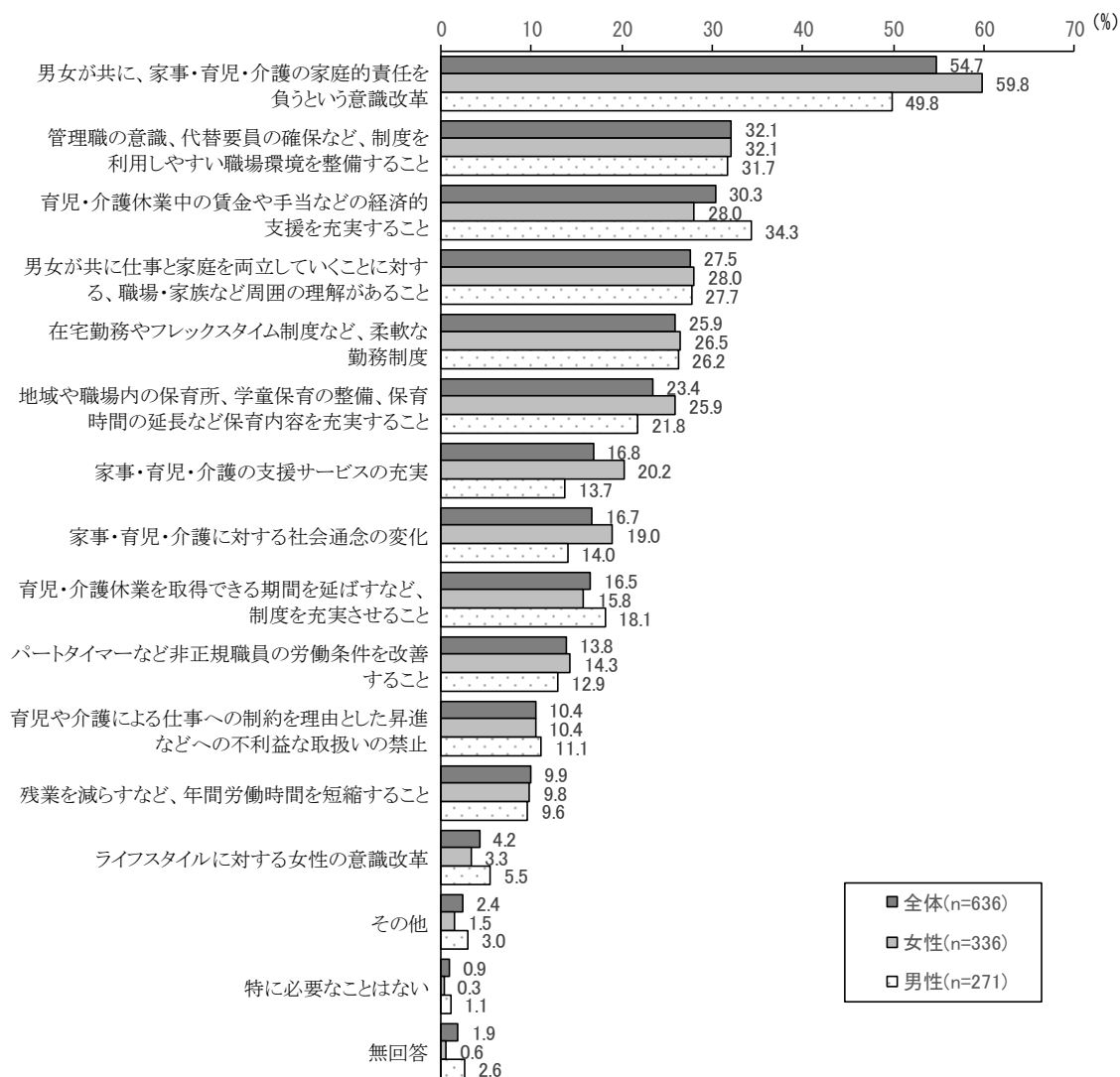
一方、「男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対する、職場・家族など周囲の理解があること」で10.2ポイント、「地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」で9.3ポイント、それぞれ低くなっている。

調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（8）仕事と家庭生活の両立のために必要と思う環境整備

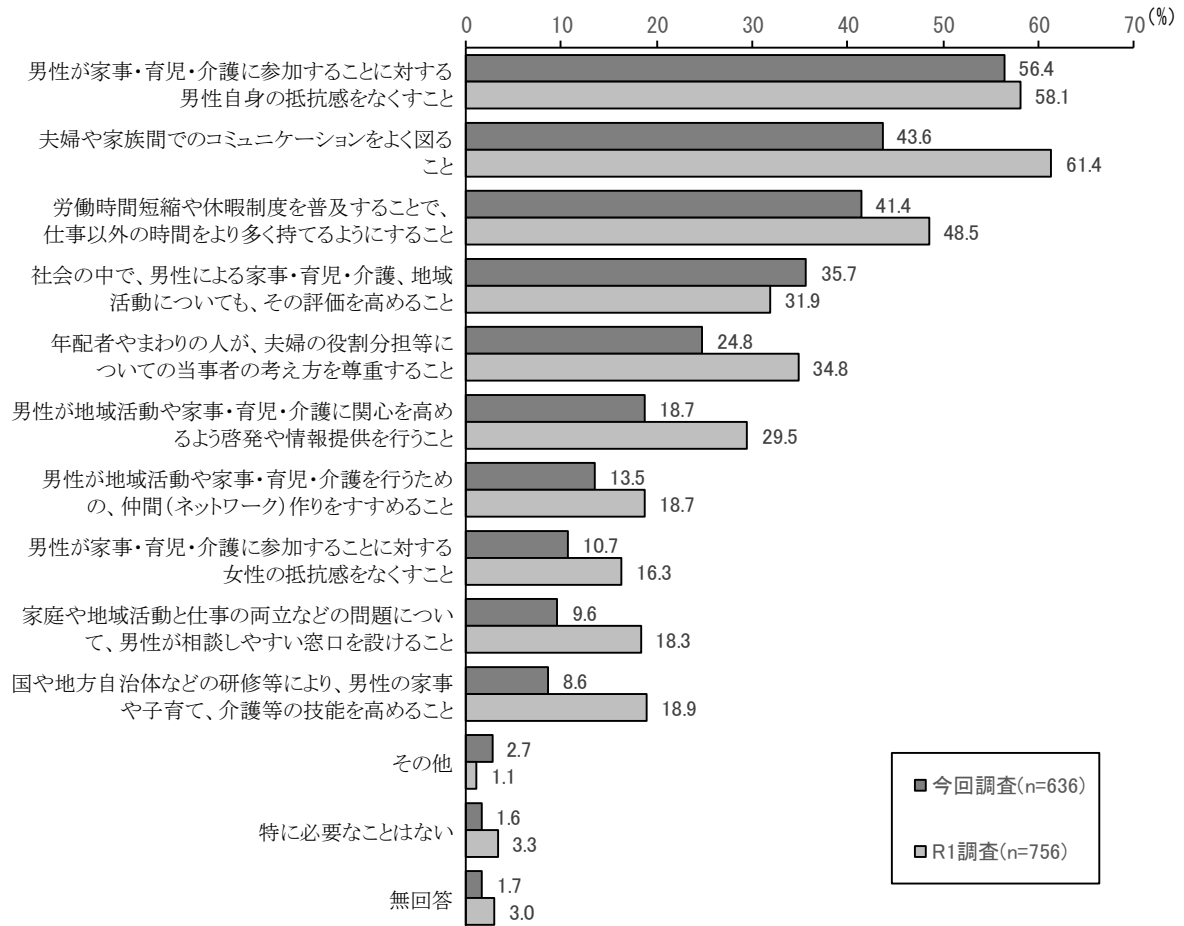
【性別】

性別にみると、女性が男性よりも割合が高いのは、「男女が共に、家事・育児・介護の家庭的責任を負うという意識改革」で10.0ポイント、「家事・育児・介護の支援サービスの充実」で6.5ポイント、「家事・育児・介護に対する社会通念の変化」で5.0ポイント、それぞれ高くなっている。「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」では男性が女性よりも6.3ポイント高くなっている。



（9）男性が家事等に参加するために必要な環境整備

問20. 今後、男性が、地域活動や家事・育児・介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



※R1 調査：「該当する番号すべてに○をつけてください」で実施

男性が家事等に参加するために必要な環境整備は、「男性が家事・育児・介護に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が56.4%で最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」で43.6%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」で41.4%となっている。

【前回調査（令和元年）との比較】

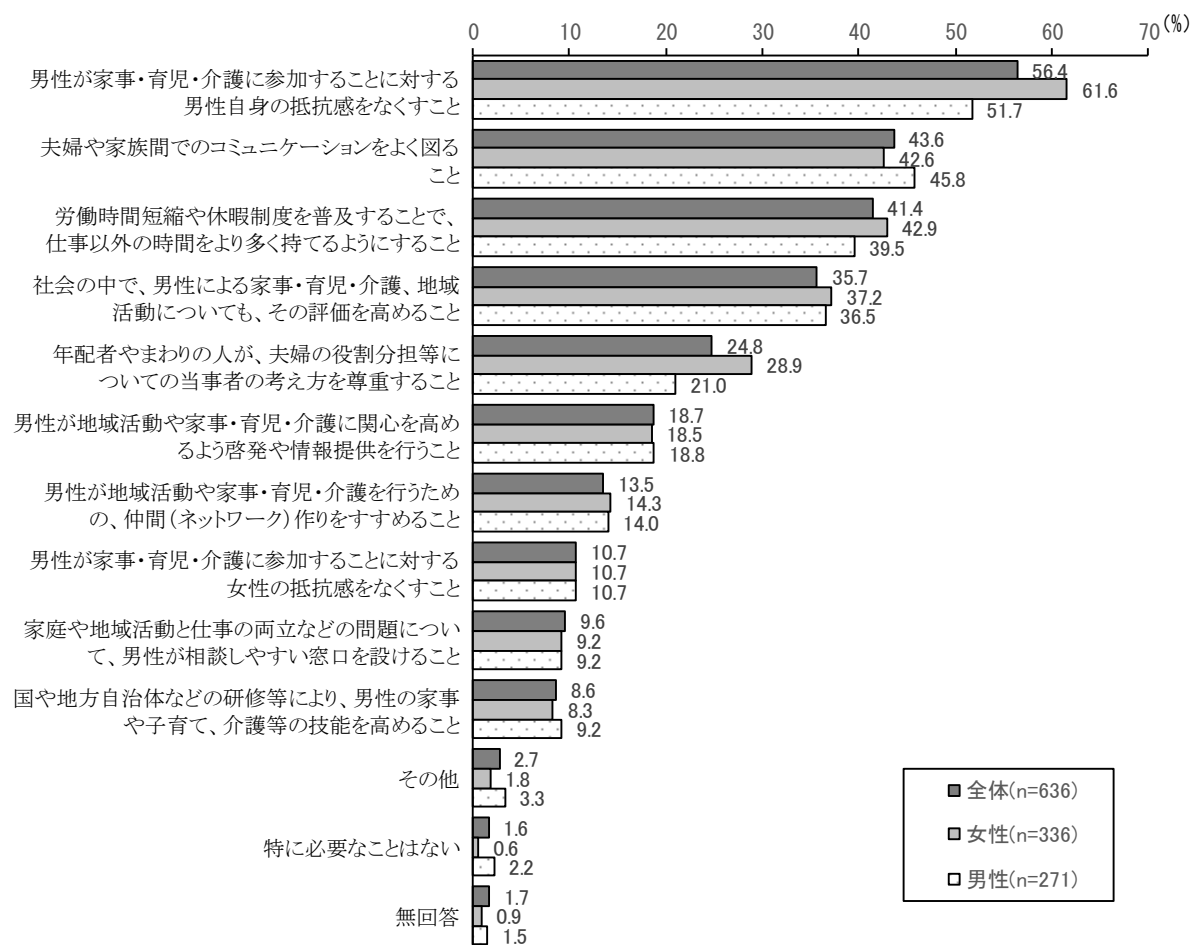
前回調査（該当する番号すべてに○）と今回調査（あてはまる番号に3つまで○）では回答条件が異なるが、「男性が家事・育児・介護に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が上位の回答であることに変わりはない。

調査の結果／6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（9）男性が家事等に参加するために必要な環境整備

【性別】

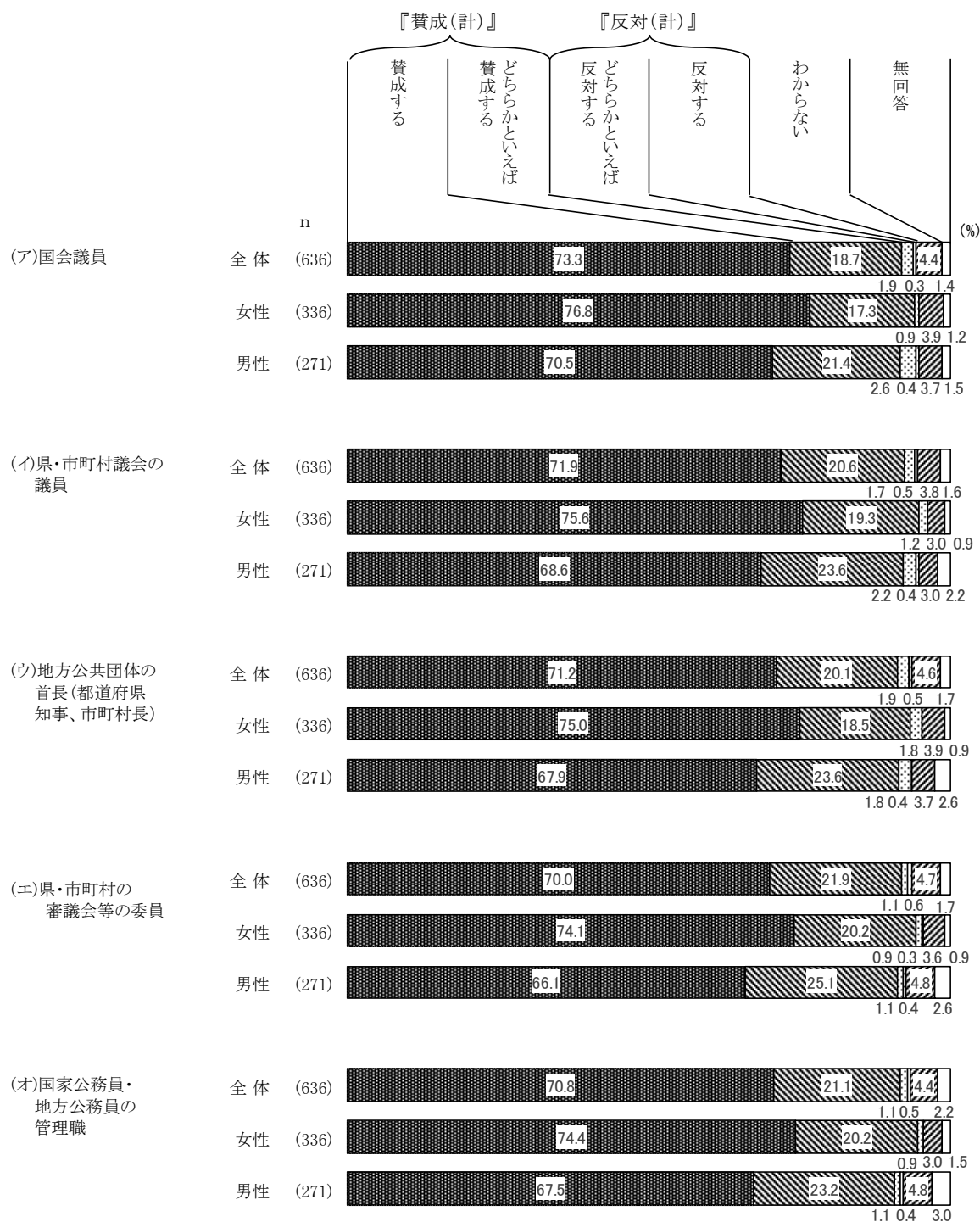
性別にみると、「男性が家事・育児・介護に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」で女性が男性よりも9.9ポイント高くなっている。



7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について

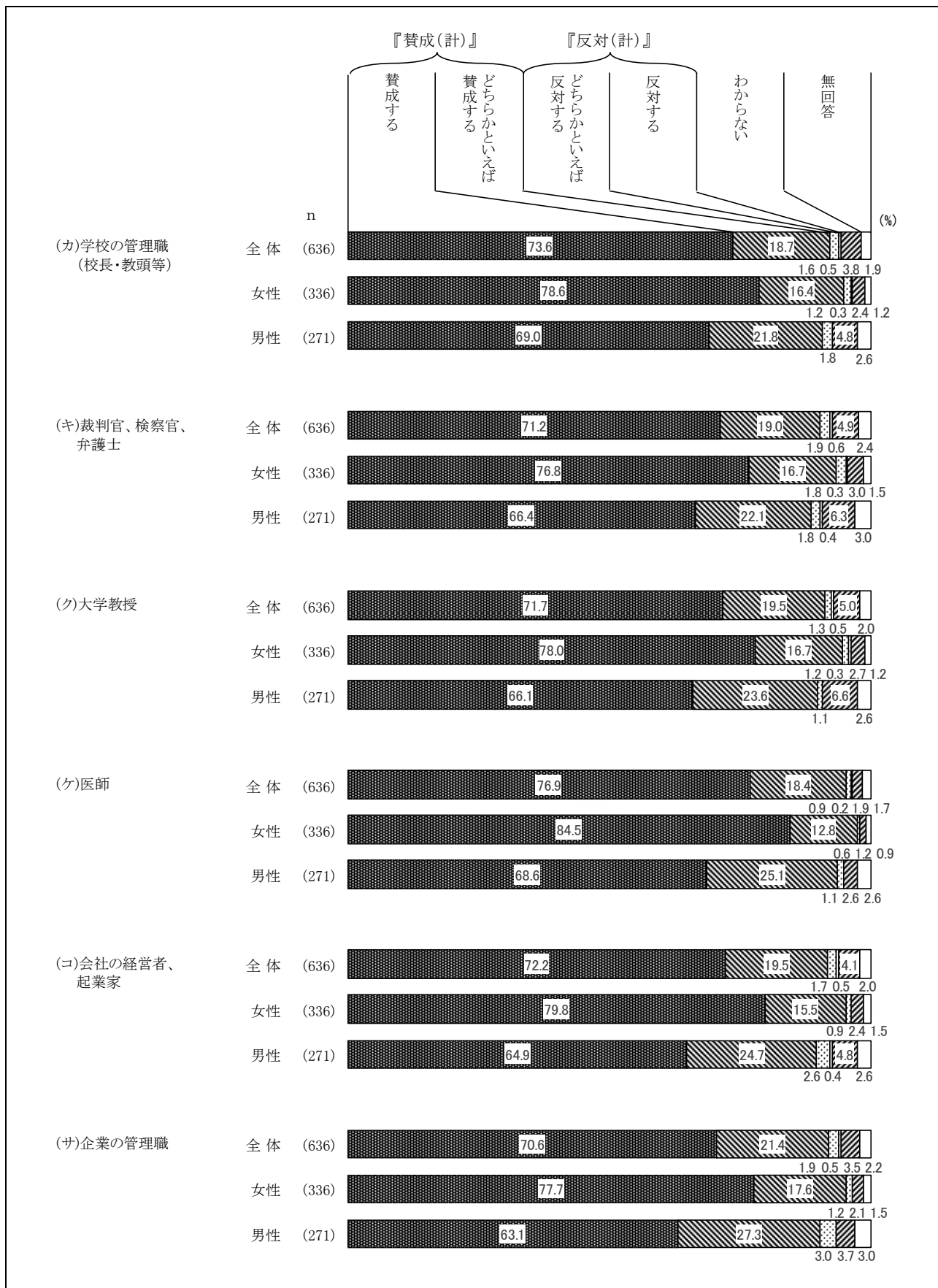
(1) 役職・公職への女性の進出についての考え方

問21. あなたは、次の(ア)～(ソ)にあげるような役職・公職への女性の進出について、どのように思いますか。(ア)～(ソ)それぞれについて、あなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。※(ソ)については、該当がある場合のみご記入ください。

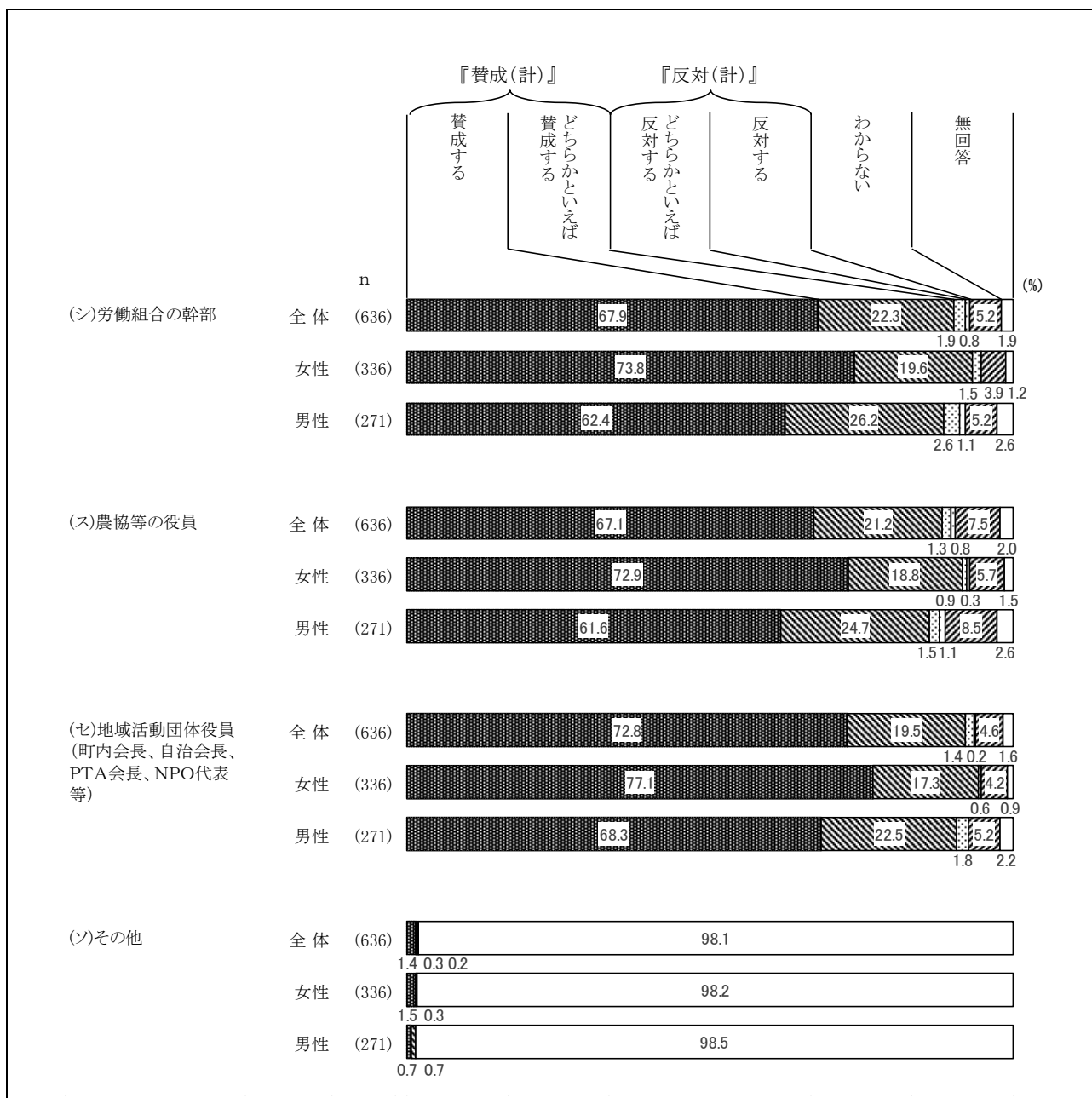


調査の結果／7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について

(1) 役職・公職への女性の進出についての考え方



調査の結果／7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について
(1) 役職・公職への女性の進出についての考え方



役職・公職への女性の進出についての考え方について、『賛成(計)』の割合は、「(ス)農協等の役員」を除くすべての分野において、9割を超えている。

『賛成(計)』の割合が最も高いのは、「(ケ)医師」で95.3%となっており、次いで「(イ)県・市町村議会の議員」で92.5%、「(カ)学校の管理職(校長・教頭等)」、「(セ)地域活動団体役員(町内会長、自治会長、PTA会長、NPO代表等)」でともに92.3%となっている。

一方、『反対(計)』の割合は、すべての項目で1割未満となっている。

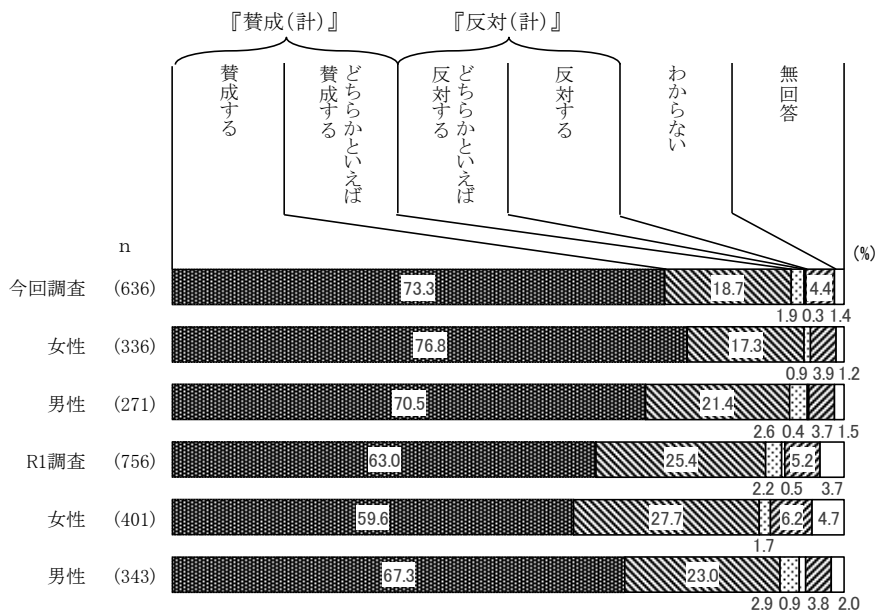
調査の結果／7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について

(1) 役職・公職への女性の進出についての考え方

(ア) 国会議員

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、女性の『賛成（計）』の割合は、6.8ポイント高くなっている。

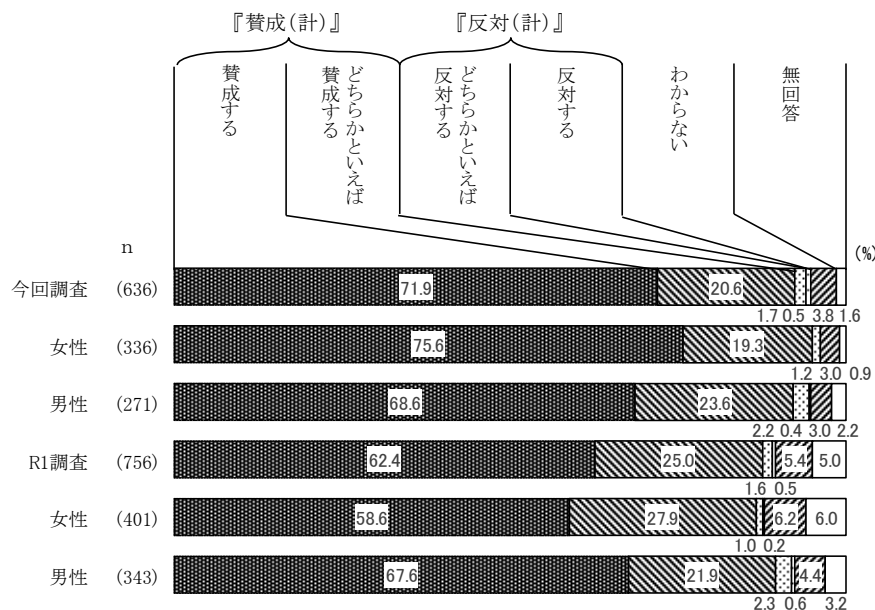


(イ) 県・市町村議会の議員

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は前回調査よりも5.1ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも女性で8.4ポイント、男性で2.7ポイント、それぞれ高くなっている。

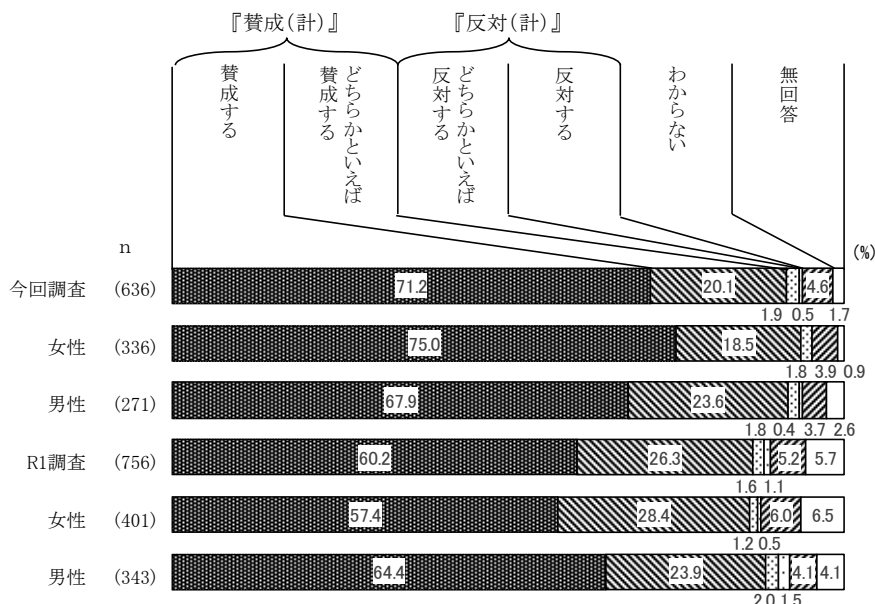


(ウ) 地方公共団体の首長（都道府県知事、市町村長）

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも4.8ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、女性で前回調査よりも7.7ポイント、男性で3.2ポイントそれぞれ高くなっている。

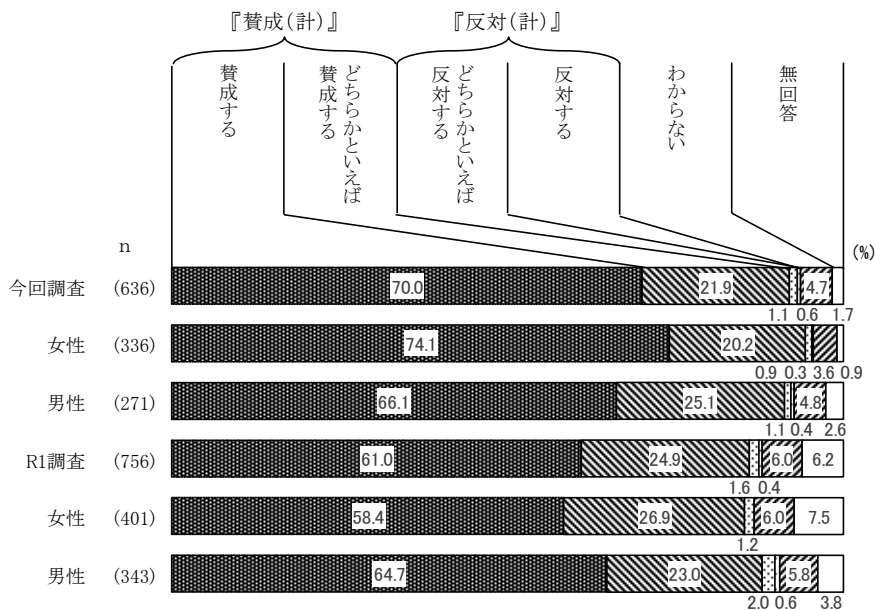


(エ) 県・市町村の審議会等の委員

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも6.0ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、女性で前回調査よりも9.0ポイント、男性で3.5ポイントそれぞれ高くなっている。



調査の結果／7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について

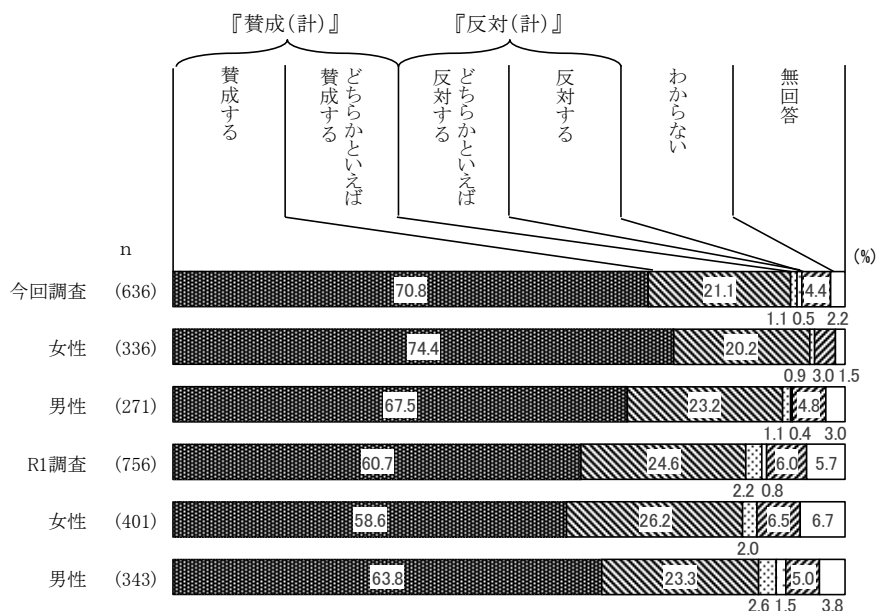
(1) 役職・公職への女性の進出についての考え方

(オ) 国家公務員・地方公務員の管理職

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも6.6ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、女性で前回調査よりも9.8ポイント、男性で3.6ポイントそれぞれ高くなっている。

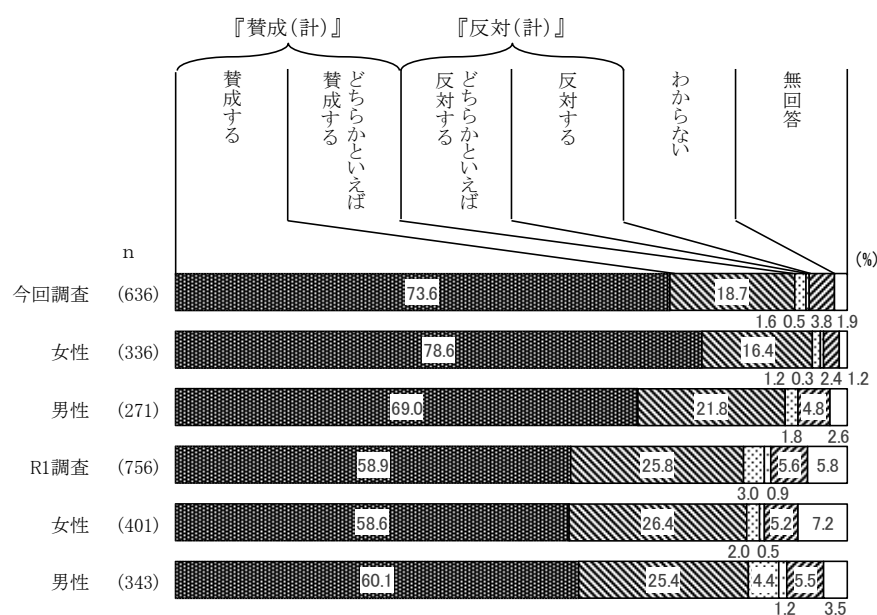


(カ) 学校の管理職（校長・教頭等）

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも7.6ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』は、女性で前回調査よりも10.0ポイント、男性が5.3ポイントそれぞれ高くなっている。

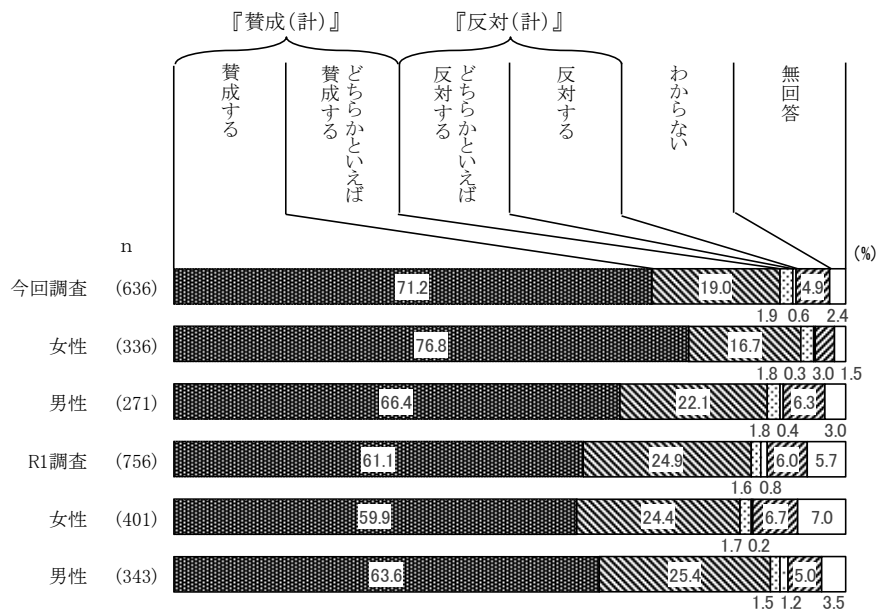


(キ) 裁判官、検察官、弁護士

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも4.2ポイント高くなっている。

『賛成（計）』の割合は、女性で前回調査よりも9.2ポイント高くなっている。

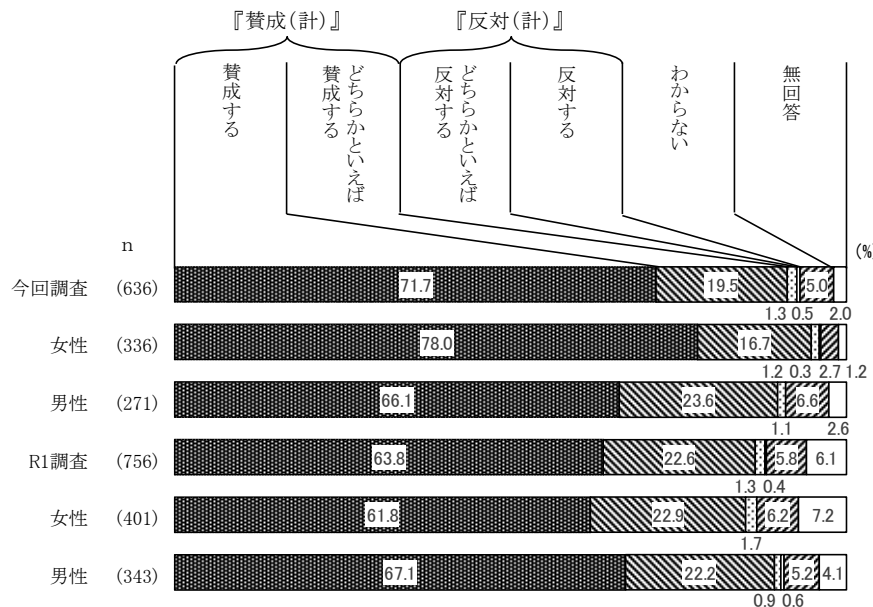


(ク) 大学教授

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも4.8ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』は、女性で前回調査よりも10.0ポイント高くなっている。



調査の結果／7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について

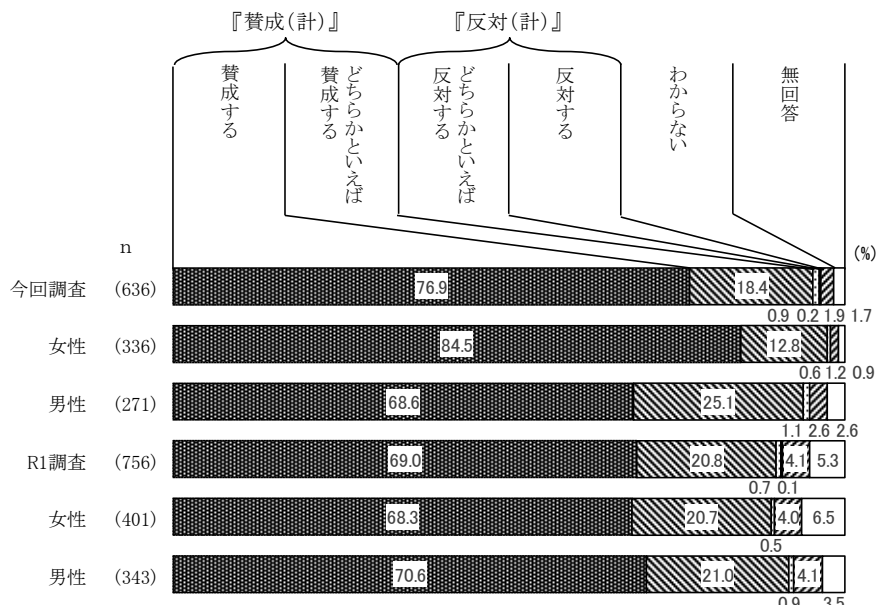
(1) 役職・公職への女性の進出についての考え方

(ケ) 医師

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも5.5ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、女性で前回調査よりも8.3ポイント高くなっている。

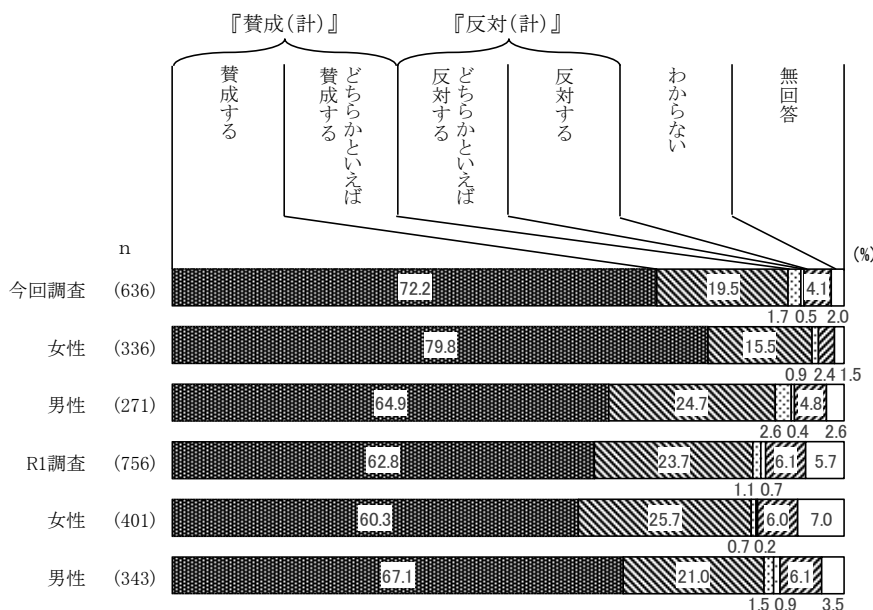


(コ) 会社の経営者、起業家

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも5.2ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、女性で前回調査よりも9.3ポイント高くなっている。

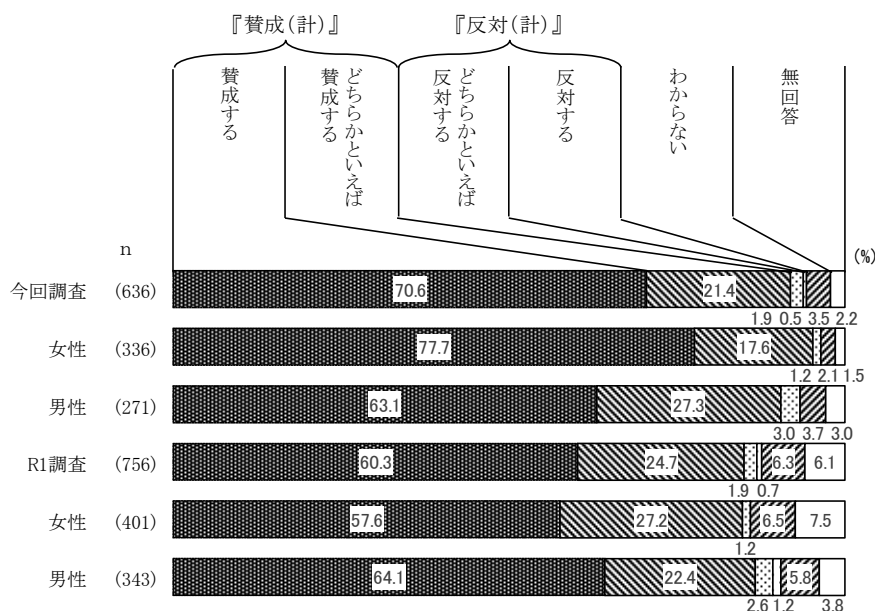


(サ) 企業の管理職

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも7.0ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも女性で10.5ポイント、男性で3.9ポイントそれぞれ高くなっている。

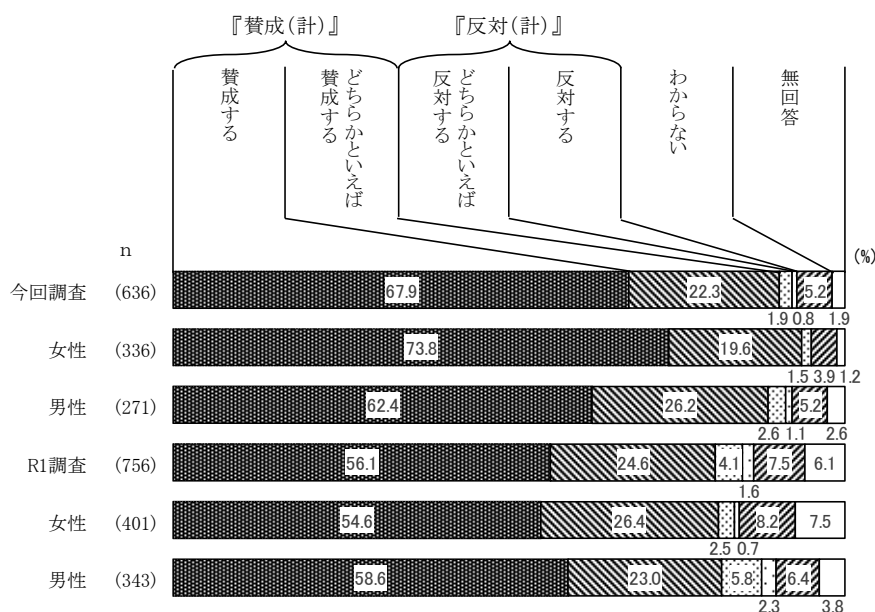


(シ) 労働組合の幹部

【前回調査（令和元年）との比較】

全体で『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも9.5ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも女性で12.4ポイント、男性で7.0ポイントそれぞれ高くなっている。



調査の結果／7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について

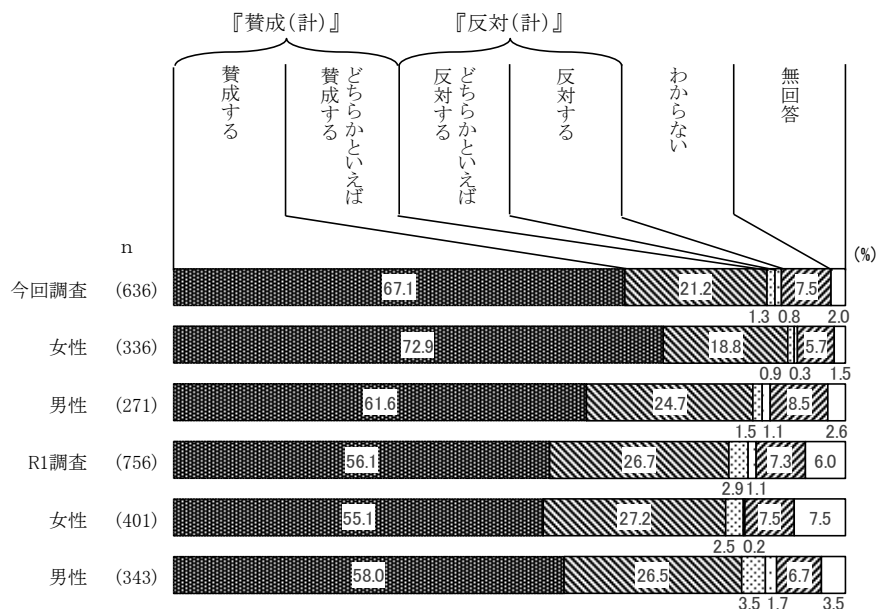
(1) 役職・公職への女性の進出についての考え方

(ス) 農協等の役員

【前回調査（令和元年）との比較】

全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも5.5ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』は、女性が前回調査よりも9.4ポイント高くなっている。

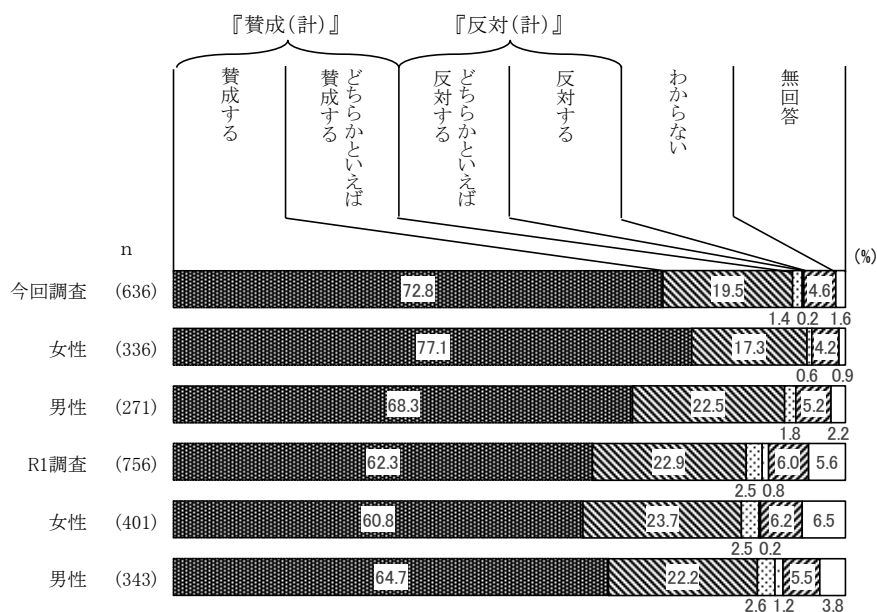


(セ) 地域活動団体役員（町内会長、自治会長、PTA会長、NPO代表等）

【前回調査（令和元年）との比較】

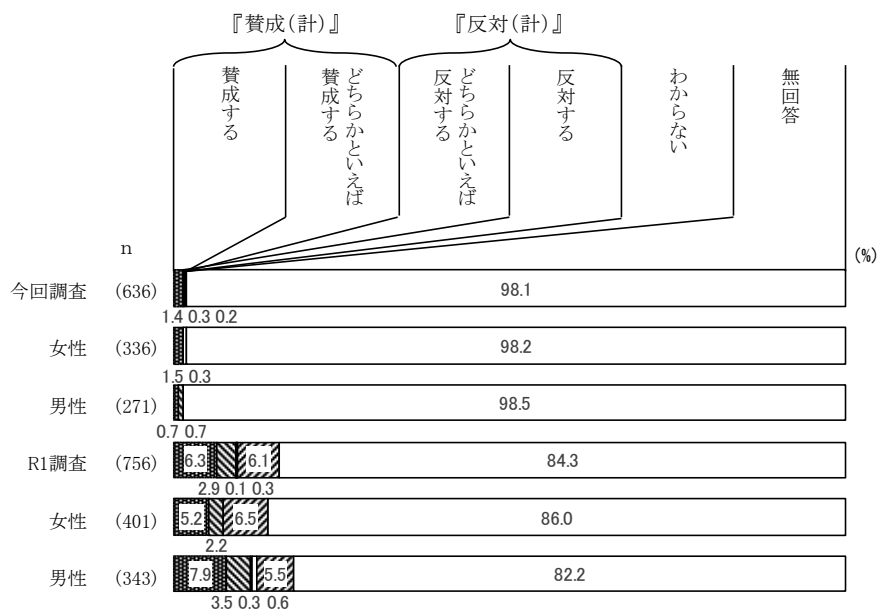
全体では『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも7.1ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、女性が前回調査よりも9.9ポイント、男性で3.9ポイントそれぞれ高くなっている。



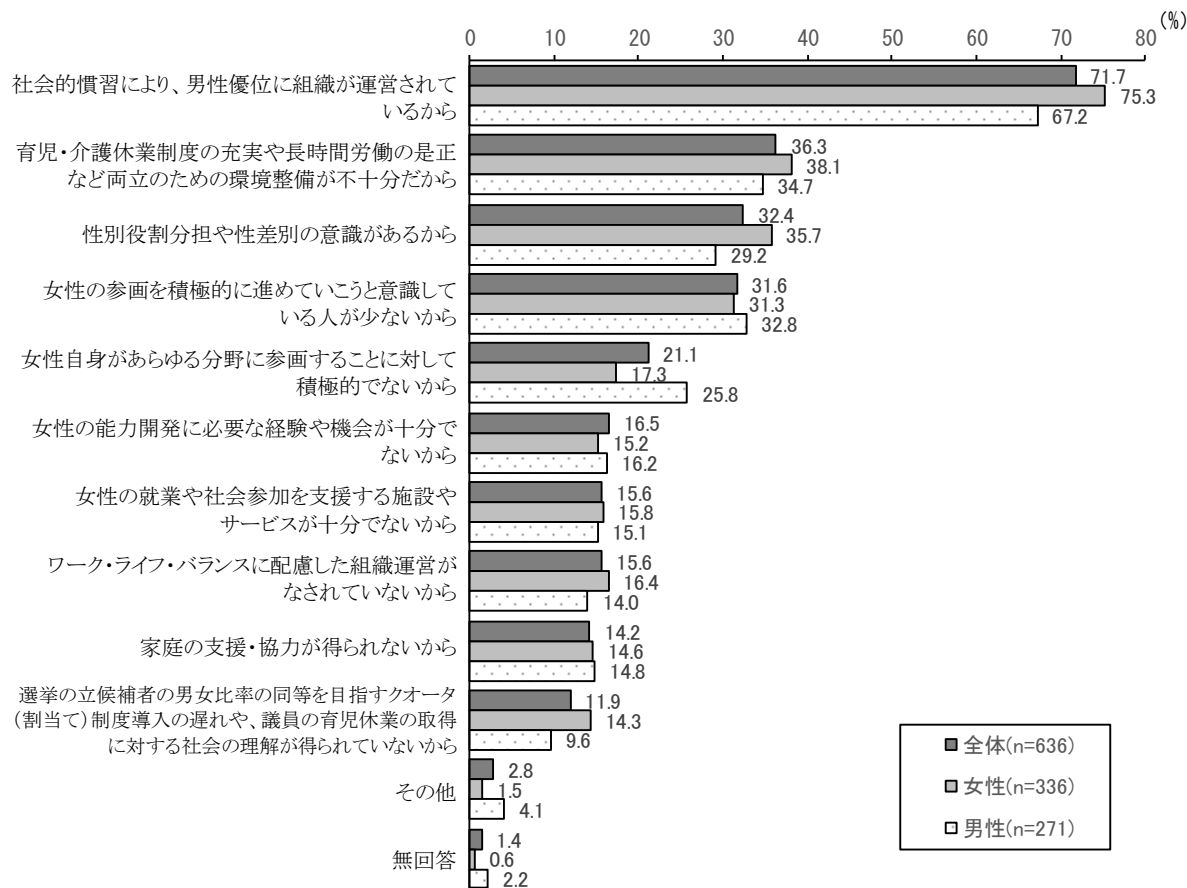
(ソ) その他【前回調査（令和元年）との比較】

回答者数が少ないため参考値として掲載する。



(2) 政策や企画、方針決定に関わる女性の割合が少ない理由

問2 2. あなたは、政治や行政、職場、地域などあらゆる分野において、政策や企画、方針決定の場に女性の割合が少ない理由は何だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



政策や企画、方針決定に関わる女性の割合が少ない理由は、「社会的慣習により、男性優位に組織が運営されているから」が71.7%で最も高く、次いで「育児・介護休業制度の充実や長時間労働の是正など両立のための環境整備が不十分だから」で36.3%、「性別役割分担や性差別の意識があるから」で32.4%となっている。

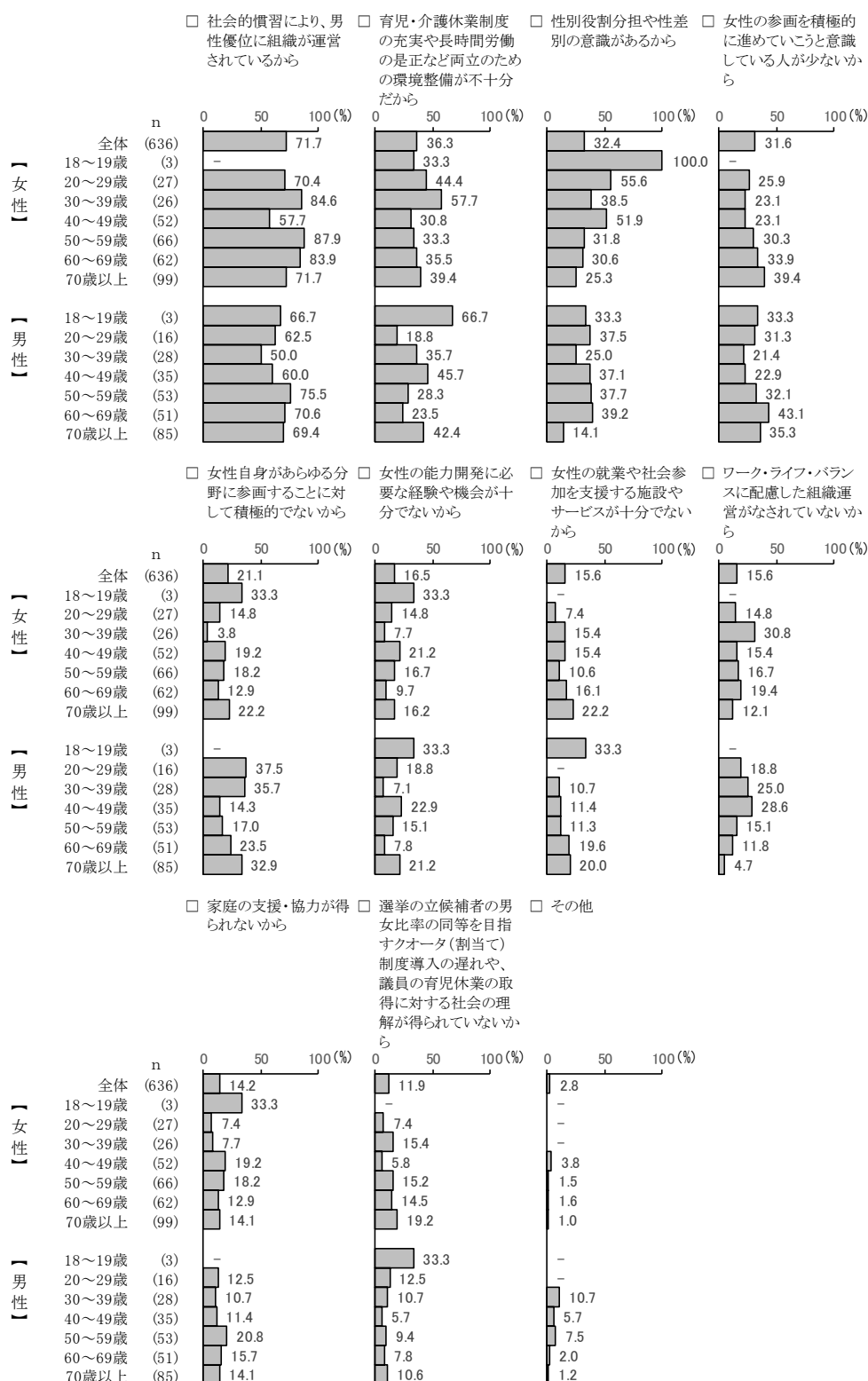
性別にみると、女性が男性よりも割合が高いのは、「社会的慣習により、男性優位に組織が運営されているから」で8.1ポイント、「性別役割分担や性差別の意識があるから」で6.5ポイント、それぞれ高くなっている。

男性が女性よりも割合が高いのは「女性自身があらゆる分野に参画することに対して積極的でないから」で8.5ポイント高くなっている。

調査の結果／7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について
(2) 政策や企画、方針決定に関わる女性の割合が少ない理由

【性・年齢別】

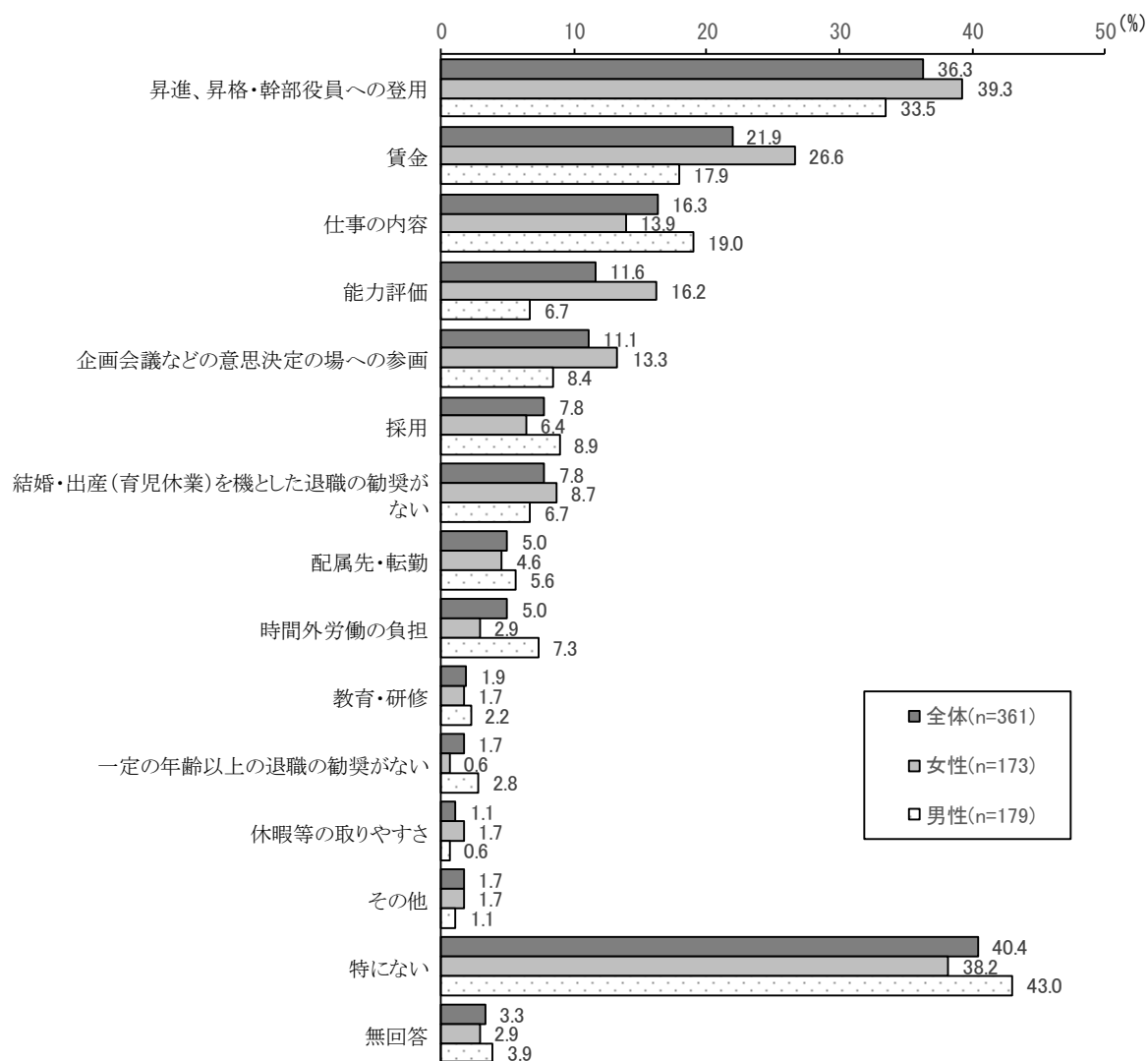
性・年齢別にみると、「社会的慣習により、男性優位に組織が運営されているから」は、女性50～59歳、女性30～39歳、女性60～69歳で8割を超えている。



(3) 職場で仕事内容や待遇面の運用などで男性が優遇されていると思うこと

※現在働いている方のみお答えください

問23. あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面の運用や実態で、男性が優遇されていると思うことはありますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



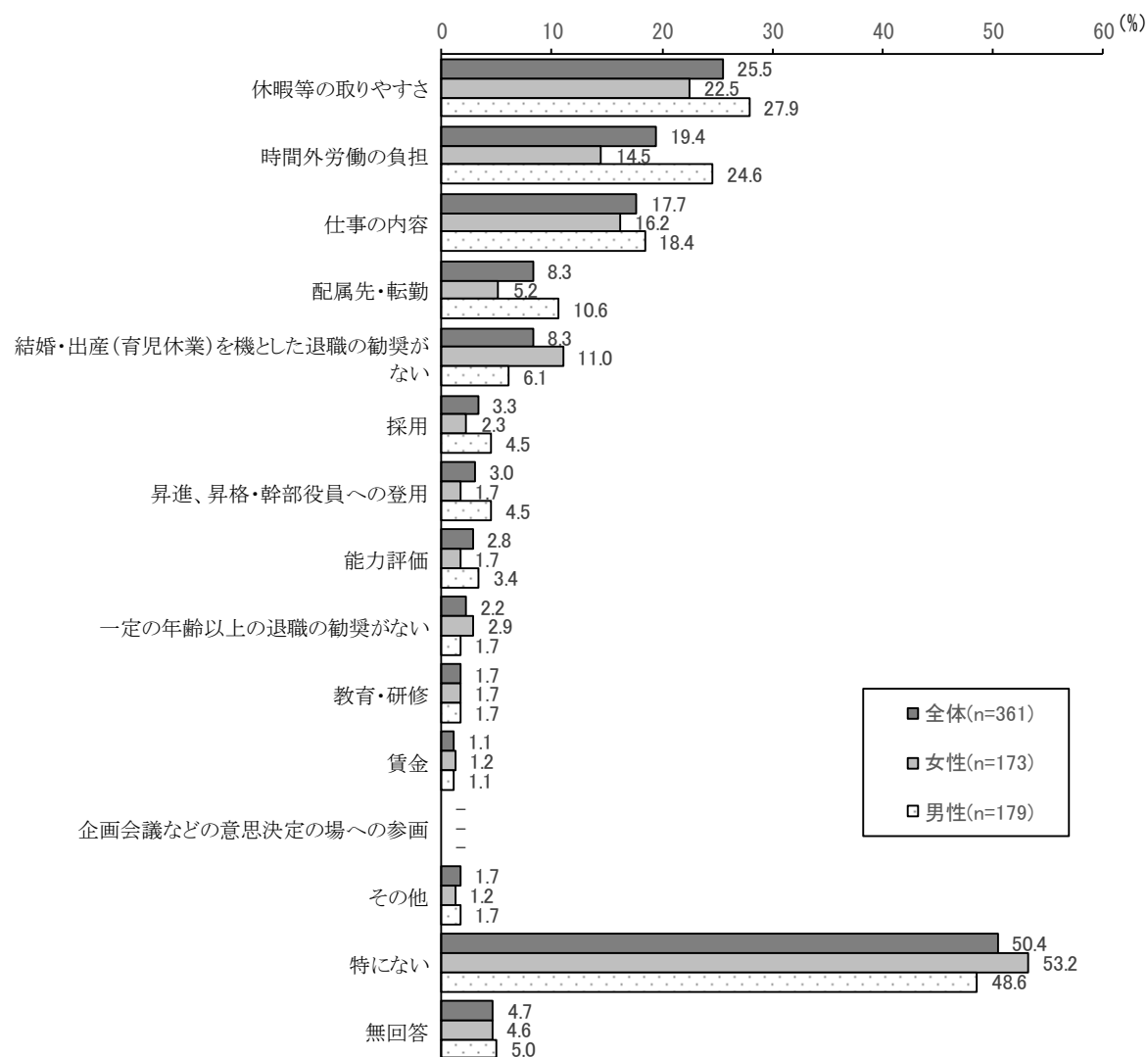
職場で仕事内容や待遇面の運用などで男性が優遇されていると思うことは、「昇進、昇格・幹部役員への登用」が36.3%で最も高く、次いで「賃金」で21.9%、「仕事の内容」で16.3%となっている。

性別にみると、「能力評価」で9.5ポイント、「賃金」で8.7ポイント、女性が男性よりもそれぞれ高くなっている。一方、「仕事の内容」では、男性が女性よりも5.1ポイント高くなっている。

(4) 職場で仕事内容や待遇面の運用などで女性が優遇されていると思うこと

※現在働いている方のみお答えください

問24. あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面の運用や実態で、女性が優遇されていると思うことはありますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



職場で仕事内容や待遇面の運用などで女性が優遇されていると思うことは、「休暇等の取りやすさ」が25.5%で最も高く、次いで「時間外労働の負担」で19.4%、「仕事の内容」で17.7%となっている。

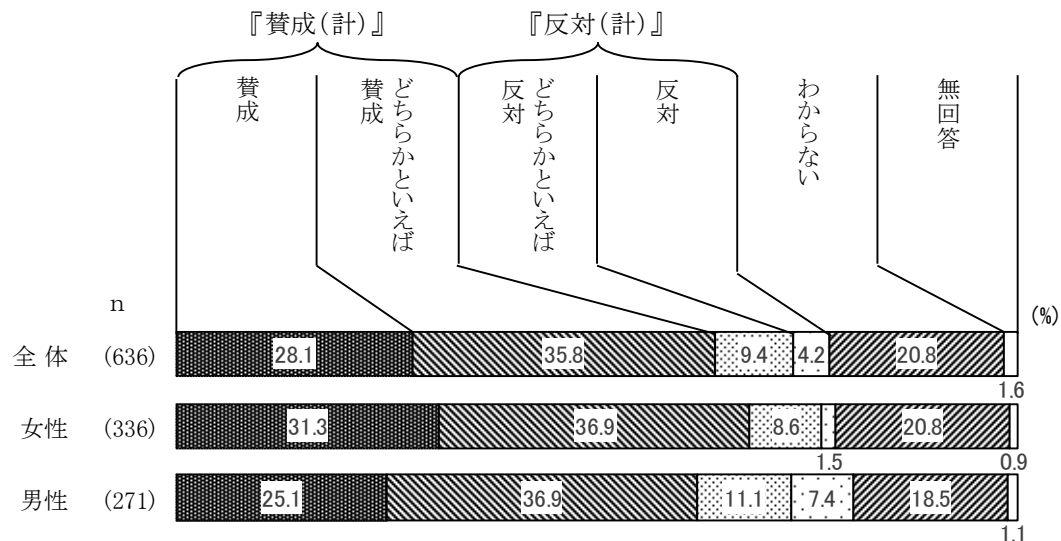
性別にみると、女性が男性よりも割合が高いのは、「結婚・出産（育児休業）を機とした退職の勧奨がない」で4.9ポイント高くなっている。

男性が女性よりも割合が高いのは、「時間外労働の負担」で10.1ポイント、「休暇等の取りやすさ」で5.4ポイント、「配属先・転勤」で5.4ポイント、それぞれ高くなっている。

(5) ポジティブ・アクションについての考え

問25. あなたは「ポジティブ・アクション(*)」についてどう思いますか。下の選択肢からあなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。

(*) 女性の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどの積極的な改善の取組のこと。



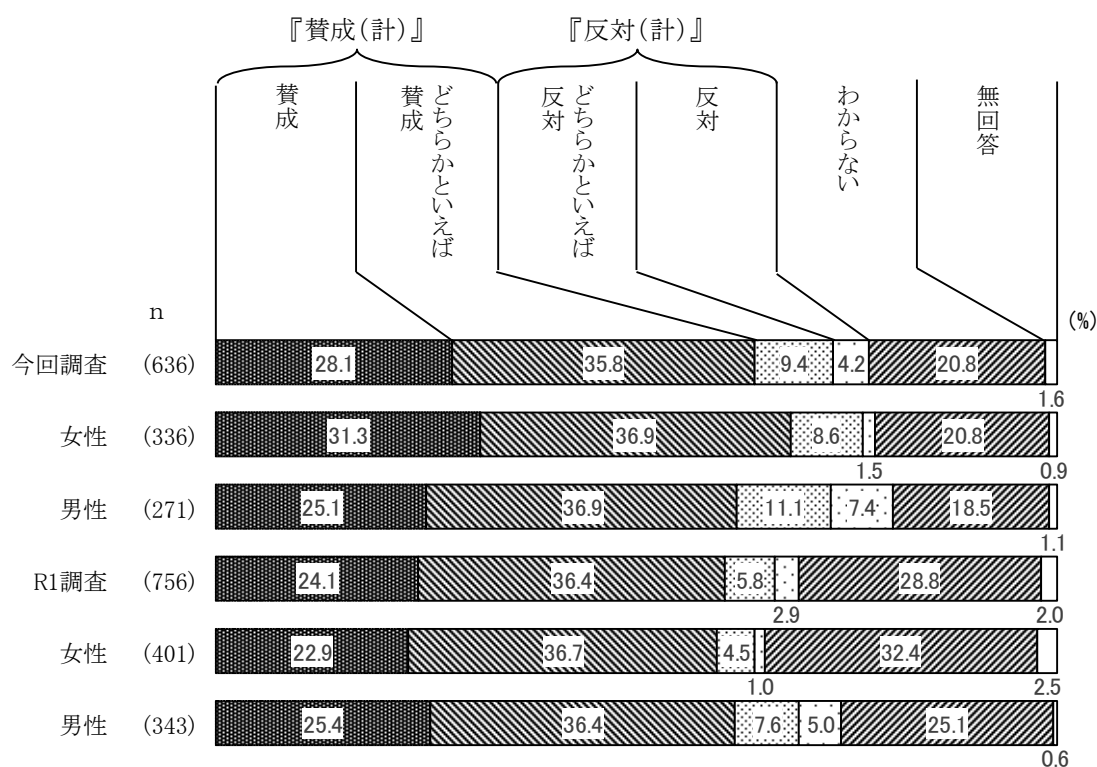
ポジティブ・アクションについてどう思うか聞いたところ、『賛成(計)』は63.9%、『反対(計)』の割合は13.6%、『わからない』は20.8%となっている。

性別にみると、『賛成(計)』は女性が男性よりも6.2ポイント高くなっている。一方、『反対(計)』の割合は男性が女性よりも8.4ポイント高くなっている。

【前回調査（令和元年）との比較】

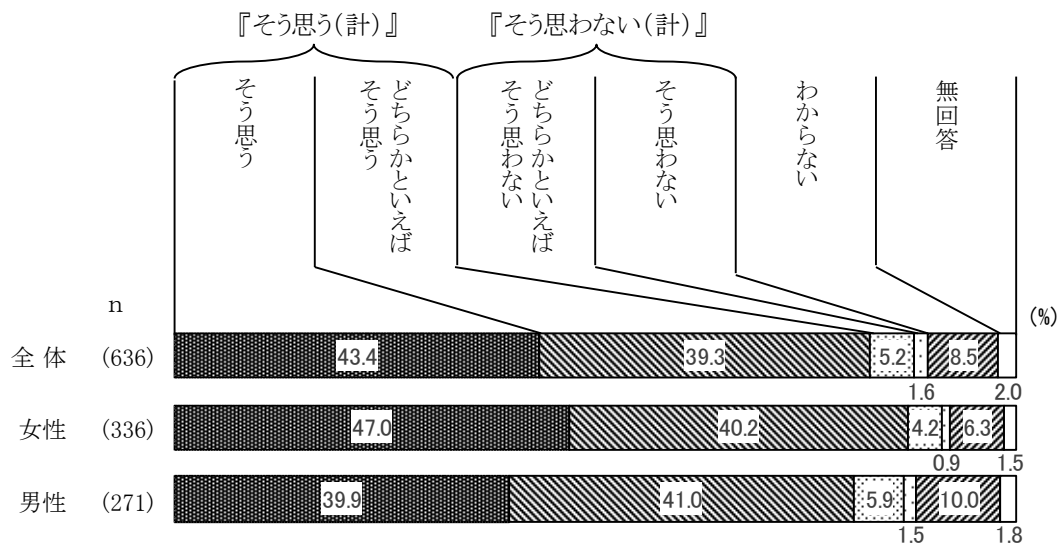
前回調査と比較すると、『反対（計）』の割合が4.9ポイント高くなっている。

性別にみると、『賛成（計）』の割合は、前回調査よりも女性が8.6ポイント、男性が0.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、『反対（計）』の割合は、前回調査よりも女性が4.6ポイント、男性が5.9ポイント、それぞれ高くなっている。



(6) 女性の活躍推進についての考え

問26. あなたは、女性の活躍を推進したほうがよいと思いますか。あなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。

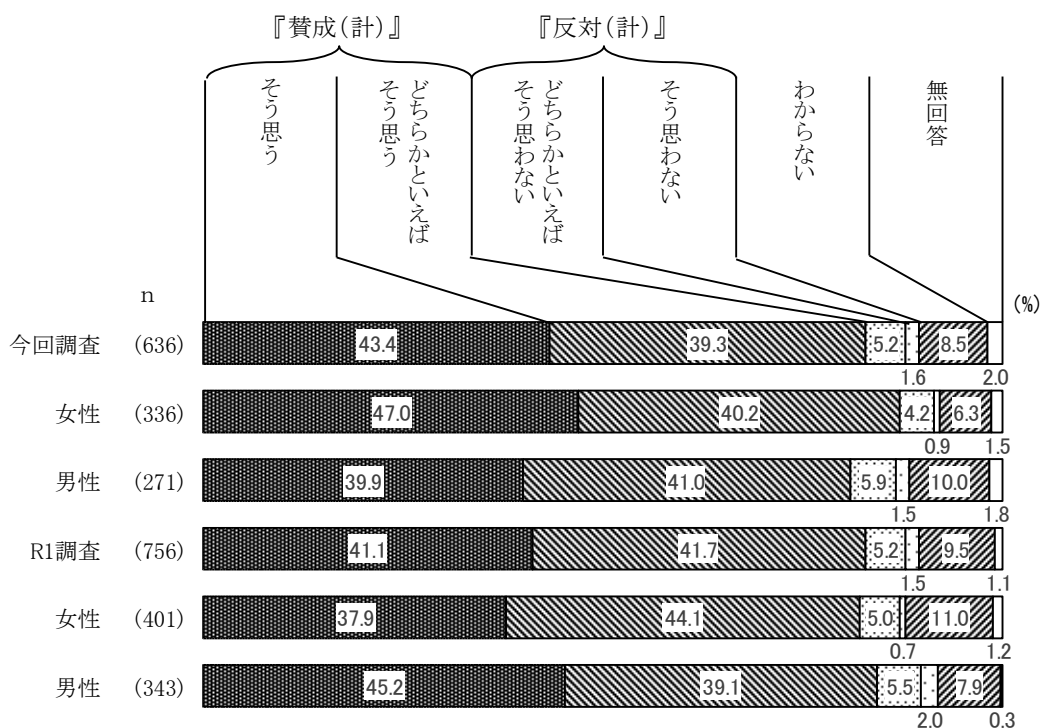


女性の活躍を推進したほうがよいと思うか聞いたところ、『そう思う(計)』の割合は82.7%で『そう思わない(計)』(6.8%)を大きく上回っている。

性別にみると、『そう思う(計)』は女性が男性よりも6.3ポイント高くなっている。

【前回調査(令和元年)との比較】

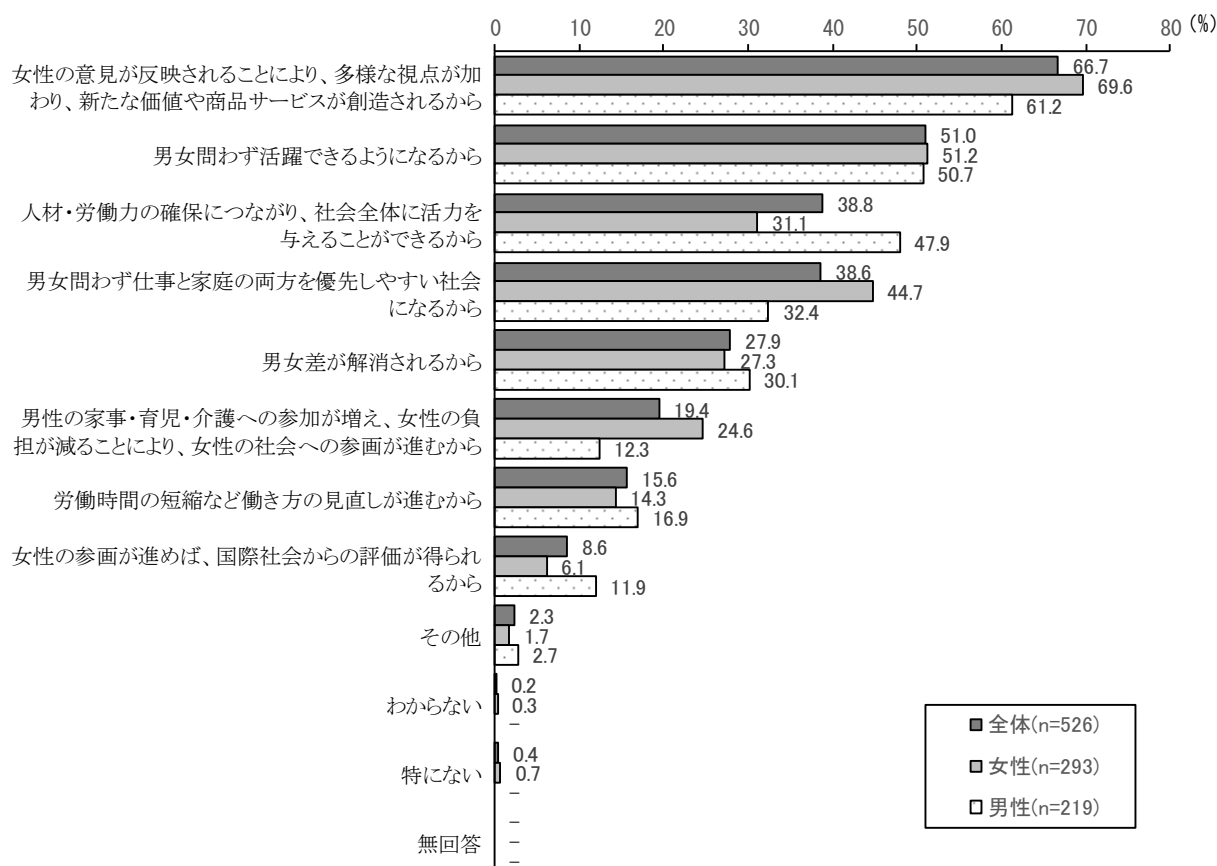
前回調査と比較すると、『そう思う(計)』の割合は、女性が5.2ポイント高くなっている一方、男性は3.4ポイント低くなっている。



(7) 女性の活躍を推進した方がよい理由

※問26で「1 そう思う」、「2 どちらかといえばそう思う」と回答された方のみお答えください。

問27. その理由を教えてください。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。



女性の活躍を推進した方がよい理由を聞いたところ、「女性の意見が反映されることにより、多様な視点が加わり、新たな価値や商品サービスが創造されるから」が66.7%で最も高く、次いで「男女問わず活躍できるようになるから」で51.0%、「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができるから」で38.8%となっている。

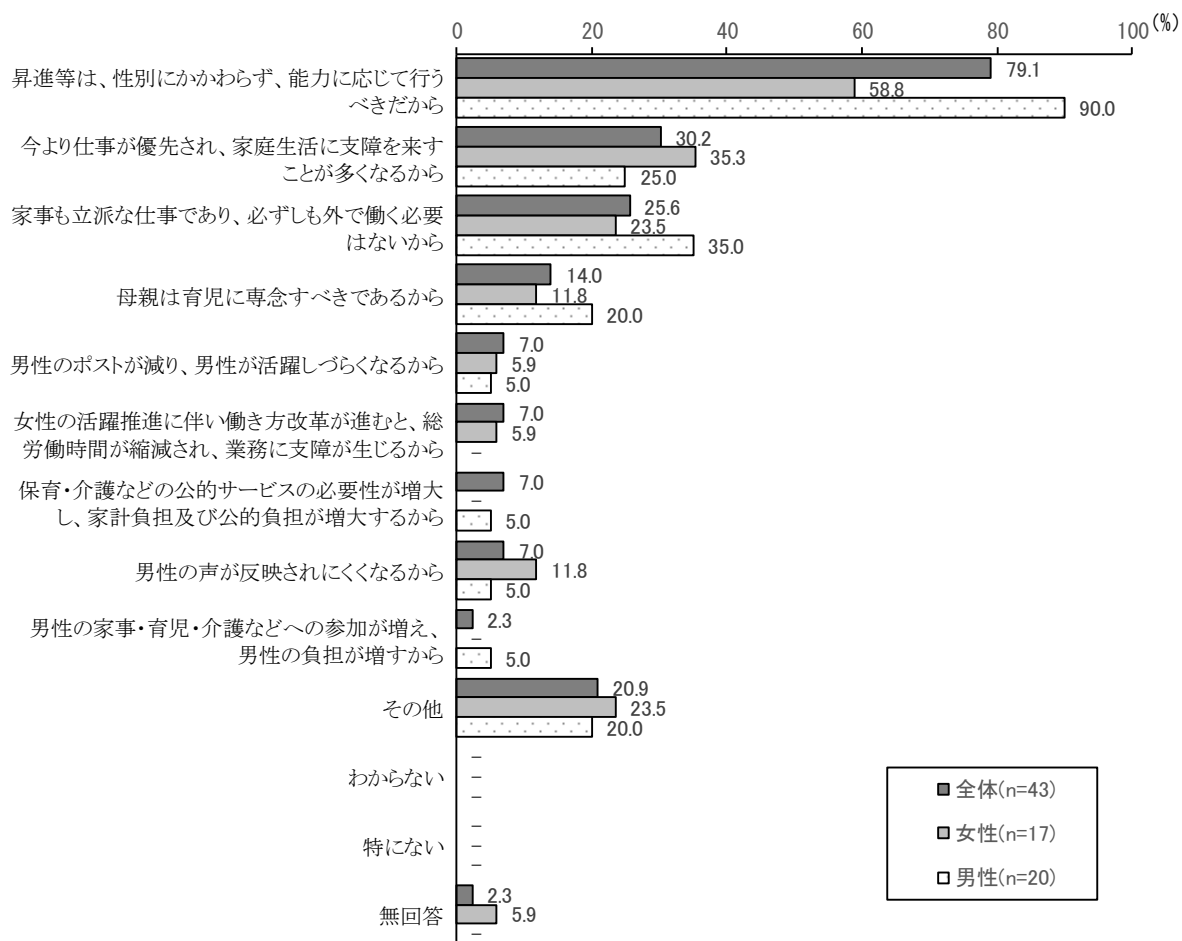
性別にみると、女性が男性よりも割合が高いのは、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になるから」で12.3ポイント、「男性の家事・育児・介護への参加が増え、女性の負担が減ることにより、女性の社会への参画が進むから」で12.3ポイント、それぞれ高くなっている。

男性が女性よりも割合が高いのは、「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができるから」で、16.8ポイント高くなっている。

(8) 女性の活躍を推進しない方がよい理由

※問26で「3 どちらかといえばそう思わない」、「4 そう思わない」と回答された方のみお答えください。

問28. その理由を教えてください。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

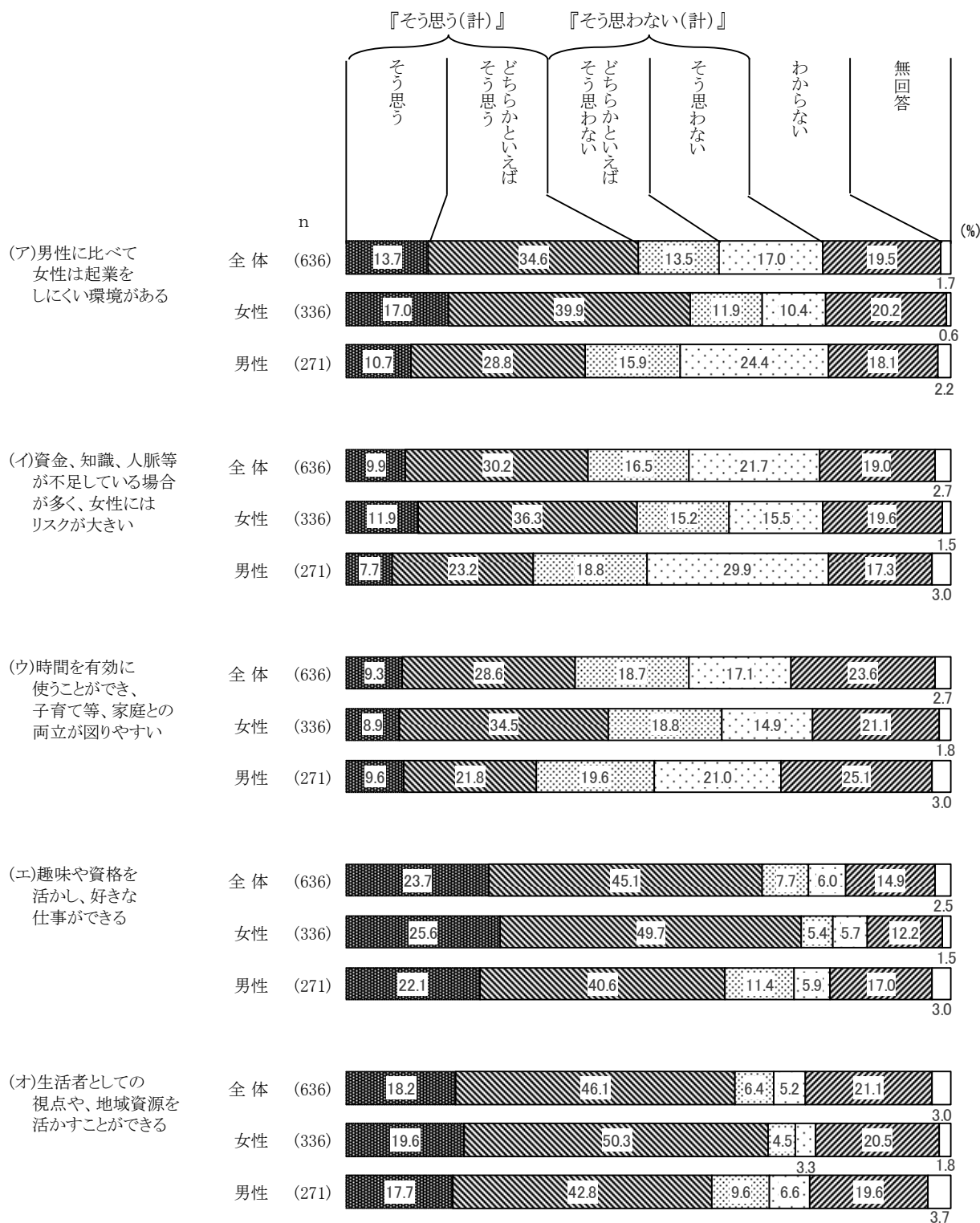


女性の活躍を推進しない方がよい理由を聞いたところ、「昇進等は、性別にかかわらず、能力に応じて行すべきだから」が79.1%で最も高く、次いで「今より仕事が優先され、家庭生活に支障を来すことが多くなるから」で30.2%、「家事も立派な仕事であり、必ずしも外で働く必要はないから」で25.6%となっている。

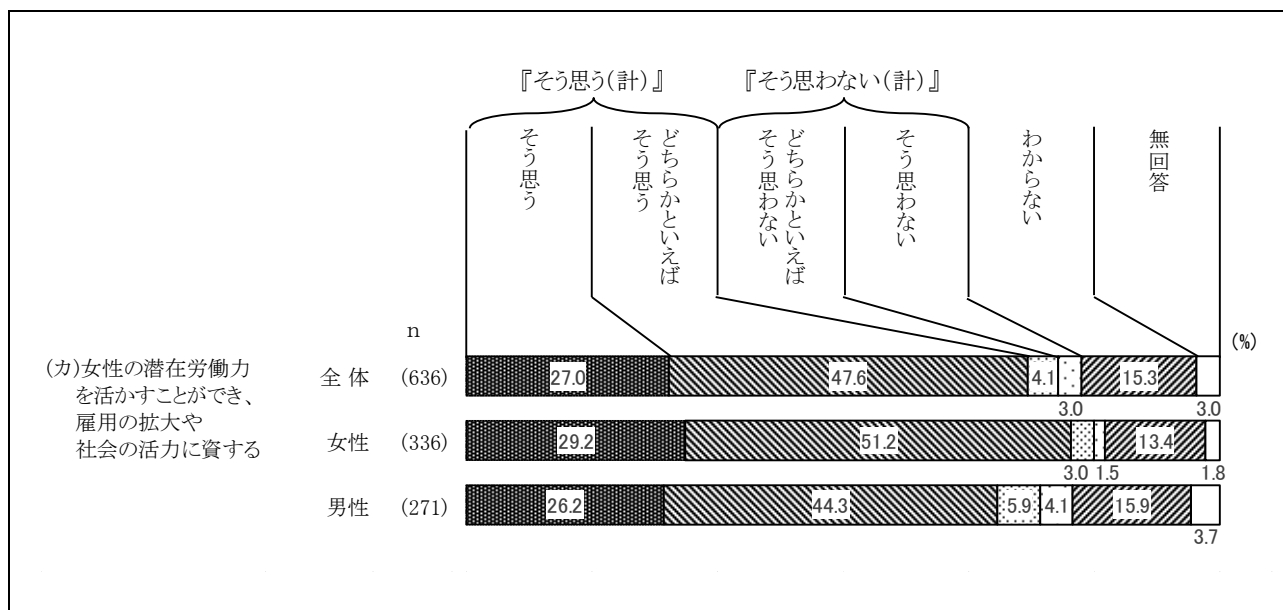
性別にみると、男性が女性よりも「昇進等は、性別にかかわらず、能力に応じて行すべきだから」で31.2ポイント、「家事も立派な仕事であり、必ずしも外で働く必要はないから」で11.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「今より仕事が優先され、家庭生活に支障を来すことが多くなるから」では、女性が男性よりも10.3ポイント高くなっている。

(9) 女性の起業に関する考え方

問29. あなたは、女性が起業することについてどう思いますか。それぞれについてあなたの考えに最も近い番号ひとつに○をつけてください。



調査の結果／ 7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について
 (9) 女性の起業に関する考え方



女性の起業に関する考え方について、『そう思う (計)』の割合が最も高いのは、「(カ)女性の潜在労働力を活かすことができ、雇用の拡大や社会の活力に資する」で74.6%となっており、次いで「(エ)趣味や資格を活かし、好きな仕事ができる」で68.8%、「(オ)生活者としての視点や、地域資源を活かすことができる」で64.3%となっている。

一方、『そう思わない (計)』の割合が最も高いのは「(イ)資金、知識、人脈等が不足している場合が多く、女性にはリスクが大きい」で38.2%となっており、次いで「(ウ)時間を有効に使うことができ、子育て等、家庭との両立が図りやすい」で35.8%、「(ア)男性に比べて女性は起業をしにくい環境がある」で30.5%となっている。

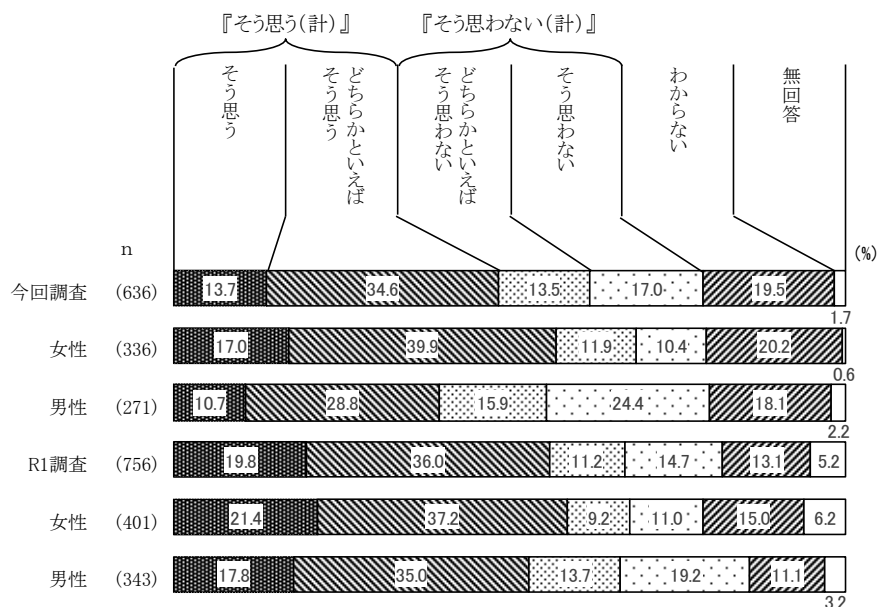
性別にみると、『そう思う (計)』は、すべての項目で女性が男性を上回っており、特に「(ア)男性に比べて女性は起業をしにくい環境がある」で17.4ポイント、「(イ)資金、知識、人脈等が不足している場合が多く、女性にはリスクが大きい」で17.3ポイントと、差が大きくなっている。

(ア) 男性に比べて女性は起業をしにくい環境がある

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、『そう思う（計）』は7.5ポイント低く、『そう思わない（計）』が4.6ポイント高くなっている。

性別にみると、男性で『そう思う（計）』が13.3ポイント低く、『そう思わない（計）』が7.4ポイント高くなっている。

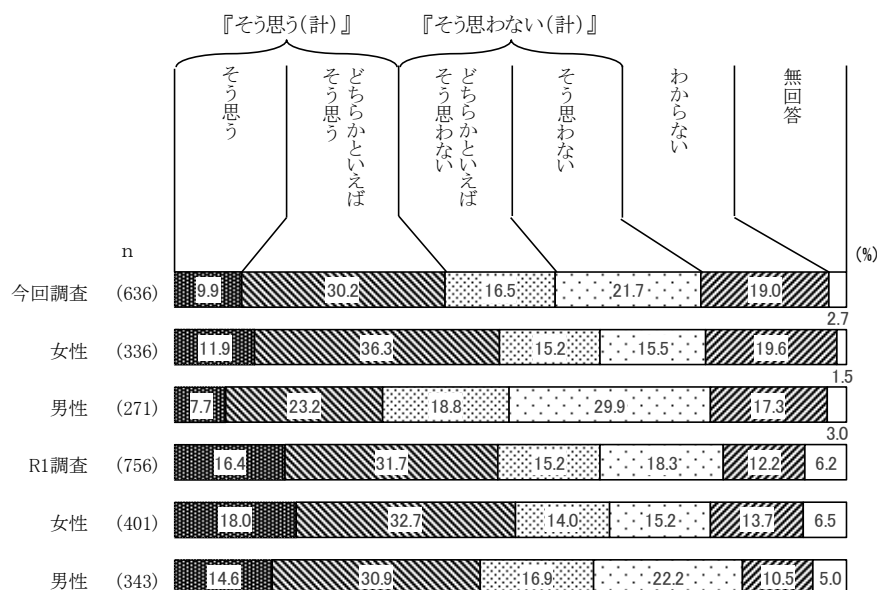


(イ) 資金、知識、人脈等が不足している場合が多く、女性にはリスクが大きい

【前回調査（令和元年）との比較】

前回調査と比較すると、『そう思う（計）』は8.0ポイント低く、『そう思わない（計）』が4.7ポイント高くなっている。

性別にみると、男性で『そう思う（計）』が14.6ポイント低く、『そう思わない（計）』が9.6ポイント高くなっている。

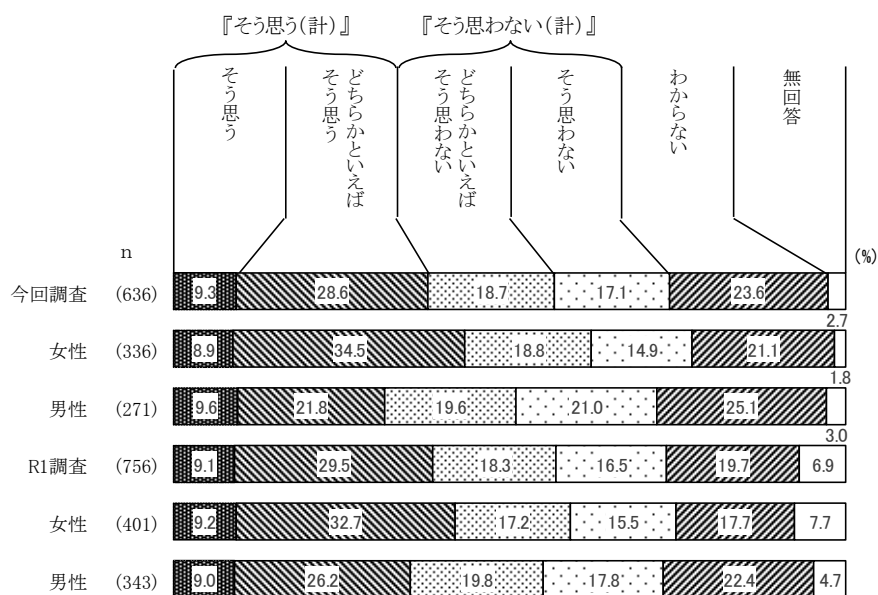


調査の結果／7. 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について
 (9) 女性の起業に関する考え方

(ウ) 時間を有効に使うことができ、子育て等、家庭との両立が図りやすい

【前回調査（令和元年）との比較】

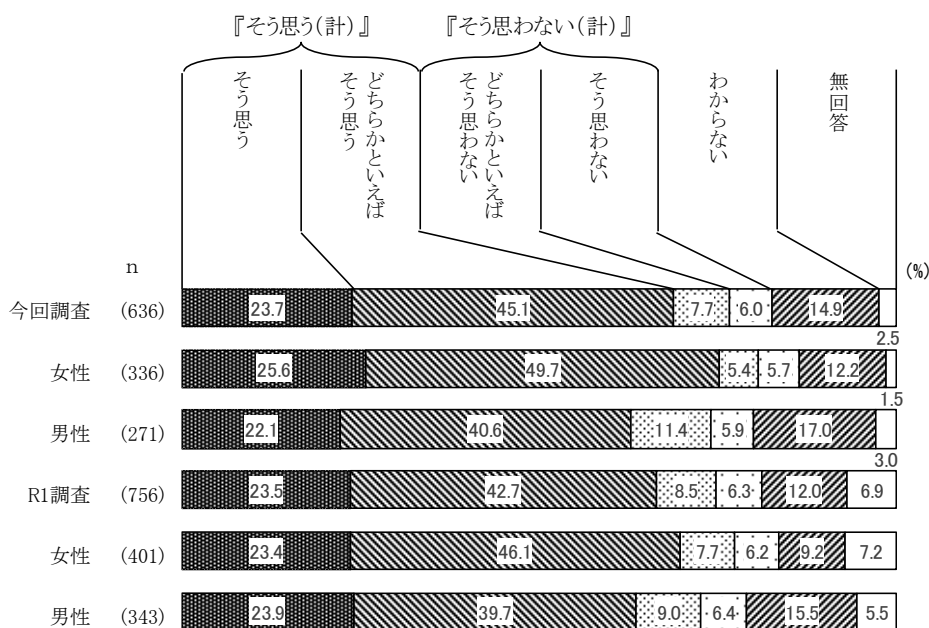
前回調査と比較で大きな差異はみられない。



(エ) 趣味や資格を活かし、好きな仕事ができる

【前回調査（令和元年）との比較】

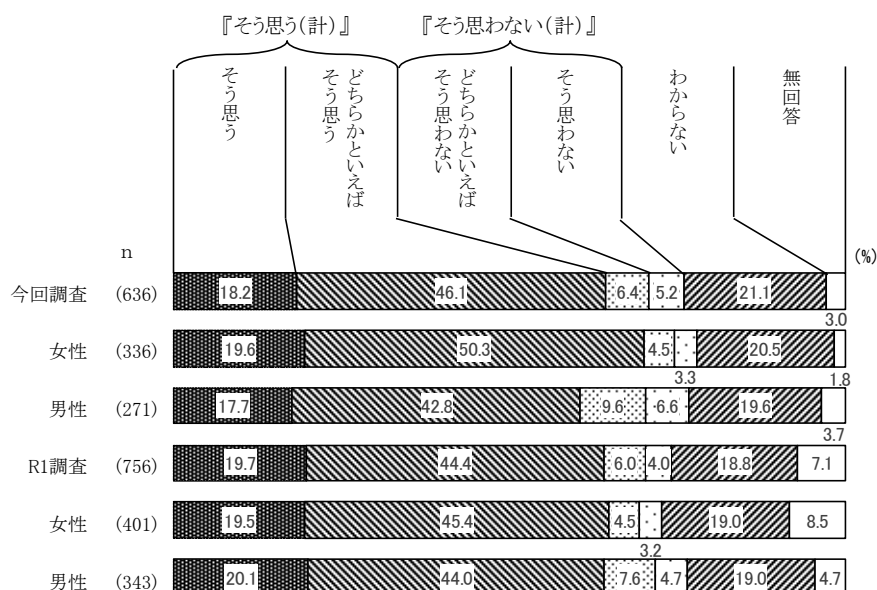
前回調査と比較すると、『そう思う（計）』の割合は、女性で5.8ポイント高くなっている一方、男性で0.9ポイント低くなっている。



(オ) 生活者としての視点や、地域資源を活かすことができる

【前回調査（令和元年）との比較】

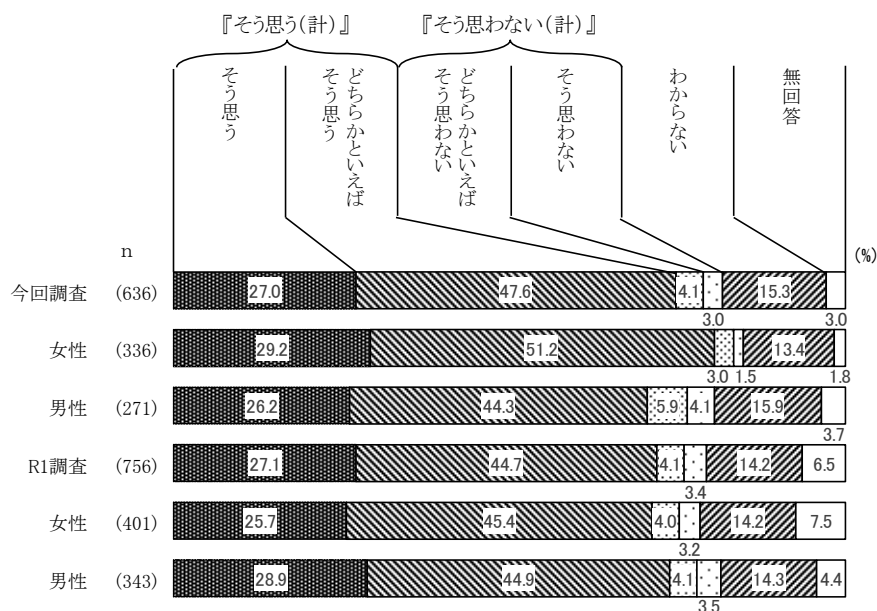
前回調査と比較すると、女性で『そう思う（計）』の割合が5.0ポイント高くなっている。



(カ) 女性の潜在労働力を活かすことができ、雇用の拡大や社会の活力に資する

【前回調査（令和元年）との比較】

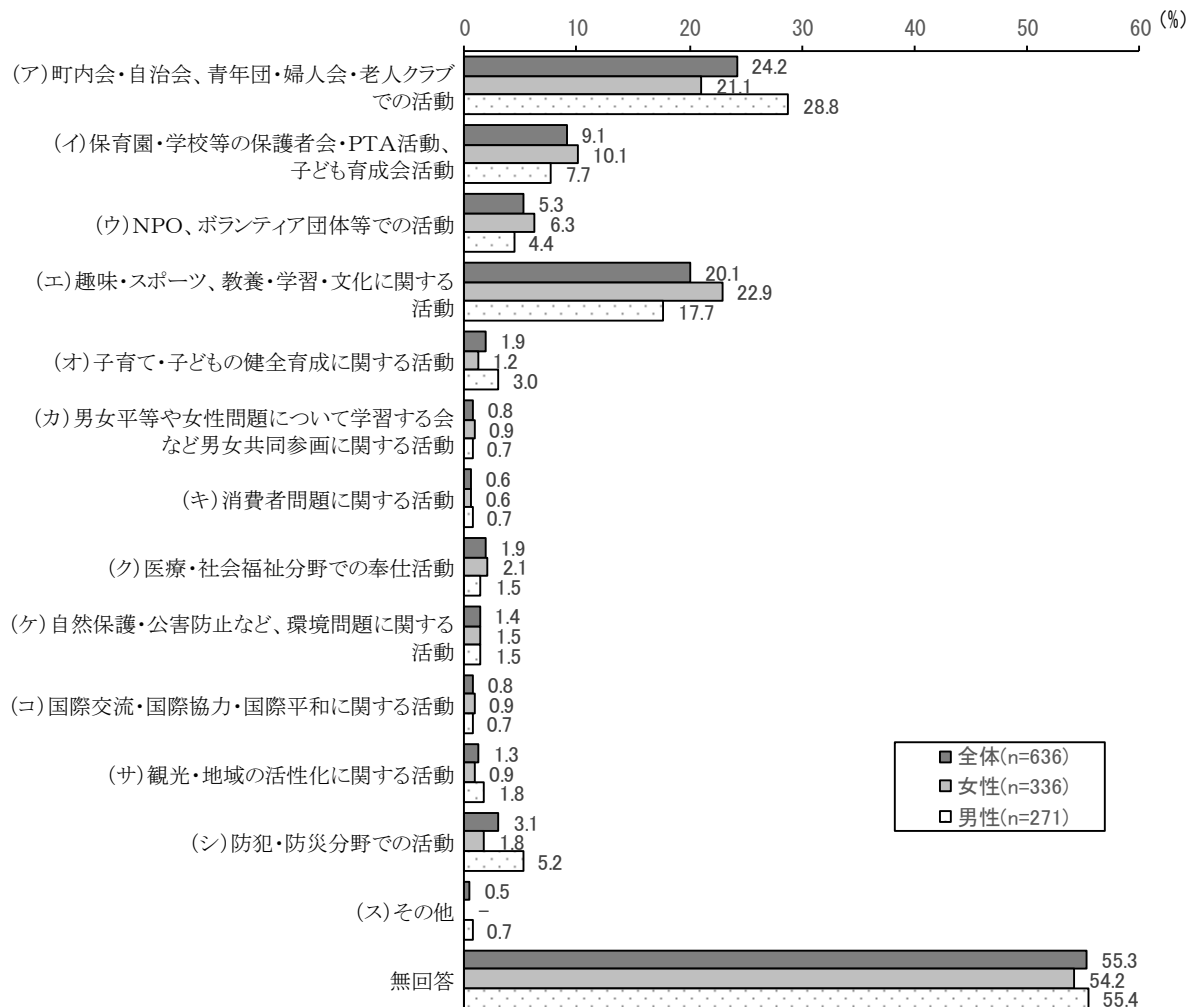
前回調査と比較すると、女性の『そう思う（計）』の割合が9.3ポイント高くなっている。



8. 地域活動への参画について

(1) 地域活動への参画状況

問30. (1) 次の(ア)～(ス)にあげる地域活動の中で、あなたが現在参画している(事業の運営に関わるなど)活動はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



地域活動への参画状況を聞いたところ、「(ア)町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」が24.2%で最も高く、次いで「(エ)趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」で20.1%となっている。

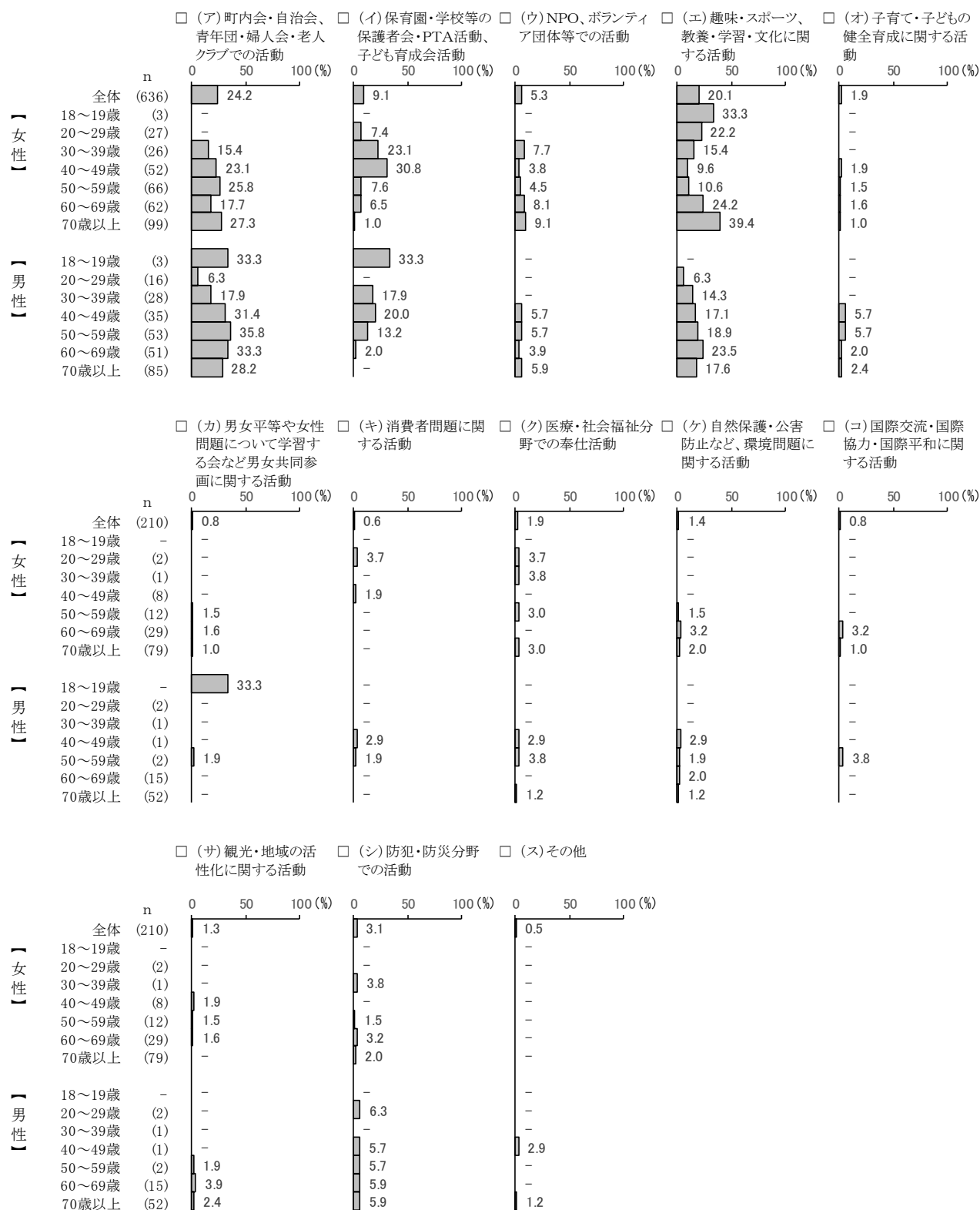
性別にみると、「(エ)趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」では、女性が男性よりも5.2ポイント高くなっている。一方、「(ア)町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」では、男性が女性よりも7.7ポイント高くなっている。

【性・年齢別】

性・年齢別にみると、「(ア) 町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」は、男性50～59歳が3割台半ばと高くなっている。

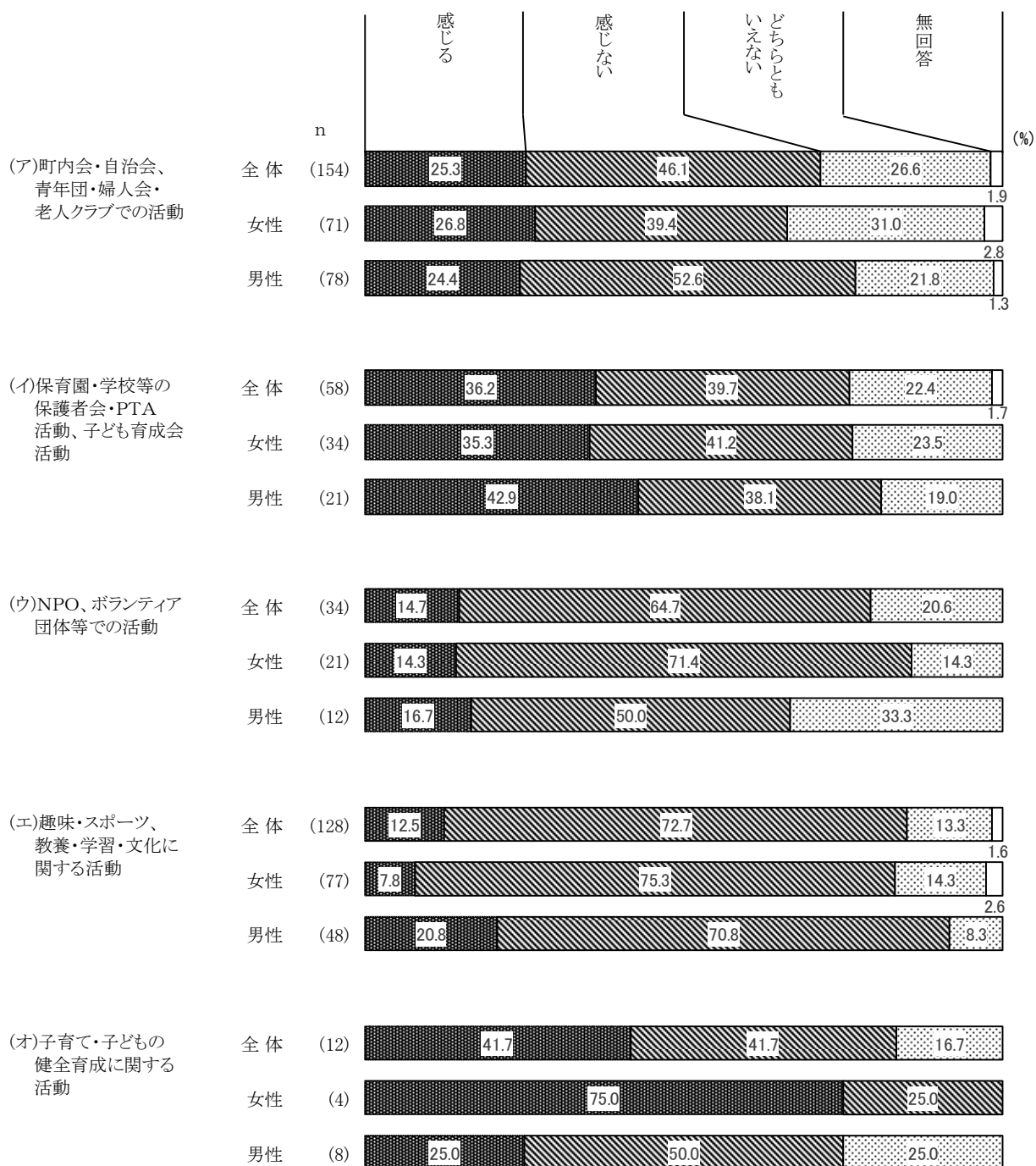
「(エ) 趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」は、女性70歳以上が約4割と高くなっている。

「(イ) 保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動」は、女性40～49歳が3割、女性30～39歳が2割を超えて高くなっている。

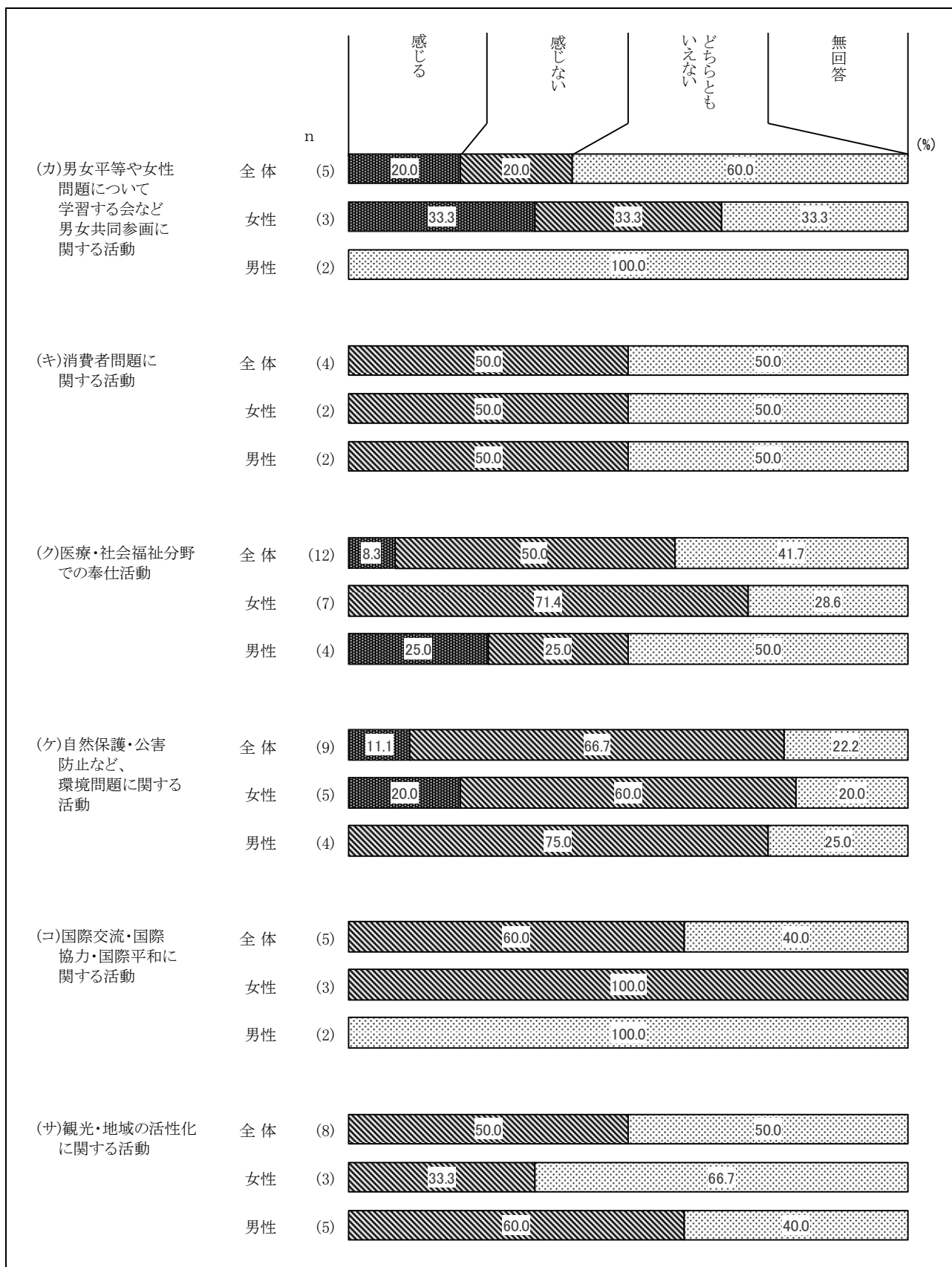


(2) 地域活動における不平等感[新規]

問30. (2) また、「(1) 現在参画している活動」で (ア) ～ (ス) のいずれかを選択された方は、それぞれの活動にあたり、男女間で不平等を感じることはありますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

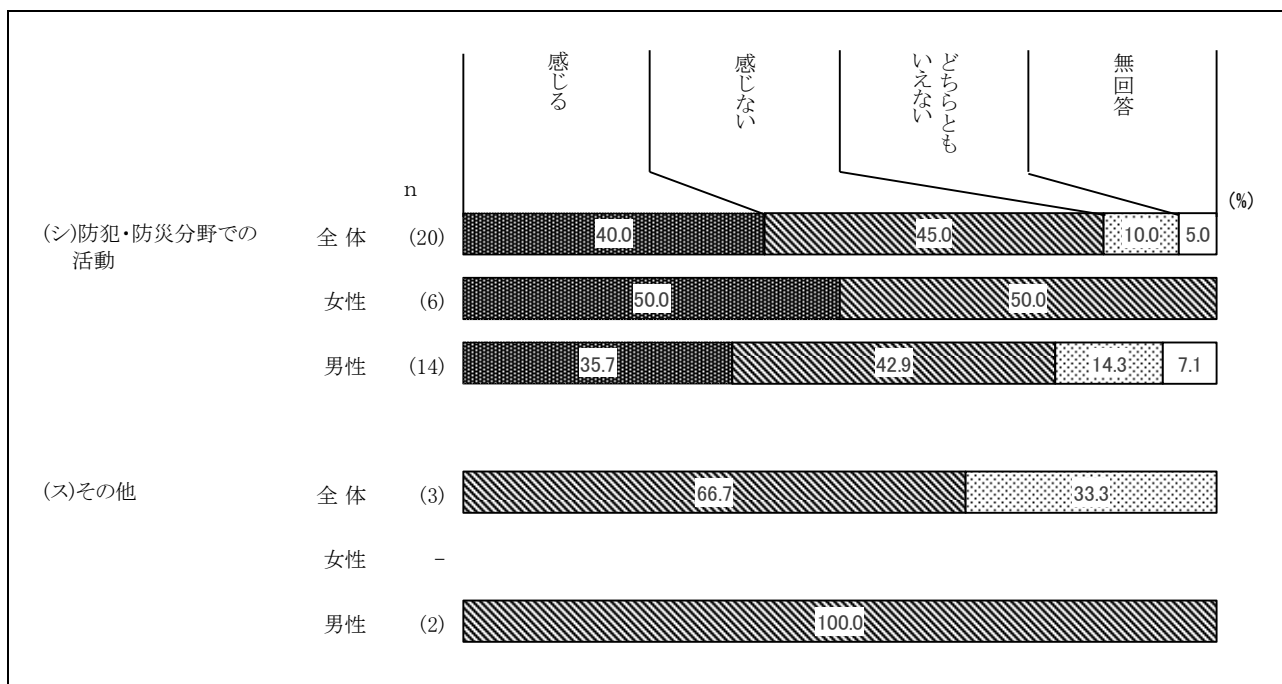


調査の結果／ 8. 地域活動への参画について
(2) 地域活動における不平等感



調査の結果／ 8. 地域活動への参画について

(2) 地域活動における不平等感



地域活動における不平等感について、問30(1)で「現在参画している」と回答した人が多かった、(ア)から(エ)でみると、

「(ア)町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」では、女性男性ともに「感じない」と答えた割合が「感じる」と答えた割合よりも高くなっており、「感じない」と答えた割合は、男性が女性よりも13.2ポイント高くなっている。また、「どちらともいえない」と答えた割合は、女性が男性よりも9.2ポイント高くなっている。

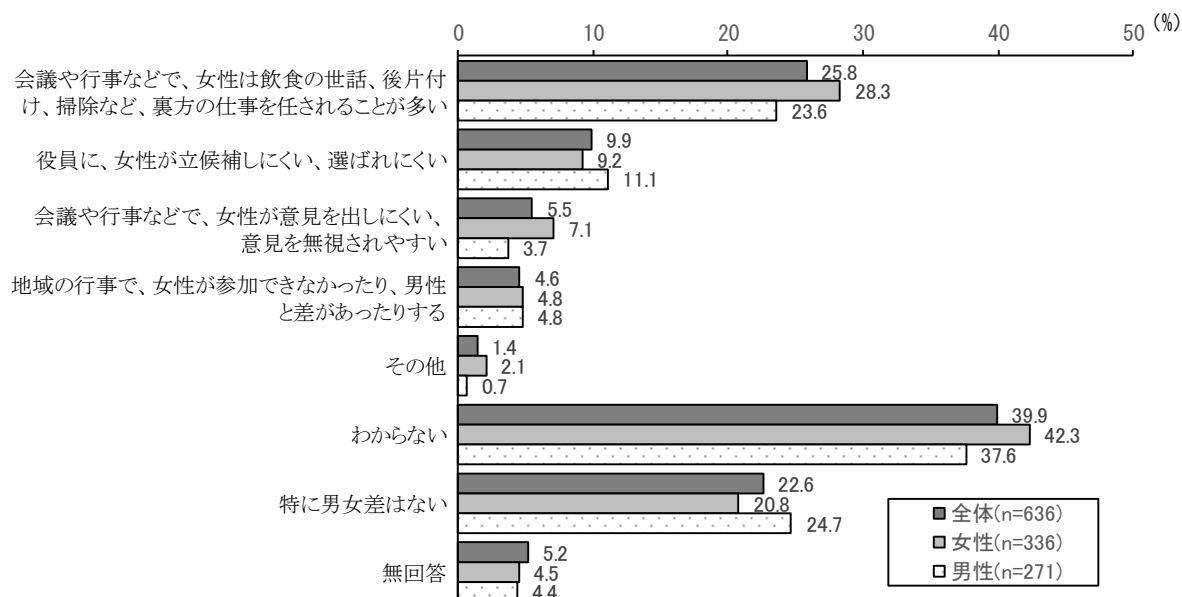
「(イ)保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動」では、「感じる」と答えた割合は、男性が女性よりも7.6ポイント高くなっている一方、「感じない」と答えた割合は、女性が男性よりも3.1ポイント高くなっている。

「(ウ)NPO、ボランティア団体等での活動」では、女性男性ともに「感じない」と答えた割合が「感じる」と答えた割合よりも高くなっており、「感じない」と答えた割合は、女性が男性よりも21.4ポイント高くなっている。また、「どちらともいえない」と答えた割合は、男性が女性よりも19.0ポイント低くなっている。

「(エ)趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」では、女性男性ともに「感じない」と答えた割合が「感じる」と答えた割合よりも高くなっており、「感じない」と答えた割合は、女性が男性よりも4.5ポイント高くなっている。また、「感じる」と答えた割合は、男性が女性よりも13.0ポイント高くなっており、「どちらともいえない」と答えた割合は、女性が男性よりも6.0ポイント高くなっている。

(3) 住んでいる地域での現状[新規]

問3 1. あなたの住んでいる地域などで、現在次のようなことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



住んでいる地域での現状について聞いたところ、「会議や行事などで、女性は飲食の世話、後片付け、掃除など、裏方の仕事を任されることが多い」が25.8%で最も高く、次いで「役員に、女性が立候補しにくい、選ばれにくい」で9.9%となっている。

また、「わからない」が39.9%、「特に男女差はない」が22.6%となっている。

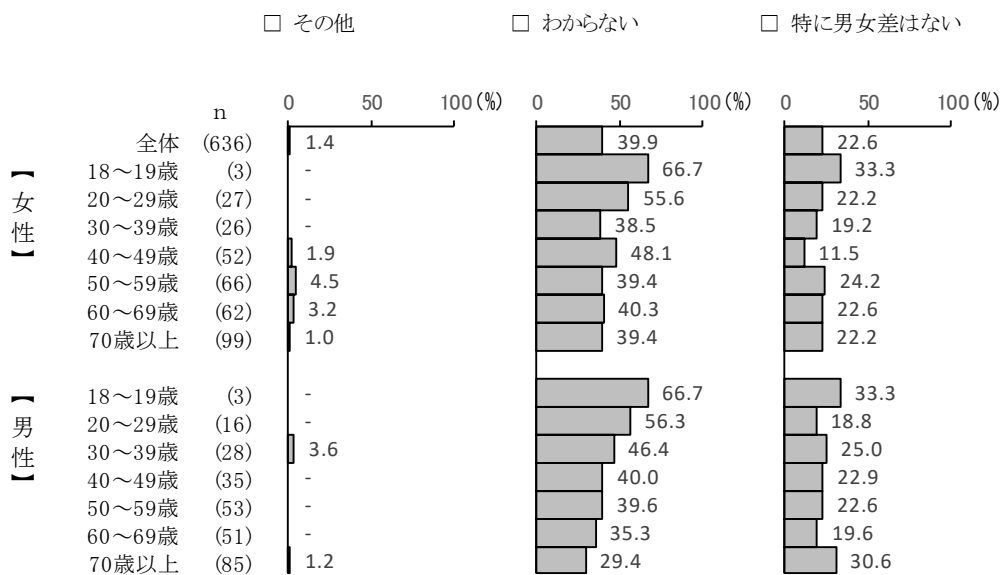
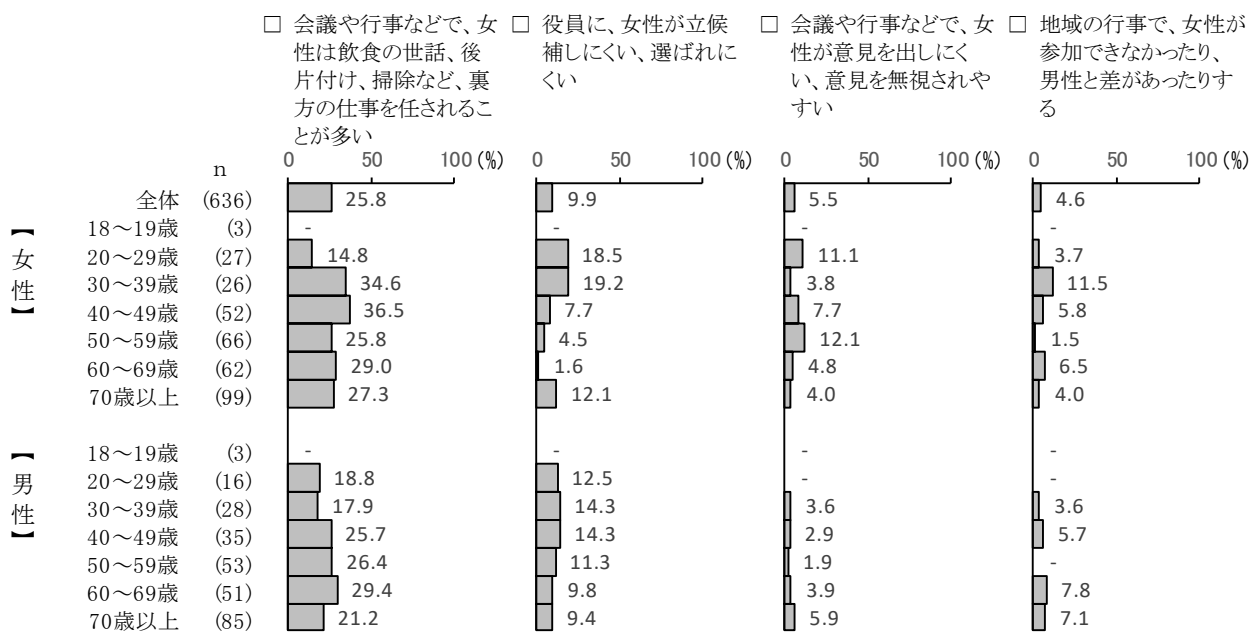
性別にみると、「会議や行事などで、女性は飲食の世話、後片付け、掃除など、裏方の仕事を任されることが多い」は女性が男性よりも4.7ポイント高くなっている。

調査の結果／8. 地域活動への参画について

(3) 住んでいる地域での現状

【性・年齢別】

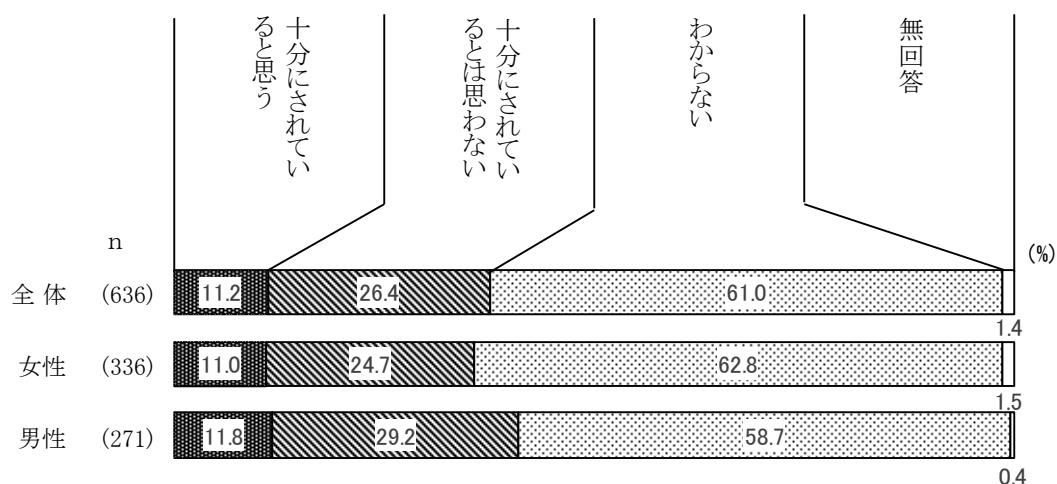
性・年齢別で、大きな差異はみられない。



9. 防災対策について

(1) 男女共同参画の視点に立った取組の充足度[新規]

問3 2. あなたの職場や自治会・町内会などの地域における防災活動について、男女共同参画の視点に立った取組が十分にされていると思いますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。



男女共同参画の視点に立った取組の充足度について、「十分にされていると思う」は11.2%、「十分にされているとは思わない」は26.4%、「わからない」は61.0%となっている。

性別にみると、「十分にされているとは思わない」と答えた男性は女性よりも4.5ポイント高くなっている。

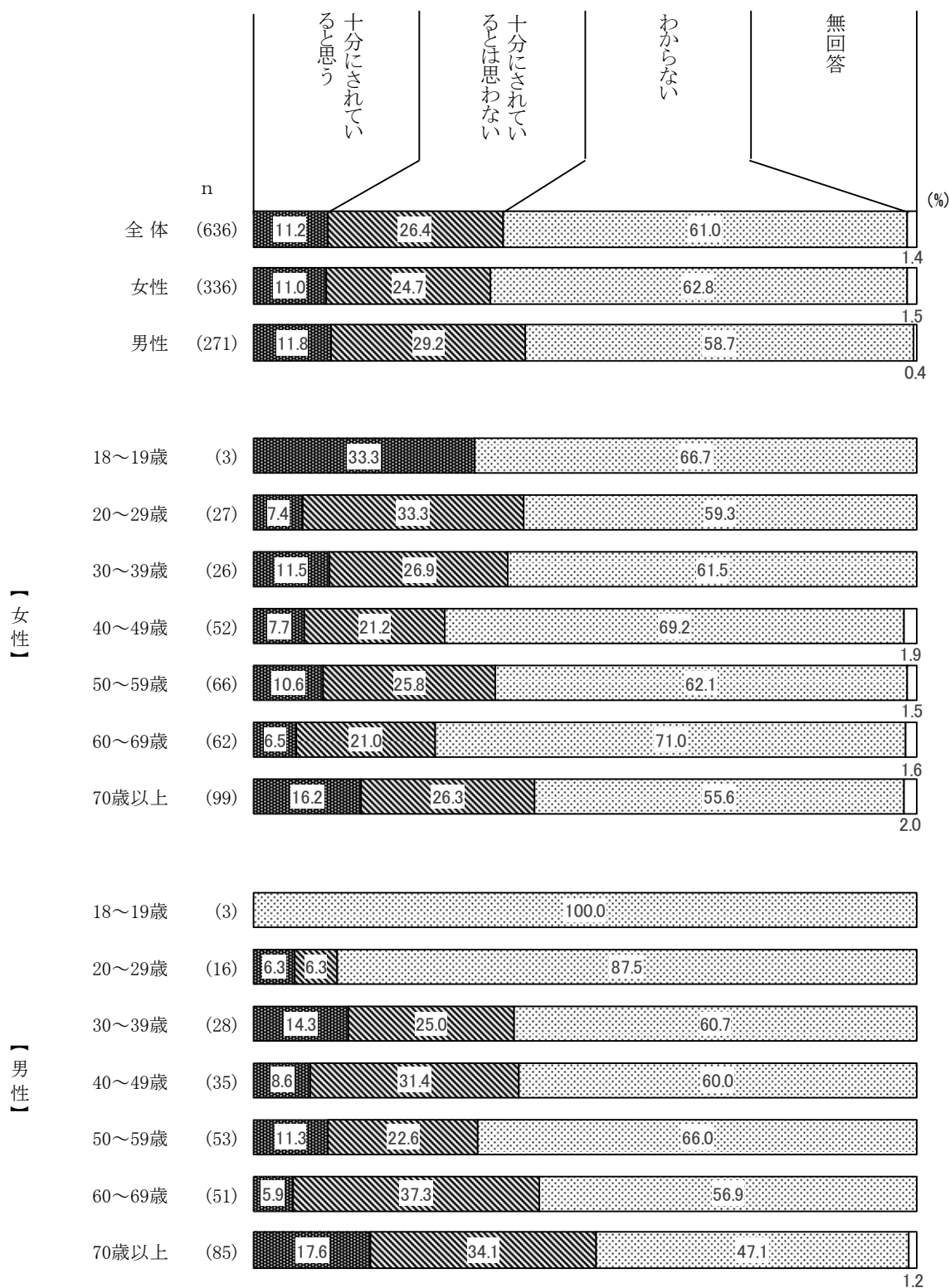
調査の結果／9. 防災対策について

(1) 男女共同参画の視点に立った取組の充足度

【性・年齢別】

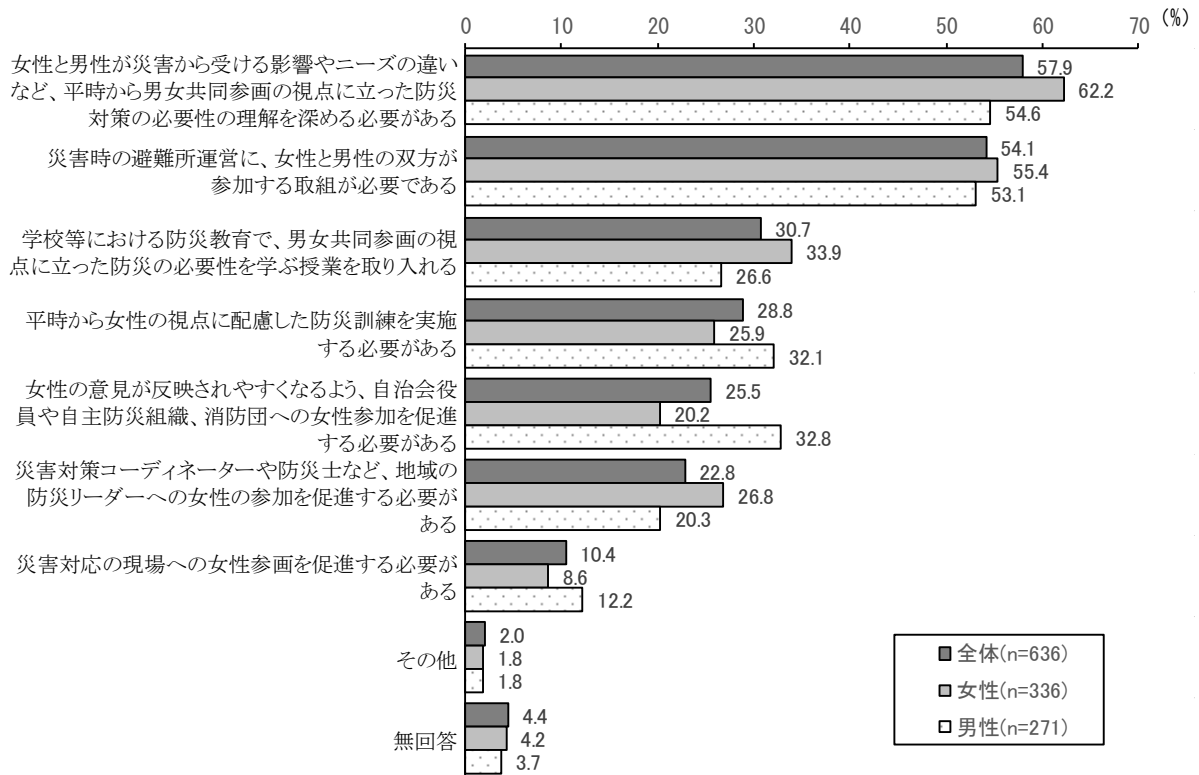
「十分にされていると思う」と答えた割合が最も高いのは、男性70歳以上で17.6%となっている。

「十分にされているとは思わない」と答えた割合が最も高いのは、男性60～69歳で37.3%となっている。



(2) 男女共同参画の視点に立った防災対策の推進に必要なこと[新規]

問3 3. 今後、男女共同参画の視点に立った防災対策をより推進させるために、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる（優先度が高い）と思う番号3つまでに○をつけてください。



男女共同参画の視点に立った防災対策の推進に必要なことで割合が高いのは、「女性と男性が災害から受ける影響やニーズの違いなど、平時から男女共同参画の視点に立った防災対策の必要性の理解を深める必要がある」（57.9%）、「災害時の避難所運営に、女性と男性の双方が参加する取組が必要である」（54.1%）で、5割を超えている。

性別にみると、女性が男性よりも割合が高いのは、「女性と男性が災害から受ける影響やニーズの違いなど、平時から男女共同参画の視点に立った防災対策の必要性の理解を深める必要がある」で7.6ポイント、「学校等における防災教育で、男女共同参画の視点に立った防災の必要性を学ぶ授業を取り入れる」で7.3ポイント、それぞれ高くなっている。

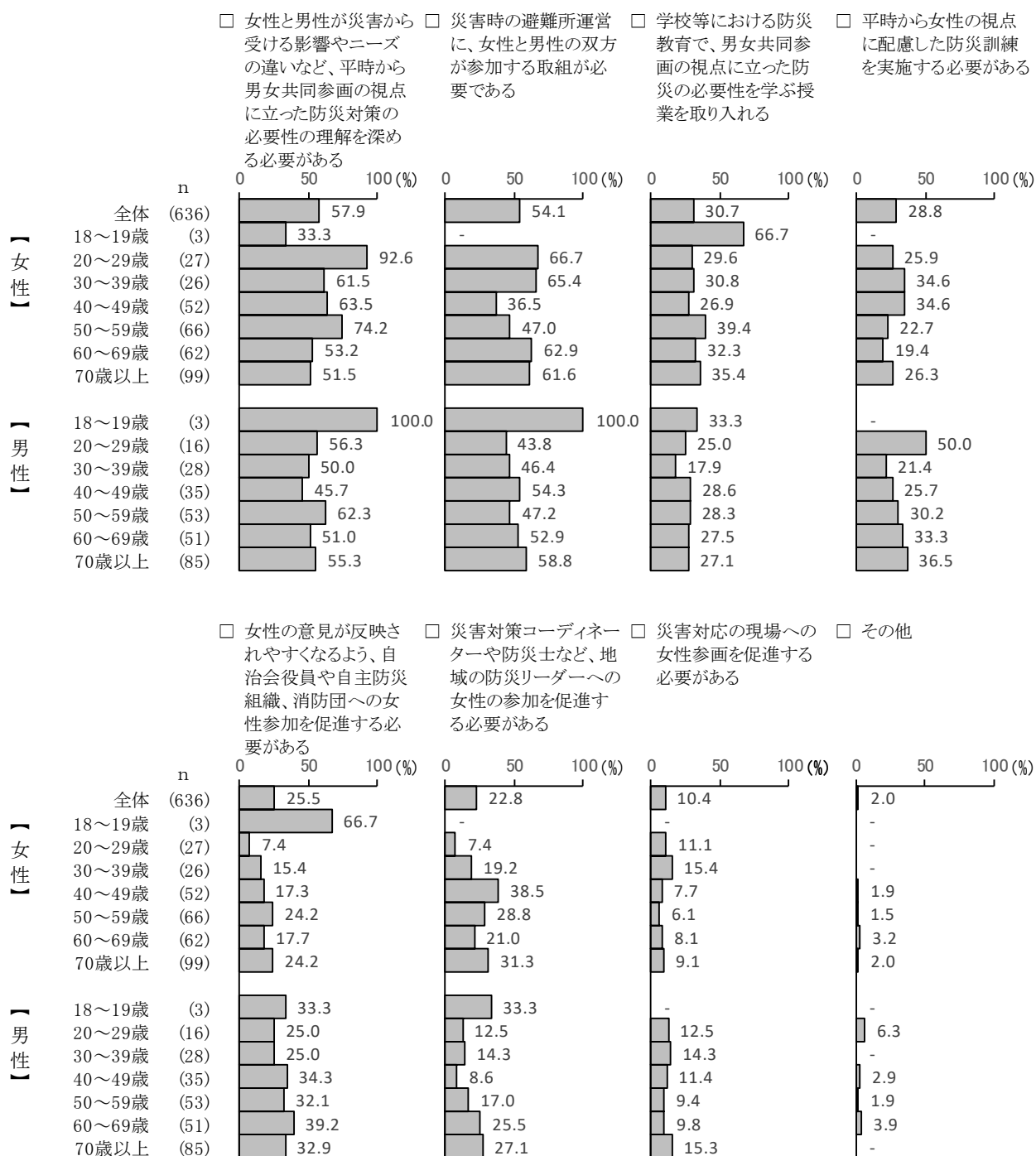
男性が女性よりも割合が高いのは、「女性の意見が反映されやすくなるよう、自治会役員や自主防災組織、消防団への女性参加を促進する必要がある」で12.6ポイント高くなっている。

調査の結果／9. 防災対策について

(2) 男女共同参画の視点に立った防災対策の推進に必要なこと

【性・年齢別】

性・年齢別にみると、「女性と男性が災害から受ける影響やニーズの違いなど、平時から男女共同参画の視点に立った防災対策の必要性の理解を深める必要がある」は、女性20～29歳が9割を超え、女性50～59歳が7割台半ばと高くなっている。



10. 自由記述

本アンケートの各質問に対する回答の理由、また男女共同参画に関してのご意見等がありましたらお書きください。

意見を自由に記述していただいたところ、76人から延べ91件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は項目ごとに分類し集計した。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。

意見の一部を抜粋して記載するものとする。

【分類及び集計結果】

項目		件数
1	男女共同参画全般について	32
2	政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について	13
3	家庭について	6
4	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	5
5	人権について	3
6	地域活動への参画について	3
7	学校や家庭における子どもの教育について	1
8	DVについて	1
9	防災対策について	1
10	アンケートについて	20
11	その他	6
合 計（延べ件数）		91

【自由回答の記述】（一部抜粋）

（１） 男女共同参画全般について

- 男女に関係なく能力があれば活躍できる社会であることを望む。（女性 70歳以上）
- 男女がいた場合、必ず男性が先に呼ばれる。女性が年上であっても。女性を先に呼ぶようにする。
女性ファーストの考えを根付くようにする。（女性 60～69歳）
- 男尊女卑は根強く、様々な場面で男性優位な事が多い。（女性 30～39歳）
- 女性の結婚後の働き方、パートアルバイトの賃金（小売店の場合、低い）、男性優位の発言、すべてにおいて男性優位がまだまだあると思います。地方（特に市町村のすみずみまで）に目を向けるべき。（女性 40～49歳）
- 憲法では、男女平等を掲げてはいるけれど、世の中では、まだまだ意識が低いと言わざるをえません。賃金の格差、就労の格差、昔から変わっていない、所得税の配偶者控除の壁の問題等、私が20代の頃から、ずっと同じままです。50年も経っているのに。只、若い男性の意識は少しずつ変わってきていると感じる時もあります。（女性 70歳以上）

10. 自由記述

○性別に関係なく人には得手不得手があると思います。片方の性別を過剰に優遇する事なく、性別に関係なくやる気と能力がある人が各種活動に参画できるようになる事を望みます。

(男性 50～59歳)

○男女共同参画に関して予算をかけすぎだと思う。(女性 50～59歳)

○すべての人が平等になるように、男女共同参画なんて特別の言葉がなくなるように、差別のない平等な暮らしやすい世の中になればいいと思います。(女性 50～59歳)

○“男女共同参画”という、今回のアンケート項目にあることを含めて、すべてに対して、平等(男女比同じになど)にすることが目標になっているように思われます。男女の適性についても、考慮する必要があると思います。数字だけで“男女共同参画が推進できている”とは、考えてほしくないです。(女性 70歳以上)

(2) 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について

○男女同等とするならば5割とまでも言いませんが、最低でも強制的にも3割以上の議員、役職などの比率を設定すべきだと思います。能力があれば女性でも起用されていると男性側は言いますが、経験者を育てる意味でも最初は比率を設定すべきだと思います。世界一家事をしない日本人男性はとても恥ずかしいことだと思います。家事をしない男性のみで物事を決定するのはおかしいことだと思います。最近のパパさんとお子さんだけで外出しているのを見ると、日本も変わって来ているのだと嬉しく思います。(女性 50～59歳)

○全体を通してですが、女性が活躍しづらかったり、人権侵害されるような制度などについては撤廃すべきと考えますが、役職につけるように推進するなどは、それはかえって男性に対する不平等になりますし、性別問わず、できる人は出世するし、やりたい人はやるし、という考えです。ですので、そこは本質を見失わないようにすべきと考えます。(男性 20～29歳)

○女性の積極的登用、活躍の推進は良い目標だと思うが結局は男女関係なくやる気がある人、能力がある人が活躍できる社会になればいいと思う。(男性 30～39歳)

○女性でも男性でも本人のやる気や能力、そして家庭の事情や経済力などの問題であって無理やり女性の政治家や役員を増やす様なやり方は健全な社会とは思わない(男性、50～59歳)

○現状の男女の社会的差異を当たり前と考える権力者・経営者の退場、減少がなければ変わっていかない。(男性 40～49歳)

(3) 家庭について

○まだまだ女性が家事全般をするものという考えが多くの人にあると思う。まず、家庭から平等という意識を持つようにすることが大切だと考えます。(女性 60～69歳)

○家庭の中は夫婦の問題で、その夫婦ごとにうまく行っていればいい話だと思います。これからは夫婦が同じように働いて、同じように家事を分担する世の中になっていくと思います。

(女性 50～59歳)

○核家族化が常態になっている社会で、男女共同参画を進めても、どうしても「家事」「育児」にマンパワーが足りない。家事代行やシッターを雇いたくても、料金が高すぎて、共働きするメリットがあまり無い。(女性 40～49歳)

（４）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

- 保育士として働いています。子育て中の男性と女性が仕事と家庭を両立するためには、その子どもを保育する人が不可欠だと日々感じています。そんな私達ですが、人手不足で８時間以上の勤務をする事が多いです。子育て家庭の支援として保育時間の延長は欠かせないと思いますが、保育士の勤務についても目を向け、支援してほしいと願うばかりです。（女性 20～29歳）
- 女性の育児時間を減らすために家族の稼ぎの柱となっている男性の労働時間を減らす事が必要。そのためには消費税、所得税等の税の減税と、社会保険料等の引き下げを行うことによる実質的な収入アップを行い男性の労働時間が減らし育児の時間に充て、女性が育児から開放される時間が増えたら、その時間を社会活動、経営、議員活動等に充てるようにする。（男性 50～59歳）
- 仕事と家庭の両立が、時間、金銭面を含め、男女を問わず行えるようになりやすい社会になればと思います。生活するのに時間、金銭的に余裕のない人が多い現状があると思います。（男性 40～49歳）

（５）人権について

- LGBTQについての言及があるが、心の問題、体の問題、意識の問題など、一律に扱えない言葉をLGBTQ一括りで扱うのはおかしい。（男性 70歳以上）

（６）地域活動への参画について

- 私自身不平等を感じることはほとんどないが、地域社会では年配の男性のみがとりしきっているのを不思議に思っている。年齢の高い人の意識をかえる必要があると思う。（女性 50～59歳）

（７）学校や家庭における子どもの教育について

- それぞれの家庭でもっと子供を大切に育てて下さい。愛情を込めて社会に送り出さなければ、これからの日本は望めません。男女共同参画はそれからでも遅くないです。一代では成功しません。親の背中を子供に見せましょう。（女性 70歳以上）

（８）DVについて

- 中高年（45才位～60才？）の男性は男性更年期症状の方が、多いのではないと思う。短気になり、家族・部下にどなったり（パワハラ）、暴力に及ぶ人もいる。私の父と夫も若い時は、優しくかったが、中高年にそうなった。当時はわからなかった。自覚している人は少ない。是非、男性更年期の事を周知して下さい。（女性 70歳以上）

（９）防災対策について

- 千葉県で男女共同参画を推進するならば、男女共同参画室の人員の男女比を1対1に近くするべきだと思います。男性には女性の置かれた状況をどうしても理解できない部分があるからです。災害が起こった地域での会議でも男性ばかりが並んでいる映像を見ると残念です。（女性 60～69歳）

10. 自由記述

(10) アンケートについて

- 職業が自営（個人）のため、女性参画に関しては、回答しにくかった。（男性 60～69歳）
- 高齢でありアンケートの質問がなかなか理解しづらい内容です。（女性 70歳以上）
- こちらのアンケートはそもそも世帯につき1人なののでしょうか？男女共同参画へのアンケートであれば、個々（夫婦別々）での回答が必須なのではと思いました。（女性 50～59歳）
- Q & Aがステレオ的で答えにくい。（男性 60～69歳）

(11) その他

- 話題になっている質問だけに心して答えてみました。もう少し若年でしたら、違った答えになったと思いますが、子供たちの未来に役立ってくれたらと少々大変に思いましたが、記入に至りました。（女性 70歳以上）
- 子どもを持つ人の支援で育児休暇や時間短縮者にスポットが当たっているが、結婚しない、できない低所得の三十代世代までの男女関わらずの経済的支援を行うべきだと思う。（女性 40～49歳）